

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第1分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

よし じゅう きた
吉 十 北 遺 跡
かん じゅう ろう ぼり
勘 十 郎 堀 跡

東関東自動車道水戸線(鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

第1分冊

平成29年3月

東日本高速道路株式会社
公益財団法人茨城県教育財団



吉十北遺跡 調査区全景（東から）



勘十郎堀跡 調査区遠景（調査前・南西から）



吉十北遺跡出土繩文土器

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として文化財調査報告書を刊行してきました。

この度、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所による東関東自動車道水戸線（鉦田～茨城空港北間）建設事業に伴って実施した、鉦田市吉十北遺跡、同市勘十郎堀跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、吉十北遺跡においては、縄文時代の堅穴建物跡や袋状土坑などが多数確認でき、当地域における縄文時代中期の集落構造の一端が明らかになりました。また、勘十郎堀跡においては、県内で初めての近世における運河跡の調査であり、その掘削の状況が明らかになりました。これらの成果は学術的な研究資料としてはもとより、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料となることと思います。

本書が、歴史研究の学術資料のみならず郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで多大な御協力を賜りました委託者であります東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、鉦田市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成29年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例 言

- 1 本書は、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成26年度に発掘調査を実施した、茨城県鉾田市下冨田字吉十984番2ほかにある吉十北遺跡及び茨城県鉾田市紅葉字新川添924番4ほかにある勘十郎堀跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成26年4月1日～11月30日
整理 平成27年4月1日～平成29年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 寺内久永 平成26年4月1日～11月30日
首席調査員 駒澤悦郎 平成26年4月1日～11月30日
調査員 内田勇樹 平成26年4月1日～11月30日
調査員 緑川正實 平成26年8月1日～11月30日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長後藤一成のもと、以下の者が担当した。
次席調査員 清水 哲 平成28年4月1日～平成29年3月31日
調査員 内田勇樹 平成27年4月1日～平成28年3月28日
調査員 海老澤稔 平成28年4月1日～平成29年3月31日
調査員 仙波 亨 平成27年4月1日～平成29年3月31日
- 5 本書の執筆・編集分担は、下記のとおりである。
清水 哲 第3章第3節1 (4)、第4章、編集
内田勇樹 第1章～第3章第2節、第3節1 (4)
海老澤稔 第3章第3節1 (4)、第4節
仙波 亨 第3章第3節1 (1)～(4)、2、3、第4節
- 6 本書の作成にあたり、吉十北遺跡の集落の様相については、國學院大學文学部教授の谷口康浩氏、縄文土器の様相については、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター整理課長の塚本師也氏、石器の材質については、株式会社考古石材研究所代表取締役の柴田徹氏、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化財調査事務所所長の鈴木素行氏、石器の用途と製作技法については、國學院大學文学部兼任講師の大工原豊氏にそれぞれご指導、ご教示いただいた。
- 7 吉十北遺跡の縄文土器・石器の一部の実測図化業務については、株式会社アルカに委託した。
勘十郎堀跡の土壌の年代測定業務については、バリノ・サーヴェイ株式会社委託し、その成果は付章として巻末に掲載した。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標に準拠し、吉十北遺跡については $X = + 23,520 \text{ m}$ 、 $Y = + 54,440 \text{ m}$ 、勘十郎堀跡については $X = + 25,200 \text{ m}$ 、 $Y = + 53,520 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

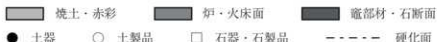
大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 F - 炉跡 P - ビット SD - 溝跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 SY - 炭窯跡 TP - 陥し穴
遺物 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 T - 瓦
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々経量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は()を、推定値は[]を付して示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竪を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

- 7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SK42-44 → SK43 P1-SK45 P1, SK103 → SK104 P1, SK118 → SK211に統合, SK207 → SK234に統合,
SK297 → SK296に統合, SK400 → SI 8, SK454 → TP 1, SK519 → SI 37, SK624・625 → SI 26 貯蔵穴,
SK639 → SI 26 P6, SK656 → TP 2, SK683・684・691 ~ 695 → SI 5 P1・P2・P10・P11・P14・P15・P17
欠番 SK97・148・149・168・188・219・220・251・252・257・258・263・268 ~ 270・273・289・324・326 ~
330・353・356・391・393・397・403・423・463・487・488・526・538・560・610・623・637・653・658・
660・708・709

目 次

—第1分冊—

序

例 言

凡 例

吉十北遺跡・勘十郎堀跡の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 位置と地形	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 吉十北遺跡	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	15
1 縄文時代の遺構と遺物	15
(1) 堅穴建物跡	15
(2) 炉跡	144
(3) 陥し穴	149
(4) 土坑（第1号土坑～第200号土坑）	152

—第2分冊—

(4) 土坑（第201号土坑～第600号土坑）	295
-------------------------------	-----

—第3分冊—

(4) 土坑（第602号土坑～第729号土坑）	579
2 奈良時代の遺構と遺物	695
堅穴建物跡	695
3 その他の遺構と遺物	700
(1) 炭窩跡	700
(2) 溝跡	702
(3) 遺構外出土遺物	704
第4節 まとめ	718

第4章 勘十郎堀跡	788
第1節 調査の概要	788
第2節 運河跡	788
第3節 まとめ	795
付 章	798
茨城県鉾田市勘十郎堀跡採取試料の年代測定	バリノ・サーヴェイ株式会社

—第4分冊—

写真図版	PL 1～PL188
------------	------------

よしじょうきた よしじょうきた かんじゅうろうぼり かんじゅうろうぼり 吉十北遺跡・勘十郎堀跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

吉十北遺跡と勘十郎堀跡は、ほこた銚田市の北西部に位置し、とほがわ巴川左岸の標高約 29 m の台地中央部から縁辺部にかけて立地しています。ひしかんとうじどうしゃどうみとせん東関東自動車道水戸線（銚田～茨城空港北間）建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が、平成 26 年度に発掘調査を行いました。調査面積は、吉十北遺跡が 5,890㎡、勘十郎堀跡が 5,770㎡です。



吉十北遺跡の調査成果

当遺跡は南北約 260 m、東西約 160 m の範囲で確認されており、調査区はその南部に当たります。調査の結果、旧石器時代から江戸時代以降にかけて断続的に土地利用された遺跡であることが判明しました。



調査区遠景（西から）



有段式の竪穴建物跡（第1A号竪穴建物跡）



多量の土器が捨てられていた有段式の竪穴建物跡
（第14号竪穴建物跡）



径10mを超える大型の竪穴建物跡
（第26号竪穴建物跡）



竪穴建物跡に併設されていた石囲い炉と埋設土器
（第29号竪穴建物跡）

縄文時代の遺構は、^{たてあな}竪穴建物跡36棟、^{ろあ}炉跡7か所、^{おとあな}陥し穴2基、^{どこう}土坑669基を確認しました。時期は、すべて縄文時代中期（約4,500年前）です。台地縁辺部に竪穴建物が建てられ、環状に巡っています。その内側に数多くの袋状土坑と呼ばれる^{ちよぞうけつ}貯蔵穴が作られており、当地域における拠点集落であったと推測できます。袋状土坑はいくえにも重なり合って作られていることから、この地が長い間使用されていたことがうかがえます。

竪穴建物跡や袋状土坑などからは、多量の縄文土器が出土しました。縄文土器は、在地の^{あたまだいしき}阿玉台式土器や^{かそりいしき}加曾利E式土器と言われるものがほとんどです。それらの土器から、当地域の縄文時代中期の土器の移り変わりをみることができます。それ以外に、東北地方や南関東地方などの影響を受けた土器もみられ、広域にわたる人や物の交流の様子をうかがい知ることができます。



底面に縄文土器が残されていた袋状土坑
(第 68 号土坑)



袋状土坑に堆積した土層の様子
(第 322 号土坑)



ほぼ完全な形で出土した縄文土器
(第 588 号土坑)



立ったままの状態出土した縄文土器
(第 581 号土坑)



他地域の影響がみられる縄文土器
(勝坂式・諏訪式・大木式)



様々な石斧と敲砥石

また、石器が多量に出土したことも当遺跡の特徴です。石器は、土掘り具に使用したと考えられる分銅形やバチ形の打製石斧、木を切る道具と考えられる定角式や短冊形の磨製石斧などが約 400 点出土しています。ほかに敲砥石と呼んでいる石器も 66 点出土しています。敲砥石は、石斧の成形や刃部を研磨するために用いたもので、手持ちで使用したものと思われます。チャート、石英、瑪瑙などの硬い石材が選ばれています。当遺跡では、石器や木製品などを作り、交易品としていたと考えられます。

勘十郎堀跡の調査成果



調査区遠景（調査前・北東から）

当遺跡は、江戸時代中期、江戸への物資輸送路として、^{ひぬま} 涸沼から巴川までの総延長約8kmを結ぶために計画された^{うんがあと} 運河跡です。掘削工事は、宝永4年（1707）に始まりましたが、工事の難航や賃金の未払いによる^{のうみんいっき} 農民一揆により、わずか3年余りで頓挫し、未完成のまま終わりました。



運河跡に堆積した土砂の様子

今回の調査で、運河跡を横断するトレンチを掘削し、断面形や土砂の堆積状況を確認しました。運河跡は浅い谷地形の谷底部に掘削されており、旧地形を利用した工事計画であったことが分かりました。規模は上幅25.2m、下幅20.9m、肩部からの深さ5.3mで、壁面は約50度の勾配で立ち上がっています。内部には厚さ27mほどの粘土層や砂層が堆積しており、当初は水が流れていましたが、120～130年後には沼地や湿地のような環境になり、今日に至っている様子が観察できました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所は、鉾田市において、東関東自動車道水戸線（鉾田～茨城空港北間）建設事業を進めている。

平成24年10月4日、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに東関東自動車道水戸線（鉾田～茨城空港北間）建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成24年10月22日に吉十北遺跡の現地踏査を、平成24年10月22日及び平成25年10月21日に勘十郎堀跡の現地踏査を実施した。平成25年11月14・20日、12月6日に吉十北遺跡の試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。茨城県教育委員会教育長は、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長あてに、平成25年12月24日に事業地内に吉十北遺跡が、平成25年12月26日に事業地内に勘十郎堀跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成26年1月8日、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知をした。平成26年2月3日、茨城県教育委員会教育長は、遺跡の現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成26年2月7日、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、東関東自動車道水戸線（鉾田～茨城空港北間）建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成26年2月13日、茨城県教育委員会教育長は、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長あてに、吉十北遺跡、勘十郎堀跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、東日本高速道路株式会社関東支社水戸工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成26年4月1日から11月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

吉十北遺跡の調査は、平成26年4月1日から11月30日までの8か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
調査準備 遺構除根		■	■	■					
遺構調査					■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理			■	■	■	■	■	■	■
撤収									■

勘十郎堀跡の調査は、平成26年9月24日から11月30日までの3か月間にわたって実施した。現況は、運河跡の底部が湿地状を呈し、常時、滞水している状態であった。そこで、調査区域の草木の伐採を行い、運河跡の現況を記録するため、空中写真撮影を実施した。その後、事前準備として、委託者による排水用釜場の設置工事を実施し、ポンプ排水を行った。ある程度水が引いた段階で、運河跡の断面形状及び堆積状況を観察するため、運河跡の走行方向と直交するトレンチを掘削した。しかし、トレンチ内部の湧水が激しく、なおかつ堆積土が軟弱で崩落の危険性が生じたことから、全面的発掘調査を断念し、トレンチ部の断面観察及びその記録にとどまらざるを得なかった。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	9月	10月	11月
調査準備 空中写真撮影		■		
釜場設置 トレンチ掘削工事 (委託者実施)			■	
遺構調査				■
撤収				■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

吉十北遺跡は、茨城県鉾田市下富田字吉十984番2ほか、勘十郎堀跡は、茨城県鉾田市紅葉字新川添924番4ほか

に所在している。

鉾田市は、茨城県の東部に位置し、北は涸沼、東は太平洋、南は北浦に面している。平成17年に旧鹿島郡の鉾田町・旭村・大洋村が合併して鉾田市となった。市域には巴川、鉾田川、大谷川の3つの主要河川が流れている。巴川は市域西部を北西から南東方向に流れ、北浦に流れ込んでいる。鉾田川は市域中央部を南流し、北浦に流れ込む手前で巴川と合流している。また、大谷川は市域北部を北流し、涸沼に流れ込んでいる。市域の地形は、主に北部及び中央部が東茨城台地、東部が鹿島台地、南部の巴川から北浦西岸の一部が行方台地で形成されている。太平洋に面する鹿島台地が標高20～44m、東茨城台地と行方台地が標高19～35mで、台地部の周辺には、巴川などによって樹枝状に開析された谷地形が広がっている。

吉十北遺跡は、市域北西部の巴川左岸、標高約29mの舌状台地の先端部に位置している。調査区域の西側から南側にかけては、巴川の支流によって開析された谷地形で、低地との比高差は15mである。東側は緩やかな小支谷が入り込んでいる。

勘十郎堀跡は、市域北部に面した涸沼から涸沼川を経由し、東茨城郡茨城町海老沢付近から同町域之内を経て、逆井川池付近を中間地点とし、鉾田市紅葉付近で巴川に至る運河跡である。涸沼から巴川まで経路は、東茨城台地をほぼ南北方向に通っており、涸沼川付近で標高10m、中間地点になる逆井川池付近で標高23m、巴川に合流する紅葉付近で標高12mほどである。涸沼川から逆井川池付近に至る経路は、涸沼川に流入する支谷を利用しており、運河の痕跡は部分的に残っている程度である。一方、逆井川池付近から紅葉地区に至る経路は、台地部を掘削して構築されているため、現在もその形状が良好に遺存している。

第2節 歴史的環境

吉十北遺跡、勘十郎堀跡が所在する巴川流域には、旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』¹⁾に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺構は確認されていないが、遺物が青柳、借宿、徳宿地区を中心に出土している²⁾。徳宿の稲荷山遺跡からは、石器17点が出土している³⁾。

縄文時代の遺跡は、入場台遺跡〈60〉から早期の花輪式土器が採集され、カキの貝殻が少量散乱していることから貝塚の存在が指摘されている⁴⁾。吉十北遺跡〈①〉の谷津を挟んで南側に位置する梨ノ子木久保遺跡〈6〉からは沈文系土器が出土している⁵⁾。また、巴川河口部である北浦湖頭の兩岸の台地上には、串挽貝塚や万銀ノ上遺跡など早・前期の土器が採集されており⁶⁾、早期の遺跡が集中している。

前期になると巴川兩岸の台地上に遺跡が増える。巴川右岸の開析谷の入り込む台地縁辺部には、宮後遺跡〈17〉、瀬戸遺跡〈23〉、岡田遺跡〈31〉、中郷谷遺跡〈32〉、前野遺跡〈36〉などで、また巴川左岸の台地縁辺部には、梨ノ子木久保遺跡、外ノ山遺跡〈7〉、稲荷前遺跡〈8〉、柏葉山東遺跡〈25〉、柏葉後口遺跡〈27〉、大乗遺跡〈49〉で花積下層式土器、黒浜式土器、浮島式土器などが表面採集されている⁷⁾。梨ノ子木久保遺跡

では、調査の結果6基の土坑が検出され、出土遺物から当該期の遺構と考えられている⁸⁾。

中期になると遺跡数は増大し、巴川右岸の台地縁辺部に、宮後遺跡、城之内遺跡(18)、道海遺跡(21)、宿東側遺跡(42)などが、また巴川左岸の台地縁辺部には、吉十北遺跡、富田山遺跡(4)、吉十南遺跡(5)、坂ノ上遺跡(10)、香取脇遺跡(14)、行中地遺跡(16)、柏葉山東遺跡、権現山遺跡(46)、大條遺跡(47)、浦房地遺跡などがある。浦房地遺跡では、竪穴建物跡7棟、袋状土坑110基が確認されており、巴川流域での当該期の遺跡を考える上で注目される遺跡である⁹⁾。

後・晩期になると遺跡は少なくなっており、生活の場の変化などが考えられる。当遺跡の南東約3kmのところから巴川河口近くの兩岸の台地上に金佛遺跡、宮下遺跡、菁柳貝塚、神楽場遺跡、権現平貝塚などで当該期の遺物が採集されており¹⁰⁾、特に巴川右岸の台地上に多くみられる。

弥生時代の遺跡は、鉾田川左岸台地上に位置する徳宿遺跡や塙遺跡、北浦湖頭の鹿島台地上に位置する安塚遺跡などで中期の足洗式土器が出土している¹¹⁾。後期では、外ノ山遺跡、明神後古墳(29)、下吉影中郷谷遺跡(30)、前野遺跡、岸高山遺跡(58)、宮下遺跡、柿の木遺跡などがあり、明神後古墳では、墳丘下から弥生時代後期前半に属する竪穴建物跡2棟が確認されている¹²⁾。宮下遺跡では、東海系の棒状浮文を口縁部に施した土器片が採集されている¹³⁾。また、柿の木遺跡では、仙台地方の弥生時代終末期に属する天王山式土器の破片が採集されている¹⁴⁾。吉十北遺跡周辺においては、弥生時代後期に入って集落が形成されるようになっていったことがうかがえる。

古墳時代の遺跡は、手山古墳群(3)、香取脇遺跡、香取前遺跡(15)、道海古墳(20)、道海遺跡(21)、新堀古墳(22)、松崎古墳(24)、後久保遺跡(28)、明神後古墳、岡田遺跡、西ノ内遺跡(37)、すすき山遺跡(45)、大乗遺跡、宿畑遺跡(53)、堂越遺跡(57)などがある。吉十北遺跡の西南西約1.3kmの巴川左岸の台地上に位置する明神後古墳は、径18m前後の円墳であり、主体部は確認されていないが周溝内の出土遺物から5世紀後半と考えられている¹⁵⁾。また、吉十北遺跡から約1.8kmの巴川右岸の台地上に位置する新堀古墳では、箱式石棺が確認されており、人骨が出土している¹⁶⁾。新堀古墳から巴川を南流すると、右岸台地上に塚崎古墳群、大上古墳群、宮山古墳群、石神東古墳群、石神西古墳、不二内古墳群がある。特に不二内古墳群からは、男子跪坐像埴輪、壺を捧げる女子像埴輪、武装男子埴輪などが出土しており、男子跪坐像埴輪は国の重要文化財に指定されている¹⁷⁾。

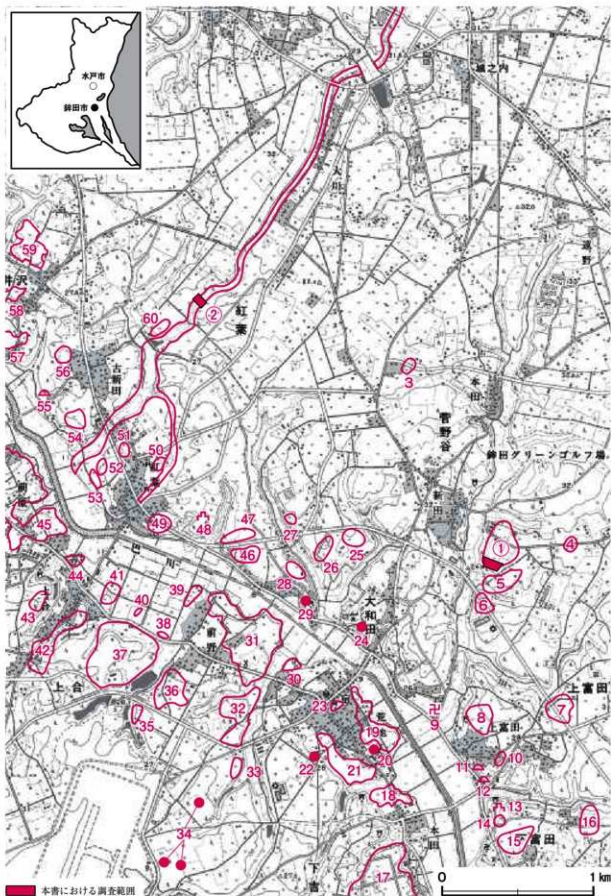
奈良・平安時代の遺跡は、集落跡の調査事例はないが、遺跡分布調査により、外ノ山遺跡、坂ノ上遺跡、香取脇遺跡、香取前遺跡、宮後遺跡、城之内遺跡、窪前遺跡(19)、下吉影中郷谷遺跡、旧百里原海軍飛行場埴輪塚群(34)、道添西手遺跡(41)、すすき山遺跡、浜海道遺跡(52)、古持台遺跡(54)、堂越遺跡などで遺物が確認されている。奈良・平安時代の鉾田地域は、鹿島郡、行方郡、茨城郡の3郡にまたがる地域であった。吉十北遺跡の周辺は、茨城郡白川郷に属する地域である。調査事例は少ないが、当遺跡から東へ約5.5kmのところに鎌田遺跡があり、製鉄を行っていたと考えられる工房跡が見つかっている¹⁸⁾。

中世における遺跡は、富田城跡(13)、城之内遺跡、西ノ内遺跡、館小路遺跡(39)、すすき山遺跡、紅葉城跡(48)、仙助作遺跡(50)、新山遺跡(51)、浜海道遺跡、宿畑遺跡などがある。紅葉城跡は、常陸大掾氏の一族である鹿島三郎成幹が、北方の守りとして紅葉村に4子助幹を派遣し、助幹は持寺氏を名乗り、助幹が居城として築いたのが紅葉城の始まりとされる¹⁹⁾。巴川流域には富田城跡や堀の内砦などの城館や砦が7遺跡確認されている²⁰⁾。また鉾田川流域には、常陸大掾氏の支族である鹿島氏一族の徳宿親幹が築いた徳宿城跡や安房又太郎の築いた三階城跡など8遺跡の城館や砦が、田中川流域では、畑田幹秀が築いた畑田城跡など9遺跡の城館や砦が確認されている²¹⁾。

近世の遺跡は、勘十郎堀跡②、円満寺廃寺⑨、童子塚⑪、館小路遺跡、サイカチ遺跡④⑩、木間塚⑫がある。近世の鉾田地区は、江戸への輸送路の中継地点としての役割を果たしている。勘十郎堀跡は、その輸送路の一つとして計画された運河跡である。

註

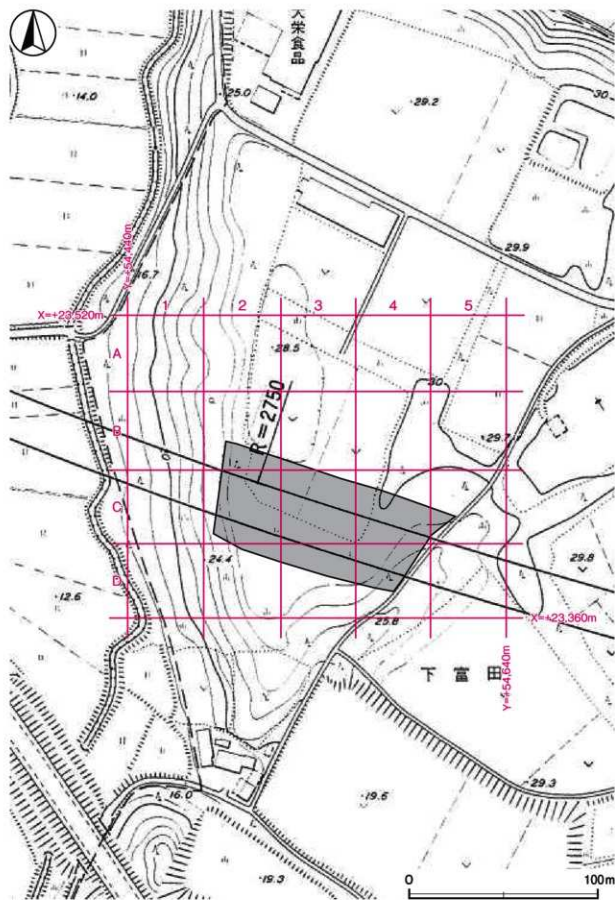
- 1) 茨城県教育庁文化課編「茨城県遺跡地図」茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 鉾田町史編さん委員会編「鉾田町史 原始古代史料編（鉾田町の遺跡）」鉾田町 1995年3月
- 3) 茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会編「茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代」茨城県 1979年3月
- 4) 註2)に同じ
- 5) 後藤義明「主要地方道茨城・鹿島線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 梨ノ子木久保遺跡 割り塚古墳」【茨城県教育財団文化財調査報告】第47集 1988年6月
- 6) 註2)に同じ
- 7) 註2)に同じ
- 8) 註5)に同じ
- 9) 鉾田町史編さん委員会編 図説「はこたの歴史」鉾田町 1995年12月
- 10) 註2)に同じ
- 11) 小沼一夫・小島敏・瓦吹堅「明神後古墳」【茨城県鉾田町文化財調査報告書】第7輯 鉾田町教育委員会・明神後古墳発掘調査会 1996年5月
- 12) 註2)に同じ
- 13) 註2)に同じ
- 14) 橋本勉・高橋杏二「鹿島線関係遺跡発掘調査報告書 徳宿遺跡 塙遺跡 安塚遺跡」【茨城県教育財団文化財調査報告】V 1980年3月
- 15) 註11)に同じ
- 16) 小川町史編さん委員会編「小川町史」下巻 小川町 1988年3月
- 17) 註2)に同じ
- 18) 鹿島郡鉾田町教育委員会「鎌田遺跡調査報告」1991年10月
- 19) 鉾田町史編さん委員会「鉾田町史 通史編」上巻 鉾田町 2000年2月
- 20) 鉾田町埋蔵文化財発掘調査会「大樋上館跡-土砂採取事業に伴う発掘調査報告書-」【茨城県鉾田町文化財調査報告書】第8輯 1998年3月
- 21) 註20)に同じ
- 22) 註19)に同じ



第1図 吉十北遺跡・勘十郎堀跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「下吉影」）

表1 吉十北遺跡・勘十郎堀跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	吉十北遺跡	○	○			○		31	岡田遺跡		○	○				
②	勘十郎堀跡						○	32	中郷谷遺跡	○						
3	手山古墳群				○			33	小川街道遺跡	○						
4	富田山遺跡		○					34	昭百里原海軍飛行場残存地群	○	○			○		
5	吉十南遺跡		○					35	前野台遺跡	○						
6	梨ノ子木久保遺跡	○	○					36	前野遺跡	○	○					
7	外ノ山遺跡	○	○			○		37	西ノ内遺跡	○		○			○	
8	稲荷前遺跡		○					38	門田古宮遺跡	○						
9	円満寺廃寺						○	39	館小路遺跡						○	○
10	坂ノ上遺跡		○			○		40	サイカチ遺跡							○
11	童子塚						○	41	道添西手遺跡	○				○		
12	富田貝塚		○					42	宿東側遺跡	○						
13	富田城跡						○	43	小山遺跡	○						
14	香取脇遺跡		○		○	○		44	上合天神遺跡	○						
15	香取前遺跡		○		○	○		45	すすき山遺跡	○		○	○	○		
16	行中地遺跡		○					46	権現山遺跡	○						
17	宮後遺跡		○			○		47	大條遺跡	○						
18	城之内遺跡		○			○	○	48	紅葉城跡							○
19	窪前遺跡		○			○		49	大乘遺跡	○	○	○				
20	道海古墳				○			50	仙助作遺跡	○						○
21	道海遺跡		○		○			51	新山遺跡	○						○
22	新堀古墳				○			52	浜海道遺跡	○				○	○	
23	瀬戸遺跡		○					53	宿畑遺跡				○			○
24	松崎古墳				○			54	古持台遺跡	○				○		
25	柏葉山東遺跡		○					55	木間塚							○
26	柏葉山西遺跡		○					56	木間塚遺跡	○						
27	柏葉後口遺跡		○					57	堂越遺跡	○		○	○			
28	後久保遺跡				○			58	岸高山遺跡	○	○					
29	明神後古墳			○	○			59	下原遺跡	○						
30	下吉影中郷谷遺跡	○	○		○			60	入場台遺跡	○						



第2図 吉十北遺跡調査区設定図(鉦田町都市計画図2,500分の1から作成)

第3章 吉十北遺跡

第1節 調査の概要

吉十北遺跡は、銚田市の北西部に位置し、巴川左岸の標高約29mの台地上に立地している。巴川に流れ込む支流の左岸台地上は、西から南側にかけて谷状地形になり、東側に緩やかな小支谷が入り込んで舌状台地を形成している。遺跡は、舌状台地上の南北約350m、東西約200mの範囲で、今回の調査区は、遺跡南部の台地先端部に位置している。調査面積は5,890㎡で、調査前の現況は山林、畑地である。

調査の結果、堅穴建物跡38棟（縄文時代36・奈良時代2）、炉跡7か所（縄文時代）、陥し穴2基（縄文時代）、土坑669基（縄文時代）、炭窯跡1基（時期不明）、溝跡2条（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に400箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・双口深鉢・鉢・浅鉢・小型浅鉢・壺・小型壺・器台・有孔鈎付土器・小型台付土器・コップ形土器・ミニチュア土器・手捏土器）、土師器（坏・甕）、須恵器（坏・蓋・短頸壺・壺）、土製品（土器片・耳栓・土偶・土器片円盤・有孔円板・きのこ形土製品・支脚・不明土製品）、石器・石製品（ナイフ形石器・角錐状石器・尖頭器・スクレイパー・石錐・鏃・鐵未成品・異形石器・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・磨製石斧未成品・石皿・磨石・敲石・敲砥石・石錘・凹石・砥石・台石・多孔石・炉石・浮子・球状耳飾り・石棒・石剣）、瓦（椀瓦）、加工痕のある剥片、剥片、石核、母岩などである。

第2節 基本層序

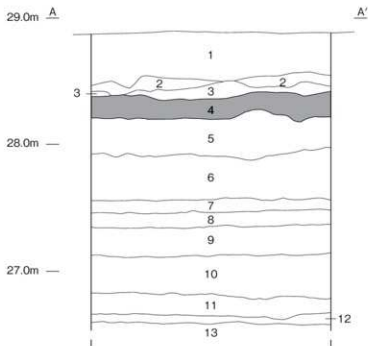
調査区南部中央の台地上の平坦面（D3d5区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。

第1層は、黒褐色を呈する表土である。層厚は34～44cmである。

第2層は、暗褐色を呈するロームへの漸移層である。炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は5～10cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量に含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は5～15cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は12～24cmである。第II黒色帯と考えられる。



第3図 基本土層図

- 第5層は、明褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は26～40cmである。
- 第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は28～40cmである。
- 第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、鹿沼バミスを少量含み、層厚は8～10cmである。鹿沼バミス層への漸移層である。
- 第8層は、黄褐色を呈する鹿沼バミス層である。粘性・締まりともに強く、層厚は9～12cmである。
- 第9層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は22～25cmである。
- 第10層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は27～34cmである。
- 第11層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は11～17cmである。
- 第12層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は3～9cmである。常総粘土層への漸移層である。
- 第13層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性は極めて強く、締まりは強く、層厚は5cmまで確認したが、下部は未掘のため不明である。
- なお、遺構は、第2層の上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡36棟、炉跡7か所、陥穴2基、土坑669基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡

第1A号堅穴建物跡（第4～9図 PL4）

位置 調査区南東部のD4bl区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1B号堅穴建物跡、第406号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 二段の掘り込みをもつ有段式堅穴建物である。隅丸長方形で、主軸方向はN-22°-Eである。上段は長軸7.25m、短軸6.51mである。壁は高さ10～24cmで、緩やかに立ち上がっている。下段は長軸4.70m、短軸3.83mで、上段との高低差は20cmである。壁は直立している。

床 上・下段ともほぼ平坦で、下段の中央部が踏み固められている。上段の各壁下には部分的に壁溝が存在し、下段は東壁下に部分的に壁溝が確認できた。上段の北部で焼土塊を確認したが、床面との間に褐色土の層があり、埋没過程で投棄されたものである。

焼土土層解説

1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物少量 2 褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 22か所。P1～P4は深さ70～110cmで、下段の各コーナー部に位置していることから、支柱穴である。P5・P6は深さ136・123cmで、北・南部の中軸線上に位置していることから、椀持柱の柱穴と考えられる。P7～P22は深さ13～72cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック多量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	10 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック多量	11 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子多量
6 暗褐色	ロームブロック中量	14 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子中量	15 褐色	ロームブロック少量
8 褐色	ロームブロック中量		

覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

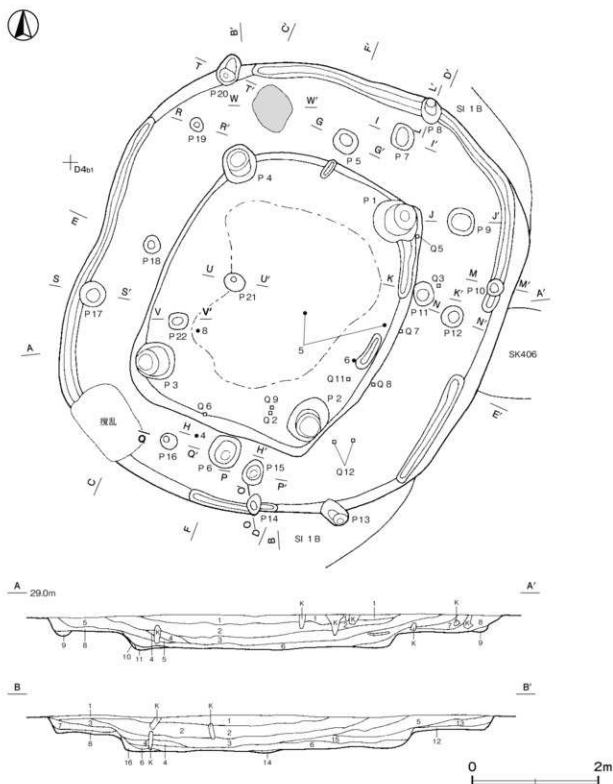
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物少量	11 褐色	ロームブロック多量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化物少量	12 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
6 黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量	14 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	16 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

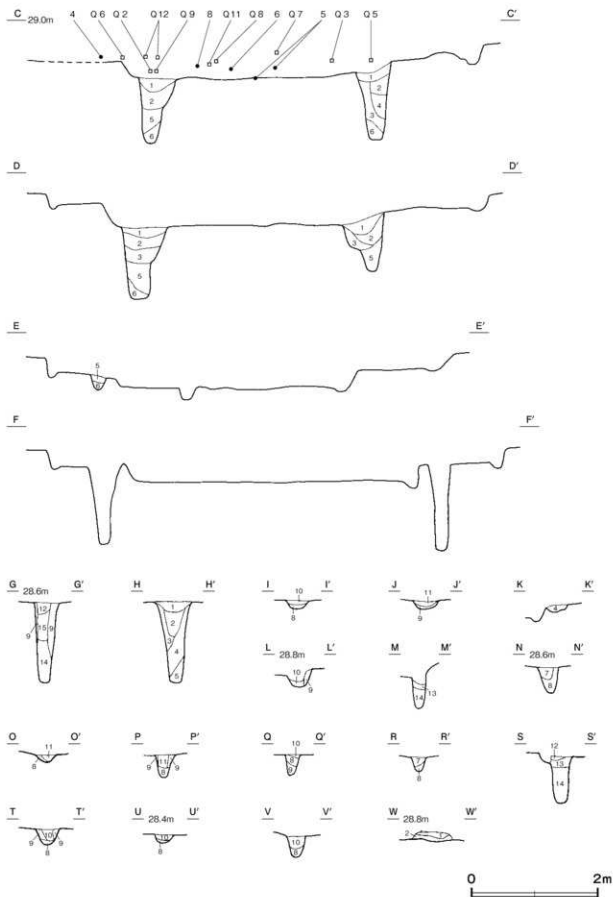
遺物出土状況 縄文土器片1,390点（深鉢1,344、鉢1、浅鉢44、小型浅鉢1）、土製品2点（土器片鐘）、石器14点（鎌1、打製石斧1、磨製石斧7、敲砥石2、砥石2、角錐状石器1）、母岩3点（瑪瑙）、石核94点（石英9、瑪瑙85）、剥片30点（黒曜石3、石英13、瑪瑙6、頁岩1、チャート3、粘板岩1、ホルンフェルス2、石英斑岩1）が出土している。4は上段の南部、5は下段の東部、Q2・Q9は下段の南東部の覆土下

層から、6、Q3・Q5・Q7・Q8・Q11・Q12は東部、8は中央部の南西寄り、Q6は南部の覆土中層から、いずれも散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。また、覆土全体から出土している多量の石英・瑪瑙を中心とした石核・剥片類は、石器製作に関連するものと考えられる。

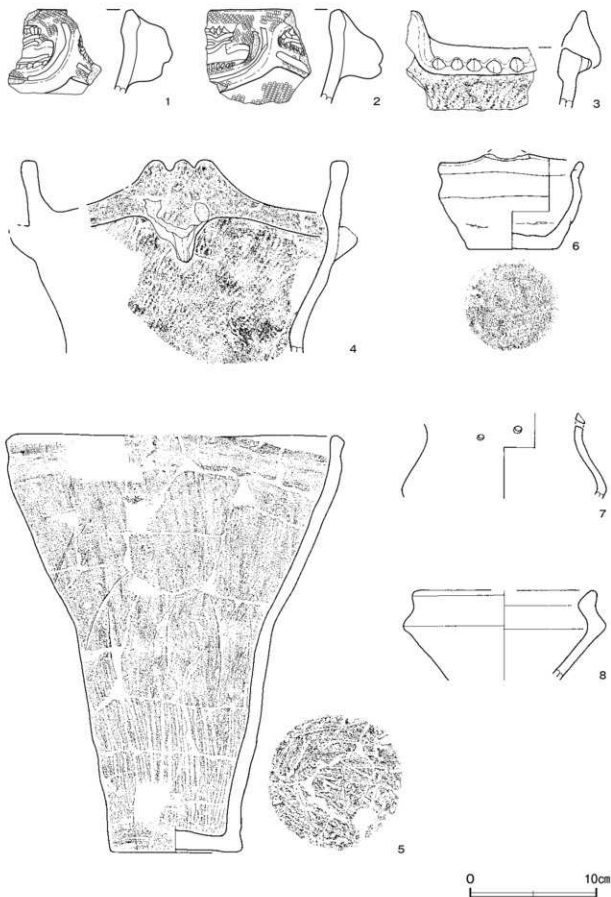
所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



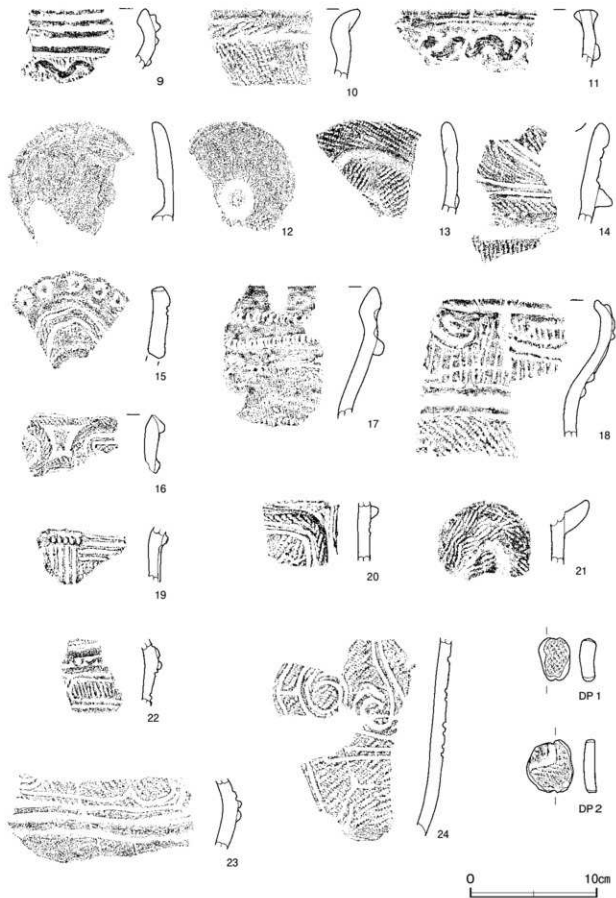
第4図 第1A号堅穴建物跡実測図(1)



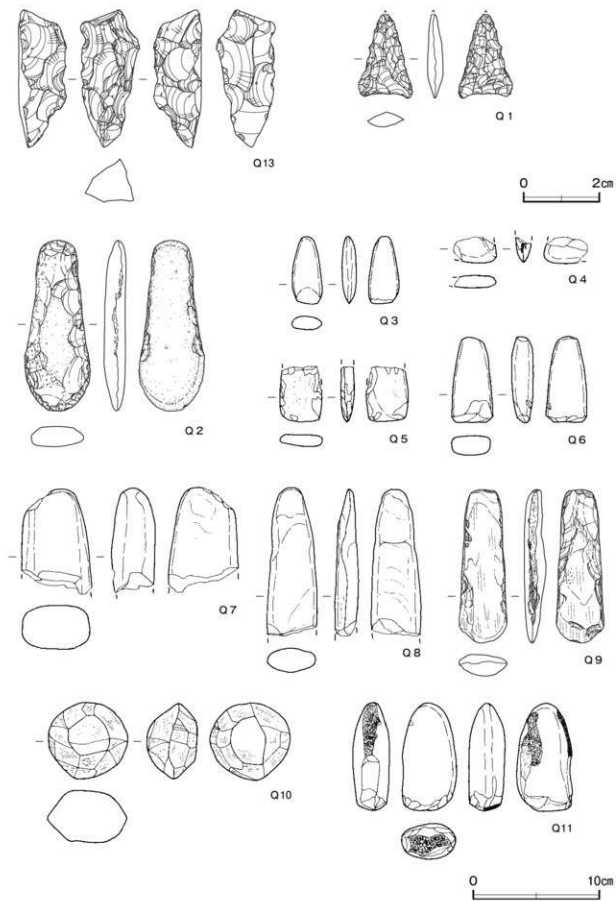
第5図 第1A号竪穴建物跡実測図(2)



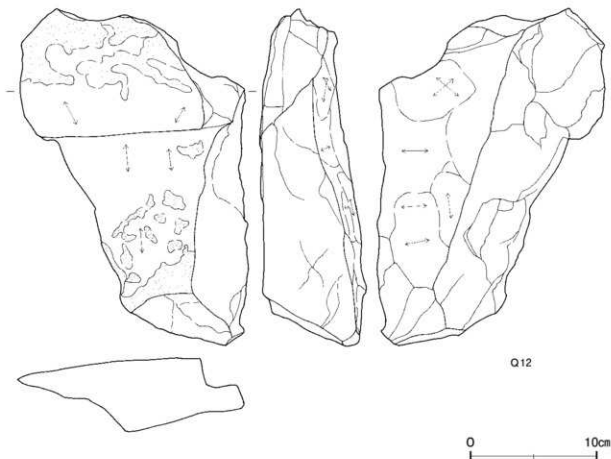
第6图 第1A号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第7図 第1A号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第8图 第1A号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



第9図 第1A号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第1A号竪穴建物跡出土遺物観察表(第6～9図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(67)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯貼付による把手に沿ってベン先状刺突 隆帯上に単筋縄文乳(横)	覆土中	PL104 2と同一器種。
2	縄文土器	深鉢	-	(75)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯貼付による把手に沿って格四文 隆帯上に単筋縄文乳(横)	覆土中	PL104 1と同一器種。
3	縄文土器	深鉢	-	(78)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇直下に平面面を作り出す 口縁上部は把手から続く隆帯に指頭文 中央に0段多角縄文乳(縦)	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	(255)	(163)	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐色	良好	底面部にキザ目 口縁に沿って隆帯貼付 全面に単筋縄文乳(縦)	覆土下層	10% PL104
5	縄文土器	深鉢	(254)	33.2	10.2	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	外面は指頭による横線形 以下腹方向のナデ 腹下は急峻 内面横ナデ 底部無物象の直線	覆土下層	50% PL104
6	縄文土器	鉢	11.3	(7.6)	7.3	長石・石英・雲母・黒色砂子	橙	普通	口縁部指頭による横線形 外・内面横ナデ	覆土中層	90% PL104 外面覆付着
7	縄文土器	浅鉢	-	(68)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	有孔土器 内面磨き	覆土中	10% 断面面録付着
8	縄文土器	小型浅鉢	(140)	(7.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	良好	外面磨き 部分的に赤彩痕	覆土中層	20%
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁上部背面隆帯による平行線文 地文に無赤文 隆帯による波状文	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部は隆帯貼付により段をもつ 隆帯上に無筋縄文乳(横) 地文に無筋縄文乳(縦)	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	灰黄褐色	普通	口唇直下に平面面を作り出す 口縁部は隆帯貼付による波状文	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい褐色	普通	内外無赤文 内面中央に指頭による円文 下部に単筋縄文乳(縦)	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい褐色	普通	地文に単筋縄文乳(横) 内面に縦線	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	太めの隆帯と波線で三角区画 区画内単筋縄文乳(横) 断面以下(斜) 内面に段	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい褐色	普通	把手縁部は指頭により波状に直線 地文に単筋縄文乳(斜) 把手に沿って2本の沈線 中央部穿孔	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯による格四区画 隆帯に沿って沈線 隆帯上及び区画内に単筋縄文乳(横・縦)	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	太い隆帯で区画成キタビタ文を施文 頸部に浅い縦の条線文	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部指頭より支線直線直線条線文 頸部に2本の隆帯 胴部は単筋縄文乳(横)	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	使用	文様の特徴ほか	出土位置	備考
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐色	普通	陸帯帯付による突起 縦横の並行沈線 一部刺突による横門区画	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい褐色	普通	陸帯による文用区画 陸帯に沿って並行沈線 陸帯上部及び器内にも細縄文用(縦・横)区画内底長沈線	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい青褐色	普通	把手外面に無筋縄文し(縦)	覆土中	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐色	普通	地文に無赤文 陸帯による平行線 波状文及び並行沈線による横門区画	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に無筋縄文L字(縦) 背割れ陸帯による横門区画 区画内沈線 筋部無文	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文にL字多変縄文L字(縦) 2本の沈線による並行沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP-1	土器片鉢	3.3	2.4	1.2	11.0	長石・石英・雲母	灰褐色	銅部片 周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	
DP-2	土器片鉢	4.1	3.7	0.9	17.1	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	黒褐色	銅部片 周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q-1	甌	(2.2)	1.4	0.4	(1.1)	チャート	縦長の甌 基部中央は弱く増入	覆土中	PL161
Q-2	打製石斧	13.5	5.2	1.8	157.6	安山岩	楕形 両側縁及び片面に微細な敲打調整 刃部は表裏を研磨	覆土下層	PL163
Q-3	磨製石斧	5.3	2.4	1.1	21.2	ホルンフェルス	楕小型 両側縁に横 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中層	PL169
Q-4	磨製石斧	(2.0)	(3.4)	(1.2)	(7.4)	変質ドレイライト	小型 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	
Q-5	磨製石斧	(4.4)	3.4	1.0	(25.1)	緑色岩	小型 表裏面研磨 両側縁に敲打痕 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す 平方	覆土中層	
Q-6	磨製石斧	6.8	3.3	1.7	63.3	変質安山岩	小型 全面研磨 両側縁に横 刃部欠損後再刃	覆土中層	PL169
Q-7	磨製石斧	(8.3)	5.5	3.5	(83.2)	閃緑岩	定角式 全面研磨 刃部欠損 縦線に弱い横	覆土中層	
Q-8	磨製石斧	(11.7)	3.9	1.8	(114.6)	ホルンフェルス	短楕形 両側縁研磨 刃部欠損	覆土中層	PL168
Q-9	磨製石斧	12.2	3.8	1.7	114.3	緑色片岩	短楕形 表裏面研磨 両側縁微細な敲打痕 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土下層	PL168
Q-10	敲破石	6.0	6.3	4.0	297.7	石英	円盤の周縁部に多方向からの砥面により後をもつ	覆土中	PL171 L5003-3の同種
Q-11	敲破石	8.5	4.3	2.8	181.9	緑色岩	楕円盤の周縁部に多方向からの砥面により後をもつ	覆土中層	PL175 L5003-3の同種
Q-12	砥石	26.7	18.2	8.3	2970.4	砂岩	表裏面に多方向からの砥面をもつ	覆土中層	PL176
Q-13	角磨石器	3.6	1.6	1.3	5.8	黒曜石	縦長楕円の縁部に押圧調整による調整 断面三角形	覆土中	PL160 神津島産

第1B号竪穴建物跡(第10・11図 PL 4)

位置 調査区南東部のD4a1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第407・408号土坑を掘り込み、第1A号竪穴建物、第457・483号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径10.69m、短径8.74mの楕円形で、長径方向はN-16°-Wである。壁は高さ10～18cmで、緩やかに傾斜している。北東部の壁際には、テラス状の段が存在している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 北部に付設されている。長径94cm、短径70cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。

炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

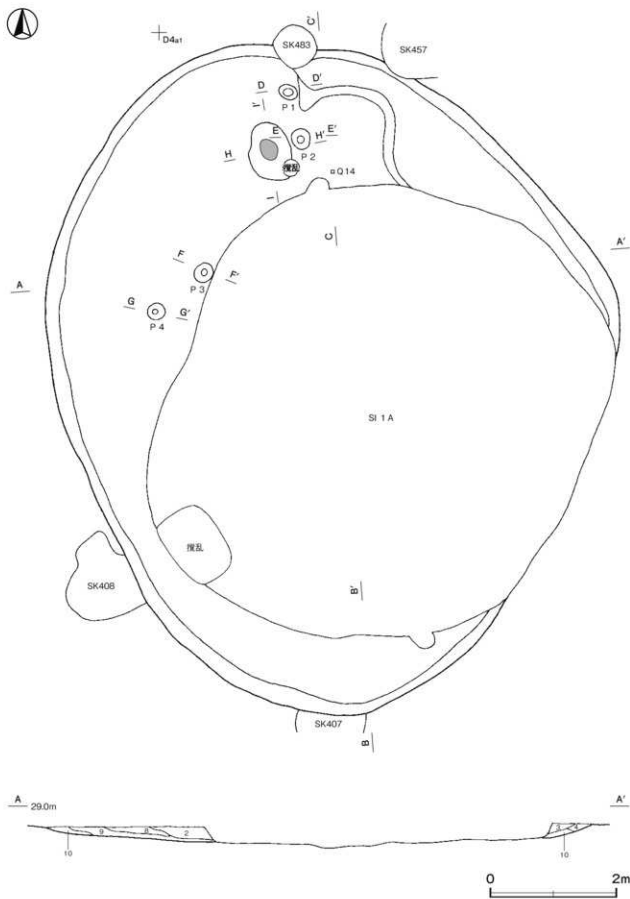
炉土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

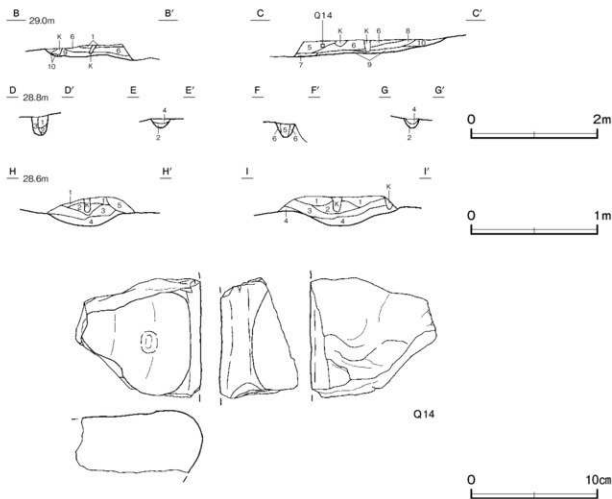
ピット 4か所。深さ15～30cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第10図 第1B号竪穴建物跡実測図



第11図 第1B号竪穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 縄文土器片190点（深鉢185、浅鉢5）、石器1点（砥石）が出土している。土器片は、いずれも小破片で、各層にわたって出土していることから、埋没過程で流れ込んだものと考えられる。Q14は、炉南東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から中期中葉と考えられる。

第1B号竪穴建物跡出土遺物観察表（第11図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	砥石	(95)	(100)	(62)	(6824)	砂岩	上面及び側面に砥面 上面に門形板	覆土上層	

第2号竪穴建物跡 (第12～14図 PL 4)

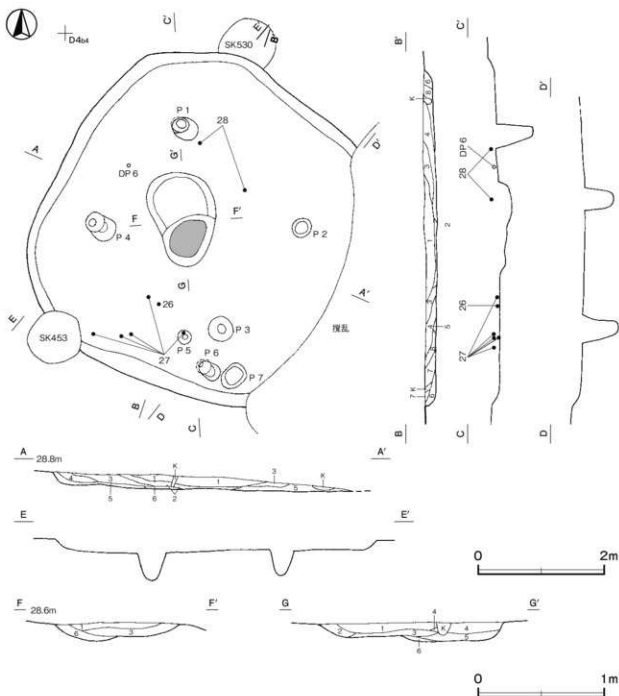
位置 調査区東部のD4b4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第530号土坑を掘り込み、第453号土坑に掘り込まれている。

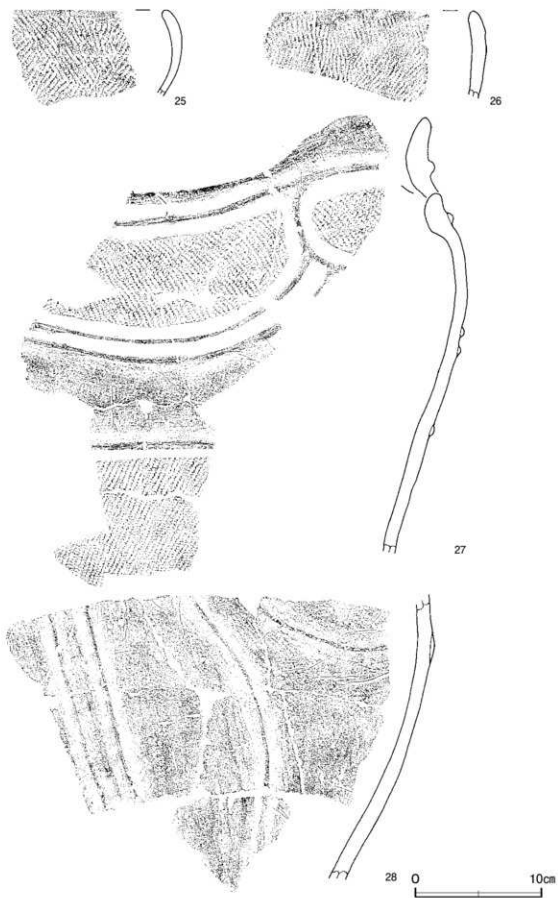
規模と形状 東部が削平されているため、南北軸5.35mで、東西軸は4.80mしか確認できなかった。形状から隅丸方形と推定でき、主軸方向はN-26°-Eである。壁は高さ10～25cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

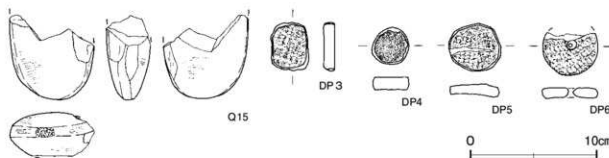
炉 中央部に付設されている。長径150cm、短径100cmの楕円形で、床面を20cmほど掘りくはめた地床炉である。南半部が火熱を受けて赤変硬化している。



第12図 第2号竪穴建物跡実測図



第13图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第14図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 7か所。P1～P4は深さ50～60cmで、規模と配置から主柱穴である。P5～P7は深さ15～30cmで、性格は不明である。

覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片569点(深鉢568, 浅鉢1), 土製品6点(土器片鍾1, 土器片円盤2, 有孔円板1, 不明土製品2), 石器3点(石皿1, 磨石2), 剥片3点(黒曜石, 瑪瑙, チャート)が出土している。27は南部, DP6は西部の床面, 26は南部の覆土下層, 28は北部の覆土上層と下層からそれぞれ出土している。土器片は, 散乱して出土した破片が接合しており, 廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。

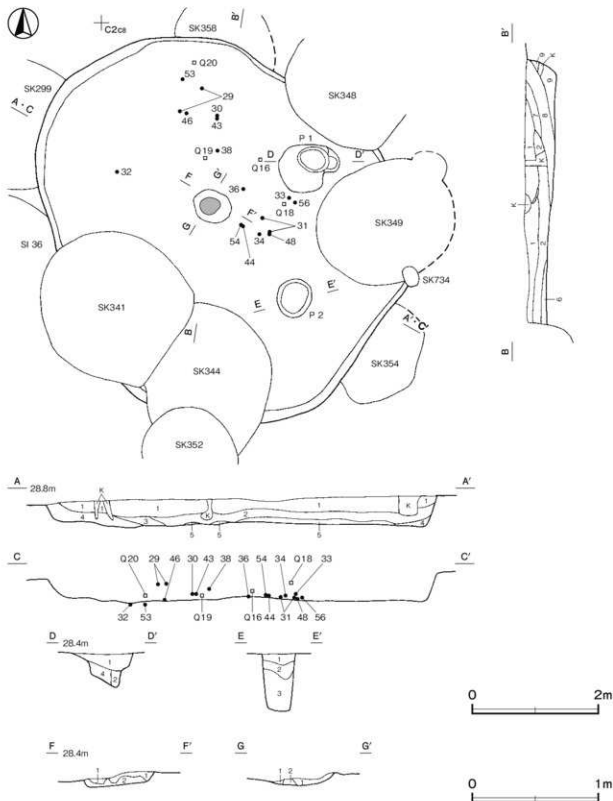
第2号竪穴建物跡出土遺物観察表(第13・14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	ぶい褐	普通	口唇直下から草筋縄文L及(縦・横)部分的に羽状構成	覆土中	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口唇直下から草筋縄文RL(横・斜)部分的に羽状構成	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯に沿って未沈面(区内面)1段多糸縄文RL(横・斜)製部(縦)	床面	PL104
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁鉄	橙	普通	断面三角形の微隆起線で文様を描画(磨き)	覆土上・下層	PL104
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP 3	土器片鍾	3.9	3.2	0.9	142	長石・石英・雲母	赤褐	銅部片 周縁部研磨 両端にキザミ目	覆土中		
DP 4	土器片圓盤	2.9	3.0	1.0	106	長石・石英・雲母	褐	銅部片 周縁部研磨	炉覆土		
DP 5	土器片圓盤	3.8	4.0	0.9	(15.8)	長石・石英・雲母	赤褐	銅部片 周縁部研磨	覆土中		
DP 6	有孔円板	(3.3)	4.4	0.8	(143)	長石・石英・雲母	褐	銅部片 周縁部研磨 中央部両面から穿孔	床面		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q15	磨石	(6.7)	6.7	3.5	(161.5)	砂岩	両側縁を除き全面を研磨 先端部に微細な縦打痕	覆土中			

第4号堅穴建物跡 (第15～20図)

位置 調査区西部のC 2c8区、標高29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第36号堅穴建物跡、第299・300・354・355・358号土坑を掘り込み、第341・344・348・349・352・734号土坑に掘り込まれている。



第15図 第4号堅穴建物跡実測図

規模と形状 長径 6.50m, 短径 5.40mの楕円形で, 長径方向はN-27°-Wである。壁は高さ 40～60cmで緩やかに傾斜している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径 60cm, 短径 50cmの楕円形で, 床面を 10cmほど掘りくぼめた地床炉である。

炉床は, 火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
|---------------|-------------------------|

ピット 2か所。深さはP1が50cm, P2が90cmで, 規模と配置から主柱穴である。

ピット土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

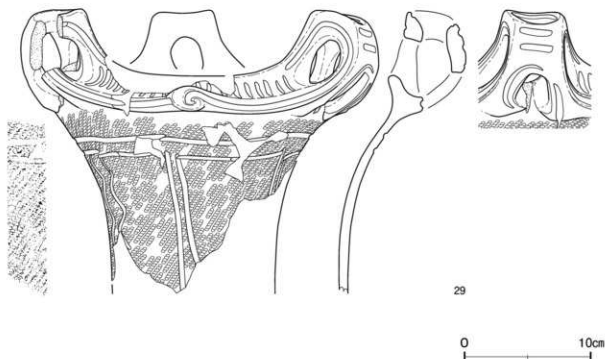
覆土 9層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

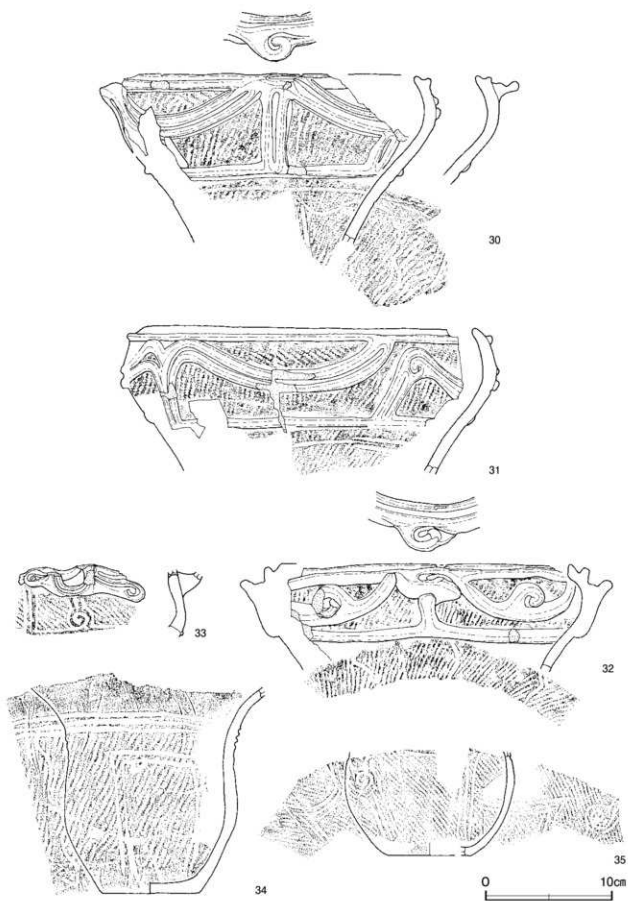
- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 994点 (深鉢 967, 浅鉢 25, 小型壺 2), 土製品 1点 (土器片錘), 石器 11点 (鏃 1, 打製石斧 3, 磨製石斧 1, 磨製石斧未成品 1, 磨石 3, 敲石 1, 砥石 1), 軽石 1点, 剥片 1点 (石英) が出土している。32は西部, 53は北部の床面, 31・34・36・44・48・54・56は中央部, 46は北部の覆土下層, 33・Q16は中央部, 30・38・43, Q19・Q20は北部の覆土中層, Q18は中央部, 29は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。いずれも中央部から北部の覆土中層から下層にかけて, まとまって出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

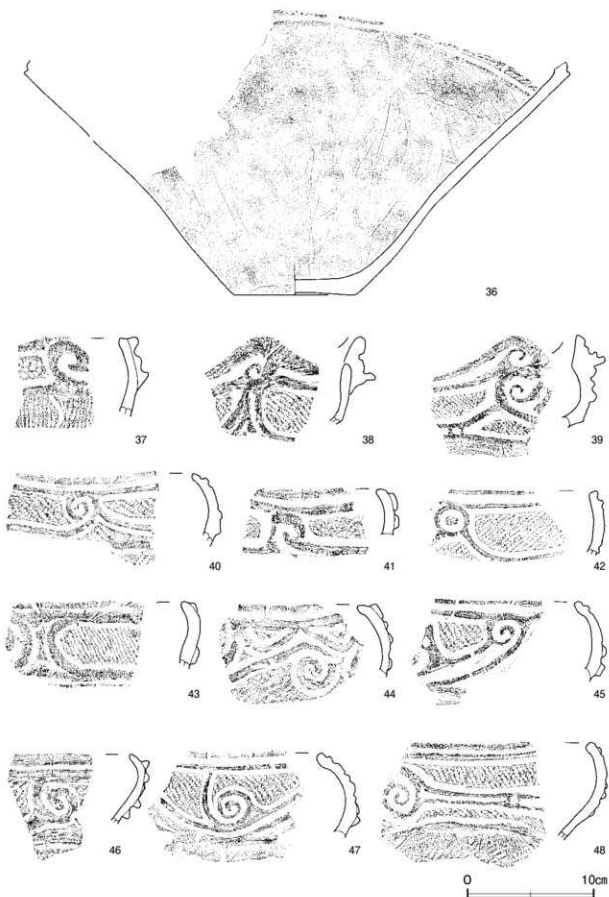
所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



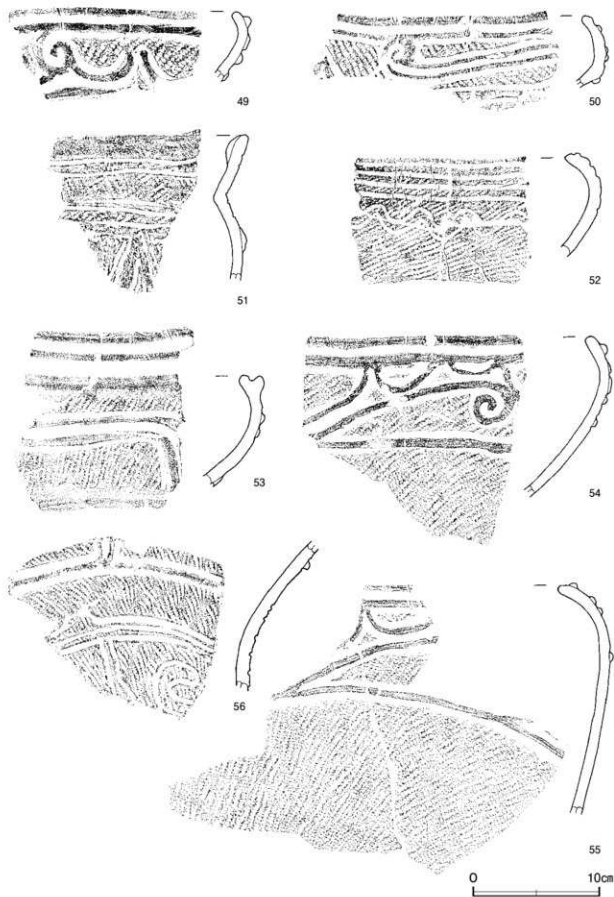
第16図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



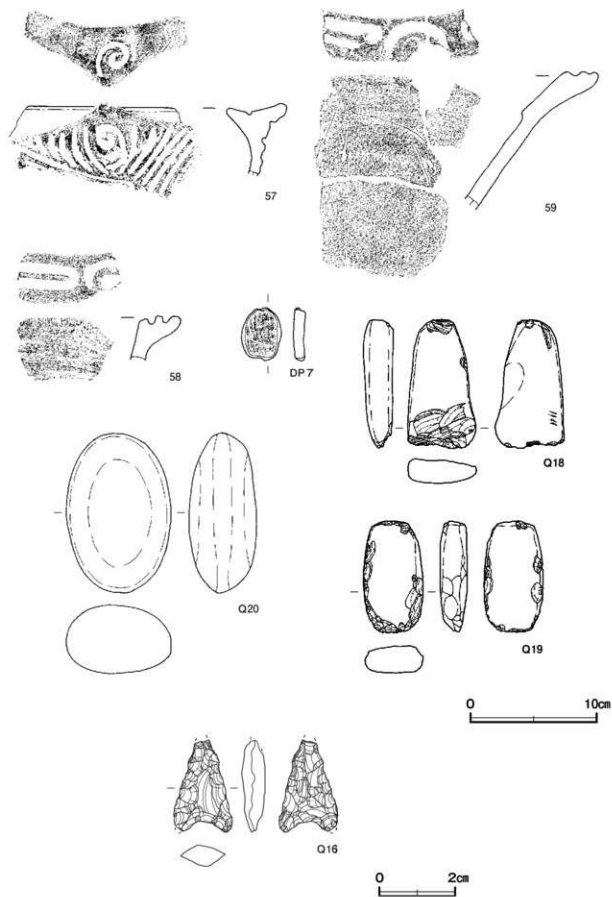
第17图 第4号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第18图 第4号竖穴建物跡出土遺物実測图(3)



第19图 第4号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)



第20图 第4号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)

第4号壑穴建物跡出土遺物観察表 (第16～20図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
29	陶文土器	深鉢	200	(226)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	器平面に背割れ縁帯による渦巻文 地文に単節縄文 L.R (横)	覆土上層	30% PL105
30	陶文土器	深鉢	[236]	(165)	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい橙	良好	口唇部深沈線が一部 口縁部に上向き渦巻文 地文に単節縄文 L.R (横) 口縁部背割れ縁帯で文様描画 胴部部行沈線が赤子	覆土中層	20% PL105
31	陶文土器	深鉢	[262]	(117)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口唇部深沈線が一部 隆帯による上向きの帯子渦巻文・区間文 地文に無節縄文 L.R (横・縦) 背割れ縁帯により文様描画	覆土下層	10% PL105
32	陶文土器	深鉢	[230]	(89)	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい黄	普通	口唇部深沈線が一部 隆帯による上向きの帯子渦巻文・区間文 地文に無節縄文 L.R (横) 胴部部行沈線が赤子	床面	25% PL105 内面北側面付着
33	陶文土器	深鉢	-	(53)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	地文に単節縄文 L.R (横) 細縁帯による渦巻文・区間文を描画	覆土中層	類入品
34	陶文土器	深鉢	-	(163)	80	長石・石英・雲母、黒色粒子	にぶい橙	良好	胴部無文 地文に0段多条縄文 L.R (縦) 沈線による区間文・区間文を描画	覆土下層	30% PL105
35	陶文土器	小型壺	-	(82)	[65]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に1段多条縄文 L.R (横) 三本単位沈線による渦巻文	覆土中	40% PL105 類入品
36	陶文土器	浅鉢	-	(186)	96	長石・石英・雲母	黄橙	良好	外内面縦方向の帯子 口縁部に単節縄文 L.R (横)	覆土下層	30% PL105
37	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁に渦巻文 沈線による区間 区間内形割突 地文に帯子文 (横) 口縁下総行沈線が赤子	覆土中	
38	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	地文に0段多条縄文 L.R (横) 沈線部に渦巻文 口縁部深沈線による沈線による渦巻文・区間文 地文に帯子文 L.R (横) 長条状文による渦巻文 隆帯と沈線による区間文・渦巻文 一部総節縁帯 胴部無文	覆土中層	
39	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に0段多条縄文 L.R (横) 隆帯と太沈線による区間文・渦巻文 一部総節縁帯 胴部無文	覆土中	
40	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	地文に0段多条縄文 L.R (横) 胴部 (縦) 隆帯と太沈線による区間文・渦巻文	覆土中	
41	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、黒色粒子	にぶい橙	普通	地文に0段多条縄文 L.R (横・縦) 隆帯と太沈線による区間文・渦巻文	覆土中	
42	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	地文に0段多条縄文 L.R (横) 口縁上部に太沈線が一部 隆帯と沈線による区間文・渦巻文	覆土中	
43	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	地文に無節縄文 L.R (横) 口唇部深沈線が赤子 隆帯と沈線による区間文・渦巻文	覆土中層	
44	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 L.R (横) 隆帯と太沈線による区間文・渦巻文	覆土下層	
45	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	地文に単節縄文 L.R (横) 隆帯と太沈線による区間文・渦巻文 一部内形割突	覆土中	
46	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	地文に単節縄文 L.R (横) 口縁上部に太沈線が一部 隆帯と沈線による渦巻文・区間文	覆土中層	
47	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地文に0段多条縄文 L.R (横) 隆帯と沈線による区間文・渦巻文 胴部無文	覆土中	
48	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部単節縄文 L.R (横) 胴部 (縦) 隆帯 (一部総節縁帯) と沈線による区間文・渦巻文	覆土下層	
49	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	地文に単節縄文 L.R (横) 隆帯と沈線による区間文・渦巻文	覆土中	
50	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に0段多条縄文 L.R (横) 隆帯と沈線による区間文・渦巻文 胴部無文	覆土中	
51	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文 L.R (横・縦) 隆帯と沈線で文様を描画	覆土中	PL105
52	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に無節縄文 L.R (横) 二本単位沈線による帯子縁・流紋文	覆土中	
53	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、黒色粒子	にぶい黄	普通	口唇部部に沈線が一部 地文に単節縄文 L.R (横) 隆帯と沈線による渦巻文・区間文	床面	
54	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい黄	普通	口唇部深沈線が一部 隆帯による上向きの帯子渦巻文・区間文 地文に単節縄文 L.R (横) 隆帯と沈線により文様描画	覆土下層	PL105
55	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	地文に単節縄文 L.R (横) 口縁上部に太沈線が一部 隆帯と沈線による区間文・渦巻文	覆土中	
56	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	地文に単節縄文 L.R (横) 沈線を伴う隆帯区間文による渦巻文	覆土下層	
57	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部部平坦 三角形に張り出した渦巻文 口縁部太沈線により渦巻文・区間文	覆土中	PL105
58	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	橙	普通	口唇部部に平坦面 太沈線による区間文	覆土中	
59	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	赤褐	普通	口唇部部に平坦面 太沈線により文様描画	覆土中	PL105 二次焼成

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 7	土器片	4.2	3.1	0.9	140	長石・石英・雲母	黒	割部片 胴縁部研削 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 16	甌	(25)	(1.6)	0.6	(1.9)	瑪瑙	基部中央は尊入 先端部欠損	覆土中層	PL161
Q 18	打製石斧	10.2	5.5	2.4	182.4	ホルンフェルス	磨削 自然隆の端部を片面を鋭打 基部に鋭打痕	覆土上層	PL163
Q 19	磨製石斧 未製品	8.8	4.7	2.2	151.3	石英英岩	縁辺部に微細な鋭打調整 刃部は片からの鋭打調整	覆土上層	PL170
Q 20	磨石	12.7	8.3	5.3	808.3	砂岩	全面に磨痕	覆土中層	PL180

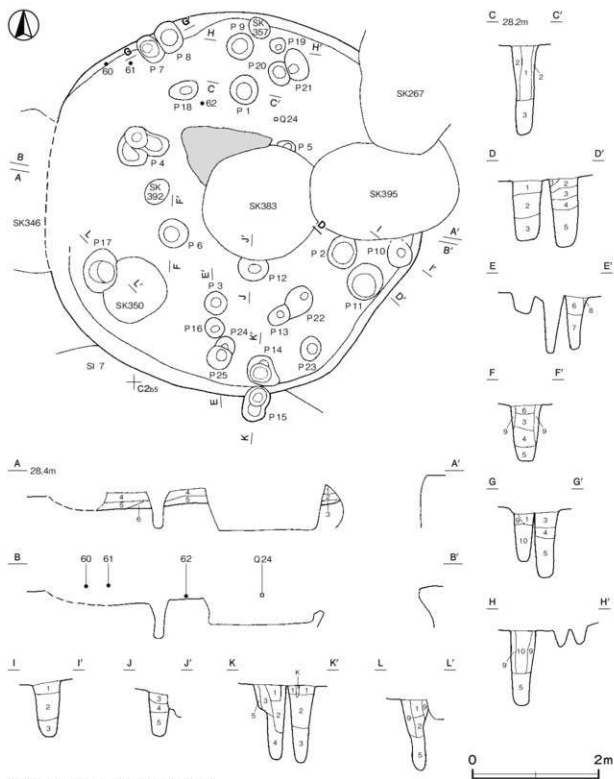
第5号壑穴建物跡 (第21～23図)

位置 調査区北西部の C 2 a5 区、標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号竪穴建物跡, 第346号土坑を掘り込み, 第267・350・357・383・392・395号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径5.92～6.05mの円形である。壁は高さ12cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。中央部で焼土ブロックを確認したが、床面との間に間層があり、埋め戻す過程で投棄されたものである。本跡に伴う炉跡は確認できなかった。



第21図 第5号竪穴建物跡実測図

ピット 25か所。P 1～P 4は深さ86～140cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5～P 17は深さ74～120cmで、主柱穴の間や壁際などに位置していることから、補助柱穴と考えられる。P 18～P 25は深さ10～50cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量	8 褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量

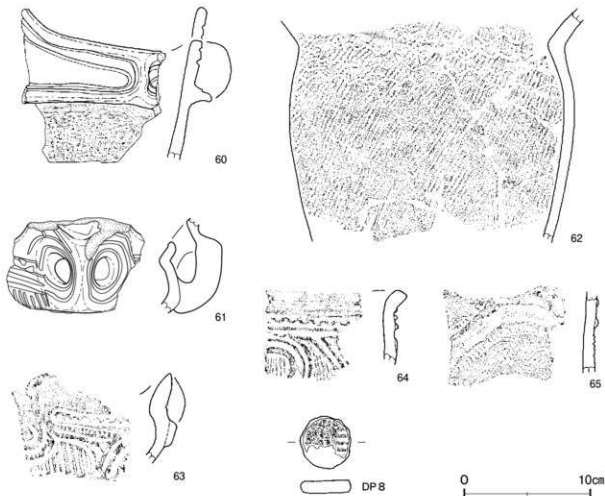
覆土 6層に分層できる。各層に焼土粒子や炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

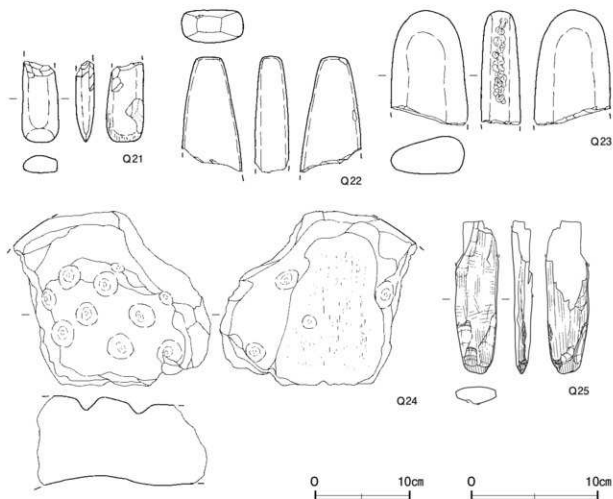
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片712点（深鉢701，浅鉢8，器台3），土製品1点（土器片円盤），石器8点（打製石斧1，磨製石斧3，磨石2，敲石1，砥石1），石製品1点（石剣），剥片3点（チャート，頁岩，泥岩）が出土している。62・Q 24は北部の床面から，60・61は北西壁際の覆土土層からそれぞれ出土している。いずれも破片の状態で，埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。



第22図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第23図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第22・23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
60	縄文土器	深鉢	-	(122)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	縁状の隆帯による文様区画 隆帯の交点に楕円状の突起 区画に沿って2本の沈線 隆帯上に平行線文、(直) 網目 網目(直)	覆土上層	二次焼成
61	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	把手の両側に凹文・交互斜突文・平行線・条線文 内側に穿孔	覆土上層	PL104
62	縄文土器	深鉢	-	(18.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底文に単線縄文RL(縦) 4本の波状沈線が一帯	床面	20% PL104
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	底縁に横 交互斜突文・音調れ隆帯により文様を区画 隆帯上にキザ目 区画内傾位の沈線で文様	覆土中	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上部は無文 交互斜突による彫行隆帯・音調れ隆帯による文様区画 隆帯の一部に短行隆帯 区画内縁の条線文	覆土中	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	断面三角形の隆帯で文様を区画 隆帯に沿ってキタピラツ文 区画内5本単位の楕円状工具による波状文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP-8	土器片断	4.1	4.1	1.0	(20.7)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	割れ片 周縁を研磨 一部欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q-21	磨製石斧	(6.4)	2.8	1.5	(44.4)	緑色岩	小型 片面に自然面 表面面研磨 刃部は表面から研ぎ出す基部欠損	覆土中	PL169
Q-22	磨製石斧	(9.2)	4.8	2.6	(186.3)	砂岩	定角式 側縁に横 刃部欠損	覆土中	
Q-23	磨石	(9.1)	6.1	3.1	(364.5)	砂岩	両面研磨 片側縁に敲行痕	覆土中	
Q-24	磨石	(18.2)	(20.5)	9.4	(600.6)	砂岩	表面に砥面 表面に凹み痕	床面	PL175 経熟
Q-25	石削	(12.1)	(3.4)	1.7	(78.1)	粘板岩	表面面・端部を研磨	覆土中	

第6号竪穴建物跡 (第24～27図 PL 4)

位置 調査区北西部のB 24区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

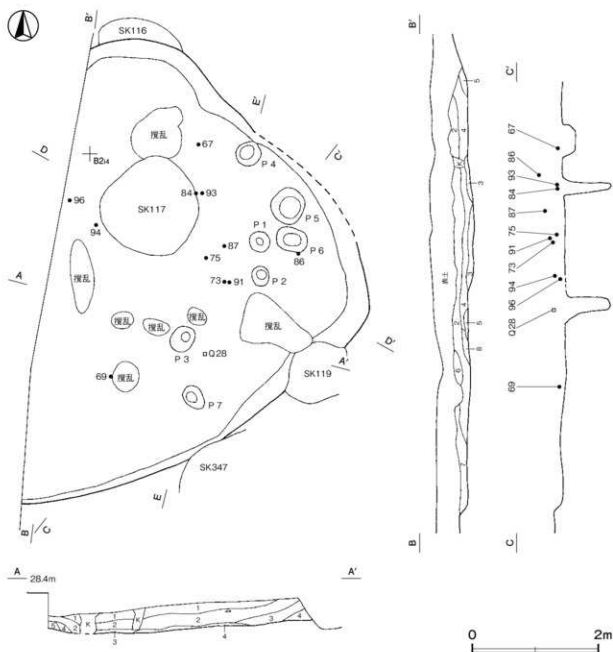
重複関係 第116号土坑を掘り込み、第117・119・347号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西半部が調査区域外へ延びているため、南北軸6.40mで、東西軸は6.00mしか確認できなかった。隅丸方形で、主軸方向はN-58°-Eと推定できる。壁は高さ18～30cmで緩やかに傾斜している。

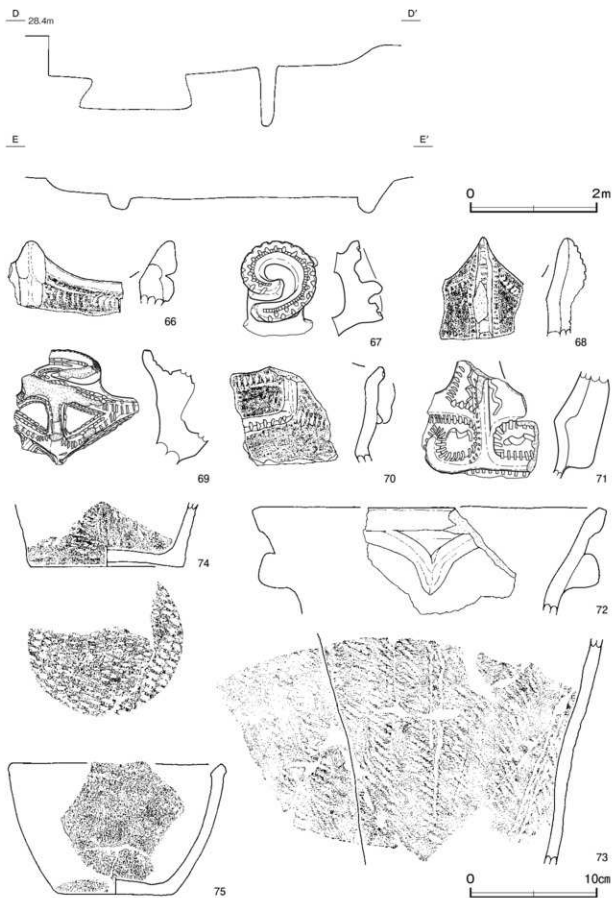
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 7か所。P1～P3は深さ70～90cmで、規模と配置から支柱穴である。P4～P7は深さ20～30cmで、性格は不明である。

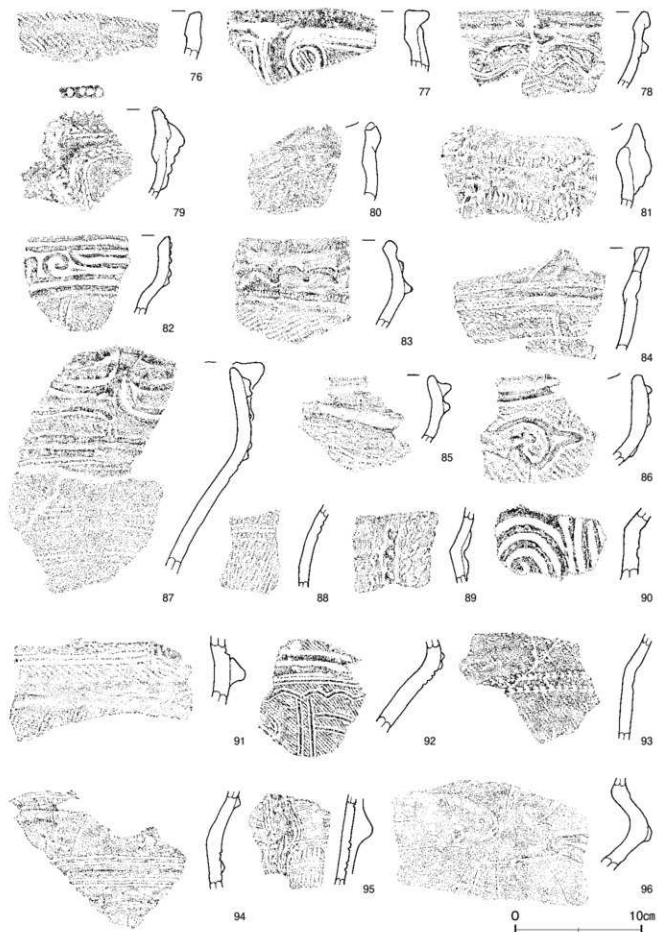
覆土 8層に分割できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。



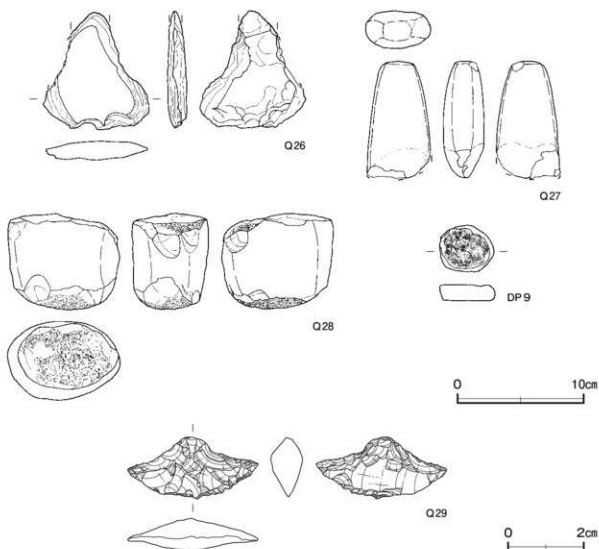
第24図 第6号竪穴建物跡実測図



第25图 第6号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第26图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第27図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片1,173点(深鉢1,148, 浅鉢24, 小型浅鉢1), 土製品1点(土器片円盤), 石器9点(打製石斧1, 磨製石斧1, 石皿2, 磨石1, 敲石1, 敲砥石1, 凹石1, 異形石器1), 剥片2点(石英, 泥岩)が出土している。69は南部, 96は西部, 67は北部, 75・84・93は中央部の覆土下層, 73・87・91は中央部, 86は東部, 94は西部, Q 28は南部の覆土上層からそれぞれ出土しており, 破片が散乱して出土していることから, 埋没する過程で投棄されたもの, あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表(第25～27図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
66	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	湾頭部に断面三角形の突起 口縁上部隆帯貼付 隆帯底系形文	覆土中	
67	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	把手部に「の」の字の隆帯貼付 隆帯外面にキザミ目中央部有面沈線が走る	覆土下層	PL104

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
68	縄文土器	深鉢	-	(80)	-	長石・石英・雲母、黒色粒子	にぶい褐	普通	把手頂部から前面三角形の隆帯を帯下させ隆帯にキザミ目・隆帯に沿って有筋沈線が隆帯下部に2本の有筋沈線・隆帯上にキザミ目・三角区画に沿って有筋沈線	覆土中	
69	縄文土器	深鉢	-	(91)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	隆帯による楕円状の突起 横位区画 隆帯上にキザミ目	覆土下層	PL104
70	縄文土器	深鉢	-	(77)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による楕円状の突起 横位区画 隆帯上にキザミ目	覆土中	
71	縄文土器	深鉢	-	(93)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	隆帯に沿ってキヤピラ文・ベン先状刺突・蛇行沈線	覆土中	PL104
72	縄文土器	深鉢	(270)	(85)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部幅広い隆帯によりV字状文貼付	覆土中	
73	縄文土器	深鉢	-	(179)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に無筋縄文L (縦)	覆土上層	20% PL104
74	縄文土器	深鉢	-	(51)	122	長石・石英	にぶい黄褐	普通	地文に無筋縄文L (縦) 底面に新代文	覆土中	10%
75	縄文土器	小型浅鉢	(166)	107	92	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁内面外さき 外面内さき 外・内面横方向の隆帯	覆土下層	30%
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁頂部内さき 口縁部単筋縄文 RL (横) 口縁直下帯部による横ナテ	覆土中	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁頂部平頂部 地文に単筋縄文 RL (横)	覆土中	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁頂部平頂部 口縁部隆帯 肥厚部に幅広い蛇行隆帯 隆帯上に0段多条縄文 RL (横)	覆土中	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯に沿って並行刺突文 把手頂部にキザミ目	覆土中	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	流頂部に刺突文 口縁部無文 口縁下単筋縄文 L R (横)	覆土中	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部前面三角形の突起貼付 突起区画内に爪形文	覆土中	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面外さき 隆帯部による区画文・渦巻文 別部単筋縄文 L R (斜)	覆土中	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、黒色粒子	明褐	普通	口縁部内さき 隆帯による横文・流状文 隆帯上にキザミ目 隆帯以下は無筋縄文 L (縦)	覆土中	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、黒色粒子	橙	普通	口縁部に突起 地文に無筋縄文 R (横) 口縁部単筋刺突文による	覆土下層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁直下から2条の隆帯により文飾縄文 流文に単筋縄文 L R (斜)	覆土中	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	地文に単筋縄文 RL (横) 隆帯による刺突文・渦巻文	覆土上層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁頂部に楕円状の突起 突起部から背側隆帯が一部 口縁部は背側隆帯によるクラク文	覆土上層	PL104 二次焼成
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	地文に0段多条縄文 RL (縦) 3本の並行線が通る	覆土中	内面窪付
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	断面三角形の隆帯貼付 隆帯上に圧痕 地文に無筋縄文 L (縦)	覆土中	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	太沈線による渦巻文・並行線文	覆土中	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	隆帯を横位に寄せ文様を区画 地文に単筋縄文 RL (縦) 沈線による流状文・並行線文	覆土上層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に無筋縄文 L (縦) 断面部に幅広い背側隆帯を沿って並行沈線による平行線・流状文	覆土中	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	地文に無筋縄文 L (縦) 2条の爪形文が高る	覆土下層	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	横位の断面三角形の隆帯に沿って並行線文	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	横位の隆帯に沿って並行有筋沈線 横位の有筋沈線・爪形文	覆土中	
96	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	文字状に隆帯貼付 外・内面磨き	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 9	土師内瑠	3.7	4.4	1.3	25.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	割部片 周縁部研削	覆土中	

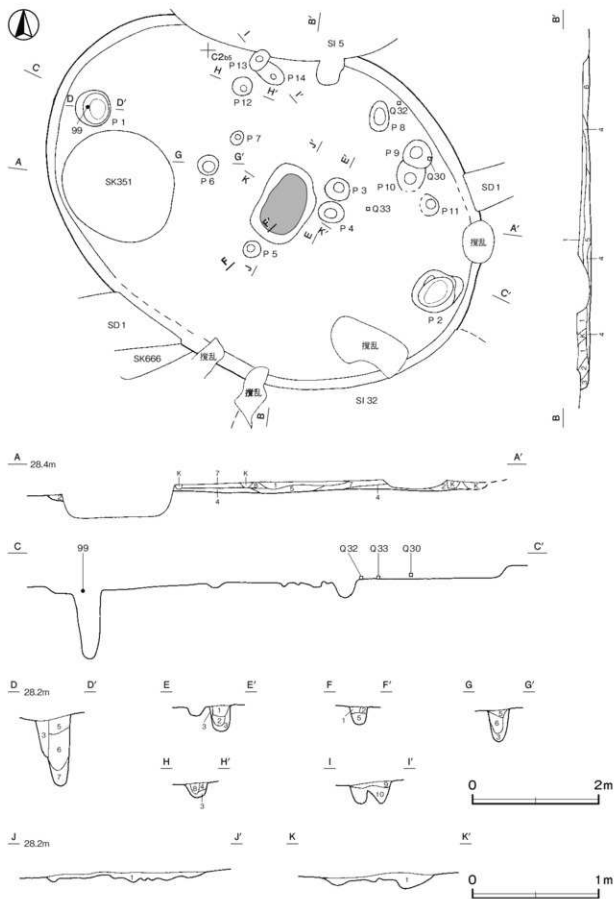
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 26	打製石斧	(9.3)	8.3	1.5	(1169)	ホルンフェルス	分銅形 挟り部片面を鋭打 刃部は表裏を鋭打 片刃欠欠損	覆土中	PL162
Q 27	磨製石斧	(9.3)	5.1	3.2	(235.2)	安山岩	定角式 全面研削 側縁部に鋭い縁 刃部欠損後再刃	覆土中	PL166
Q 28	磨製石	7.6	8.9	6.1	67.7	凝灰岩	円錐の側縁部を鋭打・多方向からの砥面をもつ 稜をもたない	覆土上層	PL171 磨石の両利
Q 29	磨製石	1.6	3.5	0.9	3.2	頁岩	横長の小型の石匙状 全体にいろいろな押圧痕跡	覆土中	PL160

第7号竪穴建物跡 (第28・29図)

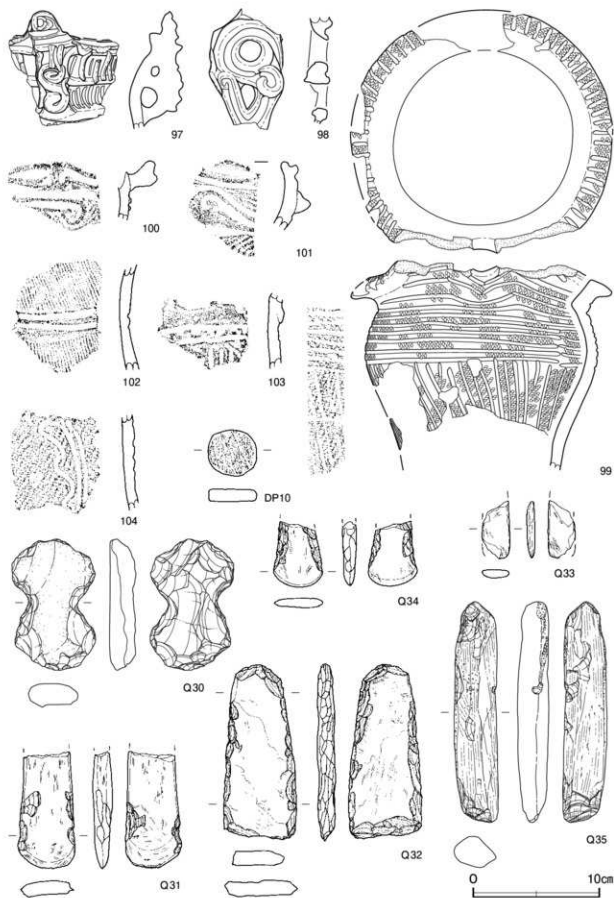
位置 調査区西北部寄りのC 2b5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第32号竪穴建物跡、第642・645・666～670号土坑を掘り込み、第5号竪穴建物、第351号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径7.42m、短径5.35mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。壁は高さ20cmで、緩やかに傾斜している。



第 28 图 第 7 号竖穴建物跡実測図



第29图 第7号竖穴建物跡出土遺物実測図

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径 130cm、短径 80cmの楕円形で、床面を 20cmほど掘りくぼめた地床炉である。石皿 1点が北東部から、自然礫 1点が東部からそれぞれ出土しており、いずれも炉石として使用されたものである。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 14か所。P1・P2は深さ 110cm・50cmで、規模と配置から主柱穴である。P3～P7は、深さ 30～50cmで補助柱穴と考えられる。P8～P14は深さ 20～50cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量 |

覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 263点（深鉢 253、浅鉢 10）、土製品 1点（土器片円盤）、石器 10点（打製石斧 3、磨製石斧 2、石皿 2、磨石 2、炉石 1）、石製品 1点（石剣）、剥片 3点（チャート 1、瑪瑙 2）、自然礫 1点が出土している。99はP1の覆土上層から、Q30・Q32・Q33は東部の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。97・98・100～104、DP10、Q31・Q34・Q35は、いずれも覆土中から散乱して出土しており、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、中期中葉と考えられる。

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第29回）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
97	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤褐色	普通	隆帯胎付によるS字文 2列の方形区画内沈線による文様模様	覆土中	PL106
98	縄文土器	深鉢	-	(9.6)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤褐色	普通	中空把手 太沈線による円文・葉手文	覆土中	PL106
99	縄文土器	深鉢	178	(16.6)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤褐色	普通	口唇部平断面 沈線及び車輪縄文区、(ランダム) 頸部(縦) 頸部の沈線文、P1 覆土上層	70% 覆土上層	70% PL106
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	赤褐色	普通	把手中央から裏手の沈線 車輪縄文区、(縦) 縦帯胎付による文様	覆土中	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤褐色	普通	口唇部に沈線 隆帯胎付による上向きの高文文区 段多委縄文区、(斜・縦)	覆土中	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	熱赤文 2本の横位の太沈線 沈線間磨消	覆土中	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	灰黄褐色	普通	幅広の隆帯下に並行沈線 交互斜交文 車輪縄文LR、(縦) 3本の熱赤文	覆土中	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤褐色	普通	車輪縄文区、(縦) 沈線による蛇行線・並行線による熱赤文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP10	土器片	3.7	3.8	1.0	165	長石・石英・雲母	明赤褐色	周縁部磨消	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q30	打製石斧	104	6.7	2.1	1820	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 挟り部、刃部は表裏を磨削	床面	PL162	
Q31	打製石斧	(9.3)	4.6	1.6	(84.7)	石英片岩	磨削・磨削部研削 使用前後 基部欠損	刃部は表裏を磨削 ハマグリ刀 先端部に	覆土中	PL163
Q32	打製石斧	140	5.9	1.4	1672	粘板岩	磨削 表裏面研削	両側面微細な磨削調整	床面	PL163

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 33	磨製石斧	(4.6)	2.2	6.3	(8.0)	砂岩	穂小型 全面研磨 両側縁に稜 刃部は表裏から研ぎ出す 一部欠損	床面	
Q 34	磨製石斧	(5.1)	3.9	1.0	(30.4)	緑色岩	小型 表裏面研磨 両側縁に打痕 刃部は表裏から研ぎ出す 基部欠損	覆土中	
Q 35	石剣	17.5	3.5	2.5	219.9	角閃岩	自然面残存 両側縁に微細な敲打痕 基部・端部に研磨痕	覆土中	

第8号竪穴建物跡 (第30・31図 PL 5)

位置 調査区西部のC 2c4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第32号竪穴建物・第666号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.85m、短軸3.13mの隅丸長方形で、長軸方向はN-51°-Wである。壁は高さ32～46cmで、緩やかに傾斜している。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 3か所。P 1は深さ45cm、P 2は深さ35cm、P 3は深さ15cmである。P 1・P 2は主柱穴、P 3は補助柱穴と考えられる。

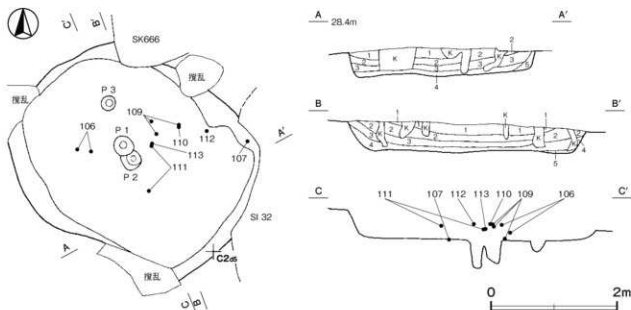
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

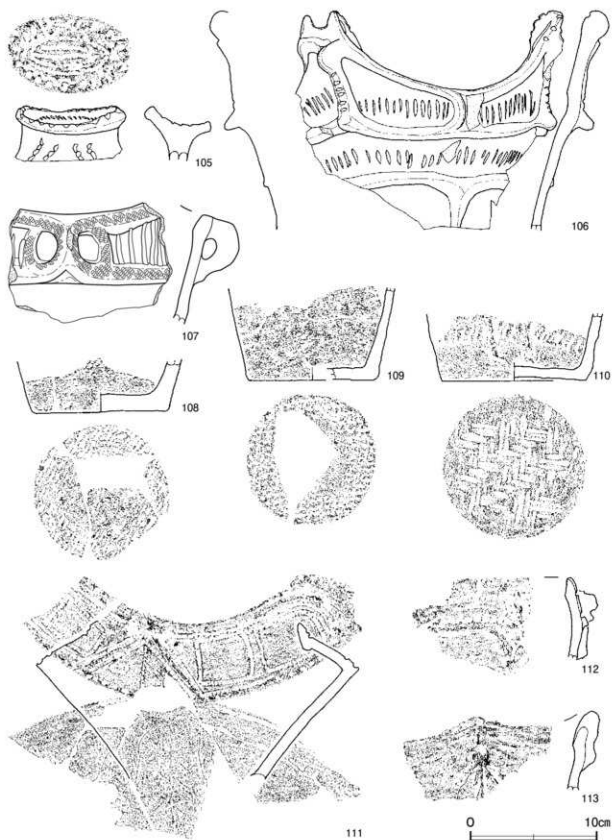
- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片368点(深鉢361, 鉢1, 浅鉢6), 石器1点(磨石)が出土している。109は中央部の覆土下層と上層から出土した破片が接合している。107は東壁際の覆土下層, 106は西部, 110・111・113は中央部, 112は東部の覆土上層から散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻す過程で、投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第30図 第8号竪穴建物跡実測図



第31图 第8号竖穴建物跡出土遺物実測図

第8号竪穴建物跡出土遺物観察表(第31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
105	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	把手部横内側の底部内帯 頸部に縦突 横内に沿って有銘文跡 外面に字本の?の字状の有銘文跡	覆土中	
106	縄文土器	深鉢	[306]	(17.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黄色粒子・礫	灰褐	普通	波瀾部; 縞み状の帯柄 断面三角形の陰帯による区画文 区画内及び波瀾部広の乱彩文 胴部は断面三角形の陰帯による文様展開 胎土に施文	覆土上層	2% PL106
107	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	把手部縦帯の化粧 陰帯上に単線縄文 RL (横) 断面横方向のナゲ	覆土下層	PL106
108	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	10.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胎土に単線縄文 RL (縦) 横方向のナゲ 底面に施文	覆土中	
109	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	10.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部下端無文 横方向のナゲ 底面に副代痕	覆土上・下層	10%
110	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	11.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	断面三角形の陰帯が底下 横帯の乱彩文が一帯 底面に副代痕	覆土上層	10%
111	縄文土器	鉢	[160]	(12.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	縦帯に内縞させた口唇部; 細陰帯及び有銘文跡による区画文 胴部は横方向の帯	覆土上層	25% PL106
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	断面三角形の陰帯による区画文 陰帯に沿って有銘文跡	覆土上層	
113	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	波瀾部に縞み状の陰帯幅付 外・内面横方向のナゲ	覆土上層	

第9号竪穴建物跡(第32～39図 PL 5)

位置 調査区西部中央のC 2 d6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第32・36号竪穴建物跡、第643・662・663・676・682・690・697・712・717・723号土坑を掘り込み、第33号竪穴建物、第685・689号土坑に掘り込まれている。第674号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 西部が複数の遺構と重複しているが、壁の残存状況やピットの配置から、東西軸780m、南北軸6.35mの隅丸長方形で、長軸方向はN-90°と推定できる。壁は高さ8～12cmで、緩やかに傾斜している。

床 全体的に平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長軸95cm、短軸80cmの長方形の石囲い炉である。20個の緑石で構築されており、北辺中央部には緑石の抜き取り痕が確認できた。緑石には石皿や砥石が転用されている。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。また、西辺の石組みの下部から、古い段階の炉床部の一部が確認でき、地床炉から石囲い炉へ作り替えが確認できた。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 にふい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 にふい赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

ピット 25か所。P1～P5は深さは70～100cmで、規模と配置から主柱穴である。P6～P9は、深さ65cm前後で、補助柱穴と考えられる。P10～P25は深さ10～44cmで、性格は不明である。

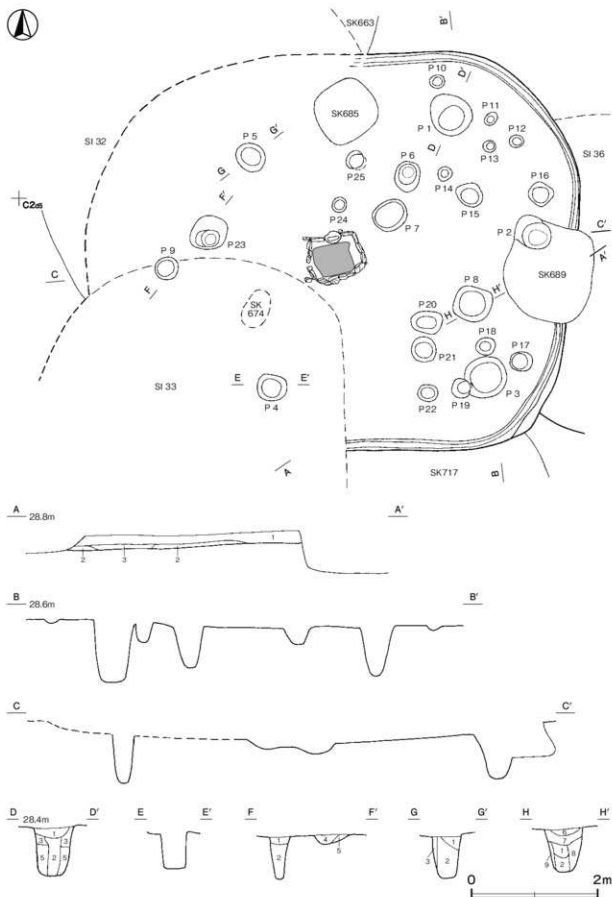
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

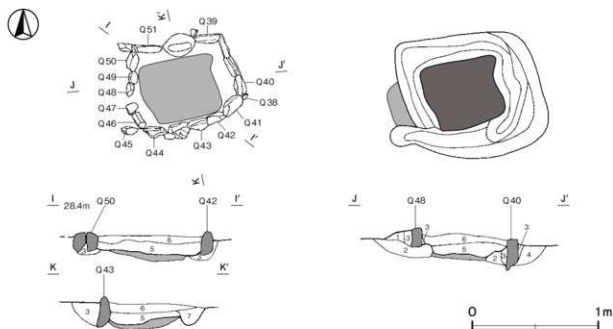
覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |



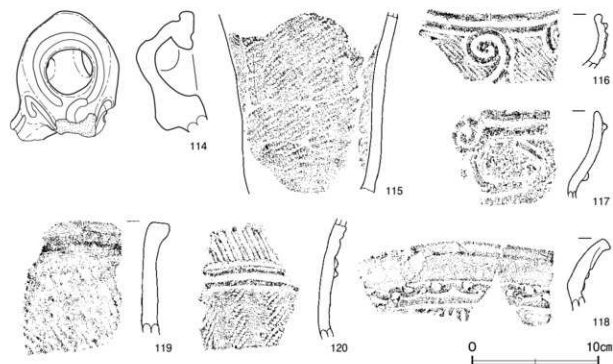
第32图 第9号竖穴建物跡実測图(1)



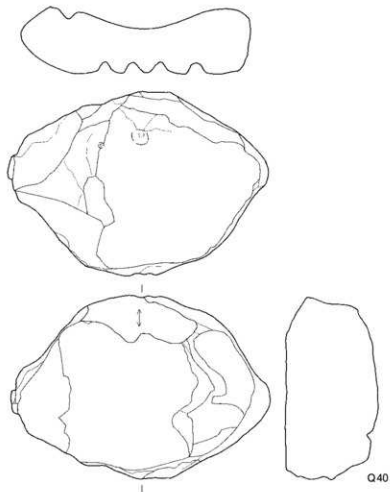
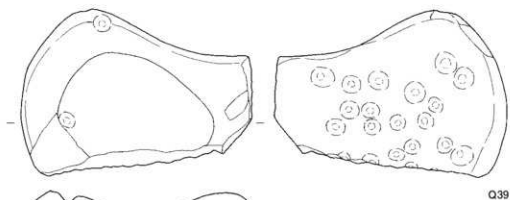
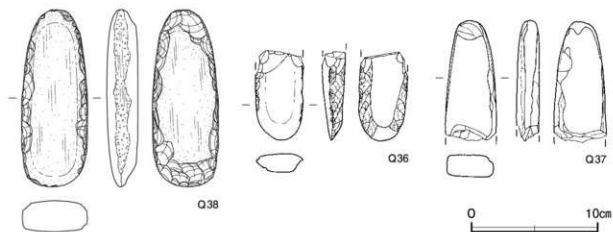
第33図 第9号竪穴建物跡実測図(2)

遺物出土状況 縄文土器片333点(深鉢327, 浅鉢6), 石器27点(打製石斧2, 磨製石斧1, 磨石1, 凹石1, 炬石22), 剥片3点(瑪瑙, チャート, 石英)が出土している。Q 36・Q 37はP 8の覆土中から出土している。Q 38～Q 51は石囲い炬の炬石で, 磨製石斧未成品・石皿・砥石・台石が転用されている。土器片は, 覆土中から散乱した状態で出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

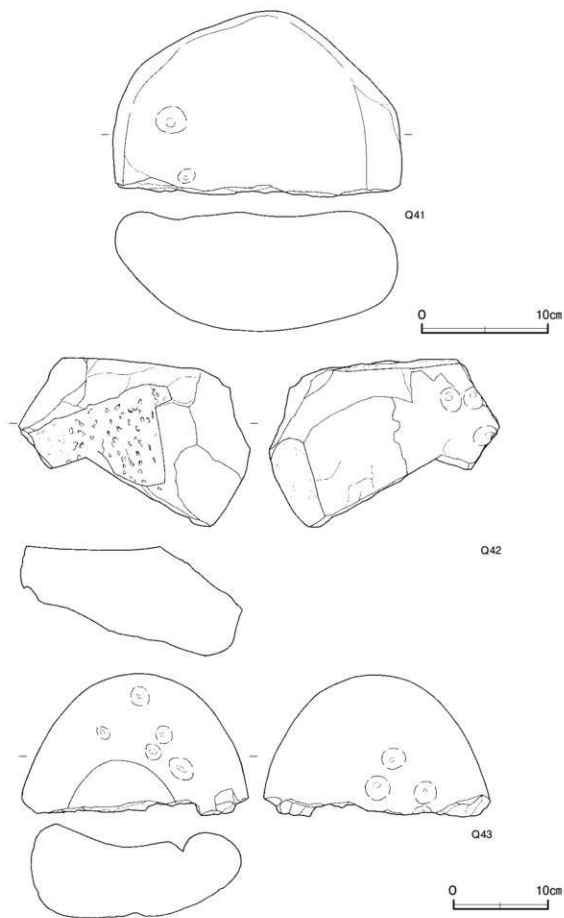
所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



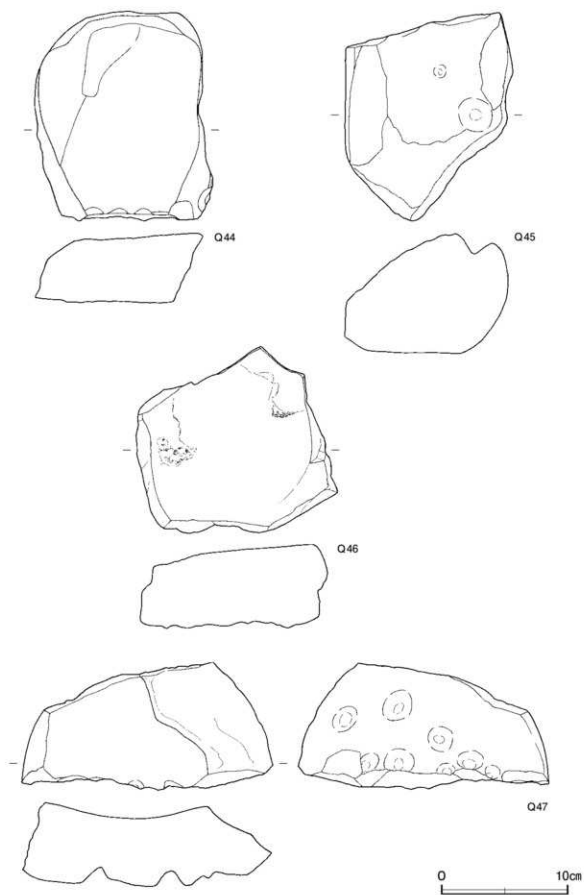
第34図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



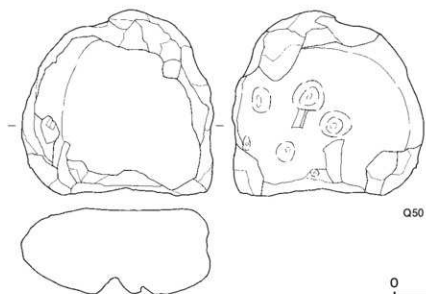
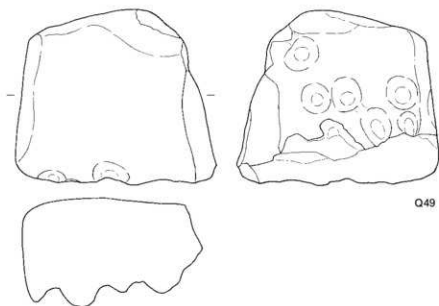
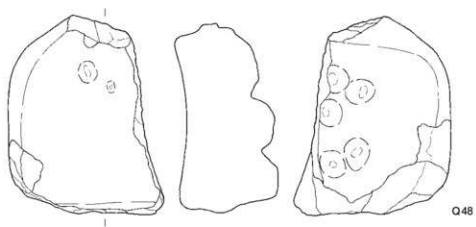
第35图 第9号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



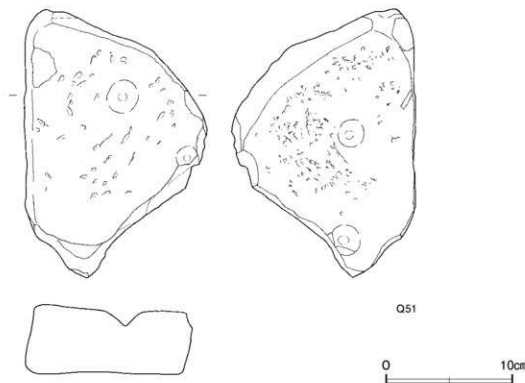
第 36 图 第 9 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第37图 第9号竖穴建物跡出土遺物実測图(4)



第38图 第9号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)



第39図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(6)

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表(第34～39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
114	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・赤色粒土	にぶい橙	良好	把手に沿って太沈線で円文・虎手文	覆土中	PL106
115	縄文土器	深鉢	-	(14.7)	-	長石・石英・磁器	にぶい赤黄	普通	施文にO段多糸縄文LR(横)	覆土中	30% 表面保存着
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗	普通	口唇頂部に沈線 O段多糸縄文RL(横) 隆帯により高麗文・逆差文を施す	覆土中	PL106
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	隆帯により高麗文・区画文 単筋LR縄文(横)	覆土中	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部上部は無文 交互刻突文 沈線で支線線画	覆土中	PL106
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗	普通	口唇頂部に平凹面 無筋縄文L(縦)	覆土中	
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐	普通	背割れ隆帯で区画 斜位の沈線 単筋縄文RL(縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	打製石斧	(7.1)	3.8	1.9	(76.5)	角閃岩	小型 表面研磨 両側縁敲打調整 刃部は表面を研磨 ハマクリ另 基部欠損	P 8覆土中	PL166
Q37	磨製石斧	(9.5)	4.1	1.7	(124.6)	角閃岩	短身形 全面研磨 両側縁に深い横 片面に凹状の研磨痕 刃部欠損	P 8覆土中	PL168
Q38	礮石	14.1	5.3	2.5	301.2	砂岩	磨製石斧未成品転用 両縁部に微細な敲打調整	礮	PL170
Q39	礮石	17.5	24.7	8.4	4130.0	砂岩	石籠転用 片面皿状 研磨痕 両面に凹み痕	礮	PL176
Q40	礮石	19.5	27.5	10.4	6750.0	砂岩	石籠転用 端部に研磨痕 片面に凹み痕	礮	PL176
Q41	礮石	14.7	22.8	9.7	4450.0	石英珪岩	砥石転用 片面皿状 研磨痕 縁部部に凹み痕	礮	PL176
Q42	礮石	17.8	24.3	11.8	4840.0	花崗岩	砥石転用 片面皿状 研磨痕 微細な敲打痕 片面に凹み痕	礮	PL176
Q43	礮石	15.0	23.9	10.7	3400.0	安山岩	石籠転用 片面皿状 研磨痕 両面に凹み痕	礮	PL176
Q44	礮石	16.5	14.1	5.6	2265.8	雲母片岩	石籠転用 片面に平坦な研磨面	礮	
Q45	礮石	16.6	13.3	10.0	2471.6	砂岩	石籠転用 片面に深い凹みと浅い凹み痕	礮	PL176
Q46	礮石	14.8	15.9	7.2	2174.3	砂岩	砥石転用 片面研磨痕	礮	PL176
Q47	礮石	10.1	19.9	6.5	1476.0	砂岩	石籠転用 片面皿状 研磨痕 片面に凹み痕	礮	PL177
Q48	礮石	16.0	12.4	7.9	2013.7	花崗岩	砥石転用 片面皿状 研磨痕 両面に凹み痕	礮	PL177
Q49	礮石	14.0	16.1	8.9	2475.9	石英珪岩	砥石転用 片面研磨 両面に凹み痕	礮	PL177
Q50	礮石	14.6	15.3	6.7	2154.3	花崗岩	砥石転用 片面皿状 研磨痕 片面に凹み痕	礮	PL177
Q51	礮石	21.4	14.6	6.3	2656.2	砂岩	石籠転用 全面研磨 両面に敲打痕・凹み痕	礮	PL177

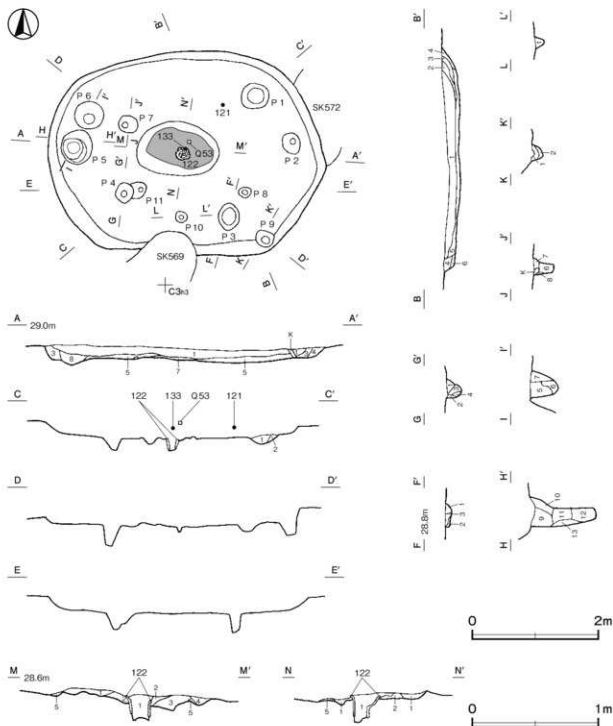
第11号竪穴建物跡 (第40～42図 PL5・6)

位置 調査区中央部西寄りのC3g3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第572号土坑を掘り込み、第569号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.44m、短径3.25mの楕円形で、長径方向はN-85°-Wである。壁は高さ7～20cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。



第40図 第11号竪穴建物跡実測図

炉 中央部に付設されている。長径130cm、短径90cmの楕円形の土器埋設炉で、中央部に口縁部及び胴部下半を欠いた122が設置されている。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック少量 | |

ピット 11か所。P1～P6は、P5が深さ110cmと深く、それ以外は深さ5～40cmである。配置から支柱穴である。P7～P11は補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 におい黄褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 4 褐色 ロームブロック微量 | 11 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量 | 12 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 におい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック少量 | |

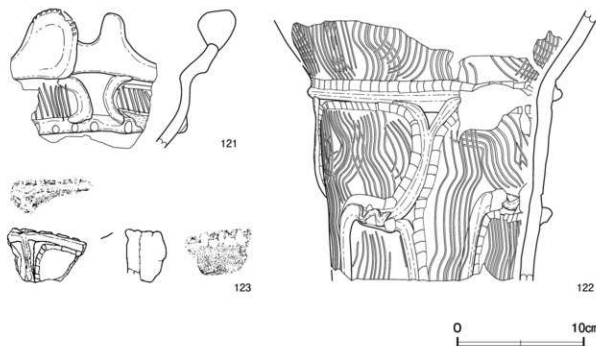
覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

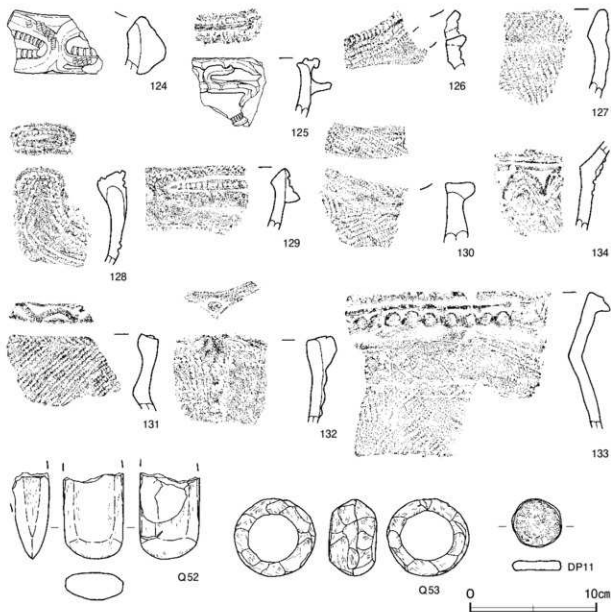
- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | 6 におい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片310点（深鉢309、浅鉢1）、土製品1点（土器片円盤）、石器4点（打製石斧1、磨製石斧2、敲砥石1）、石核7点（瑪瑙3、石英4）、剥片3点（瑪瑙2、石英1）が出土している。122は土器埋設炉の炉体土器である。121は北東部、133、Q53は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、土器埋設炉に使用されていた土器から、中期中葉と考えられる。



第41図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第42図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第41・42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
121	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐色	普通	隆帯による区画 区画内沈線を充填	覆土上層	PL106
122	縄文土器	深鉢	-	(21.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	縦線による区画 隆帯による区画文 隆帯に沿ってキマセツタ文	如	60% PL106
123	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇直部に平直面 外・内面に有筋沈線・刺突文 積み状の隆帯貼付	覆土中	
124	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	隆帯によるX字状文 隆帯上に単筋縄文RL(横) 区画内垂直筋状文	覆土中	
125	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口唇直部に平直面 2本の有筋沈線 口縁部断 周三角形の隆帯貼付	覆土中	
126	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁に沿ってキマシ目・有筋沈線 中央部に穿孔	覆土中	
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部単筋縄文L状(横) 胴部(縦) 口縁直下には指跡による細点の沈線	覆土中	
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	把手部直及び外面に有筋沈線	覆土中	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯による横凹区画 隆帯上に単筋縄文RL(横)	覆土中	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐色	普通	口唇直部に平直面 単筋縄文RL(横) 胴部(縦)・横	覆土中	
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇直部に平直面 縦行隆帯を貼付 口唇部単筋縄文RL(横) 胴部(縦)	覆土中	

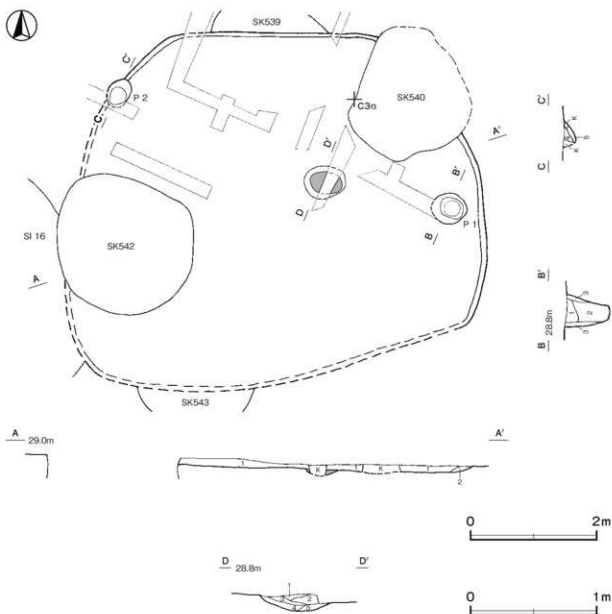
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	発成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 にふいね	普通	普通	縦位の隆帯・肩付 隆帯上にキザミ目 有筋沈線 による区画文	覆土中	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	暗褐色	普通	口首頂部に隆帯・上縁部刺突隆帯が一部 平筋縄文L(ワンダム) 一部羽状構成	覆土上層	PL106
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にふいね	普通	無筋縄文L(編) 隆帯による横線文・波状文 隆帯に沿って有筋沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP11	土器(片蓋)	3.8	3.9	8.5	146	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	橙	銅部片 周縁部磨蝕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 32	磨製石斧 (69)	4.7	(2.9)	(2.9)	(127.0)	砂岩	定角式 横縁に深い稜 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す ハマダリ刃	覆土中	
Q 53	凝灰石	6.1	6.5	3.8	2220	チャート	円縁の周縁部に多方向からの紙面により稜をもつ	覆土上層	PL171

第 12 号 竪穴建物跡 (第 43・44 図)

位置 調査区中央部西寄りの C 3 f2 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。



第 43 図 第 12 号 竪穴建物跡実測図

重複関係 第16号竪穴建物跡, 第539・541・543・587号土坑を掘り込み, 第540・542号土坑に掘り込まれている。
規模と形状 耕作により擾乱を受けているが, 壁の残存状況や炉跡, ビットの配置から, 東西径6.90m, 南北径5.80mの楕円形で, 長径方向はN-82°-Eと推定できる。壁は高さ10cmで, 緩やかに傾斜している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径70cm, 短径50cmの楕円形で, 床面を深さ10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | | |

ビット 2か所。P1は深さ70cm, P2は深さ20cmで, 性格は不明である。

ビット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

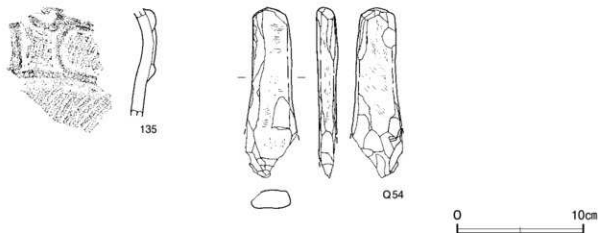
覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため明確でないが, 含有物が少ないことから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ローム粒子微量 |
|-------|-----------|-------|---------|

遺物出土状況 縄文土器片210点(深鉢202, 浅鉢8), 石器2点(打製石斧, 敲石), 石核1点(瑪瑙), 剥片2点(黒曜石, 瑪瑙)が出土している。135, Q54は, いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第44図 第12号竪穴建物跡出土遺物実測図

第12号竪穴建物跡出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	におい陶	普通	陸帯による区画文(区画内及び胴部は丁段多量縄文瓦, 面)	覆土中	PL106	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q54	打製石斧	(135)	4.1	1.7	(1122)	粘板岩	撮影 遺物	刃部欠損	両側縁微細な敲打調整	尖裏面・側縁部に研	覆土中	PL163

第13号竪穴建物跡 (第45～47図 PL 6)

位置 調査区中央部西寄りのC 2g0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16・25号竪穴建物跡、第582・583・604号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径4.13m、短径3.45mの楕円形で、長径方向はN-75°-Wである。壁は高さ4～18cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

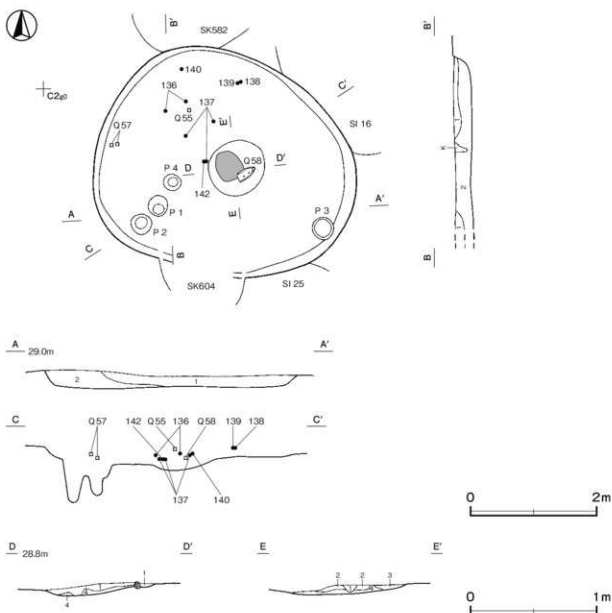
炉 中央部に付設されている。長径96cm、短径84cmの楕円形で、床面を深さ10cmほど掘りくぼめた地床炉である。東部から石棒(Q 58)1点と自然礫1点が出土しており、炉石として使用されたものと考えられる。

炉床は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量



第45図 第13号竪穴建物跡実測図

ピット 4か所。P 1は深さ50cm、P 2は深さ70cmと深く主柱穴、P 3・P 4はいずれも深さ20cm程度と浅く、補助柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。ローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

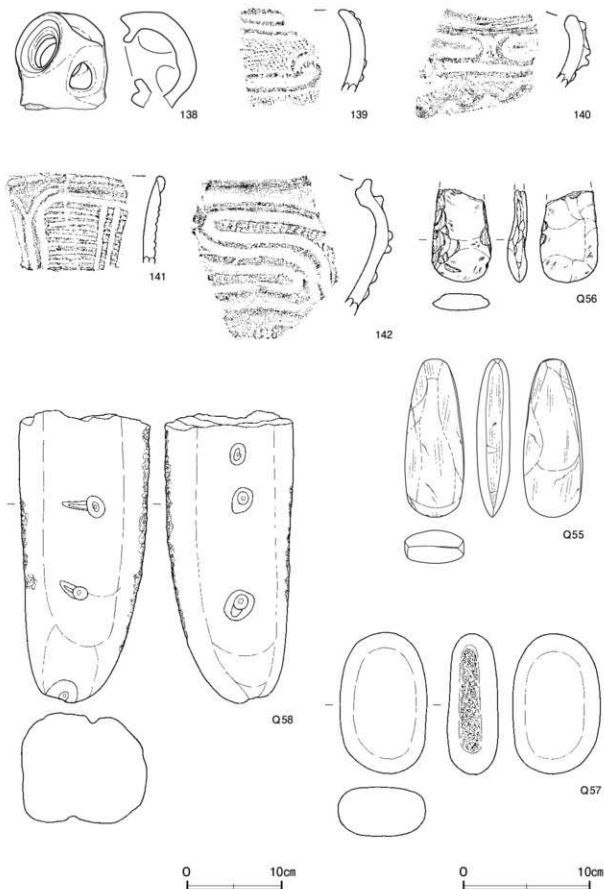
2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片66点（深鉢65、浅鉢1）、石器8点（磨製石斧3、磨製石斧未成品1、敲石1、炉石3）が出土している。Q 58は炉床面の東部から出土している。石棒の再利用と考えられる。136～140・142、Q 55・Q 57は北西部から中央部にかけてのまとまった範囲から出土していることから、埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第46図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第47图 第13号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 46・47 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
136	縄文土器	深鉢	(25.4)	(30.8)	-	長石・石英・雲母・赤色砂子・針状炭素物	にぶい黄褐色	普通	口唇直下に浅い沈線、隆帯による渦巻文・クラック文・頸部は平帯で区画、口縁部少量縄文瓦紋。(横) 頸部 (縦)	覆土中層	25% PL106
137	縄文土器	深鉢	-	(24.6)	10.9	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい褐色	良好	単線縄文 L 形 (縦) 沈線による螺旋文 胴部下縁部方向の巻き	覆土中層	60% PL106
138	縄文土器	深鉢	-	(17.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	4か所の中空把手 穿孔に沿って太沈線	覆土上層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯による渦巻文・並行線文 縄文施文	覆土上層	二次焼成が著しい
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	背側隆帯により文様区画 隆帯による横円区画の存在	覆土上層	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい褐色	普通	口唇直下に沈線による方形区画 口唇部巻き区画内横位の並行沈線	覆土中	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口唇直下に沈線 単線縄文 RL (斜) 背側隆帯によるクラック文	覆土中層	PL106

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 55	磨製石斧	12.6	4.7	2.6	268.2	角閃岩	定角式 全面研磨 両縁部に鋭い稜 ハマグリ刃	覆土上層	PL166
Q 56	磨製石斧	(7.3)	4.6	1.5	64.6	緑色岩	短首型 表面面研磨 両縁部微細な敲打痕 刃部は表裏から研ぎ出す 基部欠損	覆土中	
Q 57	磨製石斧(完成品)	11.3	7.0	4.0	485.6	砂岩	両面研磨 両縁部に微細な敲打痕	覆土中層	PL170
Q 58	炉石	31.3	13.7	11.7	736.0	花崗岩	石軸転用 両縁部に微細な敲打痕 両面に凹み痕	炉	PL175

第 14 号竪穴建物跡 (第 48～58 図 PL 7・100)

位置 調査区中央部の C 316 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 556～558 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 二段掘り込みをもつ有段式竪穴建物跡である。隅丸方形で、主軸方向は N-48°-W である。上段は長軸 7.60m、短軸 7.10m である。壁は高さ 10cm 前後である。下段は長軸 4.80m、短軸 3.90m で、上段との高低差は 20cm 前後である。壁は、いずれも緩やかに傾斜している。

床 上段、下段ともにほぼ平坦であり、硬化面は確認できなかった。上段の壁下には部分的に壁溝が巡っている。西部には壁溝と下段との間に並行する浅い溝が存在しており、古い段階の壁溝の可能性がある。

ピット 22か所。下段に伴うピットは 6か所である。P 1～P 4 は深さ 80～135cm で、配置から主柱穴である。P 5・P 6 は、ともに深さ 35cm で、補助柱穴と考えられる。上段に伴うピットは 16か所である。P 7～P 22 は、深さ 12～40cm で、性格は不明である。

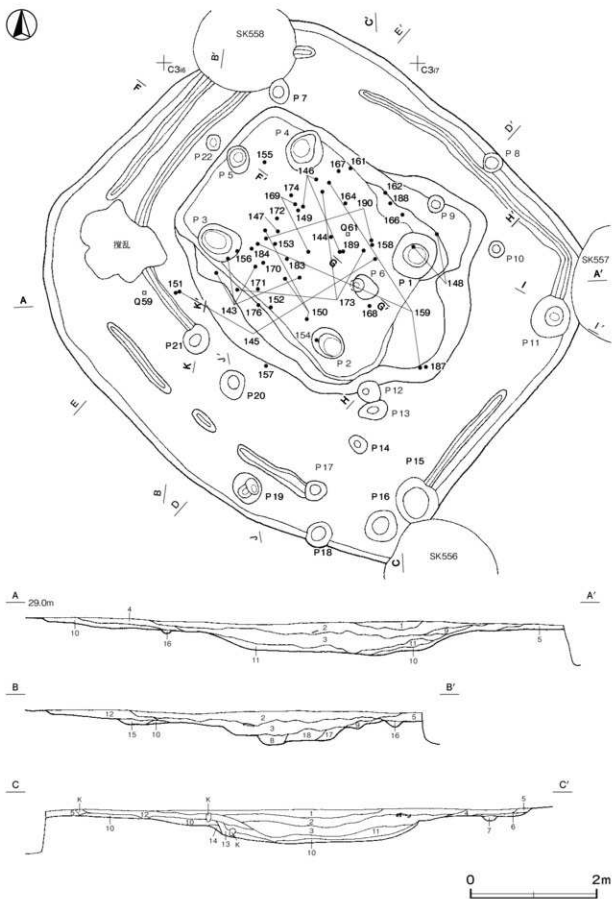
ピット土層解説

1 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック多量
6 褐色	ローム粒子中量	14 暗褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	15 褐色	ローム粒子多量
8 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック少量

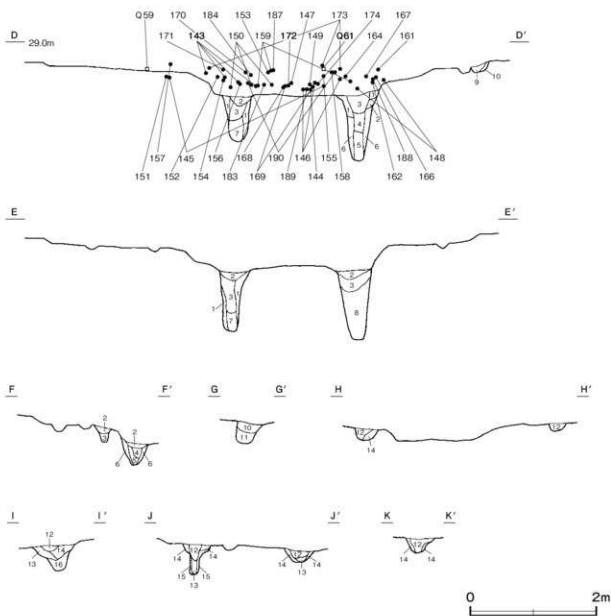
覆土 18 層に分解できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子多量、ロームブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	18 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量



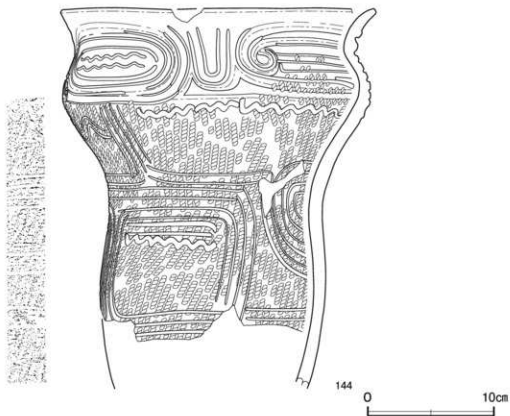
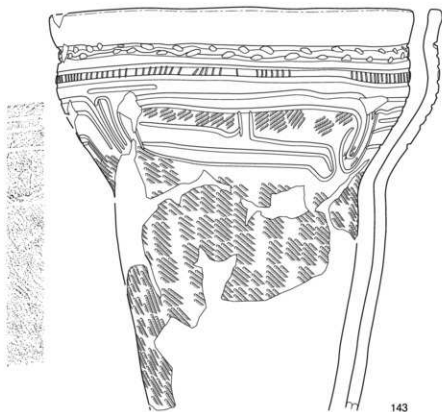
第48图 第14号聚穴建物跡実測图(1)



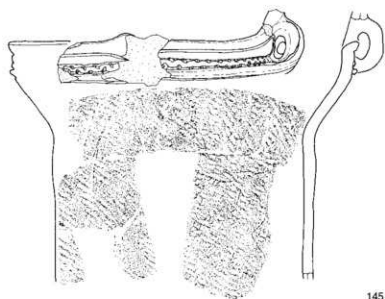
第49図 第14号堅穴建物跡実測図(2)

遺物出土状況 縄文土器片 2,240点(深鉢 2,232, 浅鉢 7, 有孔銅付土器 1), 土製品 1点(土器片錘), 石器 14点(鎌 1, 打製石斧 1, 磨製石斧 3, 磨製石斧未完成品 1, 石皿 1, 磨石 5, 敲石 1, 砥石 1), 石核 2点(石英), 剥片 6点(瑪瑙 1, チャート 3, 石英 1, 安山岩 1), 母岩 2点(瑪瑙・石英), 自然礫 2点が, 主に中央部の覆土中層(第3層)からまともに出土している。143～159は残存率の高い大型破片であるが, いずれも底部などが欠損しており, 破砕された状態で出土している。ある程度埋め戻された凹地状の部分に一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。上段西部の床面には, 古い段階の壁溝と考えられる浅い溝が確認でき, 西・南側へ拡幅された可能性を示している。



第50图 第14号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



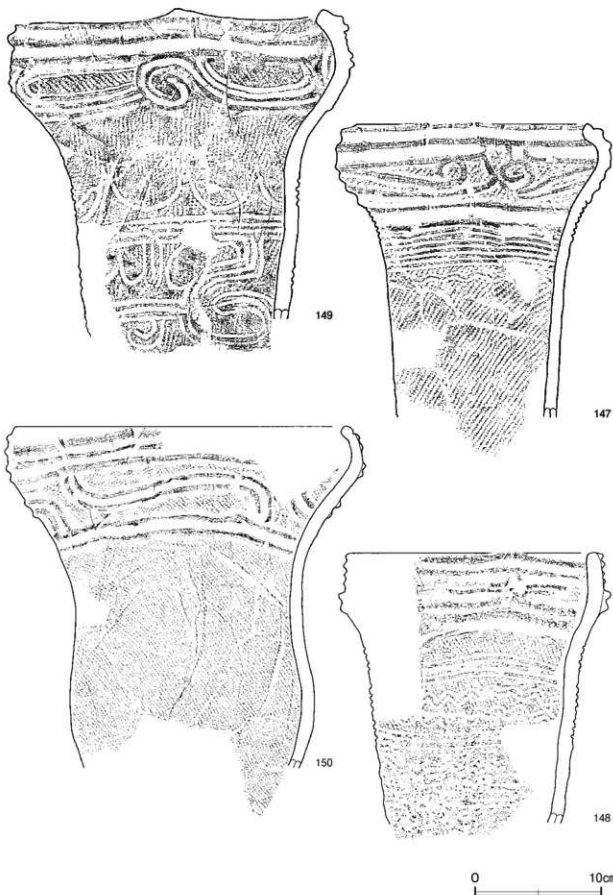
145



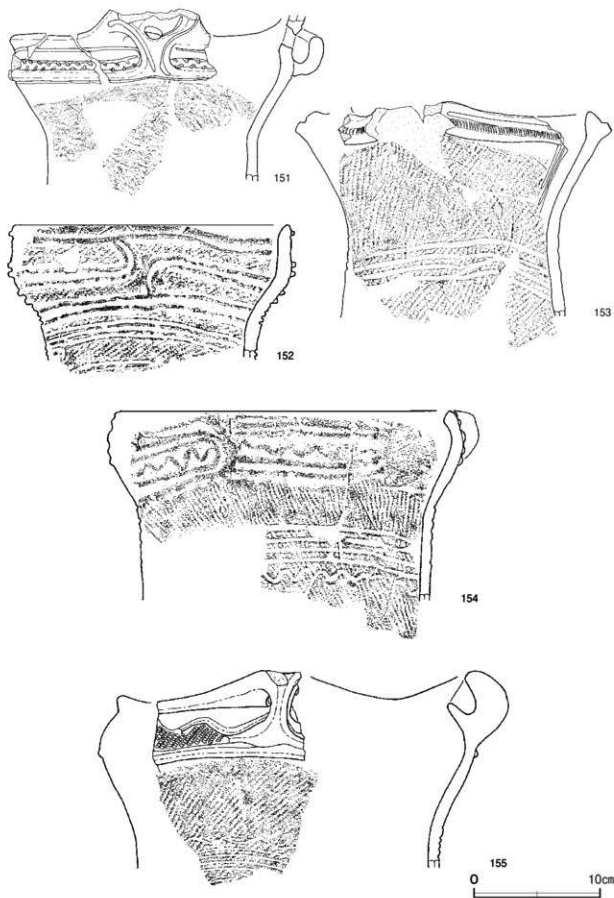
146



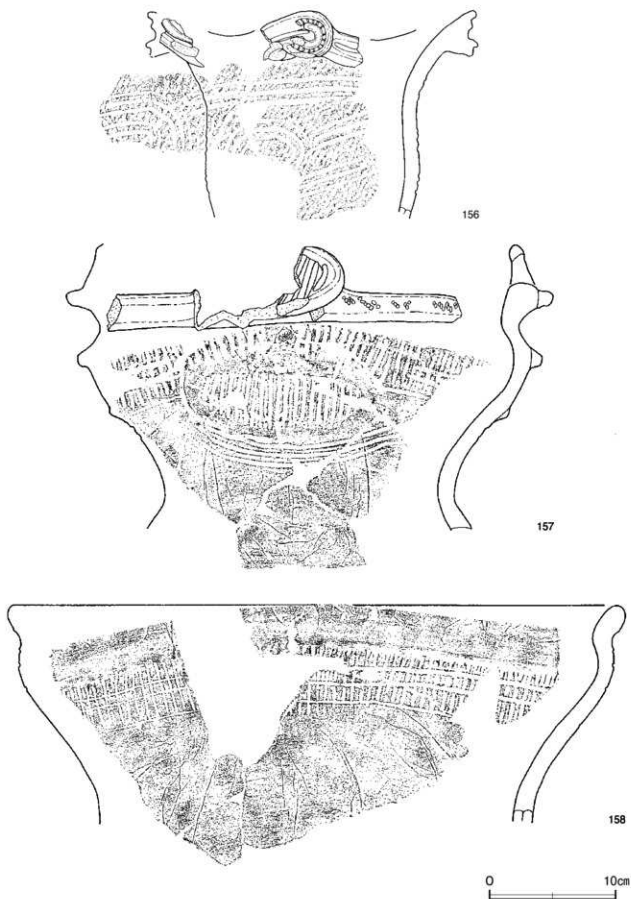
第 51 图 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



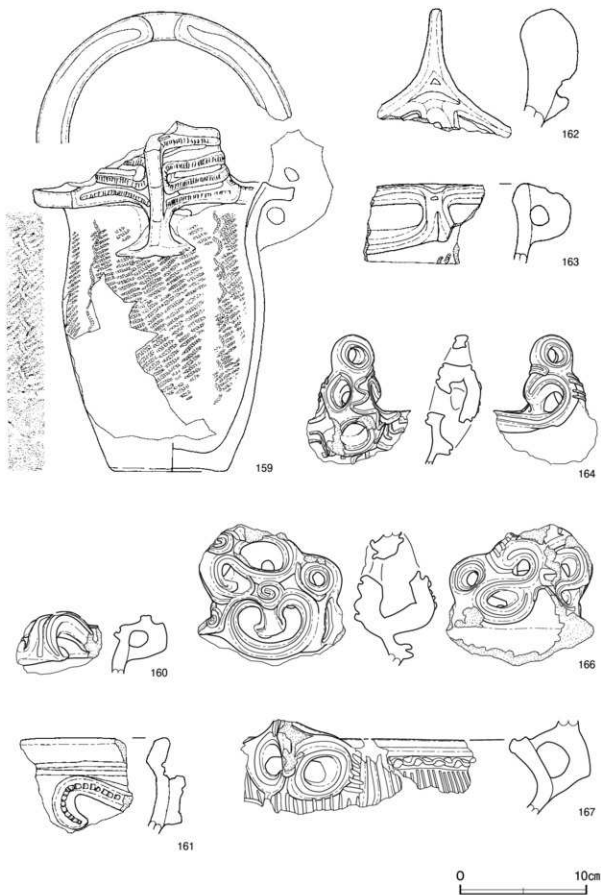
第 52 图 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



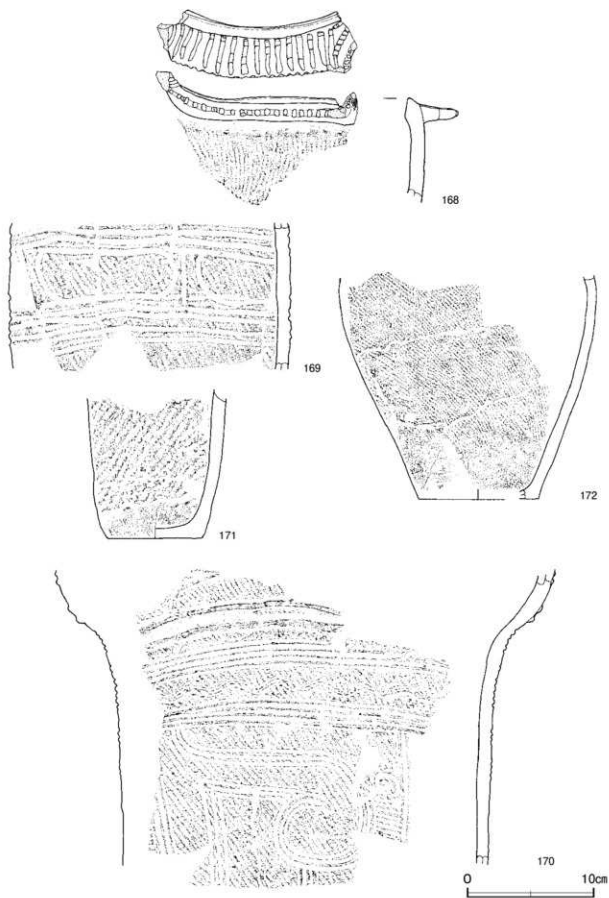
第 53 图 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)



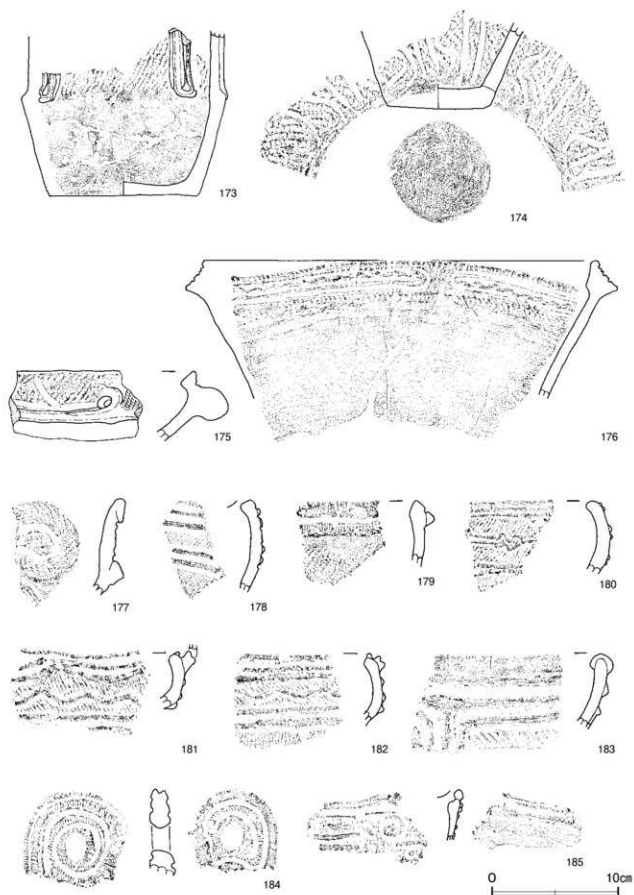
第54图 第14号竖穴建物跡出土物実測図(5)



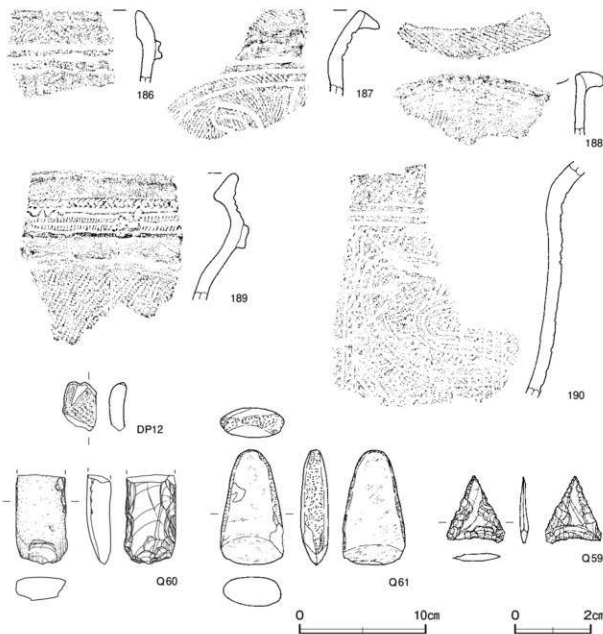
第55图 第14号竖穴建物跡出土遺物実測図(6)



第56图 第14号竖穴建物跡出土遺物実測図(7)



第 57 图 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測図(8)



第58図 第14号竪穴建物跡出土遺物実測図(9)

第14号竪穴建物跡出土遺物観察表(第50～58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
143	縄文土器	深鉢	28.8	(32.0)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁上部無文帯・地文に無筋縄文L(縦) 交互刺突文・並行沈線で文様を描画	覆土中層	80% PL107
144	縄文土器	深鉢	24.8	(30.2)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粘土	にぶい・黒	普通	無筋縄文RL(縦・斜) 並行沈線による文様描画	覆土中層	90% PL107
145	縄文土器	深鉢	[21.2]	(21.3)	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	縁帯により口縁部文様を描画 中央の把手部付 口縁部交互刺突による連続成状文 口縁以下無 筋縄文L(縦)	覆土中層	30% PL108
146	縄文土器	深鉢	[34.5]	(35.9)	-	長石・石英・雲母・ 焼灰	黒灰	普通	口縁上部に無文帯 管割れ縁帯により文様描画 口縁多変縄文RL(縦)	覆土中層	30% PL108
147	縄文土器	深鉢	18.3	(23.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい・黒	普通	口縁頂部に太沈線 口縁部無筋縄文RL(縦) 縁帯による文様描画 頸部は平軌行帯による7 本の並行沈線で区画	覆土中層	50% PL107
148	縄文土器	深鉢	[19.2]	(21.5)	-	長石・石英・雲母・ 小礫	にぶい・赤黒	普通	口縁部縁帯用により変形クラック文 管割れ縁 帯により口縁部を区画 地文に無筋縄文L(縦) 頸部は並行沈線・成状文が一列	覆土中層	25% PL108
149	縄文土器	深鉢	23.1	(26.0)	-	長石・石英・雲母・ 小礫	にぶい・橙	普通	口縁頂部に平軌行帯 口縁部管割れ縁帯による 変形文等描画 頸部に沈線文 4本の沈線による 文様描画 地文に無筋縄文RL(縦)	覆土下層	40% PL107
150	縄文土器	深鉢	26.4	(27.1)	-	長石・石英・雲母・ 焼灰	灰黒	普通	2本の縁帯による文様描画 地文に無筋縄文 L(縦)	覆土下層	40% PL108

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
151	縄文土器	深鉢	[21.8]	(13.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	中央の把手 沈線による構内区画と交互斜突による連続的乳文・地文に準縄文文。 (横)	覆土中層	10% PL109
152	縄文土器	深鉢	[21.4]	(10.6)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐色	普通	地文に準縄文文。 (横) 細線帯により区画文・クランク文 頸部は3本の並行沈線	覆土中層	20% 二次焼成
153	縄文土器	深鉢	[22.0]	(17.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	良好	口唇頂部に平直面 沈線と連続的乳文・準縄文文による連続的乳文・地文に準縄文文。 (横)	覆土中層	20%
154	縄文土器	深鉢	[26.0]	(15.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐色	普通	口唇頂部に平直面 沈線と連続的乳文・準縄文文による連続的乳文・地文に準縄文文。 (横)	覆土下層	20%
155	縄文土器	深鉢	[28.1]	(15.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	中央の把手 土に0段多条縄文文。 (横) 1条の隆帯により口縁部を区画 頸部は並行沈線と沈文	覆土中層	10% PL109
156	縄文土器	深鉢	[25.7]	(16.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	背割れ隆帯により口縁部文様を描画 1段多条縄文文。 (横) 3本位の沈線による文様描画	覆土下層	20% PL109
157	縄文土器	深鉢	[33.0]	(23.8)	-	長石・石英・雲母・礫質・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口唇部膨らみ 膨らみに準縄文文。 (横) 隆帯による文様描画 隆帯内沈線を光線 隆帯に沿って3本の隆帯文 頸部は3本	覆土上層	15% PL108
158	縄文土器	浅鉢	[48.0]	(17.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部膨らみ 膨らみに準縄文文。 (横) 隆帯による文様描画 隆帯内沈線を光線 隆帯に沿って3本の隆帯文 頸部は3本	覆土中層	20% PL109
159	縄文土器	深鉢	20.5	27.8	9.5	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口唇部膨らみ 膨らみに準縄文文。 (横) 隆帯による文様描画 隆帯内沈線を光線 隆帯に沿って3本の隆帯文 頸部は3本	覆土中層	80% PL107
160	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	把手外面は2条の背割れ隆帯により文様描画 内面に並行沈線による隆帯文	覆土中	
161	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部膨らみ 膨らみに準縄文文。 (横) 隆帯による隆帯S字状隆帯上に有筋沈線	覆土中層	
162	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面に張り出す把手 隆帯により文様描画	覆土中層	内面凹陥
163	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇頂部に三角形の張り出し部 中央の把手を付けたらびに沈線・準縄文文。 (横) 隆帯	覆土中	
164	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	4か所穿孔 外・内面とも穿孔に沿って2本連続的乳文は隆帯帯により斜行文・並行縄文	覆土中層	PL109
166	縄文土器	深鉢	-	(11.1)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	10か所穿孔 把手に沿って沈線 隆帯帯による隆帯文	覆土下層	PL109 二次焼成
167	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	中央の把手 交互斜突による流紋状文並行沈線により縦帯に文様を描画	覆土中層	PL109
168	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・礫質・黒色粒子	にぶい褐色	良好	口唇頂部に幅広い平直面 沈線による平行線と有筋沈線 地文に準縄文文。 (横) 隆帯	覆土下層	
169	縄文土器	深鉢	-	(11.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に準縄文文。 (横) 沈線による並行線 構内区画を描画	覆土下層	10%
170	縄文土器	深鉢	-	(23.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	上縁部膨らみによる文様描画 頸部並行沈線・流紋状文・0段多条縄文 LR (横) 別部並行沈線による隆帯文・流紋文	覆土中層	PL108 10%
171	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	(7.6)	長石・石英	褐色	普通	地文に準縄文文。 (横)	覆土中層	二次焼成
172	縄文土器	深鉢	-	(17.7)	(9.5)	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	1段多条縄文 LR (横)	覆土下層	25%
173	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	(11.6)	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	ソロバノ玉状の底部 流紋文に0段多条縄文文。 (横) 隆帯の隆帯部分 胴下部は無文	覆土中層	20% PL107
174	縄文土器	深鉢	-	(6.9)	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐色	良好	地文に準縄文文。 (横) 並行沈線 蛇行文 底面は「ア」字金具	覆土下層	
175	縄文土器	浅鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯の隆帯 部分的に流紋状の把手を付けたらびに隆帯帯に準縄文文。 (横)	覆土中	
176	縄文土器	浅鉢	[31.0]	(11.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁上部連続的乳文 平直面に沈線区画 区画内交互斜突 外・内面隆帯方向の巻き	覆土中層	25% PL109
177	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	帯状の隆帯部分 隆帯上に準縄文文。 (横)	覆土中	
178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に準縄文文。 (横) 隆帯による文様描画	覆土中	
179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に準縄文文。 (横) 口縁上部に4〜5目隆帯	覆土中	二次焼成
180	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	地文に準縄文文。 (横) 隆帯による文様描画	覆土中	
181	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口唇頂部に大沈線 口縁部は蛇行隆帯 頸部を背割れ隆帯で区画	覆土中	182と併せて
182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	口唇頂部に沈線 背割れ隆帯・蛇行隆帯で文様を描画 隆帯間斜帯 地文に準縄文。 (横)	覆土中	181と併せて
183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に準縄文文。 (横) 隆帯による区画文	覆土下層	
184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	把手周縁部に沈線 把手外・内面とも沈線による隆帯文 沈線間に4〜5目	覆土中層	
185	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に準縄文文。 (横) 隆帯による区画文・隆帯文	覆土中	
186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	地文に準縄文文。 (横) 背割れ隆帯 隆帯上にも縄文文	覆土中	
187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	褐色	普通	口唇頂部に平直面 平直面に0段多条縄文文。 (横) 口唇部膨らみ 隆帯による区画文	覆土中層	
188	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	口唇部膨らみ 隆帯による区画文・隆帯文	覆土中層	
189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇上部無文 ベン状の連続的乳文 交互斜突による流紋状文・準縄文。 (横) 地文に準縄文文。 (横)	覆土下層	PL109
190	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に0段多条縄文文。 (横) 並行沈線により蛇行縄文・構内文を描画	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP12	土器片断	(3.9)	2.7	1.3	(14.0)	長石・石英・雲母	灰黄褐色	胴部片 一端に4〜5目 下部欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 59	皿	1.7	1.5	0.2	0.5	チャート	無漆器 両面丁寧な押圧剥離	覆土中層	PL161
Q 60	打製石斧	(7.1)	4.1	(1.9)	(836)	ホルンフェルス	撮影 片面に自然面 舞踏部・刃部片面を縦打 基部欠損 平刃	覆土中	
Q 61	磨製石斧 (完成品)	9.1	5.0	2.3	158.4	雲霞ドレライト	右表面粗面に研削 両側縁微細な縦打調整 刃部は表面から研削治す	覆土上層	再利用。

第 15 号竪穴建物跡 (第 59～61 図 PL 8)

位置 調査区東部の C 4 i l 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 561 号土坑と第 2 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 耕作により攪乱を受けているが、壁の残存状況やピットの配置から、直径 4.60 m ほどの円形と推定できる。壁は高さ 20～26cm で、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

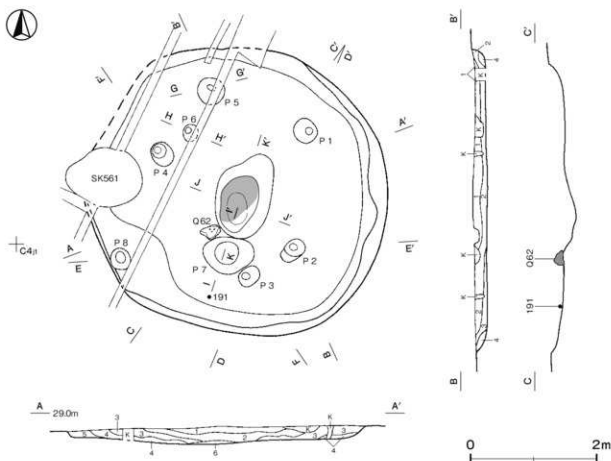
炉 中央部に付設されている。長軸 130cm、短軸 90cm の楕円形で、床面を 10cm ほど掘りくはめた地床炉である。

炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

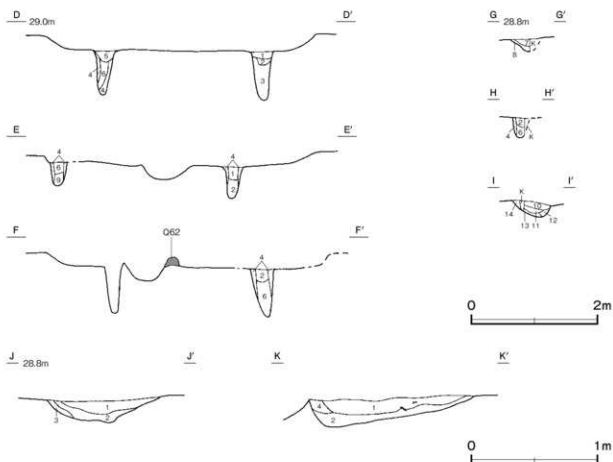
炉土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 8か所。P 1～P 4 は深さ 50～80cm で、配置から主柱穴である。P 5・P 6 は深さ 30cm 前後で、補助柱穴と考えられる。P 7 は炉の南側に位置し、深さ 25cm である。底面は皿状で、壁は緩やかに傾斜している。



第 59 図 第 15 号竪穴建物跡実測図 (1)



第60図 第15号竪穴建物跡実測図(2)

焼土粒子や炭化粒子が混入していることから、灰溜めとしての機能が考えられる。P 8は深さ36cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック中量 |

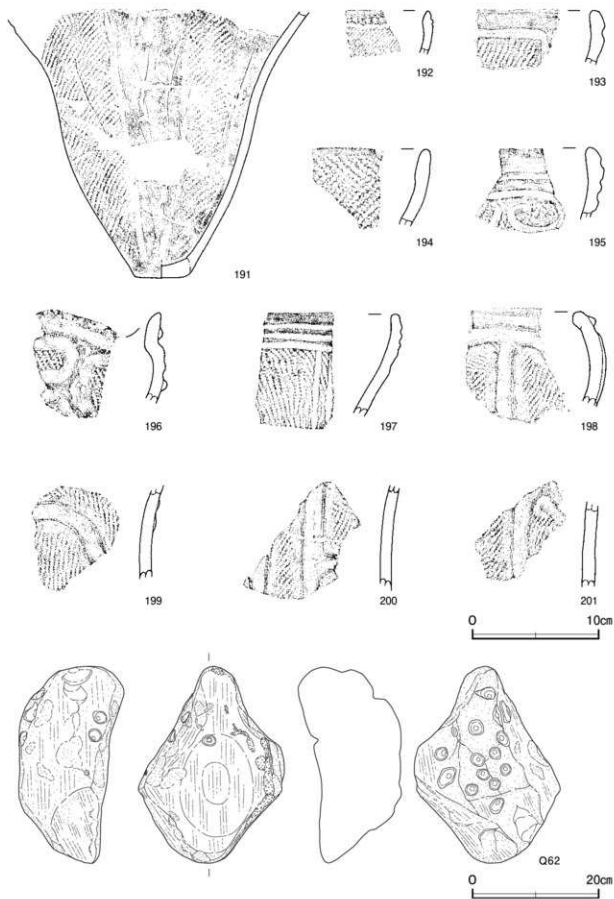
覆土 6層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片693点(深鉢)、石器1点(砥石)、剥片6点(瑪瑙4、石英1、安山岩1)が出土している。191は南部、Q 62は炉の南西側の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。192～201は、覆土中から散乱した状態で出土しており、埋没過程で投棄されたもの、あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 61 图 第 15 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第15号竪穴建物跡出土遺物観察表(第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
191	縄文土器	深鉢	-	(21.2)	4.3	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	地文に早稲縄文Ⅱ(縦) 沈瀬区画の幅状の隆起陶文が並ぶ	床面	60% PL109 50% 磁石・銅粒
192	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁上部に早稲縄文Ⅱ(横) 有筋沈瀬 波状沈瀬を並らす 口縁下は同一原体による縦筋文	覆土中	
193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	地文に早稲縄文Ⅱ(縦) 太沈瀬で方形の区画文を並ぶ	覆土中	
194	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	口縁部下に早稲縄文Ⅱ(横) を一巡させ文様帯を構成 以下同一原体で縦方向的に施文	覆土中	
195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	地文に早稲縄文Ⅱ(縦) を施文 太沈瀬で楕円文・並行線文を並ぶ	覆土中	
196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・紫色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に早稲縄文Ⅱ(横) を施文 隆帯貼付 太沈瀬で文様並列	覆土中	
197	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に早稲縄文ⅡR(縦・斜) を施文 口縁部3本の太沈瀬が一巡 沈瀬直下から2本の紫赤文	覆土中	
198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黒	普通	地文に早稲縄文Ⅱ(縦) をランダムに施文 隆帯貼付 太沈瀬で文様並列	覆土中	
199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	地文に早稲縄文Ⅱ(縦) を施文 2条の隆起帯により文様並列 隆起帯内外並列	覆土中	200・201と同一原体
200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	地文に早稲縄文Ⅱ(縦) を施文 2条の隆起帯により文様並列 隆起帯内外並列	覆土中	199・201と同一原体
201	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	地文に早稲縄文Ⅱ(縦) を施文 2条の隆起帯により文様並列 隆起帯内外並列	覆土中	199・201と同一原体

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q 62	砥石	31.2	23.2	16.7	10.8	砂岩	表面中央部鼠紋の砥面 凹み直3か所 裏面に凹み深15か所 凹みは全体的に深い 縦線全体砥面	床面	PL175

第16号竪穴建物跡(第62・63図 PL 8・9)

位置 調査区中央部西寄りのC3分1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12・13号竪穴建物、第474・542・549号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 遺構の重複が激しいが、壁の残存状況やピットの配置から、長径4.92m、短径4.15mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wと推定できる。壁は高さは8cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径80cm、短径60cmの楕円形の石囲い炉であり、西半部には14個の炬石が残存しており、東部には抜き取り痕が確認できた。西部は残存状態が良好で、石組みが2列に構築されている。炬石はほとんどが自然礫であるが、南部の一部には石皿(Q 65)が転用されている。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 6か所。P1は深さ70cm、P2は深さ160cmとかなり深い、P3は深さ50cm、P4・P5は深さ20cm、P6は深さ30cmである。ピットの配列に規則性が見い出せないが、深さや位置から考えて、P1～P3が主柱穴、P4～P6が補助柱穴と考えられる。土層はいずれも柱抜き取り後の堆積である。

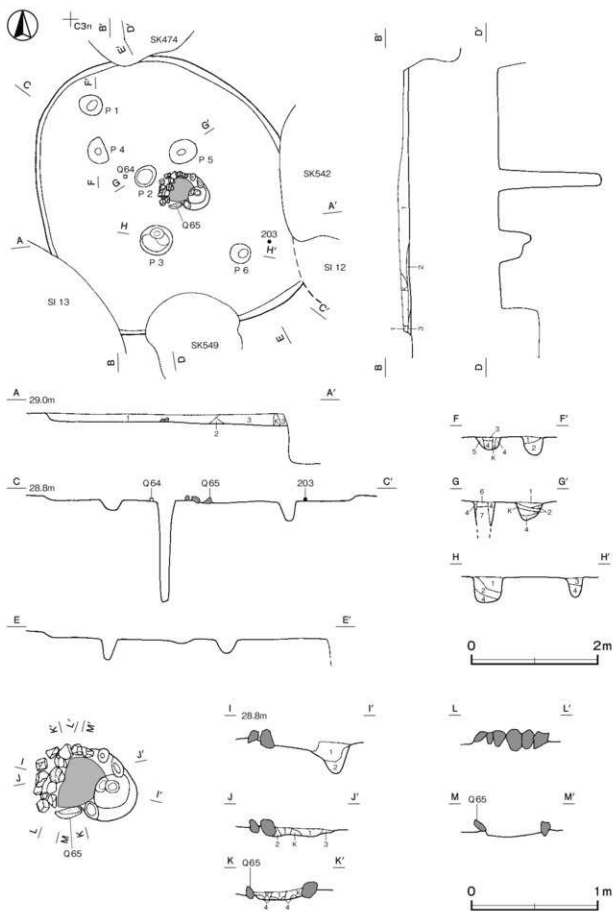
ピット土層解説

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック微量 | |

覆土 3層に層別できる。層厚が薄いため明確でないが、黒褐色土が均一に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

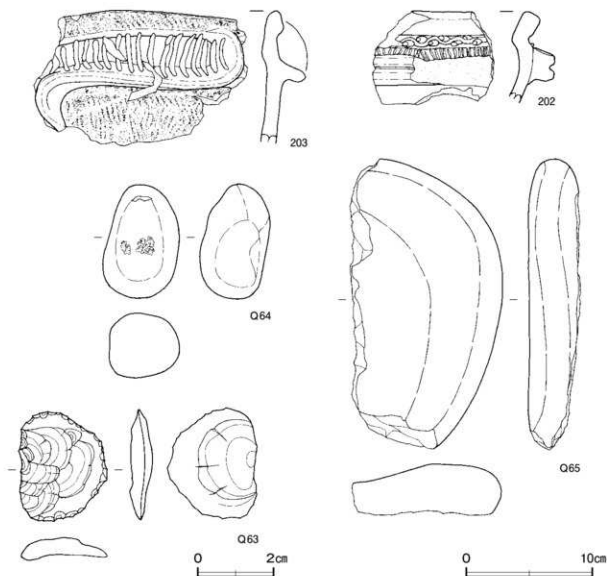
土層解説

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | |



第 62 图 第 16 号竖穴建物跡実測图

遺物出土状況 縄文土器片 206点（深鉢）、石器 16点（スクレイパー1、敲石1、炉石14）、剥片1点（石英）が出土している。203・Q 64 は床面から出土している。Q 65 は、石製の焔の焔石で、石皿を転用している。
所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 63 図 第 16 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 16 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 63 図）

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
202	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部交互斜突文と本縄文 背割れ縁帯により口縁部を区画 外・内面とも横方向的磨き	覆土中	PL110
203	縄文土器	深鉢	-	(106)	-	長石・石英・雲母	程	普通	口縁部縁帯上に平筋縄文LR(縦) 蹄状の縁帯による横S字文 縁部間に土流線 胴部(斜)	床面	10% PL119
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 63	スクレイパー	29	24	0.6	4.1	石英	両縁部押圧剥離		覆土中		
Q 64	敲石	9.1	6.1	5.6	41.25	チャート	表面に敲打痕		床面	PL171	
Q 65	炉石	23.0	12.1	4.2	140.2	砂岩	石皿転用 表面粗状 裏面剥離		焔	PL178	

第 17 号竪穴建物跡 (第 64 ~ 66 図 PL 9)

位置 調査区中央部西寄りの C 3h1 区, 標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 25 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 546 号土坑に掘り込まれている。

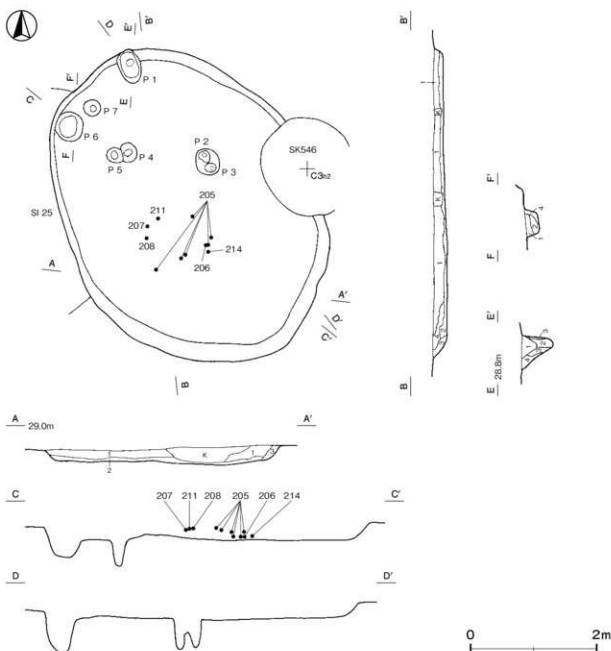
規模と形状 長径 5.30 m, 短径 4.00 m の楕円形で, 長径方向は N - 32° - W である。壁は高さ 14 ~ 25cm で, 緩やかに傾斜している。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は確認できなかった。

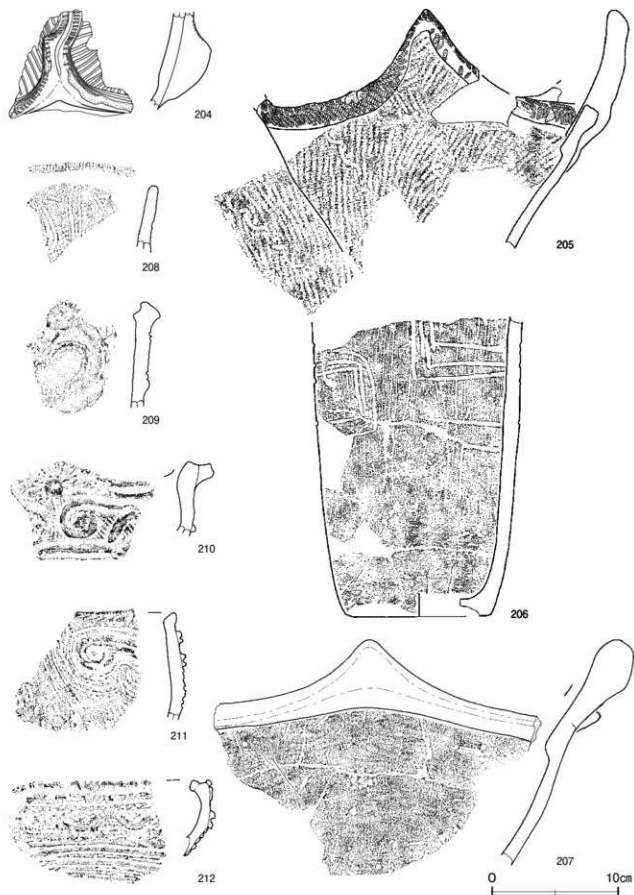
ピット 7 か所。P 1 ~ P 6 は深さ 30 ~ 60cm で, 配置から主柱穴と考えられる。P 2・P 3, P 4・P 5 は重複しており, 立て替えられた可能性がある。P 7 は深さ 20cm で, 補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

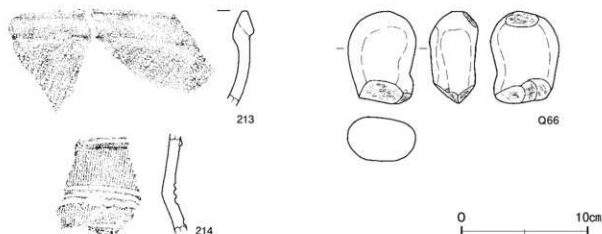
- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |



第 64 図 第 17 号竪穴建物跡実測図



第 65 图 第 17 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第66図 第17号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-----------|
| 1 褐 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 389点(深鉢387, 浅鉢2), 石器2点(敲石, 敲砥石), 石核2点(石英, 瑪瑙), 剥片1点(石英)が出土している。206・214は南東部の床面から, 205は中央部の覆土下層から床面にかけて散乱した状態で, 207・208・211は, 中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。まとまった範囲から出土していることから, 埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第17号竪穴建物跡出土遺物観察表(第65・66図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
204	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい	赤褐色	幅広い隆帯に沿ってキザミ目 隆帯側面にベン字状の刺突と波線 区画内側の条線	覆土中	
205	縄文土器	深鉢	27.8	(19.1)	-	長石・石英・雲母・炭化粒子・瑪瑙・赤色埋点	にぶい	褐色	深帯部に幅広い隆帯 口唇部及び口唇部により段多様な文 型(横) 口唇部下から唇一帯体による細密文 部分別に細位の結晶縄文 地文に細位の条線文 沈線による区画文 胴下部無文	覆土下層 ~床面	50% PL110
206	縄文土器	深鉢	-	(23.7)	[11.6]	長石・石英・雲母・炭化粒子	にぶい	褐色	地文に細位の条線文 沈線による区画文 胴下部無文	床面	30% PL110
207	縄文土器	浅鉢	-	(18.1)	-	長石・石英・雲母・赤色埋点	にぶい	黄褐色	無文 口唇部肥厚 内側に設 外・内面とも横方向の磨き	覆土下層	10% PL110
208	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	黄褐色	抄手同様にキザミ目 地文に単筋縄文 RL をラッゲムに施文	覆土下層	
209	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色埋点	灰黄褐色	普通	隆帯による区画 隆帯に沿って並行筋状波線を施文	覆土中	
210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に単筋縄文 LR (縦) 隆帯による渦巻文	覆土中	
211	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	赤褐色	口縁部細密縄文 L 状(横) 胴部(縦) 背割れ隆帯による渦巻文 隆帯上に横文地文 裏面を中心に手載り筋による原文を挿入	覆土下層	
212	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部平坦面 太沈線が一巡 口縁部に無文文隆帯による縦行文・並行横文 口縁下は平直沈線による3本の並行横文が並ぶ	覆土中	
213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色埋点	にぶい	褐色	口縁部無文 地文に単筋縄文 RL (縦)	覆土中	
214	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	褐色	地文に無文文 隆帯・並行横線・波状沈線が一巡	床面	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q66	敲砥石	7.3	5.4	3.8	2224	チャート	積内縁の両端に多方向からの砥面により後をもつ		覆土中	PL171	

第 18 号竪穴建物跡 (第 67・68 図 PL 9)

位置 調査区南西部の C 2j0 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 322・563 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 4.72 m、短径 3.83 m の楕円形で、長径方向は N - 19° - W である。壁は高さ 10 ~ 18cm で、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

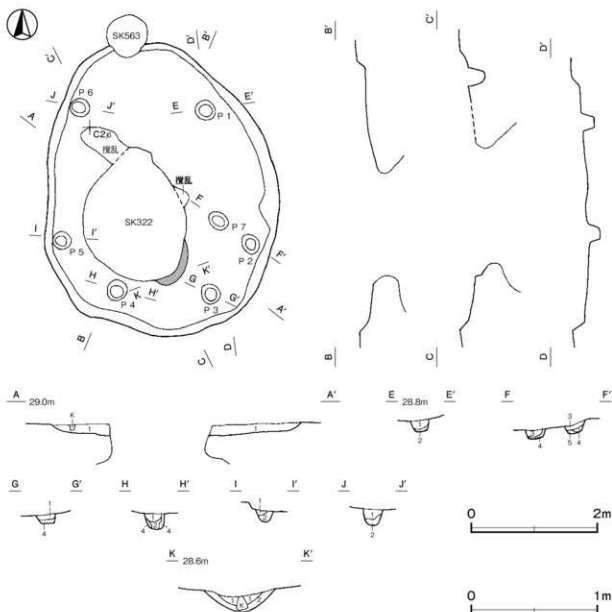
炉 南部に付設されている。第 322 号土坑に掘り込まれているため詳細は不明であるが、地床炉である。

炉土層解説

1 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量

2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 7 か所。P 1 ~ P 6 は、深さ 16 ~ 25cm で、配置から支柱穴である。P 7 は深さ 14cm で、補助柱穴と考えられる。



第 67 図 第 18 号竪穴建物跡実測図

ビット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 濃い黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

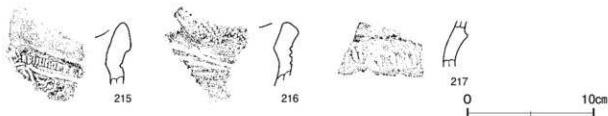
覆土 単一層である。ローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 106 点（深鉢 105、浅鉢 1）、自然礫 3 点（砂岩）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 68 図 第 18 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 68 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部肥厚 内表状字跡	キャタビラ文と沈線で区画 区画	覆土中
216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	濃い黄褐色	普通	口唇部肥厚 口唇部に単純縄文 1 組、茶行沈線による区画文		覆土中
217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	横位の前面三角形の発帯貼付	幅広い爪形文が流る	覆土中

第 19 号竪穴建物跡（第 69・70 図 PL10）

位置 調査区中央部東寄りの C 3h0 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作により攪乱を受けているため、詳細は不明であるが、床面の残存状況やビットの配置から、長径 5.77 m、短径 5.20 m の楕円形で、長径方向は N-3°-E と推定できる。壁は攪乱により確認できなかった。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部が攪乱を受けているが、残存している焼土や炉床の範囲から、長径 80cm、短径 50cm の楕円形で、床面を 7cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は、火熱を受けて赤変硬化している。

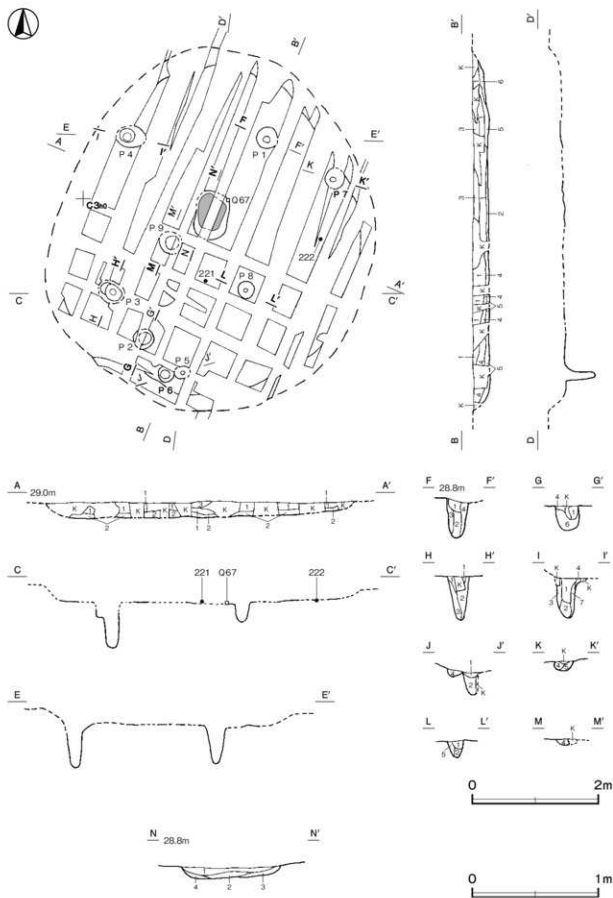
炉土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

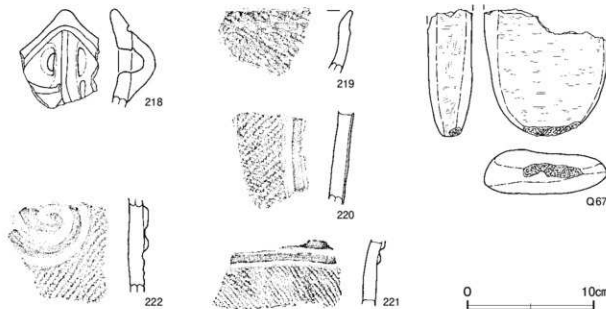
ビット 9 か所。P 1～P 4 は深さ 40～70cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 36cm で、出入口施設に伴う柱穴と考えられる。P 6～P 9 は深さ 10～20cm で、補助柱穴と考えられる。

ビット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |



第 69 图 第 19 号竖穴建物跡实测图



第70図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 360点（深鉢353、浅鉢7）、石器1点（磨石）、石核3点（瑪瑙）、剥片3点（石英、泥岩、瑪瑙）が出土している。222は東部、221は中央部、Q67は炉の北側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第19号竪穴建物跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
218	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	中央の把手 中央部を沈線で区切り把手に沿って沈線	覆土中	
219	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部指頭による太沈線が一巡 O投多量縄文文（横一線）	覆土中	
220	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙褐色	普通	地文に単筋縄文L状（縦） 隆帯に沿って歯面による成形	覆土中	222と同一形状。
221	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文に単筋縄文L状（縦） 2条の隆帯が一巡	床面	
222	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯による湯呑文 隆帯に沿って沈線 地文に単筋縄文L状（縦）	床面	220と同一形状。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q67	磨石	(10.1)	(9.7)	3.5	(48.7)	安山岩	表裏・片側縁に研磨痕 先端部に微細な縦打痕	床面	

第20号竪穴建物跡（第71・72図）

位置 調査区南西部のC2b7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第679・680・711号土坑を掘り込み、第574号土坑に掘り込まれている。

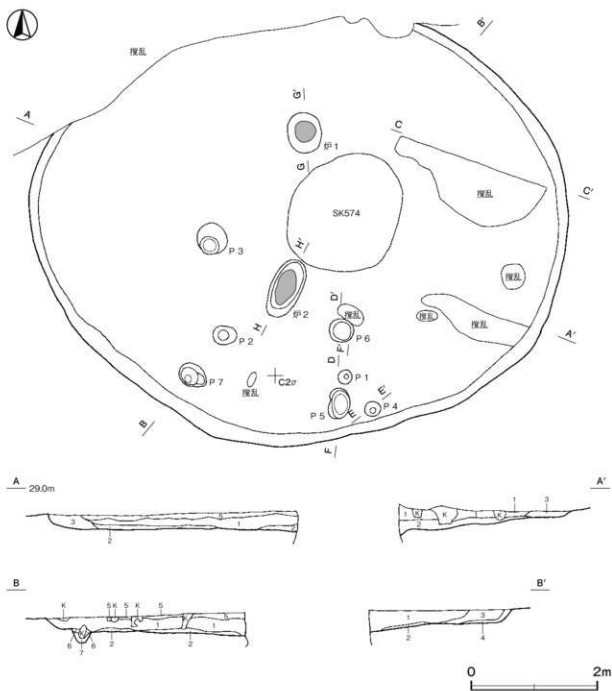
規模と形状 北壁が攪乱を受けているが、長径8.46m、短径7.00mの楕円形で、長径方向はN-84°-Wと推定できる。壁は高さ8~22cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

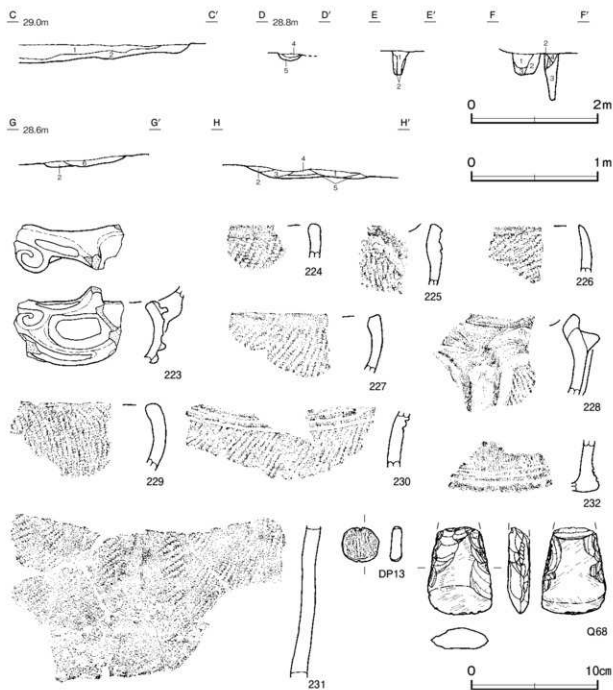
炉 2か所。いずれも床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉1は中央部の北寄りに位置し、長径60cm、短径50cmの楕円形である。炉2は中央部の南寄りに位置し、長径100cm、短径50cmの楕円形である。いずれも炉床は火熱を受けて赤変硬化している。覆土や炉床の状況から、同時に使用されていたものと考えられる。

炉1・2土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 明褐色 ローム粒子中量 |
| 3 赤褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 明褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第71図 第20号竪穴建物跡実測図



第72図 第20号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 7か所。P.1～P.3は深さ38～70cmで、規模と配置から主柱穴である。P.4・P.5はともに深さ40cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P.6・P.7は深さ10・25cmで補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量
 2 暗褐色 ロームブロック中量
 3 暗褐色 ローム粒子少量

4 褐色 ロームブロック少量
 5 褐色 ロームブロック中量

覆土 5層に層別できる。黒色土が周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。第6・7層は、P7の覆土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック微量	7 褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 縄文土器片312点（深鉢309，浅鉢3），土製品1点（土器片錘），石器2点（打製石斧，磨製石斧），調整痕のある剥片1点（粘板岩），母岩1点（瑪瑙）が出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
223	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯による上向きの高巻状把手。把手間に楕円区画。隆帯上に太沈線。	覆土中	
224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	地文に単筋縄文LR（縦）	覆土中	
225	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	地文に0段多条縄文LR（横） 把手に沿って太沈線。沈線に沿って円形刺突	覆土中	
226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁上部無文 地文に単筋縄文LR（横）	覆土中	
227	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部平坦 地文に単筋縄文LR（縦）	覆土中	
228	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	隆帯により支柱隆帯。一部に突起。隆帯に沿って太沈線。地文に単筋縄文LR（縦）	覆土中	
229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁直下より単筋縄文LR（斜）	覆土中	
230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	手載片管による並行線が一端。地文に単筋縄文LR（縦）	覆土中	
231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤褐色	灰黄褐	普通	地文に0段多条縄文LR（縦）を間隔を開けて無文	覆土中	内面崩落部全体に付。
232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	普通	胴部下側に3本の並行沈線が一端。地文にまばらな無文（縦）	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP13	土器片	2.2	3.0	0.9	9.4	長石・石英・雲母・赤色顔料	にぶい赤褐	割部片 図録部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 68	打製石斧	(6.9)	5.1	1.7	(8.32)	頁岩	新形 両側縁及び表面に微細な敲打痕 刃部は表裏を研磨 未打がり 基部欠損	覆土中	

第21号竪穴建物跡（第73図 PL10・11）

位置 調査区東部のC4区4区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第564号土坑を掘り込み，第10号竪穴建物に掘り込まれている。

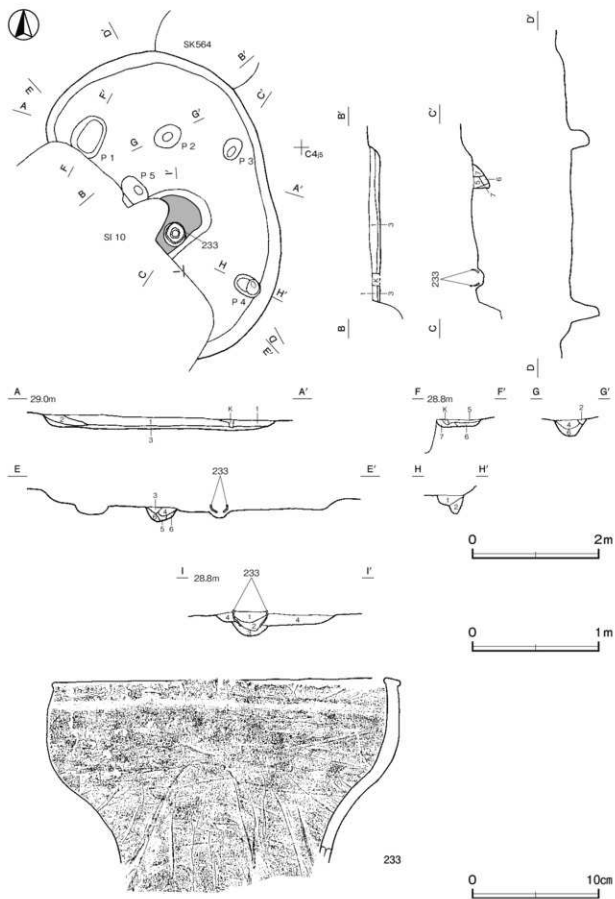
規模と形状 長径4.90m，短径3.05mの楕円形で，長径方向はN-25°-Wである。壁は高さ10～18cmで，緩やかに傾斜している。

床 平坦で，硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。南西部を第10号竪穴建物に掘り込まれており，北東・南西径は100cm，北西・南東径は95cmしか確認できなかった。楕円形の土器埋設炉で，南東部から胴部下半を欠いた233が出土している。炉床及び炉体周辺は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量	4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量



第73图 第21号竖穴建物跡・出土遺物実測図

ビット 5か所。P1～P4は深さ16～40cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、補助柱穴と考えられる。

ビット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

覆土 3層に分層できる。周囲からの流れ込んでいる堆積状況や、暗褐色土が均一に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片28点（深鉢27、浅鉢1）が出土している。233は、土器埋設炉の炉体土器である。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第21号竪穴建物跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
233	縄文土器	深鉢	27.4	(14.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にがい赤褐色	普通	器文、粗い隆帯を帯びた口唇部平坦部・内面横ナデ・胴部縦方向のナデ	口縁部	約50% PL109内面調査

第22号竪穴建物跡（第74・75図 PL11）

位置 調査区北東部寄りのC4d2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第588号土坑を掘り込み、第584・591・598号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による複乱を受け、複数の土坑と重複しており、北部が調査区域外へ延びているため、東西径は5.20mで、南北径は4.67mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-20°-Eである。壁は高さ7～15cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長径100cm、短径70cmで、楕円形の土器埋設炉である。北東部から胴部下半を欠いた234が出土している。炉床は火熱を受けて、赤変硬化している。

炉土層解説

1 にがい赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量	4 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	5 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	6 褐色	焼土ブロック・ロームブロック少量、炭化粒子微量

ビット 4か所。P1は深さ50cmで、規模と配置から主柱穴である。P2～P4は深さ10cm前後で、補助柱穴と考えられる。

ビット土層解説

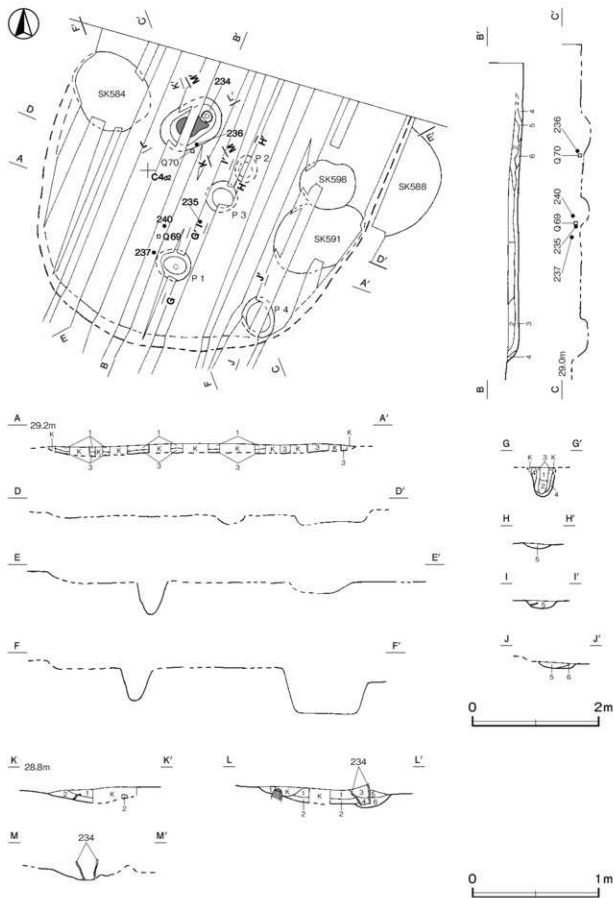
1 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子多量	6 褐色	ロームブロック少量

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

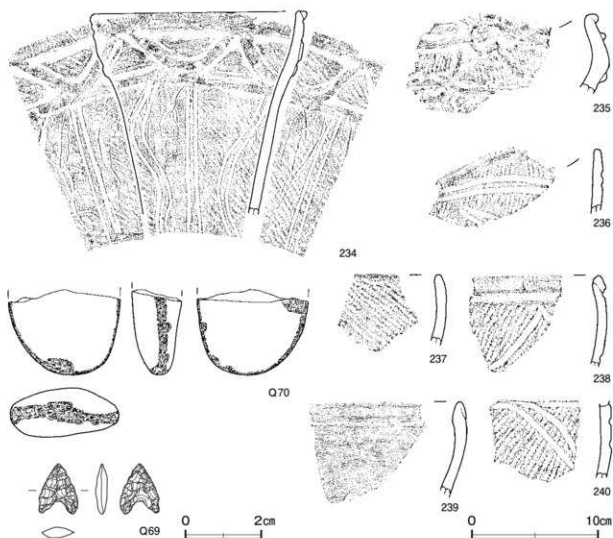
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	4 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片259点（深鉢250、浅鉢9）、石器4点（鎌1、磨製石斧2、敲石1）、剥片7点（瑪瑙1、粘板岩1、砂岩1、泥岩2、黒曜石1、石英1）、残核2点（瑪瑙）、自然礫1点が出土している。234は



第74图 第22号竖穴建物跡実測图



第75図 第22号堅穴建物跡出土遺物実測図

土器埋設炉の炉体土器である。Q 70 は炉の南側の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。236 は中央部、235・237・240、Q 69 は南部の覆土上層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第22号堅穴建物跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
234	縄文土器	深鉢	16.5	(16.2)	-	長石・石英	明赤黒	普通	地文に単節縄文L（縦） 口縁部低い覆帯による三角刺の区画文 口縁直下から2本の垂走文・総行縄文に縁部内周側ナデ・腹下半周縁方向のナデ	炉	70% PL110
235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	縄灰	普通	地文に単節縄文R（斜） 隆帯により文様掻画内周縁方向のナデ	覆土上層	
236	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	縄灰	普通	地文に単節縄文RL（斜） 2本の並行沈線	覆土上層	
237	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	器面全体に単節縄文L R（縦）	覆土上層	
238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	口縁部無文・太沈線が二重 地文に単節縄文RL（縦） 沈線による弧線文	覆土中	
239	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	口唇部隆帯貼付 外・内面横方向の巻き	覆土中	
240	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	灰黒	普通	地文に単節縄文RL（縦） 並行沈線により文様掻画	覆土上層	

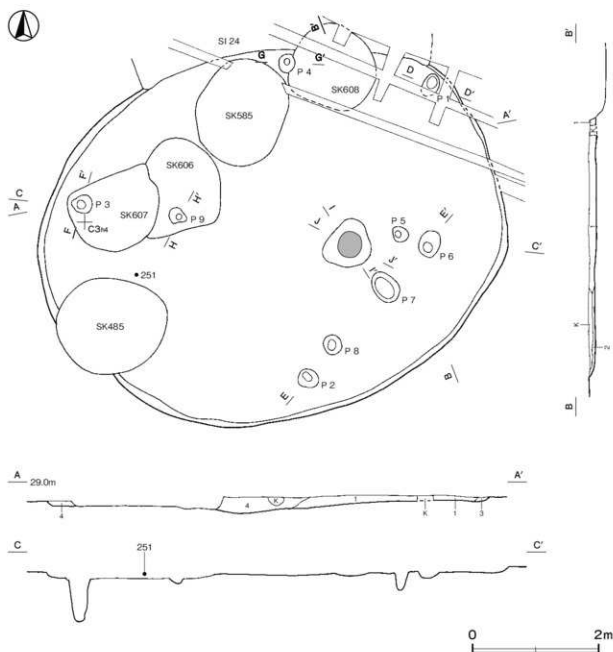
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 69	甌	1.3	1.0	0.3	0.4	チャート	基部中央は深く窪入 両面埋玉剥離	覆土上層	PL161
Q 70	甌石	(6.8)	8.8	3.9	(246.3)	砂岩	周縁部に微細な敲打痕	床面	

第 23 号竪穴建物跡 (第 76・77 図 PL12)

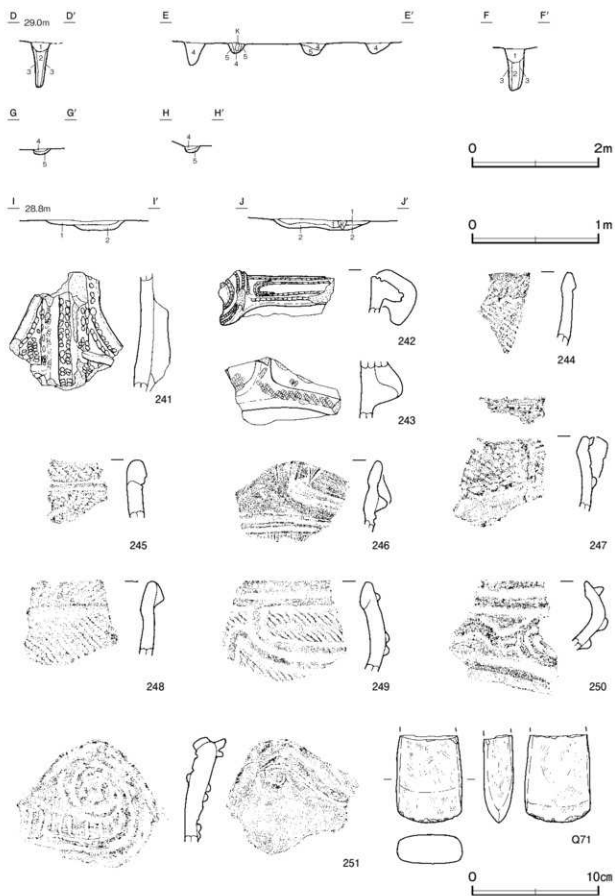
位置 調査区中央部の C 3 h4、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 24 号竪穴建物、第 485・585・606・608 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 7.40 m、短径 5.76 m の楕円形で、長径方向は N-88°-E である。壁は高さ 5~10 cm で、緩やかに傾斜している。



第 76 図 第 23 号竪穴建物跡実測図



第77图 第23号竖穴建物跡・出土遺物実測図

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 東部に付設されている。長径80cm、短径70cmで、不整形円形の地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 9か所。P1～P3は深さ40～70cmで、配置から主柱穴である。P4～P9は深さ15～28cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子少量 5 褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック中量

覆土 4層に分層できる。周囲からの流れ込んでいる堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 じがい黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 褐色 炭化粒子微量 4 極暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片243点(深鉢235、浅鉢8)、石器1点(磨製石斧)が出土している。251は西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第23号竪穴建物跡出土遺物観察表(第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
241	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母・ 礫	灰褐色	普通	把手頂部から2条の断面三角形の隆帯が基下隆帯上に単軸縄文文、隆帯間に並行有筋沈線	覆土中	
242	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇頂部の平坦面に有筋沈線、把手に沿って有筋文刻による文様施	覆土中	
243	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	じがい黄	普通	隆帯による区画文、隆帯上に単軸縄文RL(横)区画内(縦)	覆土中	
244	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じがい赤褐色	普通	口唇部厚、肥厚部に単軸縄文LR(横)胴部(縦)環状文飾が一面	覆土中	
245	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 白色粒子	灰褐色	普通	口唇部厚、肥厚部に単軸縄文LR(横)胴部(縦)口唇下部に半軸竹節による並行沈線	覆土中	
246	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯による積み状の突起、横方向の並行沈線が一面、器底状文具による縦施文	覆土中	
247	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 炭点	じがい赤褐色	普通	口唇頂部に有筋沈線が一面、断面三角形の隆帯による区画文、隆帯上に刻文	覆土中	
248	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部厚、肥厚部単軸縄文LR(横)胴部同一平面による縦施文	覆土中	
249	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	じがい橙	普通	口唇頂部の平坦面に太沈線が一面、隆帯及び背割れ隆帯により文様施、隆帯を一巡させ口縁部文様を区画	覆土中	PL110
250	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じがい橙	普通	背割れ隆帯による並行文、区画内縦方向の並行沈線	覆土中	PL110
251	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	背割れ隆帯による並行文、隆帯に沿って刻文文様	覆土下層	PL110

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q71	磨製石斧	(69)	5.2	2.3	(167)	緑色岩	定角式 全面研磨 縁部に鋭 基部欠損 刃部に使用痕 平刃	覆土中	PL166 磨熱

第24号竪穴建物跡(第78図)

位置 調査区中央部のC3g4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号竪穴建物跡、第585号土坑を掘り込み、第608号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による擾乱を受けているため、東西径4.98mで、南北径は3.40mしか確認できなかった。

楕円形で、長径方向はN-8°-Wと推定できる。壁は高さ10cmほどで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 北西部に付設されている。耕作により攪乱を受けているが、焼土の残存範囲から、長径40cmほどの楕円形と推定でき、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

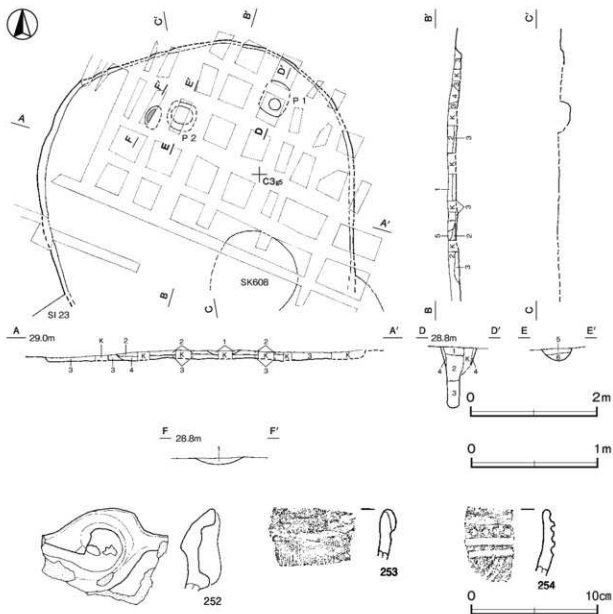
炉土層解説

- 1 濃い赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 2か所。P1は深さ100cmで、主柱穴である。P2は深さ20cmで、炉の東側に位置していることから、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |



第78図 第24号堅穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------|---|--------|-----------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量 | 4 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | にぶい褐色 | ロームブロック中量 | 5 | にぶい褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 | 黄褐色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片49点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第24号竪穴建物跡出土遺物観察表(第78図)

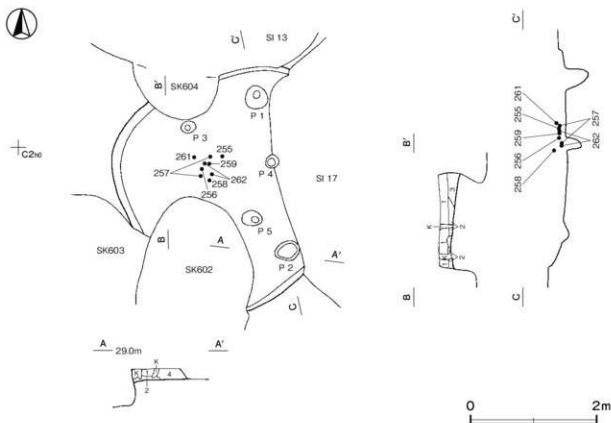
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
252	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯彫付により楕円区画 内面横方向のナデ	覆土中	
253	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 太沈線を高らせ縦位の条線文	覆土中	
254	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	胎文に華節縄文(丸)縦 口縁上部に太沈線・内影的突文を一高 2本の太沈線を高らせ口縁部を区画	覆土中	

第25号竪穴建物跡(第79・80図 PL12)

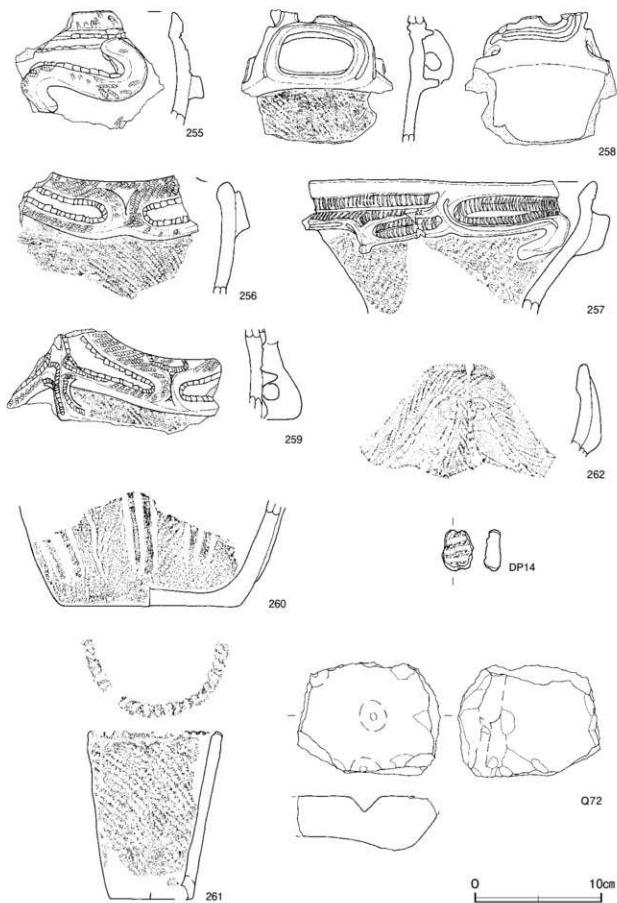
位置 調査区中央部西寄りのC2h0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13・17号竪穴建物、第602～604号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第17号竪穴建物に掘り込まれているため、北西・南東軸3.68mで、北東・南西軸は3.21mしか確認できなかった。隅丸方形と推定でき、北西・南東軸方向はN-33°-Wである。壁は高さ18～30cmで、緩やかに傾斜している。



第79図 第25号竪穴建物跡実測図



第80图 第25号竖穴建物跡出土遺物実測図

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 5か所。P1～P5は、深さ10～30cmである。配置からP1～P3は主柱穴、P4・P5は補助柱穴と考えられる。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|---------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 におい褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片167点(深鉢166、コップ形土器1)、土製品1点(土器片錘)、石器5点(打製石斧3、磨製石斧1、砥石1)、剥片2点(瑪瑙、石英)が出土している。255～257・259・262は覆土下層から、258・261は覆土中層から、260・DP14・Q72は覆土中から出土している。

所見 出土土器から中期中葉と考えられる。

第25号竪穴建物跡出土遺物観察表(第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
255	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	灰黄褐色	普通	口唇部無文・隆帯による横S字状文・隆帯上に単筋縄文L形(横・斜)・隆帯に沿って有筋沈線	覆土下層	
256	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	隆帯による区画文・隆帯上に単筋縄文L形(横)・区画隆帯に沿って有筋沈線・腹部(縦)	覆土下層	
257	縄文土器	深鉢	[22.3]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁上部無文・隆帯による横S字状及び横区画区画内キタビラ文・胎文に単筋縄文L形(縦)	覆土下層	20% PL110
258	縄文土器	深鉢	-	(10.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい褐色	普通	種別状の中空把手・把手上部に沈線・把手内面に並行沈線・胎文に単筋縄文L形(横)	覆土中層	PL110
259	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい褐色	普通	隆帯上に単筋縄文L形(横)と有筋沈線・隆帯に沿って有筋沈線	覆土下層	
260	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	[13.8]	長石・石英・雲母	明褐色	普通	胎文に単筋縄文L形(縦)・2条の並行隆帯が並下隆帯型に整形沈線	覆土中層	10%
261	縄文土器	コップ形土器	107	133	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐色	普通	口唇部部にキザミ目・単筋縄文L形(縦)・全口径直下から全面に胎文・内面縦方向のナデ	覆土中層	40% PL110
262	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	把手中央部を隆帯により区画・縁部及び隆帯上に単筋縄文L形(横・斜)・区画に沿って有筋沈線	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP14	土器片錘	3.2	2.4	1.3	10.2	長石・石英・雲母	におい赤褐色	割削片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q72	砥石	(8.9)	(11.2)	4.4	(60.7)	砂岩	表面に平坦な砥面 凹み痕3か所 裏面に陥状の砥面	覆土中	PL175

第26号竪穴建物跡(第81～86図 PL12・13)

位置 調査区北東部寄りのC4区4区4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

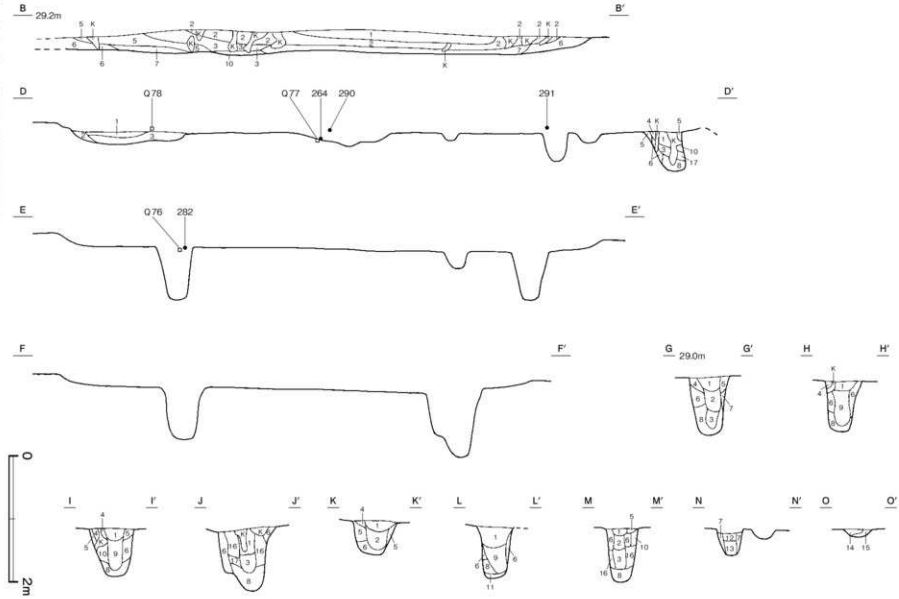
重複関係 第612・632号土坑に掘り込まれている。

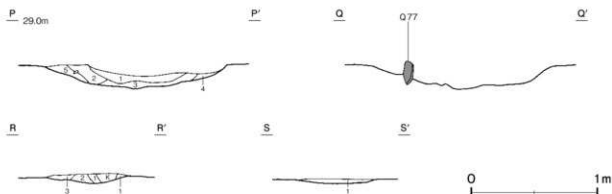
規模と形状 長径10.30m、短径8.75mの楕円形で、長径方向はN-74°-Eである。壁は高さ14～24cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 3か所。炉1は中央部に位置し、長径145cm、短径120cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。西部から火熱を受けた礫片が数点出土しており、砥石(Q77)は立てられた状態で出土していることから、石囲い炉であった可能性がある。炉2は炉1の東側に位置し、長径60cm、短径50cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉3は炉1の南側に位置し、直径60cmのほぼ円形で、床面とはほぼ同じ高さを使用した地床炉である。炉床は赤変、硬化ともに弱い。礫片の出土状況から、炉1が廃絶時まで機能していたと考えられるが、それぞれの新旧関係は明確でない。

第 82 図 第 26 号墓穴建築物跡平面図 (2)





第83図 第26号竪穴建物跡実測図(3)

伊1・2・3土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 濃い赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量 | |

ピット 26か所。P1～P8は深さ52～100cmで、配置から主柱穴である。P9～P26は深さ12～45cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | 12 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック多量 | 13 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子多量 | 15 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 7 褐色 ロームブロック多量 | 16 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 8 黒褐色 ローム粒子少量 | 17 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 9 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | |

貯蔵穴 南西壁際に位置している。長径180cm、短径120cmの不整形円形である。底面はほぼ平坦で、東部にテラス上の段を有している。深さ15cmで、壁は緩やかに傾斜している。覆土は、各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

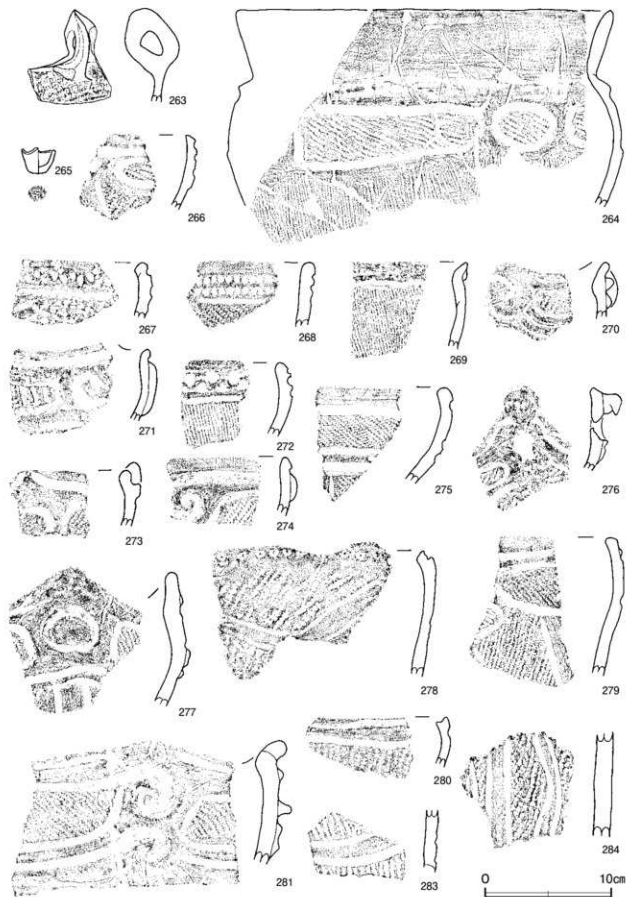
- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | |

覆土 10層に分層できる。下層の第3層以下は、ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。上層の第1・2層は、周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

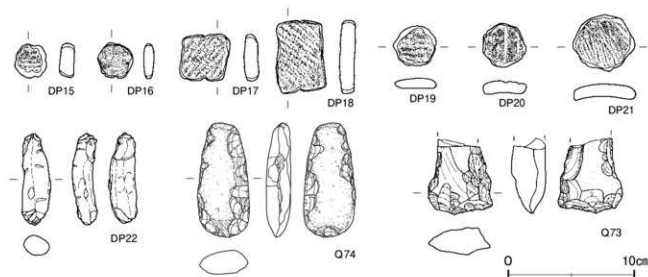
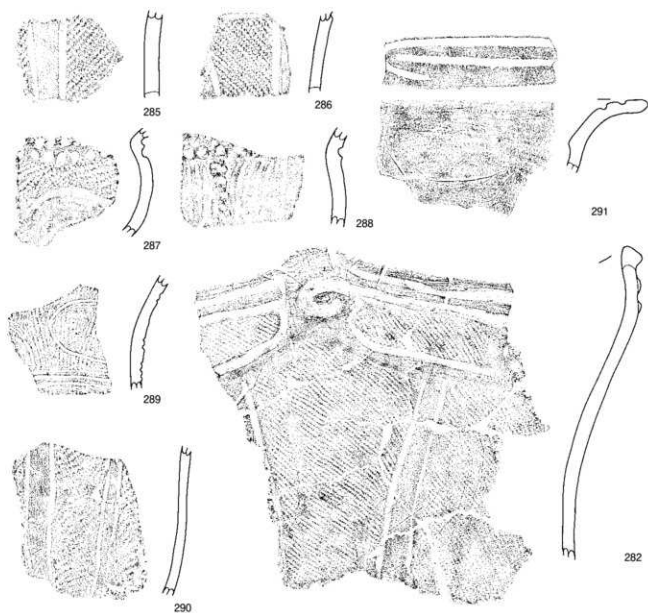
土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |

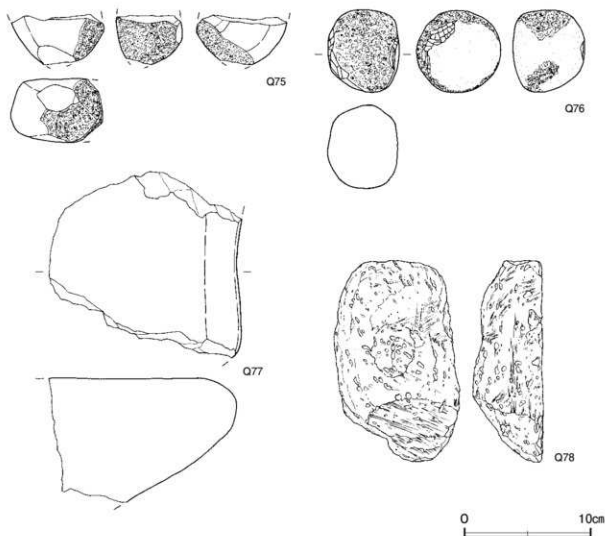
遺物出土状況 縄文土器片2244点(深鉢2,227, 浅鉢15, 壺1, 手捏土器1), 土製品8点(土器片鍾4, 土器片円盤3, 不明土製品1), 石器39点(打製石斧3, 磨製石斧1, 石皿14, 磨石7, 敲砥石2, 砥石1, 炉石10, 浮子1), 剥片9点(瑪瑙3, 黒曜石2, チャート3, 安山岩1), 自然礫2点が出土している。Q77は炉1の火床部から立てられた状態で出土していることから、石囲い炉の炉石の可能性もある。290は炉1の火床面, 291は東部, Q78は西部の床面から, 282, Q76はP8の覆土上層から, Q74はP7の覆土中からそれぞれ出土している。いずれも廃絶直後に廃棄されたものと考えられる。その他の土器片や土器片鍾, 土



第 84 图 第 26 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 85 图 第 26 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)



第 86 図 第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

器片円盤などの土製品は、主に覆土上・中層からまともに出てきていることから、埋没過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 84～86 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
263	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母・赤色塵粒子	灰褐色	普通	中空の把手 地文に0段多糸縄文LR (横)	覆土中	
264	縄文土器	皿	(300)	(167)	-	長石・石英・雲母・赤色塵粒子	暗赤褐色	普通	口縁部無文 横方向の磨き 頸部鋭い発帯による区画文 (区画内単筋縄文L, 横) 胴部外部縦方向の条線文, 内面横方向の磨き 口縁部から頸部にかけて単糸絞	帯1	15% PL112
265	縄文土器	手捏土器	2.5	2.1	1.3	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面縦方向のナデ 内面横方向のナデ	覆土中	100%
266	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	太沈殿による区画 区画内単筋縄文RL (横) 区画外 (縦)	覆土中	
267	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部交り刺突による起伏文が一画 地文に単筋縄文LR (横) 孤立文	覆土中	
268	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色塵粒子・炭灰基質	にぶい橙	普通	口縁部2列の相変文を巡らせ沈殿で区画 地文に単筋縄文LR (縦)	覆土中	
269	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色塵粒子	にぶい褐	普通	口縁部幅広い発帯貼付により有段 地文に断糸文 (縦)	覆土中	
270	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	発帯による断糸文 背割れ発帯による区画 区画内単筋縄文L, 丸 (縦)	覆土中	
271	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	発帯と太沈殿による高低文・楕円区画 区画内太沈殿による条線文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
272	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	交互斜突による弧状文が一周 沈線区画 縦位の帯文を施文	覆土中	
273	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	桶み状の突起部付 突起部に太沈線を巡らす区画 区画内単線縄文RL(縦)	覆土中	
274	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	橙	普通	帯文と太沈線による帯文 区画内 区画内単線縄文RL(横)	覆土中	
275	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口唇部膨厚 太沈線による区画文 区画内1段多帯文1段RL(縦)	覆土中	
276	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	把手部指面による押印 口唇部に縦沈線 隆起による区画文 区画内単線縄文RL(縦)	覆土中	
277	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒褐色	にぶい黄褐色	普通	斜い形状による円筒形突起の区画内単線縄文RL(横) 区画に沿って太沈線 器底面が赤子	覆土中	
278	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒褐色	にぶい黄褐色	普通	口唇部に円形突起が一周 地文に単線縄文RL(横) 器底面に弧状文を施文	覆土中	
279	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	太沈線による栴形区画 区画内単線縄文RL(横) 太沈線下部太沈線が赤子	覆土中	
280	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部部に沈線が一周 地文に単線縄文RL(横) 太沈線で区画	覆土中	
281	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	隆起及び太沈線による帯文文・栴形区画文 区画内1段多帯文文RL(横)	覆土中	PL112
282	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・小礫	にぶい褐色	普通	地文に単線縄文RL(縦) 器底面に太沈線を巡らす太沈線による帯文文・栴形区画文を施文 栴形区画から並行沈線が赤子 太沈線間器底	P 8 覆土中	PL112
283	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	地文に縦位の帯文文 2本の太沈線による弧状文	覆土中	
284	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	地文に単線縄文RL(縦) 並行沈線による帯文文・栴形区画文 太沈線間器底	覆土中	
285	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に単線縄文RL(縦) 太沈線で区画した磨治縄文が赤子	覆土中	
286	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母(多量)	にぶい褐色	普通	地文に単線縄文RL(縦) 幅広い磨治縄文が赤子	覆土中	
287	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	隆起の條部斜付 隆起上及び隆起下沿って円形突起 地文に単線縄文RL(横) 狭い沈線による磨治文 太沈線間器底	覆土中	
288	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	幅広い隆起上に円形突起 地文に太沈線文	覆土中	
289	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	地文に縦位の帯文文 平截管筒による栴形文・並行縄文	覆土中	
290	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	地文に単線縄文RL(縦) 並行沈線による帯文文 太沈線間器底	伊1	
291	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部内面に並行沈線が一周 外・内面横方向のナデ	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP15	土器片断	2.7	2.5	1.2	8.5	長石・石英・雲母	褐色	割部片 両端にキザミ目	覆土中	
DP16	土器片断	2.8	2.8	0.7	6.8	長石・石英・雲母	にぶい褐色	割部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP17	土器片断	3.7	4.0	1.2	21.4	長石・石英・雲母・赤色粘土	灰褐色	割部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP18	土器片断	5.8	4.1	1.2	41.3	長石・石英・雲母	灰黄褐色	縦長の割部片 両端にキザミ目 周縁部研磨	覆土中	
DP19	土器片断	3.1	3.4	0.9	10.6	長石・石英・雲母	にぶい褐色	割部片 片側縁部を研磨	覆土中	未成品。
DP20	土器片断	3.5	3.4	1.0	12.1	長石・石英	橙	割部片 周縁部研磨	覆土中	
DP21	土器片断	4.6	4.8	0.9	24.9	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	割部片 周縁部粗粒に研磨	覆土中	未成品。
DP22	不明土器	7.2	2.3	2.1	(28.0)	長石・石英	にぶい赤褐色	上部に磨面 長軸方向に粗いナデ成形	覆土中	

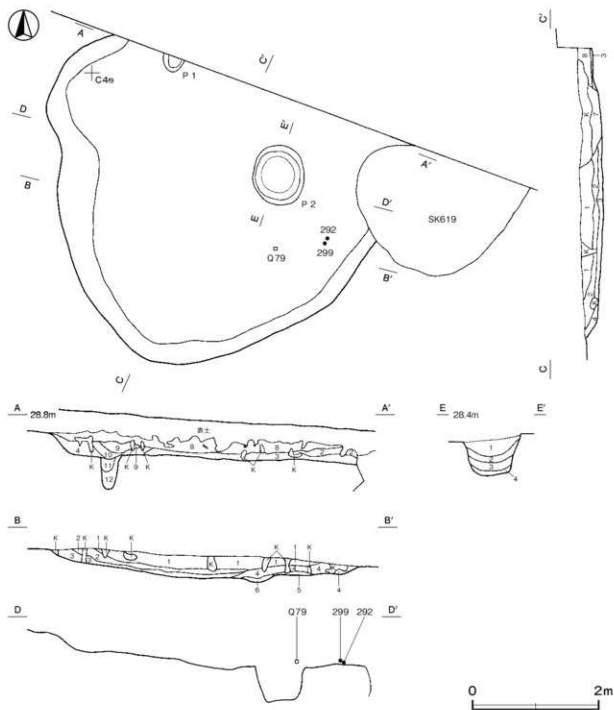
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 73	打製石斧	(6.0)	5.1	2.8	(83.1)	ホルンフェルス	分銅形 刃部は表裏を縦打 片刃部欠損	覆土中	
Q 74	打製石斧	9.1	4.1	1.9	100.2	石英燧岩	楕形 周縁部表裏を縦打 刃部は表裏を研磨	P 7 覆土中	PL163
Q 75	黒砥石	(4.0)	(6.8)	(5.2)	(174.8)	砂岩	円筒の周縁部に微細な縦打痕及び多方向からの砥面により稜をもつ	覆土中	
Q 76	黒砥石	6.5	6.6	5.7	372.2	黒色安山岩	円筒の周縁部に微細な縦打痕及び多方向からの砥面をもつ	P 8 覆土中	PL171
Q 77	砥石	(14.8)	(15.1)	(9.5)	(253.1)	砂岩	表面平坦に研磨	伊1	縦溝が石版用。
Q 78	浮子	16.0	9.9	5.4	107.6	軽石	表面に凹み 裏面は平坦に研磨	床面	PL181

第 27 号竪穴建物跡 (第 87・88 図 PL13)

位置 調査区北東部の C 4 9 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 621 号土坑を掘り込み、第 619 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、東部を第 619 号土坑に掘り込まれているため、東西径は 5.62m、南北径は 4.60m しか確認できなかった。円形もしくは楕円形と推定でき、壁は高さ 10～35cm で、緩やかに傾斜している。



第87図 第27号竪穴建物跡実測図

床 中央部に向かって緩やかに低くなっている。硬化面は確認できなかった。

ビット 2か所。P1は深さ50cmで、主柱穴と考えられる。P2は長径90cm、短径80cmの楕円形で、深さ60cmである。性格は不明である。

ビット土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |

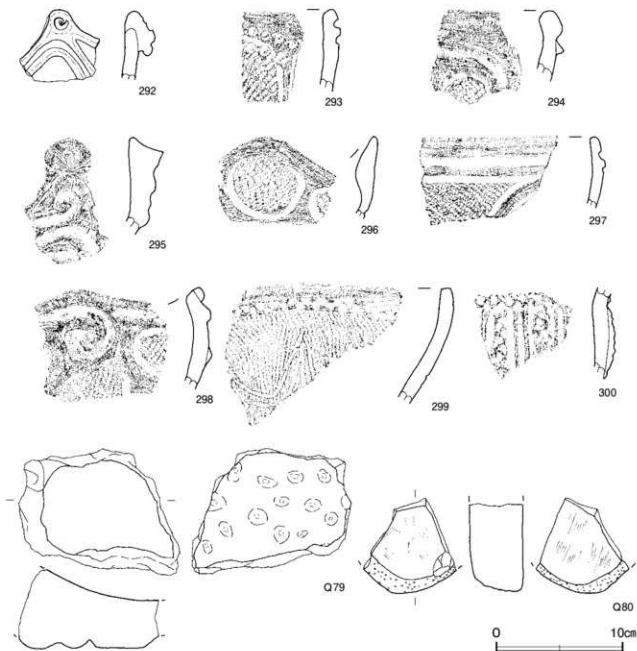
覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第11・12層はP1の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	11	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量	12	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 345点 (深鉢343, 浅鉢2), 石器2点 (石皿, 砥石), 剥片2点 (瑪瑙) が出土している。292・299, Q 79は南東部の覆土下層から出土しており, 埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第88図 第27号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 27 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 88 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
292	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	器手指部に高松文・條帯による区画文 一部隆起土上沈澱	覆土下層	
293	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部2列の内彫刻突文 地文に単筋縄文 L1 (縦) 沈澱による無意文	覆土中	
294	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部隆起 條帯と太沈澱による区画文 区画内単筋縄文 L1 (横)	覆土中	
295	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	円柱状の把手 太沈澱により文様描画	覆土中	
296	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	成状口縁 中央部に沈澱による円文を描画 区画内単筋縄文 L1 (横)	覆土中	
297	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁上部にシャープな沈澱が二部 條帯による区画文 條帯に沿って沈澱を描文 区画内単筋縄文 L1 (横)	覆土中	
298	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	條帯による高松文・楕円区画 区画内及び地文に単筋縄文 L1 (横)	覆土中	
299	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	交互衝突による成状文が一部 地文に単筋縄文 L1 (横・斜) 並行沈澱による高松文を描画	覆土下層	PL110
300	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒色粒子・赤色粒子	にぶい褐色	普通	交互衝突による成状隆帯を楕円・縦位に貼付 楕円の隆帯側に太沈澱を並す	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 79	石皿	(10.1)	(12.7)	6.5	(880.7)	安山岩	表面風状に研削 裏面多孔石 凹み最深さ 0.6～1.2cm	覆土下層	PL178
Q 80	砥石	(7.6)	(7.4)	4.4	(336.5)	雲母片岩	表裏面に平坦な砥面	覆土中	

第 28 号竪穴建物跡 (第 89・90 図 PL13)

位置 調査区中央部西寄りの C 2 区画区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 31 号竪穴建物跡を掘り込み、第 34 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径 5.48m、短径 3.50m の楕円形で、長径方向は N - 18° - E である。壁は高さ 30cm 前後で、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部南寄りに付設されている。長径 70cm、短径 60cm の楕円形で、床面を 15cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は東部に位置し、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 |

ピット 7か所。P 1～P 4 は深さ 40～68cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5～P 7 は深さ 20～25cm で、補助柱穴と考えられる。

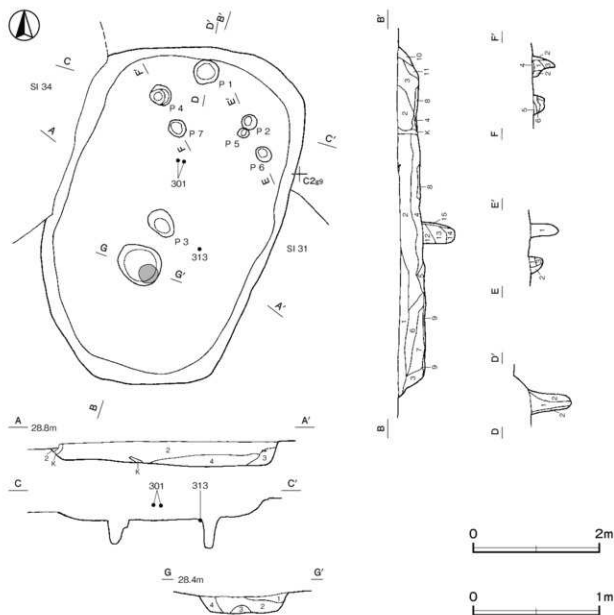
ピット土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 5 極暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 ロームブロック少量 | 6 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 7 にぶい黄褐色 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | |

覆土 11層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第 12～15 層は P 3 の覆土である。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 12 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 13 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 15 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 8 褐色 ロームブロック微量 | |



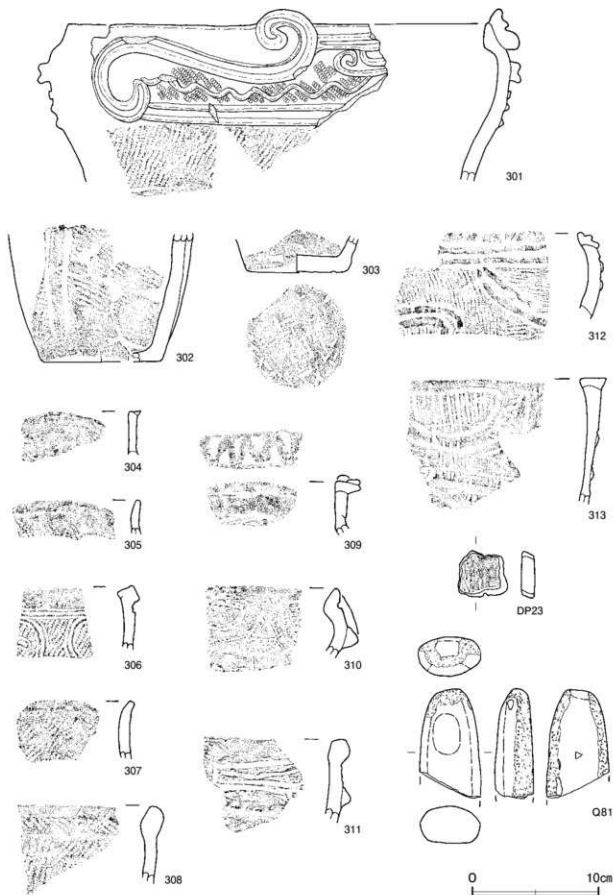
第 89 図 第 28 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片 323 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片錘), 石器 4 点 (磨製石斧, 磨製石斧未成品, 磨石, 砥石), 剥片 1 点 (石英), 残核 2 点 (チャート・安山岩), 自然礫 1 点 (チャート) が出土している。313 は東部の床面から, 301 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 28 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 90 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
301	縄文土器	深鉢	[334]	(137)	-	長石・石英・雲母・ 赤色斑点	にぶい橙	普通	背面に隆帯による種 S 字状文 (横) 隆帯下縁部状文 (横) 波状隆帯・並行隆帯 頭部同一帯体による縦筋文	覆土上層	10% PL110
302	縄文土器	深鉢	-	(101)	[96]	長石・石英・雲母	橙	普通	深鉢状隆帯が垂下 隆帯に沿って沈線を描文 隆帯及び底文に単筋横文列。(横)	覆土中	10%
303	縄文土器	深鉢	-	(29)	8.1	長石・石英・雲母・ 赤色斑点	にぶい橙	普通	下縁横方向のナテ 底面に刷代痕	覆土中	



第90图 第28号竖穴建物跡出土遺物実測図

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
304	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・黒色 粒子	にぶい橙	普通	口唇頂部に平坦面 外・内面横方向のナデ	覆土中	
305	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部は部分的に外縁 施文に単線縄文LR (縦) をまばらに施文	覆土中	
306	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 口唇頂部に内縁の平坦面 施文に 単線縄文RL(縦) 半軌台管により横線文・曲 線文を施文	覆土中	
307	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	施文に単線縄文RL(縦) 上部の欠損面に研削痕	覆土中	
308	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単線縄文RL(横) 肥厚 部以下(縦)	覆土中	
309	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・細黒 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇頂部に平坦面 蛇行隆帯が一部	覆土中	
310	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による区画文 隆帯上に単線縄文LR(縦・ 横) 区画内右端に飾	覆土中	
311	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部肥厚 隆帯と区画により文様描画 隆帯 上に単線縄文RL(横) 区画内(縦)	覆土中	
312	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	浅黄橙	普通	施文に単線縄文RL(横・斜) 2条の隆帯によ り文様描画	覆土中	
313	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色 粒子	にぶい赤褐	普通	口唇頂部平坦 隆帯により区画文・横線文を描 画 部分的に隆帯上にキザミ目	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP23	土器片経	37	39	1.1	182	長石・石英・雲母	赤褐	側部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 81	磨製石斧 木製品	(87)	49	3.1	[1941]	砂岩	表面面研磨 両側縁微細な敲打痕 刃部欠損	覆土中	

第29号竪穴建物跡(第91～97図 PL14・15)

位置 調査区北東部のC4e6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第622・635号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びているため、南北径5.41mで、東西径は7.60mしか確認できなかった。楕円形で、長径方向はN-79°-Eである。壁は高さ25～40cmで、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 3か所。炉1は中央部に付設されている。径83cmの円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は、炉1の西側に位置し、炉1に掘り込まれている。長軸105cm、短軸86cmの長方形の石囲い炉である。26個の炉石で構築されており、炉石には自然礫のほか、石皿(Q90・Q93)や砥石(Q88・Q89・Q91・Q92)が転用されている。炉床は、床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。炉3は、炉1の東側に位置している。長径64cm、短径55cmの楕円形で、床面を9cmほど掘りくぼめた地床炉である。中央部がわずかに赤変硬化している。重複関係から炉2から炉1へ作り替えられており、炉3は新旧関係が不明で、灰溜めのような機能も想定できる。

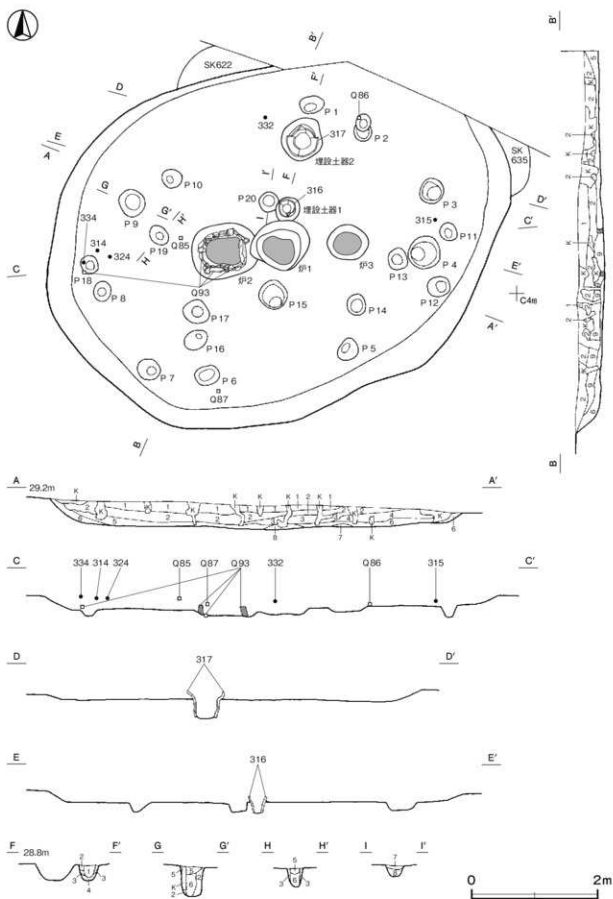
炉1・2土層解説

1 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量	6 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量		

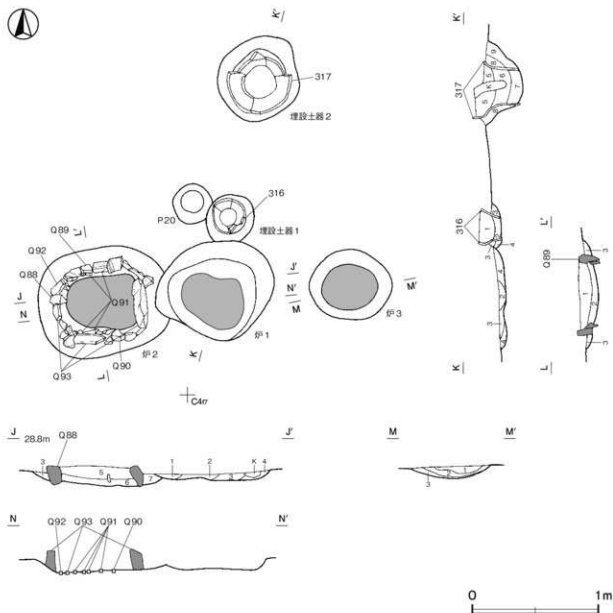
炉3土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	3 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量		

埋設土器 2か所。埋設土器1(316)は、中央部の炉1の北側に隣接して、埋設土器2(317)は北部にそれぞれ位置している。いずれも胴部下半を欠き、正位の状態で埋設されている。掘方は、埋設土器1が径40cmの円形で、深さ15cm、埋設土器2が径65～74cmの楕円形で、深さ40cmである。



第91图 第29号竖穴建物跡実測图(1)



第92図 第29号竪穴建物跡実測図(2)

埋設土層1 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

埋設土層2 土層解説

- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子微量
 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 7 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

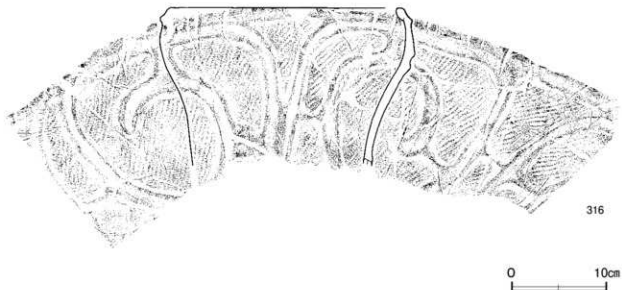
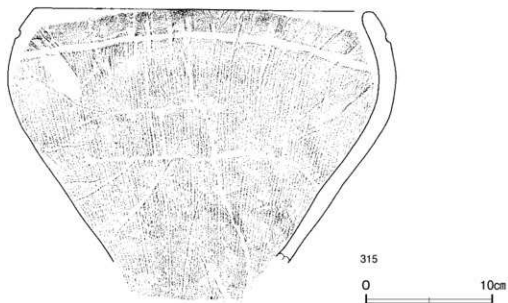
- 8 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 9 褐色 ローム粒子多量

ビット 20か所。P1～P9は深さ33～50cmで、配置から支柱穴である。P10～P20は深さ8～38cmで、補助柱穴と考えられる。

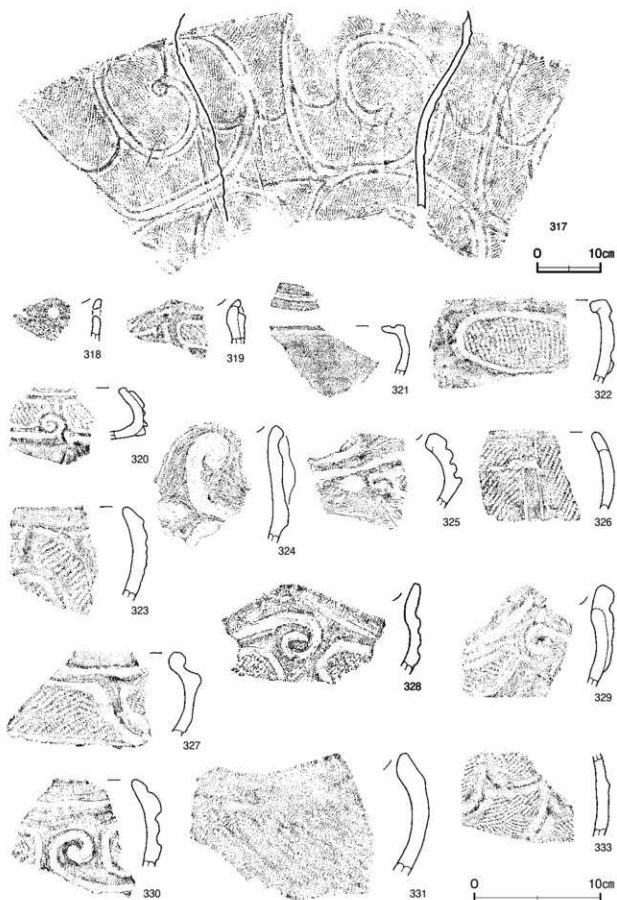
ビット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック多量
 3 暗褐色 ロームブロック中量
 4 褐色 ローム粒子多量

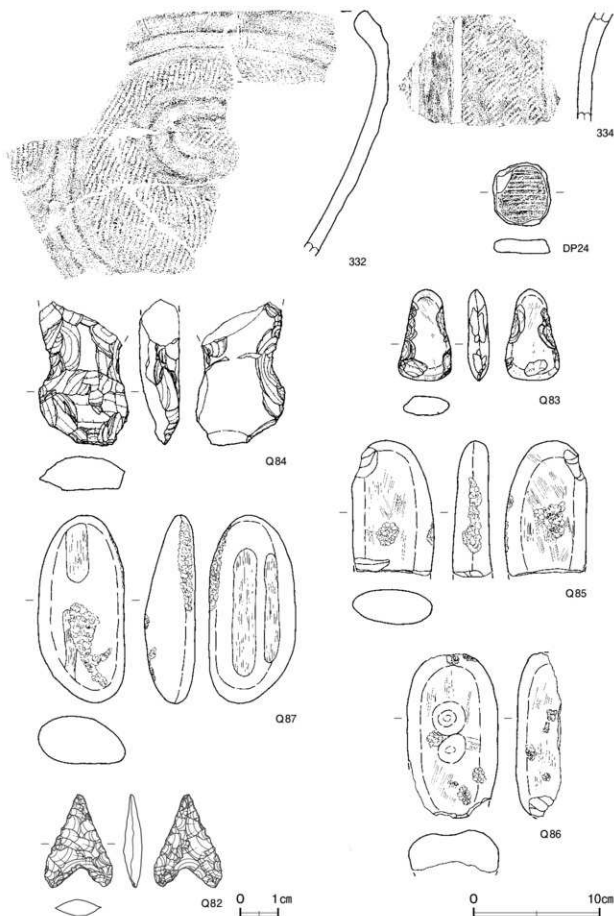
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 6 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 7 暗褐色 ローム粒子中量
 8 暗褐色 ローム粒子多量



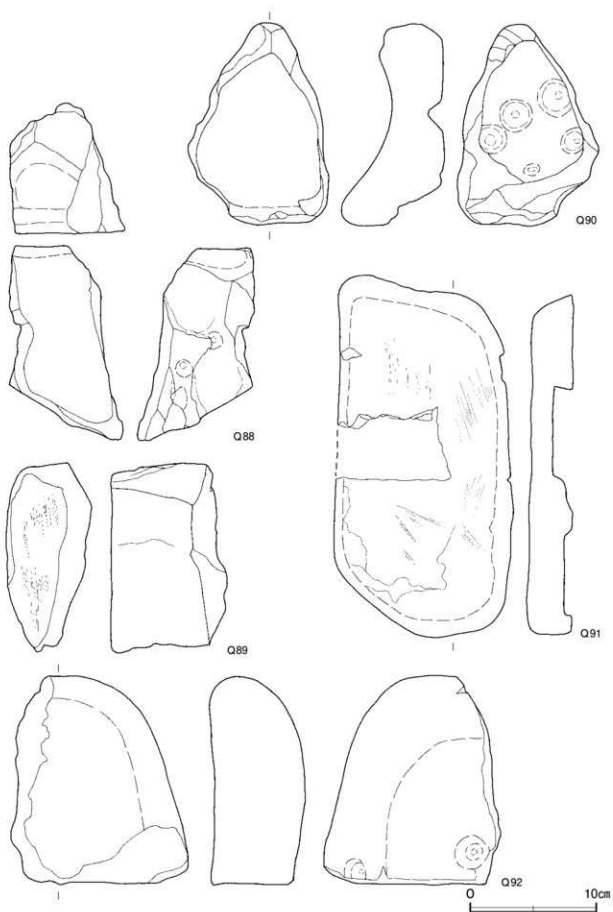
第93图 第29号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



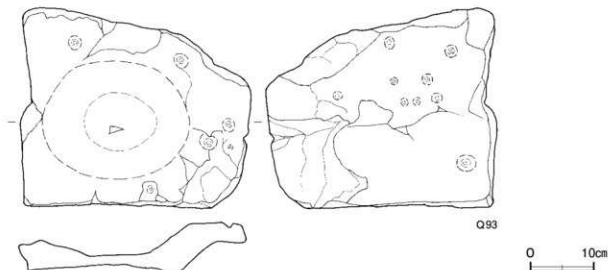
第94图 第29号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第95图 第29号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



第96图 第29号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)



第97図 第29号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

覆土 9層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子、焼土粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 2,241点（深鉢 2,218、浅鉢 17、鉢 1、壺 5）、土製品 1点（土器片円盤）、石器 43点（鎌 1、打製石斧 4、磨製石斧 1、石皿 1、磨石 7、敲石 1、凹石 2、砥石 1、炉石 25）、石核 2点（石英）、剥片 10点（瑪瑙 2、チャート 6、粘板岩 2）、母岩 1点（瑪瑙）、自然礫 1点が出土している。316は埋設土器 1、317は埋設土器 2、Q 88～Q 93は石囲い炉の炉石で、石皿・砥石などを転用している。Q 86は北東部の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。315は東部、Q 87は南部の覆土下層から、314・324・334、Q 85は西部、332は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。遺物の多くは覆土上層から中層にかけて出土しており、埋め戻される過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第29号竪穴建物跡出土遺物観察表（第93～97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
314	縄文土器	壺	[146]	[142]	-	長石・石英・白色 粒子	褐	普通	口縁部縮文 隆帯による横長の中央突起が高る 腹部縮文 縦い隆起線により文様縮減	覆土中層	15% PL111
315	縄文土器	深鉢	[266]	[201]	-	長石・石英・雲母・ 燧石・赤色粒子	橙	普通	口縁部縮文 太沈線を通らした区画 胴部は物面 状工具による無方向の歪縮文	覆土下層	30% PL111
316	縄文土器	深鉢	246	[166]	-	長石・石英・白色 粒子	にぶい褐	普通	2条の隆起線により文様縮減 隆起線間隙部 区画 内半部縮減文（横）	埋設土器 1	50% PL111
317	縄文土器	深鉢	-	[333]	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	腹文に半部縮減文（ランダム） 2条の隆起線 により文様縮減 隆起線に沿って滑潤	埋設土器 2	80% PL111
318	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁中央に穿孔 縦い沈線が一巡	覆土中	
319	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	腹直部に縮文文 隆帯により区画 区画内半部 縮減文（横）	覆土中	
320	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	背腹の隆帯による高低文・区画文 区画内0段 多条縮減文（横）	覆土中	
321	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	明赤褐	普通	口唇頂部に平面面を作り出した沈線が一巡 外・ 内面横方向のナデ	覆土中	
322	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	太沈線による横円区画 区画内半部縮減文（横）	覆土中	
323	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部縮文文 隆起線により文様縮減 区画内 半部縮減文（横）	覆土中	

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
324	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	太沈線による渦巻文 外・内面磨き	覆土中層	
325	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・白色粒子	にぶい黄褐色	普通	縁部磨付 沈線で渦巻文・区画文を施す 区画内卑筋縄文LR(横)を施す	覆土中	
326	縄文土器	深鉢	-	-	-	白色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部縦文帯 地文に卑筋縄文RL(縦) 口縁部下から2本の赤白沈線が並ぶ 沈線間磨き	覆土中	
327	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁上部に太沈線が一巡 縁部による区画文 区画内卑筋縄文LR(横)	覆土中	
328	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄褐色	普通	太沈線により渦巻文・区画文を施す 区画内卑筋縄文LR(縦)	覆土中	
329	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	縁部による赤十字文・区画文を施す 区画内卑筋縄文LR(横)	覆土中	
330	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	口縁上部に沈線が一巡 太沈線により渦巻文・区画文を施す 区画内卑筋縄文LR(横)	覆土中	
331	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁部無文帯 縁起線により口縁部を区画 地文に卑筋縄文LR(横)	覆土中	
332	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に卑筋縄文LR(縦・横) 並行微隆起帯により文様施す 口縁部及び微隆起帯間磨き	覆土中層	PL111
333	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に卑筋縄文RL(ランダム) 微隆起線で文様施す	覆土中	
334	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	地文に卑筋縄文RL(縦) 幅広い微隆起帯が帯下	覆土中層	

番号	種 別	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DF24	土師内磨	5.0	4.6	1.3	36.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	胴部片 周縁部粗く研磨	覆土中	未成品。

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 82	皿	2.5	1.8	0.5	1.4	チャート	基部中央部深く彎入 両面押圧潤滑	覆土中	PL161
Q 83	打撃石斧	7.3	4.2	1.6	63.7	角閃岩	小型 両側縁縁打調整 刃部は表裏を研磨 未定かり	覆土中	PL166 既熟
Q 84	打撃石斧	(11.5)	7.1	3.1	(291.6)	ホルンフェルス	分銅形 表裏に自然面 接り部は表裏を縁打 片刃部欠損	覆土中	PL162
Q 85	磁石	(10.8)	6.5	3.2	(292.2)	砂岩	両側縁及び表裏面に微細な縁打痕 無縁部縁打による潤滑	覆土中層	
Q 86	四石	(13.0)	7.2	(3.6)	(398.3)	砂岩	両側縁に深い稜をもつ 表面研磨 中央部に凹み痕2か所 表面潤滑	床面	PL180
Q 87	磁石	14.9	6.8	4.0	582.5	閃緑岩	両側縁及び表裏面に微細な縁打痕 表裏面に浅い溝状の砥面	覆土下層	
Q 88	磁石	15.4	9.1	10.4	1459.3	砂岩	磁石転用 表面は溝状の砥面 裏面凹み痕3か所	炉2	
Q 89	磁石	15.0	7.9	9.2	1261.8	緑色岩	磁石転用 片面平坦な砥面	炉2	
Q 90	磁石	16.0	11.2	8.6	1283.2	砂岩	石製転用 表面は溝状に研磨 裏面は多孔石	炉2	PL178
Q 91	磁石	28.7	13.9	4.1	2187.9	石英斑岩	磁石転用 表面は長軸方向の砥面 裏面潤滑	炉2	PL178
Q 92	磁石	16.6	14.0	8.8	2572.7	砂岩	磁石転用 表面は溝状の砥面 短縁部砥面 裏面凹み痕2か所	炉2	PL178
Q 93	磁石	31.6	36.4	8.7	11320.0	雲母片岩	石製転用 表面は溝状に深く研磨 凹み痕6か所 裏面凹み痕3か所	炉2	PL178

第 30 号竪穴建物跡 (第 98・99 図 PL15)

位置 調査区南西部寄りの C 2h8 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 626・652 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 4.20m、短径 3.58m の楕円形で、長径方向は N - 81° - W である。壁は高さ 30cm 前後で、緩やかに傾斜している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。西壁際から焼土ブロックを確認したが、床面との間に間層があり、埋没過程で投棄されたものである。

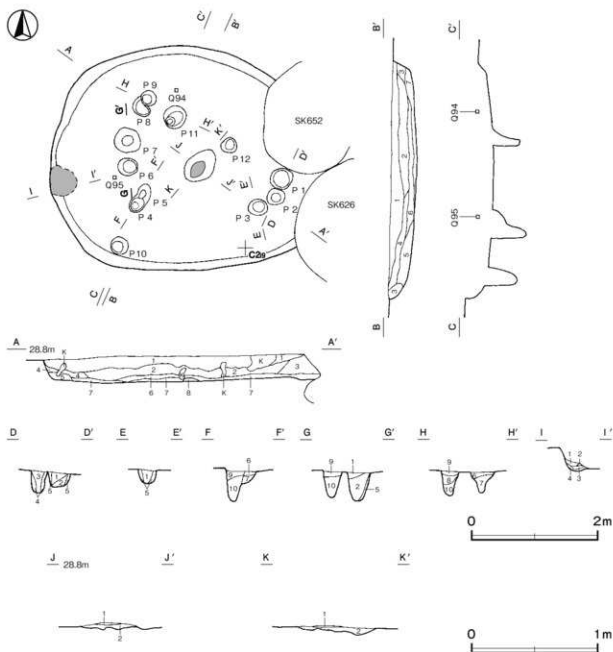
焼土層解説

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 明 褐色 焼土粒子中量 | 3 明 褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 明 赤褐色 焼土ブロック中量 | 4 明 褐色 焼土ブロック少量 |

炉 中央部に付設されている。長径 60cm、短径 40cm の楕円形で、床面とはほぼ同じ高さを使用した地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 暗 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 2 黒 褐色 ロームブロック中量 |
|------------------------|------------------|



第98図 第30号竪穴建物跡実測図

ビット 12か所。P1～P9は深さ22～55cmで、配置から主柱穴と考えられる。P10は深さ48cmで、出入口口施設に伴うビットと考えられる。P11・P12は深さ42cm・14cmで、補助柱穴と考えられる。

ビット土層解説

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 無暗褐色 ロームブロック少量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 8 濃い黄褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量 | 10 暗褐色 ローム粒子少量 |

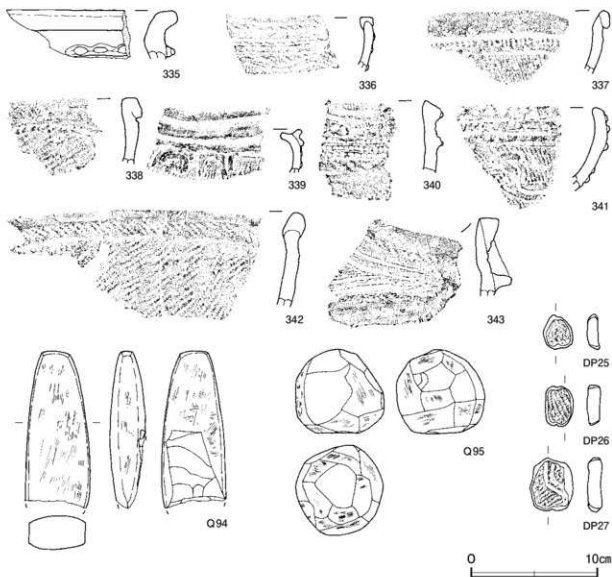
覆土 8層に分層できる。含有物が少なく、周囲から流れ込んでいる堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 697 点(深鉢 692, 浅鉢 5), 土製品 3 点(土器片錘), 石器 4 点(磨製石斧, 石皿, 磨石・敲砥石), 剥片 2 点(瑪瑙, 石英)が出土している。343 は西壁際の焼土ブロック層から, Q 94 は北部, Q 95 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。遺物は覆土上層から多く出土しており, 埋没する過程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 99 図 第 30 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 30 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 99 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
335	縄文土器	深鉢	-	(39)	-	長石・石英・赤色 砂子	にぶい	普通	口唇部肥厚 横位の斜交陰帯が二道	覆土中	
336	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口唇部肥厚 横位の斜交陰帯が二道 陰帯による横方向の並行線・総行文が二道	覆土中	
337	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁上部に溝状陰帯を帯らせ陰帯下に細点の連続斜交文が二道 胴部は斜位の垂線文	覆土中	
338	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 赤色砂子	にぶい	普通	口唇部肥厚 肥厚部に単筋縄文 1R (横) 口唇 上・下へん水状の彫刻が二道 総行文が二道	覆土中	
339	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 斜紋動物	にぶい	普通	口唇部肥厚 肥厚部に太直線が二道 基文に垂線文口 縁上部に背割れ陰帯を二道 陰帯により文様表面	覆土中	
Q94	土製品	土器片錘	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q95	石器	磨製石斧	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DP25	剥片	瑪瑙	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DP26	剥片	石英	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DP27	剥片	瑪瑙	-	-	-	-	-	-	-	-	-

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
340	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・白色 粘土・赤色粘土	にぶい肌	普通	横位の運行陰帯が一巡 陸帯下に横帯のナゲ 四3本の有筋水線が一巡 陸帯下は横帯のナゲ	覆土中	
341	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	地に単筋縄文LR(縦) 陸帯により文様消失	覆土中	
342	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁に肥厚 肥厚部に単筋縄文LR(横) 肥厚部以下ノミ	覆土中	
343	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	口縁頂部に平直面 陸帯陸帯により文様消失 陸帯上に単筋縄文LR(横) 区画内縄文土器 運行陰帯	焼土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP25	土器片断	2.8	2.4	1.0	6.6	長石・石英・雲母	黒褐	割部片 両端にキザミ目 周縁部を研磨	覆土中	
DP35	土器片断	3.2	2.3	1.1	9.4	長石・石英・雲母	赤褐	割部片 両端にキザミ目 片側縁部を研磨	覆土中	
DP27	土器片断	4.2	3.4	1.2	18.9	長石・石英・雲母	黒褐	割部片 両端にキザミ目 周縁部を縦軸に研磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q94	磨製石斧 (125)	5.1	2.8	(265.5)		砂岩	定角式 全面研磨 側縁部に横 方部欠損	覆土上層	PL166
Q95	磨製石	6.6	7.0	7.1	462.3	チャート	円縁の全面に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土上層	PL171

第31号竪穴建物跡(第100・101図 PL16)

位置 調査区南西部寄りのC2g8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第675号土坑を掘り込み、第28・34号竪穴建物、第655号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 二段掘り込みをもつ有段式竪穴建物である。楕円形で、主軸方向はN-69°-Wである。上段は長径6.20m、短径4.70mである。壁は高さ18～32cmで、外傾している。下段は長径3.25m、短径2.35mで、上段との高低差は16～36cmで、壁は外傾している。

床 上・下段ともにはほぼ平坦で、下段のほぼ全体が踏み固められている。上段の壁下には壁溝が全周しており、下段は北壁から東壁にかけて壁溝が廻っている。

ピット 21か所。下段に伴うピットは3か所である。P1・P2は深さ94cm・92cmで、東西に対峙して位置していることから主柱穴である。P3は深さ24cmで、性格は不明である。上段に伴うピットは18か所である。P4～P7は深さ72～130cmで、配置から主柱穴である。P8～P14は深さ15～62cmで、壁際に位置していることから壁柱穴である。P15～P21は深さ22～35cmで、補助柱穴と考えられる。

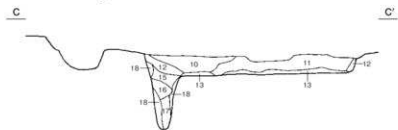
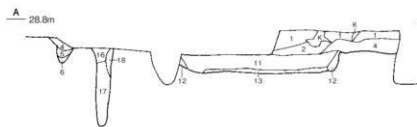
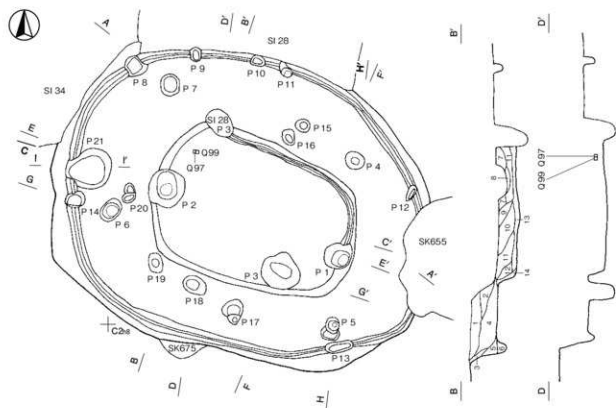
覆土 14層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。第15～18層は、各ピットの覆土である。

土層解説

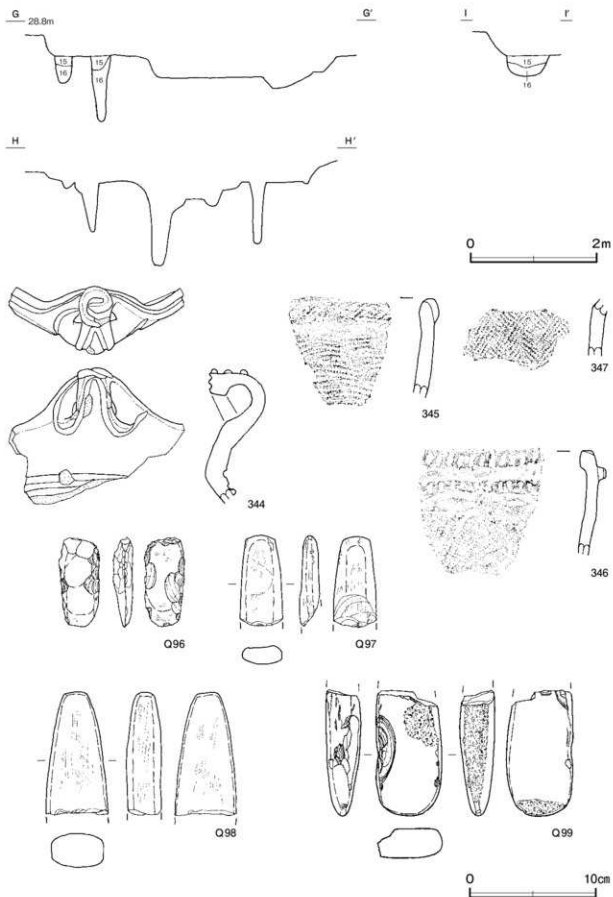
1 黒褐色	ローム粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	12 黒褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック微量	14 暗褐色	ローム粒子中量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	15 明褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	16 にぶい褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	17 にぶい褐色	ロームブロック少量
9 黒褐色	ローム粒子少量	18 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片142点(深鉢)、石器5点(打製石斧1、磨製石斧3、磨製石斧未成品1)、自然礫4点が出土している。Q97・Q99は下段の北西部の床面からまともに出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。344・346はP1の覆土中から出土しており、主柱穴を抜き取った後の埋土に混入したものと考えられる。

所見 楕円形を呈する有段式竪穴建物であり、時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 100 图 第 31 号竖穴建物迹实测图



第101图 第31号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 31 号竪穴建物跡出土物観察表 (第 101 図)

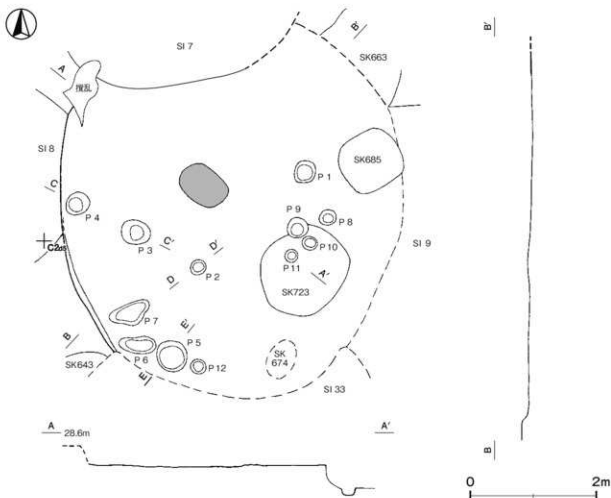
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
344	縄文土器	深鉢	-	(107)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	把手部等に段帯による溝を有し、肩部に沿って沈線 2本の太直線を施らす胎土を区画	P 1 覆土中	PL112
345	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい濁	普通	口唇部肥厚、肥厚部に単筋縄文LR (横) 口唇 部以下 (斜)	覆土中	
346	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	口唇部及び口縁部にキザミ目隆帯が一段、地 文に単筋縄文LR (縦)	P 1 覆土中	PL112
347	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	単筋縄文LRでの縦・横施文による変形構成	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴		出土位置	備 考
Q 96	磨製石斧	7.1	3.2	1.5	48.7	角閃岩	小型	表面面研磨 側縁部敲打調整 刃部は表面から研ぎ出す	覆土中	PL169
Q 97	磨製石斧	(7.2)	3.4	1.6	(59.1)	緑色凝灰岩	小型	全面研磨 側縁部に横 刃部欠損	床面	PL169
Q 98	磨製石斧	(9.8)	4.9	2.8	(222.2)	安山岩	定角式	全面研磨 側縁部に横 刃部欠損	覆土上層	PL166 視触
Q 99	磨製石斧 未成品	(10.0)	3.3	2.8	(237.3)	ホルンフェルス	定角式	全面を研磨 側縁部に横 刃部欠損及び刃部片面に微細な敲 打調整 基部欠損	床面	

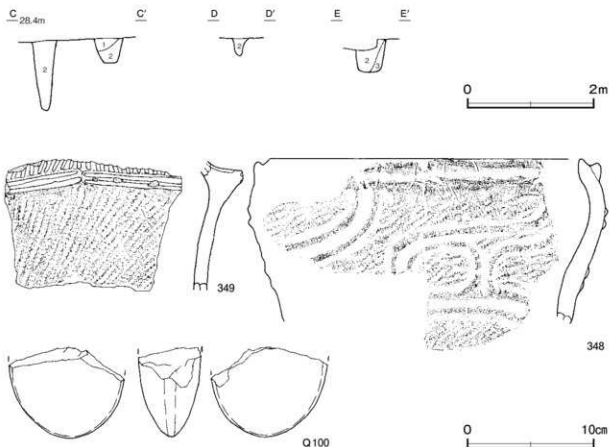
第 32 号竪穴建物跡 (第 102・103 図)

位置 調査区西部の C 2c5 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 8 号竪穴建物跡、第 642・643・662・663・682 号土坑を掘り込み、第 7・9・33 号竪穴建物、
第 685・723 号土坑に掘り込まれている。第 674 号土坑との新旧関係は不明である。



第 102 図 第 32 号竪穴建物跡実測図



第103図 第32号竪穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状 遺構の重複が激しいため明確でないが、壁部の残存状況や炉、ピットの配置から、長径5.90m、短径5.50mの楕円形で、長径方向はN-21°-Eと推定できる。壁は高さ10～30cmで、緩やかに傾斜している。

床 ほほ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。長軸80cm、短軸55cmの隅丸長方形で、床面とほぼ同じ高さを使用している地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 12か所。P1～P4は深さ33～120cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5～P7は深さ21～54cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P8～P12は深さ20cm前後で、重複している第9号竪穴建物に伴う可能性もあるが、詳細は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

3 暗褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

覆土 単一層で、ローム粒子が少量含まれている暗褐色土である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢8、浅鉢1）、石器1点（磨石）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 32 号竪穴建物跡出土物観察表 (第 103 図)

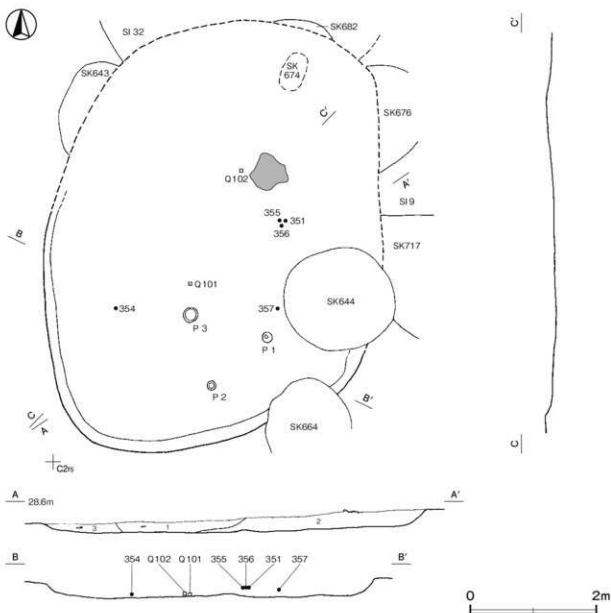
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
348	縄文土器	深鉢	(24.6)	(13.0)	-	灰石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部に沈線が二重 地文に単節縄文L形(横) 底面による口縁部文様	覆土中	10% PL112
349	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	灰石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	口唇部に平田面 糸縄文を施文 口縁上部に2本の並行沈線 地文に単節縄文L形(横)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q100	磨石	(7.1)	(9.2)	(5.0)	(200.3)	石英珪岩	凹縁部を残し表面磨蝕層	覆土中	PL180

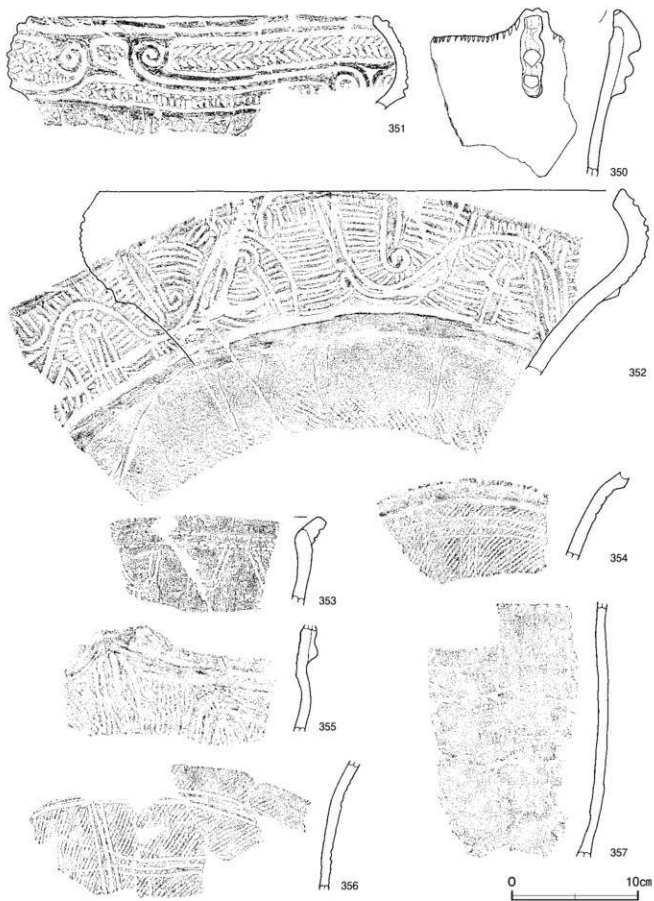
第 33 号竪穴建物跡 (第 104 ~ 106 図)

位置 調査区西部の C 2 d5 区、標高 28m ほどの台地平坦部に位置している。

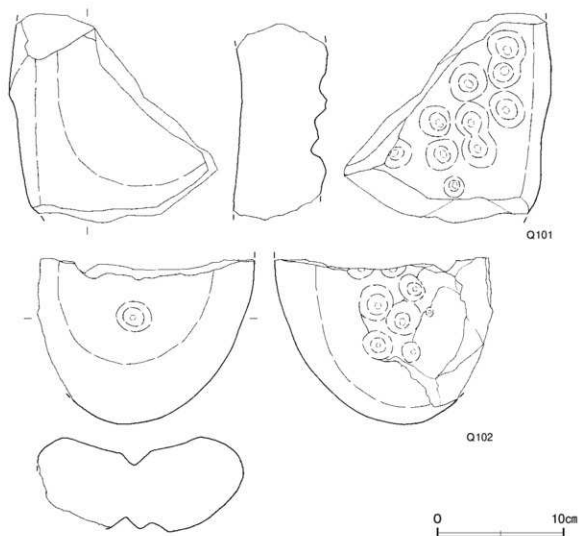
重複関係 第 9・32 号竪穴建物跡、第 643・676・682・686・697・717 号土坑を掘り込み、第 644・664 号土坑に掘り込まれている。第 674 号土坑との新旧関係は不明である。



第 104 図 第 33 号竪穴建物跡実測図



第 105 图 第 33 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第106図 第33号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

規模と形状 複数の遺構が重複しているため、南半部しか確認できなかった。南西壁の残存状況や炉の位置から、長径7.05m、短径5.30mの楕円形で、長径方向はN-8°-Eと推定できる。壁は高さ10～30cmで、緩やかに傾斜している。

床 ほほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部北寄りに付設されている。径50cmほどの不定形の地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット 3か所。P1～P3は、深さ20～28cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片502点(深鉢501, 浅鉢1), 石器5点(石皿3, 磨石2)が出土している。Q101・Q102は中央部の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。354は南西部, 357は南東部の覆土下層から, 351・355・356は中央部の覆土中層からまとまった状態で出土しており、埋没する過程で投棄されたもの、あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第33号竪穴建物跡出土遺物観察表(第105～106図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
350	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	口唇部にキザリ目・波瀾部に棒状の隆起帯付 隆帯上半部キザ目 地文に無文	覆土中	
351	縄文土器	深鉢	27.8	(7.4)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰褐色	普通	口縁部沈線が一面 隆帯による溝帯区画 朝先状溝帯文 区画内横位の矢羽状突起 区画外一部に矢羽状突起 肩部は無文	覆土中層	20% PL112
352	縄文土器	深鉢	[41.8]	[14.7]	-	長石・石英・雲母・白色粒子・黒色粒子	橙	良好	注線による波状区画 区画内横位の隆帯文・沈線 口縁下部隆起帯が一面 隆帯無文帯 地文に朝先状溝帯L.R.(縦)	覆土中	30% PL112
353	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇外縁部に管帯による波行有筋沈線が一面 口縁部に波行有筋沈線によるシ字状文が一面	覆土中	
354	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	溝帯状隆帯が一面 地文に目段多条線文L.R.(縦) 3本単位の沈線により縦・横の区画文	覆土下層	
355	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に無筋縄文R(横・斜) 隆帯による文様	覆土中層	
356	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	地文に無筋縄文L.R.(縦) 3本単位の沈線により縦・横の区画文	覆土中層	
357	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	無文土器 上半部縦位・下半部横位のナゲ	覆土下層	内面下半部に炭化物付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q101	石皿	(166)	(16.5)	(7.4)	(228.3)	花崗岩	表面を粗状に研磨 裏面多孔石	床面	PL179
Q102	石皿	(132)	(17.3)	7.8	(216.9)	砂岩	周縁上部研磨 中央部粗状に研磨 中央に凹み 裏面多孔石	床面	PL179 断面 砂岩断面

第34号竪穴建物跡(第107・108図)

位置 調査区西部のC27区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第28・31号竪穴建物跡、第671～673・715・716号土坑を掘り込み、第2号陥し穴に掘り込まれている。

規模と形状 複数の遺構が重複しているため、西半部しか確認できなかった。西壁の残存状況や炉・ピットの配置から、長径5.40m、短径4.80mの楕円形で、長径方向はN-16°-Wと推定できる。壁は高さ8～23cmで、緩やかに傾斜している。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 3か所。炉1は中央部に付設されている。長径132cm、短径95cmの楕円形の土器埋設炉で、南東部に刷部片の358～360が設置されている。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は、中央部を炉1に掘り込まれており、長径160cmで、短径は75cmしか確認できなかった。楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。南部に赤変硬化した炉床が確認できた。炉3は、炉2の南東側に隣接しており、赤変硬化した炉床面が露出した状態で確認した。長径55cm、短径47cmの楕円形で、床面とはほぼ同じ高さを使用している地床炉である。重複関係や炉床の残存状況から、炉2・炉3から炉1の土器埋設炉へと作り替えられている。

炉土層解説

1 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	8 赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量	9 暗黄褐色	ローム粒子多量
3 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4 赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	11 黄褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	12 暗赤褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	13 暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
7 暗黄褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 6か所。P1は深さ50cmで、配置から主柱穴である。P2～P6は深さ20～46cmで、壁際に位置していることから壁柱穴である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック微量	3 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	4 黒褐色	ローム粒子少量

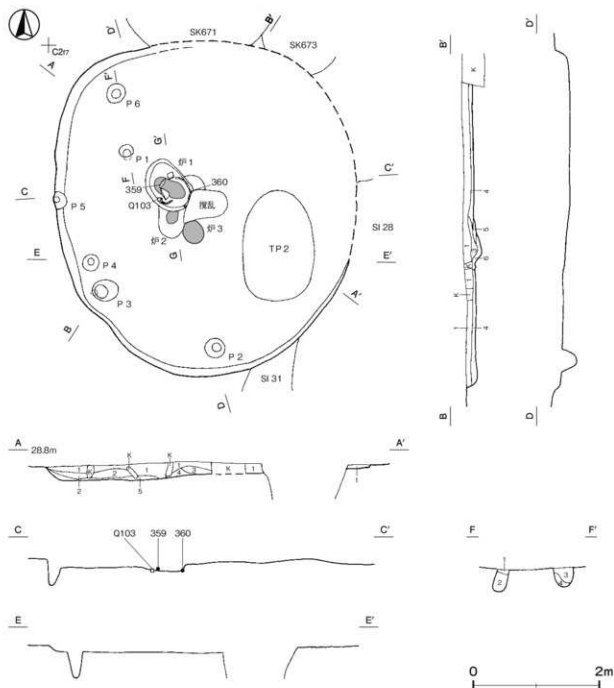
覆土 6層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

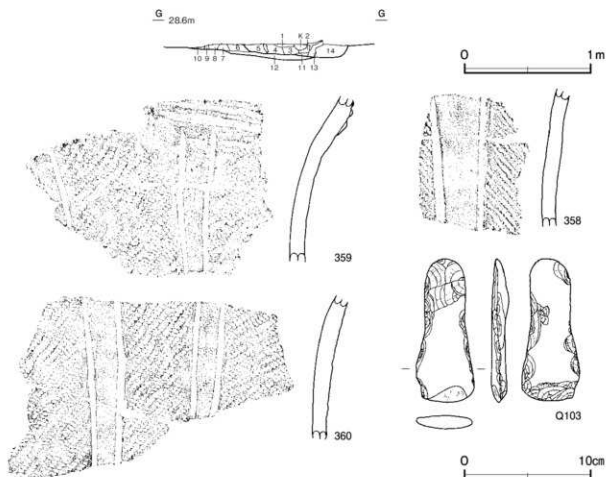
- | | | | |
|--------|--------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 178 点 (深鉢), 石器 3 点 (打製石斧, 磨石, 敲石), 剥片 1 点 (チャート) が出土している。358 ~ 360 は, 土器埋設炉の炉体土器である。Q 103 は, 土器埋設炉内から出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第 107 図 第 34 号竪穴建物跡実測図



第108図 第34号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第34号竪穴建物跡出土遺物観察表(第108図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
358	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文に半筋縄文LR(縦) 幅広い磨消縄文が垂下	伊羅土中	
359	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に半筋縄文RL(縦) 2本の縁帯を隔らせ 幅広い磨消縄文が垂下	土器埋設部	PL112
360	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文に半筋縄文RL(縦) 幅広い磨消縄文が垂下	土器埋設部	PL112

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q103	打製石斧	11.3	4.6	1.5	78.3	石英稜岩	瓣形 両側縁敲打調整 刃部は片面を研磨 平刃	土器埋設部	PL163

第35号竪穴建物跡(第109・110図)

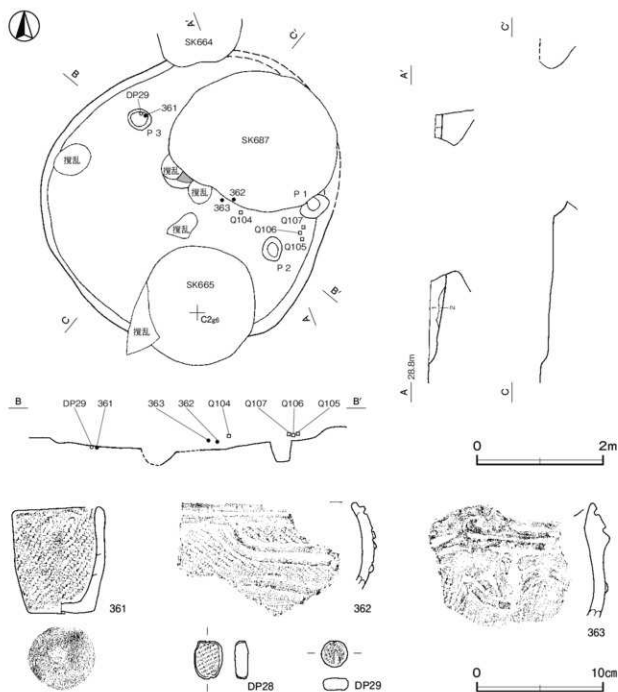
位置 調査区中央部西寄りのC2f5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第657号土坑を掘り込み、第664・665・687号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の遺構に掘り込まれているため、西部と東部の一部しか確認できなかった。壁の残存状況から、径4.55～4.85mのはほぼ円形と推定できる。壁は高さ10～20cmで、緩やかに傾斜している。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部に付設されている。掘削により、赤変硬化した炉床の一部しか確認できなかったが、径60cmほどの地床炉と考えられる。



第109図 第35号堅穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 3か所。P1～P3は深さ22～42cmで、補助柱穴と考えられる。

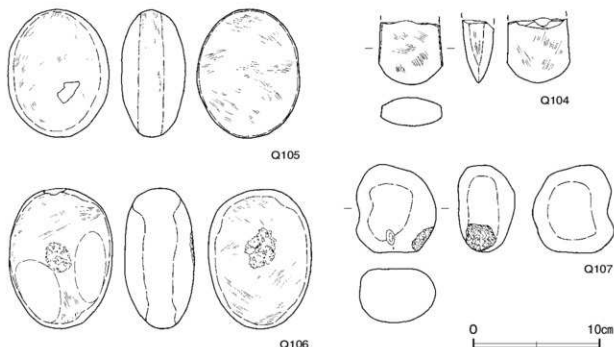
覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解読

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片242点(深鉢238, 浅鉢2, 器台1, コップ形土器1), 土製品2点(土器片錘, 土器片円盤), 石器7点(打製石斧1, 磨製石斧1, 磨石4, 敲石1), 剥片3点(石英2, チャート1)が出土している。361, DP29はP3の覆土上層から出土しており、柱の抜き取り後に投棄されたものと考えられる。



第110図 第35号竪穴建物跡出土遺物実測図

362・363, Q 104～Q 107 は中央部から東部にかけての覆土下・中層からまとめて出土していることから、埋没過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第35号竪穴建物跡出土遺物観察表(第109・110図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
361	縄文土器	フツ形埴	7.2	8.4	5.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	単筋縄文RL(縦) 内・底面横方向の磨き	P3覆土上層	100% PL112
362	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・ 白色微子	黒	普通	縄文に単筋縄文RL(横) 口縁部背面に縁帯によるクランク文を施す	覆土下層	PL112
363	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・針状 灰物	にぶい赤黒	普通	口縁部(注線)による蒸気文 胴部単筋縄文RL	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP28	土器片鏝	3.0	2.2	1.0	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黒	銅器片 両端にキザミ目	覆土中	
DP29	土器片鏝	2.0	2.0	1.0	4.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	銅器片 縁縁部を丁寧に磨削	P3覆土上層	

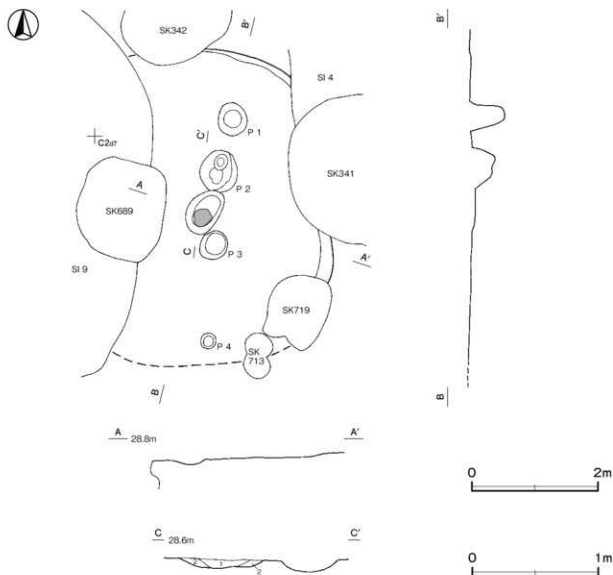
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 104	磨製石斧	(5.1)	5.0	2.5	(84.0)	砂岩	定角式(アリ刃) 両側面に横 基部欠損 刃部は表裏から磨き出す ハツ	覆土中層	PL180 遺失
Q 105	磨石	10.1	8.0	5.0	563.3	アブライト	銅線部に自然面を残し表裏面研磨	覆土下層	PL180
Q 106	磨石	11.1	8.2	5.5	(669.1)	安山岩	銅線部に自然面を残し表裏面中央に凹み痕	覆土下層	PL180
Q 107	敲石	6.9	6.4	4.6	285.3	石英	円縁の端部に微細な敲打痕	覆土下層	PL171

第36号竪穴建物跡(第111・112図)

位置 調査区西部のC 2d7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4・9号竪穴建物、第341・342・689・712・713・719号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面がほぼ露出した状態で、複数の遺構と重複しているため、北壁の一部と中央部の好跡しか確認できなかった。北壁の残存状況や炉・ピットの配置から、長軸5.00m、短軸4.40mの隅丸長方形で、主軸方



第 111 図 第 36 号竪穴建物跡実測図

向は $N-3^{\circ}-W$ と推定できる。壁は高さ3cmほどである。

床 中央部に向かって緩やかに低くなっている。硬化した部分は認められなかった。

炉 中央部に付設されている。長径70cm、短径50cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は、火熱を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

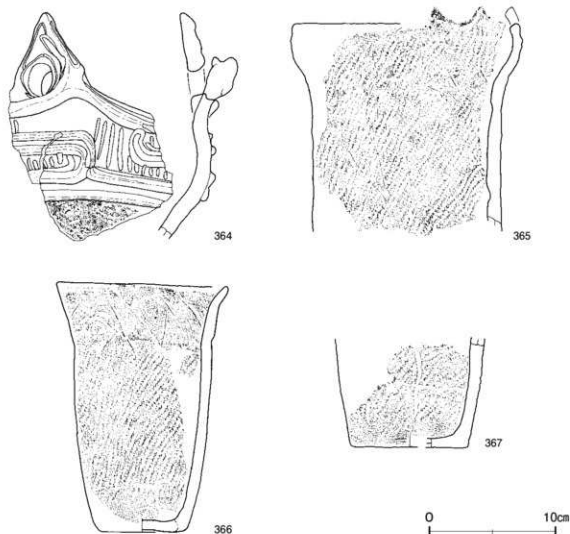
1 暗褐色 ロームブロック少量

2 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

ピット 4か所。P1は深さ52cmで、配置から主柱穴と考えられる。P2～P4は深さ20～30cmで、補助柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片15点（深鉢）が出土している。いずれも床面から破片が散乱した状態で出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第112図 第36号竪穴建物跡出土遺物実測図

第36号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第112図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
364	縄文土器	深鉢	-	(17.9)	-	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	良好	中身の把手 肩部に沈線が一部 口縁部は背面乳袋帯によるクラク文と縦の条線 肩部は早稲縄文RL (縦)	覆土中	15% PL113
365	縄文土器	深鉢	[17.4]	(17.8)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	器面全体に早稲縄文RL (縦)	覆土中	10% PL113
366	縄文土器	深鉢	13.6	19.9	(7.0)	長石・石英・雲母・白色粒子	明赤褐色	普通	口縁部縦く外反し無文 肩部以下早稲縄文RL (縦) 胴下半無文	覆土中	50% PL113
367	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	(9.2)	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に早稲縄文RL (縦) 沈線が垂下	覆土中	25%

第37号竪穴建物跡 (第113図)

位置 調査区東部のC3j0区、標高29mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第456・520・527号土坑、第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.52m、短径3.08mの楕円形で、長径方向はN-33°-Wである。壁は高さ10~17cmで、外傾している。

床 ほほ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 深さ42cmで、性格は不明である。

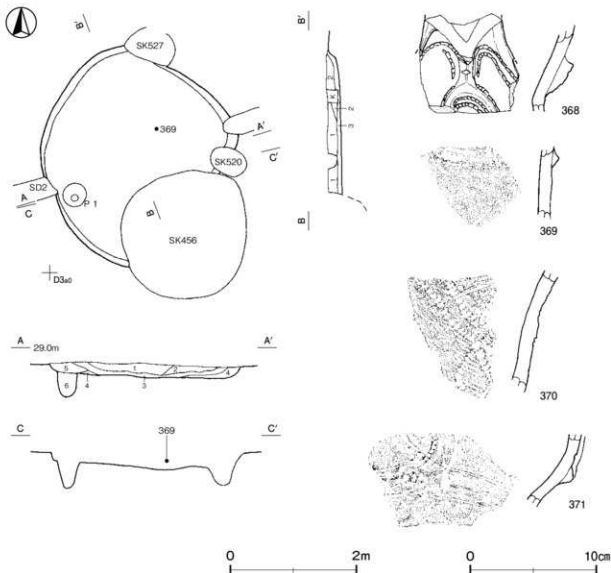
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6層は、P1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片22点(深鉢)、石器2点(磨石)が、覆土中からまばらに出土している。369は中央部の覆土上層から出土している。埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。



第113図 第37号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第37号竪穴建物跡出土遺物観察表(第113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
368	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にじみ赤褐色	普通	断面三角形の陰帯により文様描出 陰帯に沿って並行有筋状線文	覆土中	
369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・磁石	にじみ赤褐色	普通	断面三角形の陰帯により文様描出	覆土上層	

(2) 炉跡

第1号炉跡 (第114図 PL16)

位置 調査区北部西寄りのB3j1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号炉に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており、南北径0.50mで、東西径は0.31mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定できる。炉床は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。深さは15cmである。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

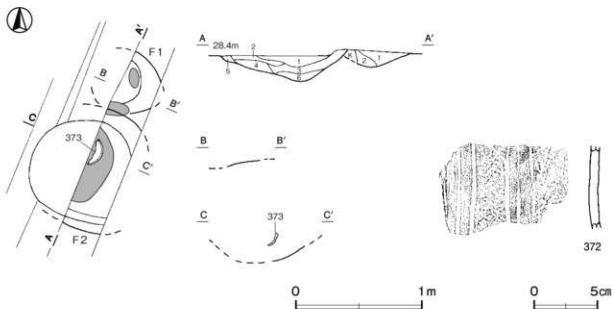
土層解説

1 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が覆土中から出土している。372は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第114図 第1・2号炉跡、第1号炉跡出土遺物実測図

第1号炉跡出土遺物観察表 (第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文に卑路禰文(縦) 3本の沈線が垂下沈線間閉鎖	覆土中	

第2号炉跡 (第114・115図 PL16)

位置 調査区北部西寄りのB3j1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号炉跡を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており、径0.96mほどの円形と推定できる。炉床は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。深さは22cmである。

覆土 6層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量・焼土粒子微量 | 5 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）、石器2点（石皿）が出土している。373は、中央部の覆土中層から正位の状態で出土していることから、土器埋設炉の可能性がある。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第115図 第2号炉跡出土遺物実測図

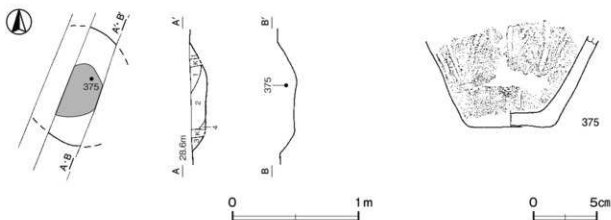
第2号炉跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈殿による区画文 区画内縦筋縄文L.B.L.（縦）	覆土中層	PL113

第3号炉跡（第116図 PL16）

位置 調査区北部西寄りのC3bl区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており、径0.92mほどの円形または楕円形と推定できる。炉床はほぼ平坦で、火熱を受けて赤変硬化している。深さは14cmである。



第116図 第3号炉跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 13点(深鉢)、石器2点(磨石)が出土している。375は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第3号炉跡出土遺物観察表(第116図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
375	縄文土器	深鉢	-	(72)	7D	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	良好	地文に単筋縄文Ⅱ(縦) 沈殿による彫面文 下部堆積方向の積み	覆土下層	

第4号炉跡(第117図 PL17)

位置 調査区西部北寄りのC2b8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており、径1.00mほどの円形または楕円形と推定できる。炉床は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。深さは13cmである。

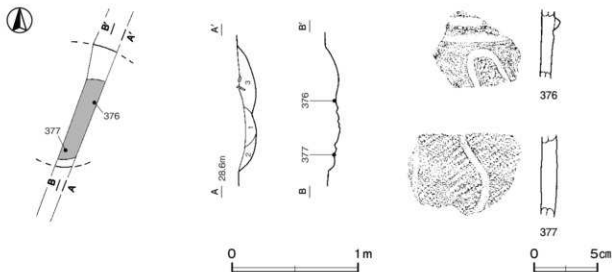
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 12点(深鉢)が出土している。376・377は炉床から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第117図 第4号炉跡・出土遺物実測図

第4号炉跡出土遺物観察表(第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
376	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	横位の段帯が一望、地文に単筋縄文Ⅱ(縦) 沈殿による彫り字文 [区画外積造]	炉床面	
377	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に0段多糸筋縄文Ⅱ(縦) 沈殿による直線・斜行線が多少	炉床面	

第5号炉跡 (第118図)

位置 調査区北部中央のC3b7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第286・337号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており、径0.93mほどの円形または楕円形と推定できる。炉床は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。深さは15cmである。

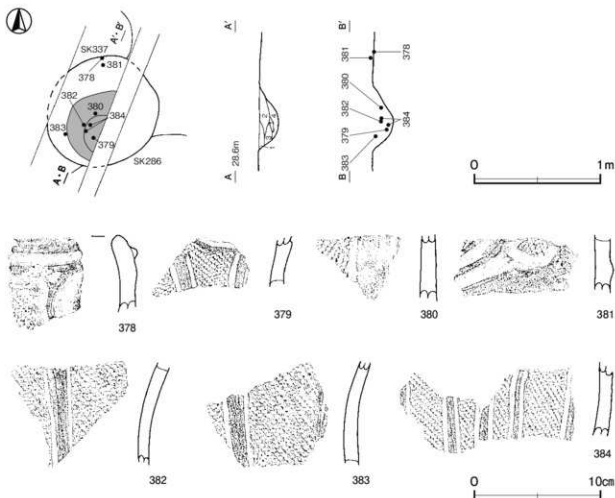
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック微量 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片34点(深鉢)、石器1点(炉石)が出土している。378～384が炉床を取り巻くように出土していることから、土器埋設炉または土器片囲い炉であった可能性が高い。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第118図 第5号炉跡・出土遺物実測図

第5号炉跡出土遺物観察表 (第118図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
378	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	口唇部沈線が一面、口縁部隆帯による横凹区画 縄文に準部縄文LR(Ⅱ)	炉床面	
379	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、 赤色粒子	にぶい・橙	普通	地文に準部縄文LR(Ⅱ) 2本の並行沈線による 文様描画、浅層煎煎消	炉床面	381と同一体。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
380	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	地文に単筋縄文 LRL (縦) 2本の太沈線が垂下軸位の花籠間着目	炉床面	
381	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	灰い発目による内彫区画 (区画内単筋縄文 LRL (縦))	炉床面	
382	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文に横筋縄文 LRL (縦) 並行沈線が垂下並行沈線間着目	炉床面	383と同一個体
383	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・練土	にぶい黄褐色	普通	地文に横筋縄文 LRL (縦) 並行沈線が垂下並行沈線間着目	炉床面	382と同一個体
384	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色斑点	にぶい橙褐色	普通	地文に横筋縄文 LRL (縦) 並行沈線が垂下並行沈線間着目	炉床面	PL113 379と同一個体

第6号炉跡 (第119図)

位置 調査区北部中央のC3c9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けており、長径0.60mで、短径は0.40mほどの楕円形と推定できる。長径方向はN-22°-Eである。炉床は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。深さは10cmである。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

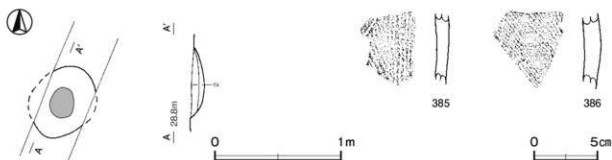
土層解説

1 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。385・386は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第119図 第6号炉跡・出土遺物実測図

第6号炉跡出土遺物観察表 (第119図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
385	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に縦・横位の断文 沈線により文様描画	覆土中	
386	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙褐色	普通	地文に無筋縄文 L (縦)	覆土中	

第7号炉跡 (第120図 PL17)

位置 調査区北部中央のC3c5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

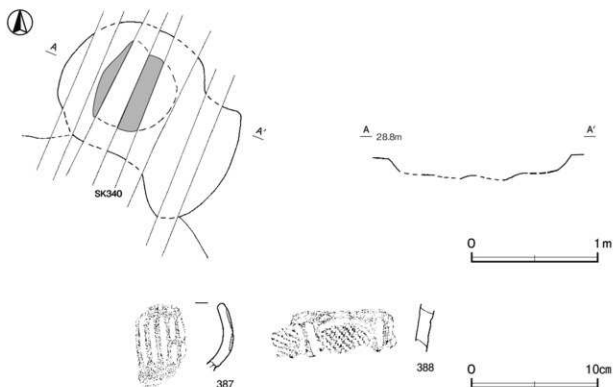
重複関係 第340号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長軸1.60m、短軸1.00mの不定形である。長軸方向はN-40°-Wである。炉床は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。深さは14cmである。

覆土 耕作による攪乱が著しいため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。387・388は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第120図 第7号炉跡・出土遺物実測図

第7号炉跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
387	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色塵点	粗	普通	口縁部副位の沈線 沈線下無文 頸位の沈線	覆土中	
388	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土・黒色粘土	粗灰	普通	縷文に草筋縷文LK（縦） 低い段帯による区画文 段帯上に太沈線	覆土中	

表3 縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)				
1	B 3 j1	-	[円形・楕円形]	0.50 × 0.31	15	皿状	自然	深鉢	本跡→F 2
2	B 3 j1	-	[円形]	[0.96 × 0.96]	22	皿状	自然	深鉢、石皿	F 1→本跡
3	C 3 b1	-	[円形・楕円形]	[0.92 × 0.92]	14	平坦	自然	深鉢、磨石	
4	C 2 b8	-	[円形・楕円形]	[1.00 × 1.00]	13	皿状	自然	深鉢	
5	C 3 b7	-	[円形・楕円形]	[0.93 × 0.93]	15	皿状	自然	深鉢、伊石	SK286・337→4跡
6	C 3 c9	N-22°-E	[楕円形]	0.60 × [0.40]	10	皿状	自然	深鉢	
7	C 3 c5	N-40°-W	不定形	1.60 × 1.00	14	皿状	不明	深鉢	

(3) 陥し穴

第1号陥し穴（第121図 PL17）

位置 調査区南東部のD 4 c3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第451号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部を第451号土坑に掘り込まれており、長径2.49mで、短径は1.87mしか確認できなかった。楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは190cmで、底面は幅30cmと狭く平坦である。長径方向の断面形はV字状で、壁は底面から高さ約1.6mまではほぼ直立し、くびれ部から上位は外傾している。南壁の底面から高さ約50cmには、斜位に穿たれたピット1か所が確認できた。

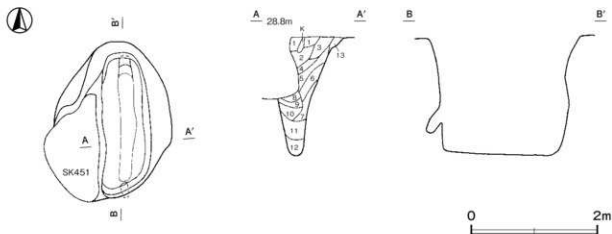
覆土 13層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子中量
4 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック多量
6 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ロームブロック多量		

遺物出土状況 縄文土器片27点(深鉢)が覆土中から出土している。いずれも細片で、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器及び第451号土坑との重複関係から、中期中葉と考えられる。



第121図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴 (第122図)

位置 調査区西部のC277区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第34号竪穴建物跡、第715号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.79m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは162cmで、底面は幅20cmと狭く平坦である。長径方向の断面形はV字状で、壁はほぼ直立している。

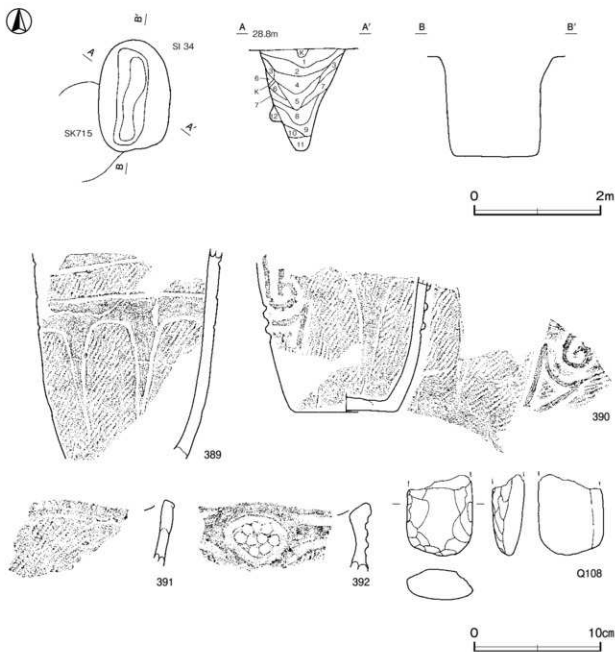
覆土 12層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック中量
5 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子微量	12 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片142点(深鉢134、浅鉢8)、石器2点(打製石斧、敲石)、剥片1点(黒曜石)が出土している。Q108は覆土上層、389～392はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第122図 第2号陥し穴・出土遺物実測図

第2号陥し穴出土遺物観察表(第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
389	縄文土器	深鉢	-	(16.7)	-	長石・石英・雲母・赤色結子	にぶい赤黒	普通	地文に口段多条縄文丸(縦) 沈線による横線及び波し字区画 区画内同一器体(斜)	覆土中	20% 390と同一器体。
390	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	8.1	長石・石英・雲母・赤色結子	にぶい橙	普通	地文に口段多条縄文丸(縦) シェーブ状による縦段の高条文 沈線によるし字の区画 区画外横溝	覆土中	20% P.113 389と同一器体。
391	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・焼成	橙	普通	口唇頂部横ナデ 口唇直下から単条縄文丸(縦)	覆土中	
392	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状結子・焼成	にぶい赤黒	普通	縦い波状口縁 波頂部上沈線による内形区画 区画内内形網交文を多発	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q108	打製石斧	(7.0)	5.3	2.6	(100.6)	ホルンフェルス	楕形	表裏に自然面 片側縦研磨 刃部は片面を敲打 基部欠損	覆土上層		

表4 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	断面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	D4c3	N-0°	楕円形	2.49×1.87	190	平坦	V字形	自然	深鉢	本跡→SK451
2	C2f7	N-0°	楕円形	1.79×1.10	162	平坦	V字形	人為	深鉢、浅鉢、打撃石系、磁石	SK31・SK715→本跡

(4) 土坑

今回の調査で、縄文時代の土坑 669 基を確認した。形状や遺物出土状況などが特徴的な土坑 344 基については、文章と実測図、遺物観察表で解説する。その他の形状が特徴的な土坑 125 基については、実測図、土層解説、観察表を掲載する。なお、当時代に帰属すると考えられるが、性格が不明な土坑 200 基については、一覧表のなかで掲載する。

ア) 形状や遺物出土状況などが特徴的な土坑

第1号土坑 (第123・124図 PL18)

位置 調査区北部西寄りのB3j1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号土坑を掘り込んでいる。

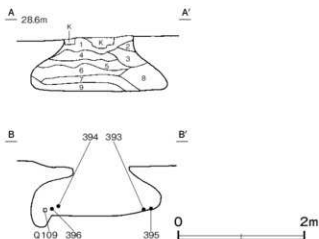
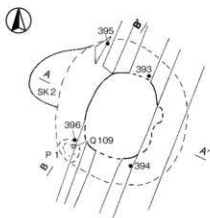
規模と形状 開口部は掘乱を受けているが、長径1.38m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN-22°-Eである。底面は長径2.34m、短径2.10mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは76cmである。壁は大きく内嚢して、袋状を呈し、底面から62～70cmのところまでぐびれ、上位は直立している。

ピット 径36cmの円形で、深さ18cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

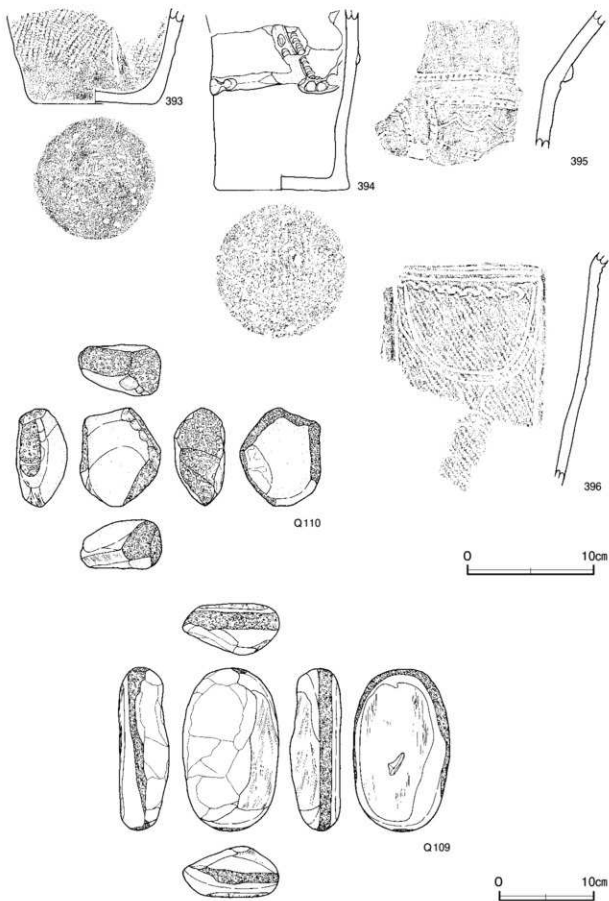
覆土 9層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |



第123図 第1号土坑実測図



第124图 第1号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 132点（深鉢129、浅鉢3）、石器3点（打製石斧、磨製石斧未成品、敲砥石）、剥片5点（瑪瑙4、チャート1）が出土している。393・395は北部の底面から、394・396・Q109は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも破片の状態、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第1号土坑出土遺物観察表（第124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
393	縄文土器	深鉢	-	(72)	96	長石・石英・雲母、黒色粒子	にぶい橙	普通	隆帯による懸垂文・地文に単節縄文R.L(縦)	底面	10%
394	縄文土器	深鉢	-	(144)	106	長石・石英・雲母、赤色粒子	にぶい橙	普通	太い隆帯による区画文・隆帯上に点彩文・隆帯の片側に沿って細点の有筋沈線・底面網代文	覆土下層	20%
395	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	上縁部縦位の条線・隆帯による区画文・隆帯に沿う有筋沈線・横位の隆帯と並行して沈線による点彩文・唇面ヤザ	底面	PL113
396	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母、赤色粒子	明赤褐	普通	懸垂する隆帯による区画文・区画内上部に沈線による小波状文及び2本の沈線による縦線文・地文に単節縄文L型（横）	覆土下層	PL113

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q109	磨製石斧未成品	17.2	10.2	5.4	1187.6	砂岩	側面に微細な敲打痕・表表面研磨	覆土下層	PL170 既述 石斧・石斧の再掲
Q110	敲砥石	7.8	6.4	4.0	258.2	石英燧岩	円縁の凹縁部に微細な敲打痕及び多方向からの底面をもつ	覆土中	PL171

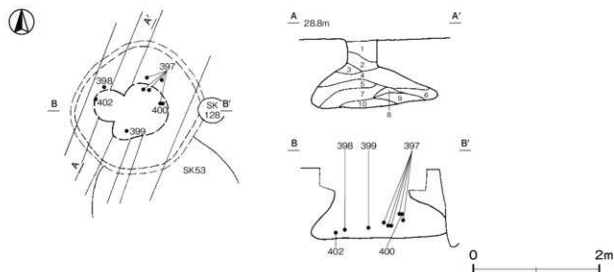
第3号土坑（第125・126図 PL18）

位置 調査区北部中央のC3a2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

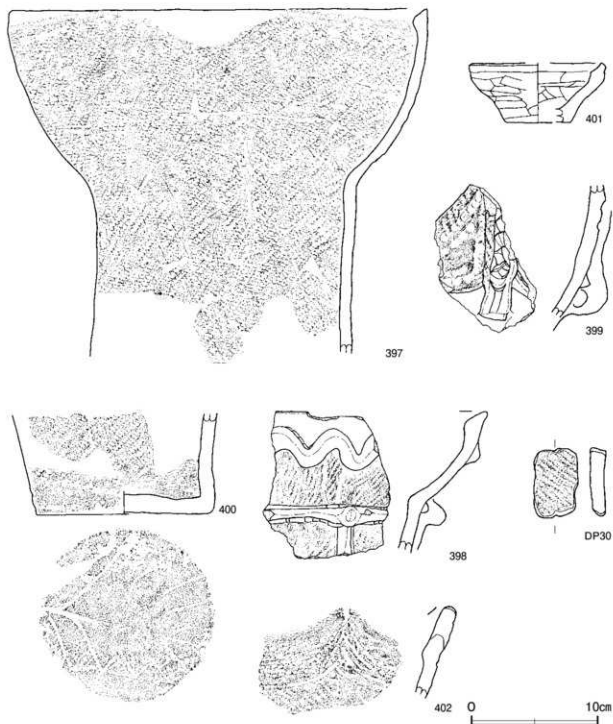
重複関係 第53号土坑を掘り込み、第128号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径120m、短径0.94mの不定形である。底面は長径2.08m、短径1.97mの円形で、底面は平坦である。確認面からの深さは111cmである。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から63～67cmのところできびれ、上位は直立している。

覆土 10層に分解できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第125図 第3号土坑実測図



第126図 第3号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 濃い黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片128点(深鉢127, 小型土器1), 土製品1点(土製品片錘), 石器4点(磨製石斧3, 磨石1)が出土している。397～400・402は中央部の覆土下層から中層にかけて、ややまとまった状態で出

土している。埋め戻しの早い段階で、一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第3号土坑出土遺物観察表 (第126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
397	縄文土器	深鉢	330	(27.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部内側 単節縄文LR (縦)	覆土中～下層	70% PL113
398	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部上縁無文、前面三角形の隆帯で帯位の絞 り縄文、肩部横位と垂下する隆帯で区画、接点 部に瘤状の突起、埴文に単節縄文LR (縦) 深部部から背割れ隆帯を想定し下縁に中央の抱 手をつける。口唇部隆帯上に単節縄文LR (横) 区画内に2本の有筋沈線	覆土下層	10% PL113
399	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	単節縄文LR (縦) 底部下縁縦方向のナデ 底径大径	覆土下層	
400	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	14.0	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部内面ヨコナデ 外面・側部内面ナデ	覆土中層	10%
401	縄文土器	小型土器	[10.2]	4.7	[5.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部内面ヨコナデ 外面・側部内面ナデ	覆土上層	20%
402	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部2本の有筋沈線と1本の沈線文 深部に キザミ目 埴文に無筋縄文LR (縦)	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF30	土器の片	5.5	3.5	1.5	32.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	側部片 長軸方向の両端にキザミ目	覆土中	

第5号土坑 (第127・128図 PL18)

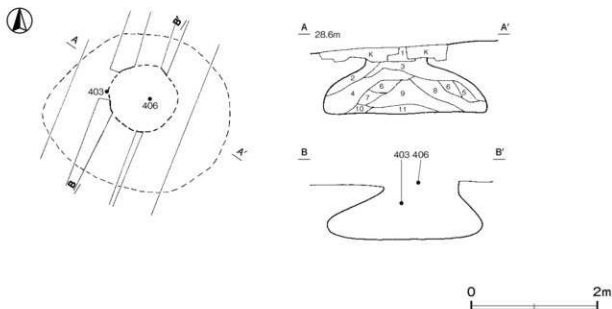
位置 調査区北部西寄りのC3a1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.08～1.09mの円形である。底面は長径2.94m、短径2.49mの不整形円形で、平坦である。確認面からの深さは107cmである。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から63～67cmのところまでぐいれ、上位は直立している。

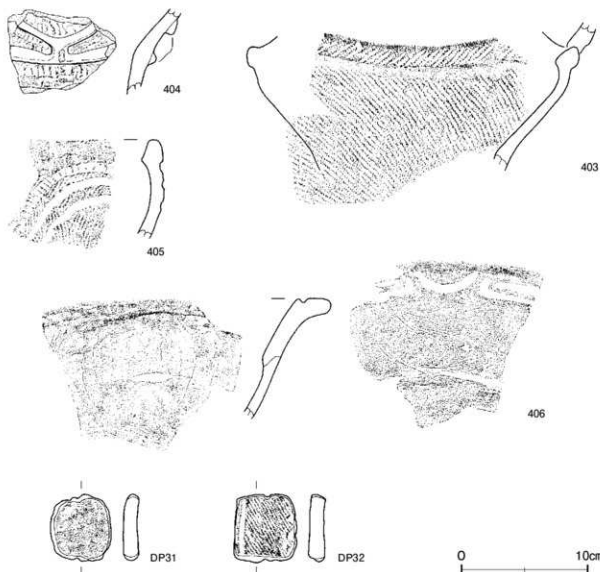
覆土 11層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 (締まり強い) |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |



第127図 第5号土坑実測図



第128図 第5号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片62点(深鉢56, 浅鉢6), 土製品2点(土器片錘), 石器4点(打製石斧, 磨製石斧, 石錘, 凹石), 剥片1点(チャート)が出土している。土器片は, いずれも小破片で, 覆土中層から上層にかけて多く出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第5号土坑出土遺物観察表(第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
403	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	黒褐色	普通	口唇部下縁に強い十字による段 口唇部単筋縄文LR(横), 胴部(縦)	覆土上層	30% PL113
404	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯による区画文 隆帯に沿って幅広い有筋沈線	覆土中	
405	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	幅広い有筋沈線と並行する2本の沈線 地文に無筋縄文LR(縦・斜)	覆土中	
406	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色(外) 赤褐色(内)	普通	口唇部弧状とし字状の太い沈線 外・内面ナデ	覆土上層	PL113
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP31	土器片錘	5.3	4.8	1.2	30.6	長石・石英	黒褐色	胴部片 両端にキザミ目		覆土中	
DP32	土器片錘	5.4	5.1	1.3	40.8	長石・石英・雲母・赤色粘土	褐色	胴部片 両端にキザミ目		覆土中	

第6号土坑 (第129図 PL19)

位置 調査区北部西寄りのC 3a1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.48m、短径1.29mの楕円形で、長径方向はN-23°-Eである。底面は平坦で、深さは40cmである。壁は外傾している。

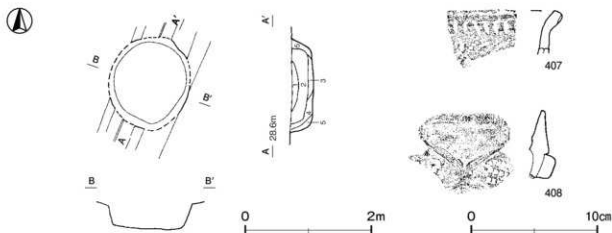
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第129図 第6号土坑・出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表 (第129図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
407	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部糸形文 地文に半路縄文LR	覆土中	
408	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色(内)	普通	ハート形の小波状突起 下部に溝み状の突起 口縁部有筋状器	覆土中	

第7号土坑 (第130図 PL18)

位置 調査区北部西寄りのB 2j0区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.95~0.97mの円形である。底面は平坦で、深さ28cmである。壁は外傾している。

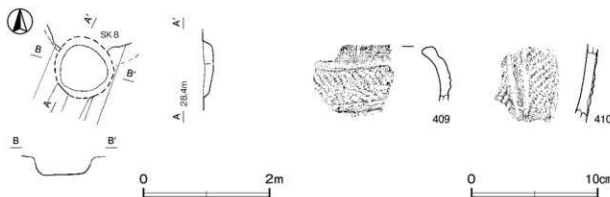
覆土 単一層である。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢), 剥片1点(チャート)が出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉と考えられる。



第130図 第7号土坑・出土遺物実測図

第7号土坑出土遺物観察表(第130図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	新土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
409	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にふい黄緑	普通	口縁北縁による区画文 区画内0段多糸縄文1段(縦)	覆土中	
410	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にふい黄緑(内)	普通	地文に草加縄文RL(縦) 2本の北縁を並下 浅黄黒顔料	覆土中	

第8号土坑(第131図 PL18)

位置 調査区北部西寄りのB2j0区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第54号土坑を掘り込み, 第2・7・38号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.10m, 短径1.70mの楕円形で, 長径方向はN-14°-Eである。底面は長径1.92m, 短径1.74mの不整形である。底面は平坦で, 確認面からの深さは84cmである。壁は内彎して, 袋状を呈し, 底面から40~45cmのところまでぐびれ, 上位は直立している。

ピット 径30cmの円形で, 深さ11cmである。性格は不明である。

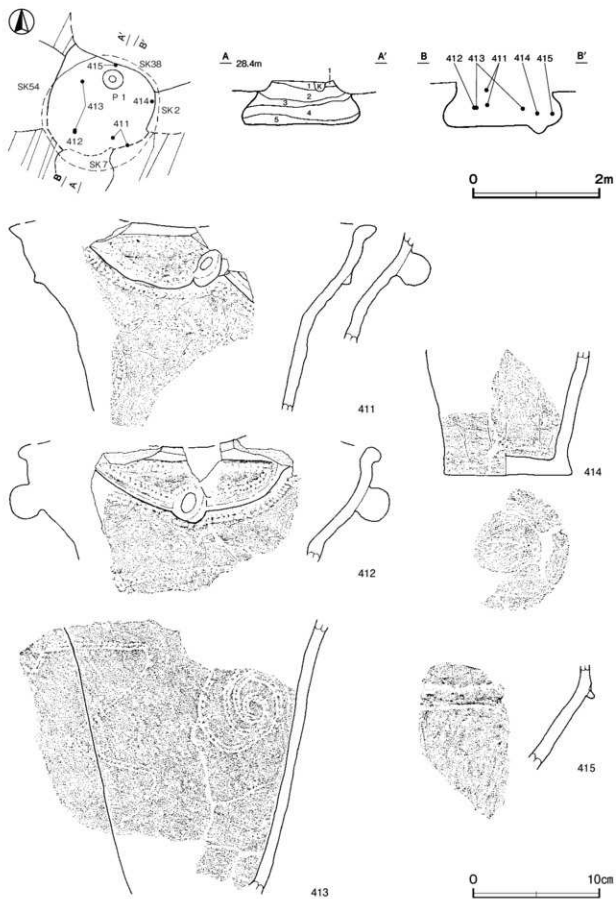
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化物が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片183点(深鉢), 石器2点(敲石, 石錘), 石核(石英)・剥片(石英)・礫(瑪瑙)各1点が出土している。415は北部, 411・414は東部, 412・413は西部の覆土中層から, いずれも散乱した状態で出土していることから, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 形状から貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 131 图 第 8 号土坑·出土遗物实测图

第8号土坑出土遺物観察表(第131図)

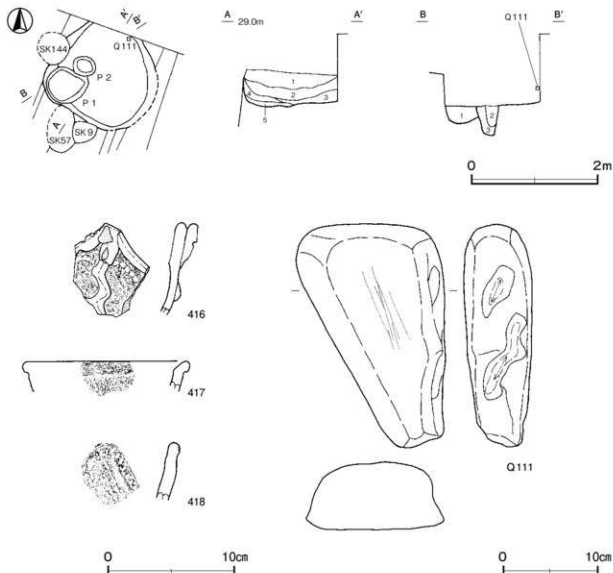
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
411	縄文土器	深鉢	[284]	(149)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部上端に隆帯による区画文 網み状の把手隆帯両側に沿い有筋沈線(一部ペン先状)	覆土中層	PL114 412と同層位
412	縄文土器	深鉢	[284]	(97)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部上端に隆帯による区画文 網み状の把手隆帯両側に沿い有筋沈線(一部ペン先状)	覆土中層	PL114 411と同層位
413	縄文土器	深鉢	-	(21.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	有筋沈線による渦巻文と蛇行状の懸垂文	覆土中層	30% PL114
414	縄文土器	深鉢	-	(180)	100	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ 底部外反 底部植物圧痕	覆土中層	
415	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	横位に隆帯を巡らし隆帯上端に角押文	覆土中層	

第10号土坑(第132図 PL19)

位置 調査区北西部のB 2区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9・57・144号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部の一部が調査区域外へ延びているが, 径1.74～1.80mのほぼ円形と推定できる。底面は平坦で, 深さ48cmである。壁はほぼ直立している。



第132図 第10号土坑・出土遺物実測図

ピット 2か所。P1は南西壁際に位置している。径60cmほどの円形で、深さ24cmである。位置と形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は深さ43cmで、P1に隣接していることから、補助的な柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 5層に分层できる。含有物が少ない暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック微量
4 暗褐色 ロームブロック中量
5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片42点(深鉢), 石器1点(砥石), 剥片1点(頁岩)が出土している。

所見 補助的な貯蔵施設と考えられるピットが伴うことや規模と形状から、袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第10号土坑出土遺物観察表(第132図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
416	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	頂部に楕円状の突起 口唇部(縁)に2つのキザミ付 突起下部に前面三角形状の隆帯を蛇行状に並べ、上面部に扇状の有筋沈線	覆土中	
417	縄文土器	深鉢	(12.8)	(2.4)	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	有筋沈線による文様推測	覆土中	
418	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部斜交文 区画内に沿って有筋沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q111	砥石	23.6	15.8	7.2	309.15	閃緑岩	表面及び側面に砥面	覆土上層	PL179 焼熟

第11号土坑(第133図 PL19)

位置 調査区北西部のB2h7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第40・79号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、東西径は2.25m、南北径は1.06mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、南東部に長径1.20m、短径0.66mの楕円形の張り出し部を有している。確認面からの深さは50cmで、壁はほぼ直立している。

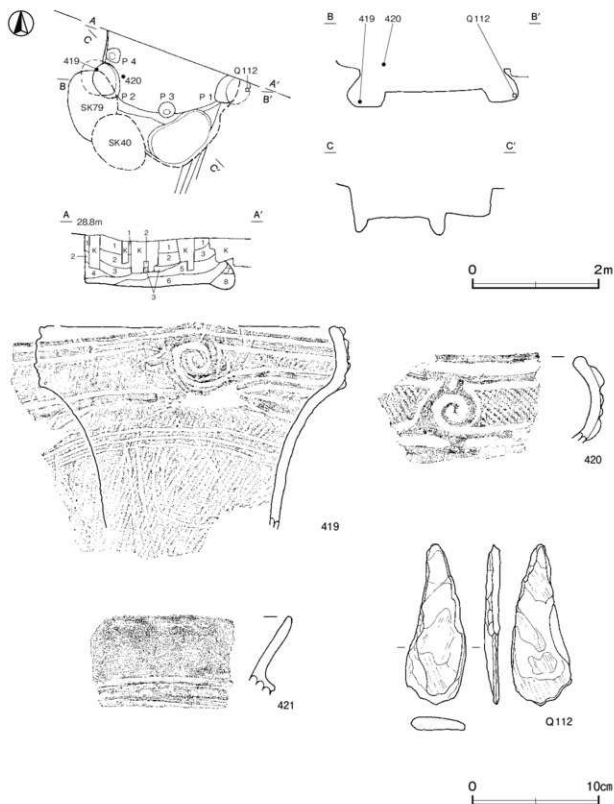
ピット 4か所。P1・P2は、径53～73cmほどの楕円形で、深さ21・27cmである。壁は内彎しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。P3・P4は、深さ19・29cmで、いずれも壁際に位置していることから、柱穴と考えられる。

覆土 8層に分层できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
7 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片46点(深鉢44, 浅鉢2), 石器3点(打製石斧2, 磨製石斧1)が出土している。Q112はP1の底面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。421はP1の覆土中、419はP2の覆土下層、420は南西部の覆土中層から、いずれも破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。



第133図 第11号土坑・出土遺物実測図

所見 補助的な貯蔵施設と考えられるピットが伴うことや規模と形状から、袋状土坑の下部と推定でき、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 11 号土坑出土遺物観察表 (第 133 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
419	縄文土器	深鉢	[226]	[161]	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	上縁部に沿って隆帯による高卷文や刺状文、胴部2本あるいは3本の沈帯による区画文、地文に非対称文列(横)・内面磨き	P 2 覆土下層	29% PL114
420	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	隆帯による高卷文・区画文、地文にO段多量な拍鐘文RL(横)	覆土中層	
421	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部くの字状に外反・外・内面磨き	P 1 覆土中	口縁部外面 は付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 112	打撃石斧	12.7	4.8	1.2	97.1	角閃岩	磨彩 周縁部縁打調整 刃部に磨削痕と使用痕	P 1 底面	PL163

第 15 号土坑 (第 134 図 PL20)

位置 調査区北部西寄りの B 2 8 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 1.52m、短径 1.32m の楕円形で、長径方向は N-68°-W である。底面は長径 1.92m、短径 1.72m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 45cm である。壁は内彎しており、袋状を呈している。

ピット 径 23cm の円形で、深さ 63cm である。壁際に位置していることから、柱穴と考えられる。

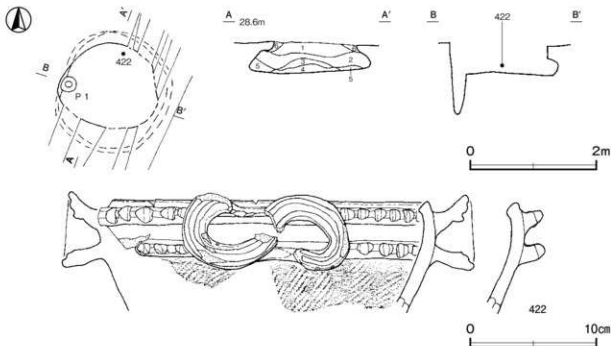
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 53 点(深鉢)、石器 1 点(凹石)、剥片 3 点(石英、砂岩、安山岩)が出土している。422 は北部の覆土下層から出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 134 図 第 15 号土坑・出土遺物実測図

第15号土坑出土遺物観察表(第134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
422	縄文土器	深鉢	[25.2]	[9.4]	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部上半に押入文を有する2本の隆帯を隔らし、線文字状の押入筋付。口縁部下半以下に0.5cm程度の文様。(編)	覆土下層	10% PL114

第16号土坑(第135図)

位置 調査区北部中央のC3a2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4・17号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径1.05m、短径0.80mの楕円形で、長径方向はN-21°-Eである。底面は径1.26~1.33mの円形で、底面は平坦である。確認面からの深さは52cmである。壁は内彎しており、袋状を呈している。

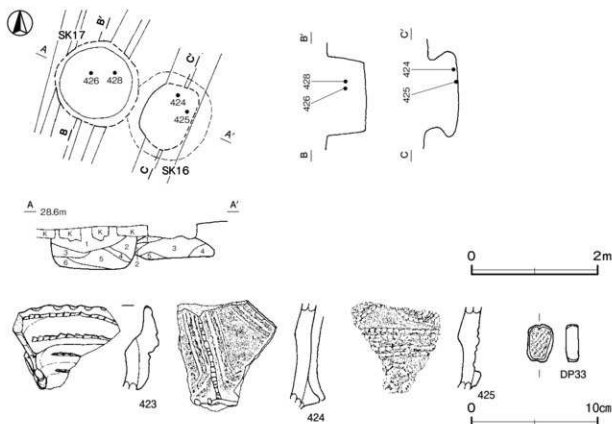
覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片177点(深鉢)、土製品1点(土器片錘)、石器1点(凹石)、剥片2点(石英)が出土している。425は北東部の底面、424は北部の覆土下層から、いずれも破片が散乱した状態で出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。



第135図 第16・17号土坑、第16号土坑出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表 (第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
423	縄文土器	深鉢	-	(67)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	口唇部に押印文 頸位の有筋沈線と断面呈三角形の押引文	覆土中	
424	縄文土器	深鉢	-	(89)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯上に押印文 隆帯に沿って有筋沈線	覆土下層	
425	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	半截竹管による押印文 楕円状の貼付	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP33	土器片断	3.0	2.1	1.0	7.2	長石・石英・雲母	黒褐色	割部片 長軸方向1対のキザミ目	覆土中	

第17号土坑 (第135・136図 PL20)

位置 調査区北部中央のC3a2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.30～1.31mの円形である。底面は平坦で、深さは63cmである。壁はほぼ直立している。

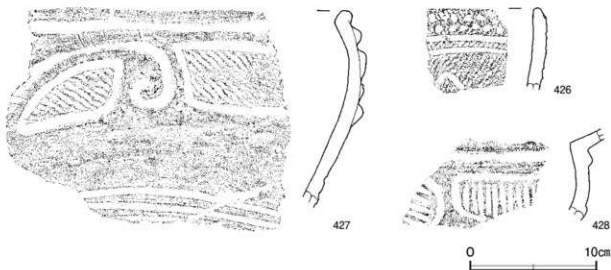
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 ほぼ黄褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片46点(深鉢)、石器1点(磨製石斧)が出土している。426～428は中央部の覆土中層から破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 円筒状の土坑で、貯蔵穴と考えられる。時期は、重複関係や出土土器から中期後葉と考えられる。



第136図 第17号土坑出土遺物実測図

第17号土坑出土遺物観察表 (第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
426	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に白段多角縄文乳(縦) 口縁上部に2列の斜交文 2本の有筋沈線及び山形文	覆土中層	
427	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に無筋縄文乳(横) 隆帯貼付 太い沈線による高倉文・区画文 胴部無文 3本の横位の沈線が揃う	覆土中層	PL114
428	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯貼付による楕円区画文 区画内を沈線で充填	覆土中層	

第19号土坑 (第137図 PL20)

位置 調査区中央部西寄りのC3c1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径210m、短径190mの楕円形で、長径方向はN-39°-Eである。底面は平坦で、深さは31cmである。壁は外傾している。

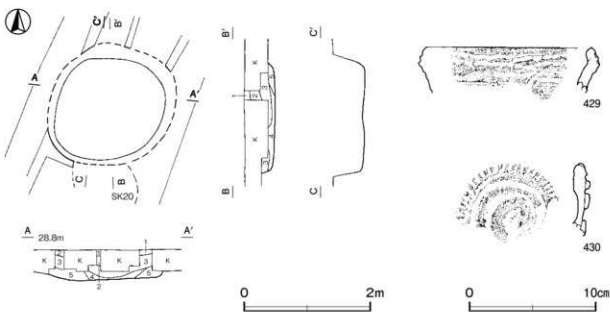
覆土 5層に分層できる。第1～2層は、レンズ状の堆積状況から、自然堆積で、第3～5層は、ロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)、剥片(瑪瑙)・礫各1点が出土している。

所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第137図 第19号土坑・出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表 (第137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
429	縄文土器	深鉢	[130]	(3.1)	-	長石・石英・霞母	明赤褐色	普通	口縁部2本の有筋沈線・沈線文 外・内面ナデ	覆土中	20%
430	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	内面中央に指痕による四本線部部にキザミ目線帯指付による筋線文	覆土中	

第30号土坑 (第138図 PL21)

位置 調査区西部のC2a6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第59号土坑を掘り込み、第58号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径258m、短径172mの楕円形で、長径方向はN-51°-Wである。底面は平坦で、深さは

117cmである。壁は外傾している。

ピット 3か所。いずれも径50cmほどの円形で、深さ21～63cmである。位置と形状から、柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

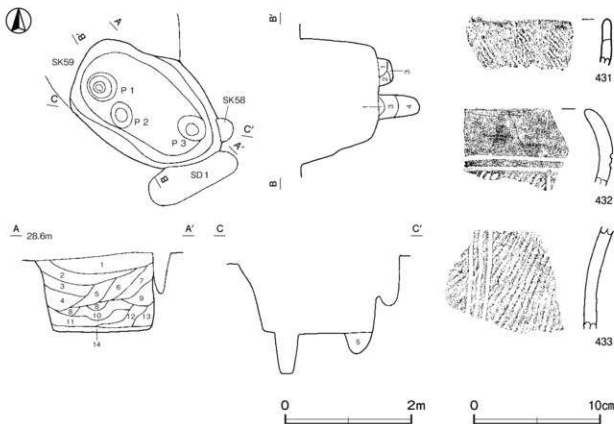
覆土 14層に分層できる。第1～4層は、レンズ状の堆積状況から、自然堆積で、第5～14層は、ロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 13 褐色 | ロームブロック多量（粘性強い） |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック少量（粘性強い） |

遺物出土状況 縄文土器片316点（深鉢314、浅鉢2）、石器2点（磨製石斧、敲石）、剥片5点（瑪瑙2、チャート1、緑泥片岩1、頁岩1）、礫1点（瑪瑙）が出土している。土器片はいずれも小破片で、多くは覆土中層から上層にかけて出土していることから、埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第138図 第30号土坑・出土遺物実測図

第30号土坑出土遺物観察表(第138図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
431	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐色	普通	単筋縄文L.R(縦)	覆土中層	
432	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁は細筋の無支那 2本の並行沈線で区画 下部は無筋縄文L.R(縦)	覆土中層	
433	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	無筋縄文R(縦)を地文とし3本の並行懸垂文	覆土中層	

第31号土坑(第139図)

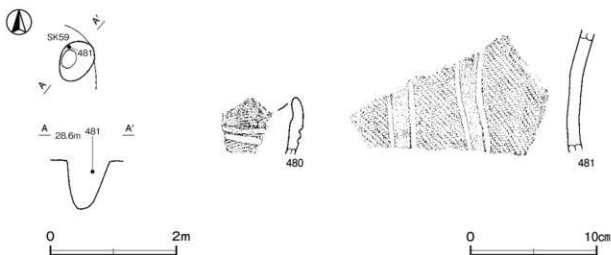
位置 調査区西部のC2a6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第59号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.65m、短径0.52mの楕円形で、長径方向はN-30°-Eである。底面は皿状で、深さは78cmである。壁は外傾している。

遺物出土状況 縄文土器片48点(深鉢)、剥片2点(石英、蛋白石)が出土している。481は、北西部の覆土中層から出土しており、埋没する過程で投棄あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 形状から柱穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第139図 第31号土坑・出土遺物実測図

第31号土坑出土遺物観察表(第139図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
480	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文は無筋縄文L.R(縦) 横位の沈線	覆土中	
481	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗	普通	地文に単筋縄文L.R(縦) 2本の沈線による懸垂文、沈線四角目	覆土中層	

第32号土坑(第140図)

位置 調査区西部のC2a6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第137・138号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.36 m, 短径 1.06 m の楕円形で, 長径方向は N - 53° - E である。底面は平坦で, 深さは 28cm である。壁は底面から外傾している。

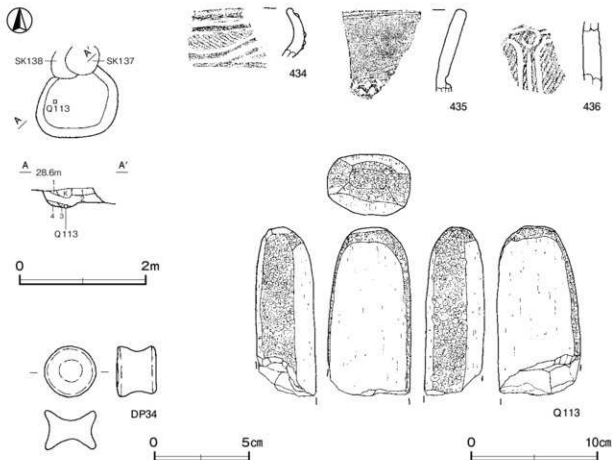
覆土 4 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 65 点 (深鉢), 土製品 1 点 (耳栓), 石器 (磨製石斧未成品)・剥片 (石英) 各 1 点が出土している。Q 113 は, 西壁際の底面から出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。



第 140 図 第 32 号土坑・出土遺物実測図

第 32 号土坑出土遺物観察表 (第 140 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
434	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文に1段多条縄文肌。(横) 隆帯と沈帯により文様結集 頭部は無文帯	覆土中	
435	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	頭部隆帯結集 交互斜突による波状文が広がる・内面磨き	覆土中	
436	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単条縄文肌。(縦) 沈帯による内文・横出文	覆土中	
DP34	土製品	耳栓	2.7	2.7	2.1	長石・石英・雲母	橙	白形	側面ナガ調整	覆土中	Pl.160

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q113	磨製石斧 未完成品	(13.4)	6.5	4.8	(674)g	アプライト	側面全面微細な縦打調整 表裏に研磨痕 刃部欠損	底面	PL170 既出

第35号土坑 (第141～143図 PL21)

位置 調査区中央部西寄りのC3d1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径1.76～1.94mの不整形円形である。底面は、長径2.73m、短径2.36mの楕円形で、底面は平坦である。深さは83cmで、壁は内傾し、袋状を呈し、東部がほぼ直立している。

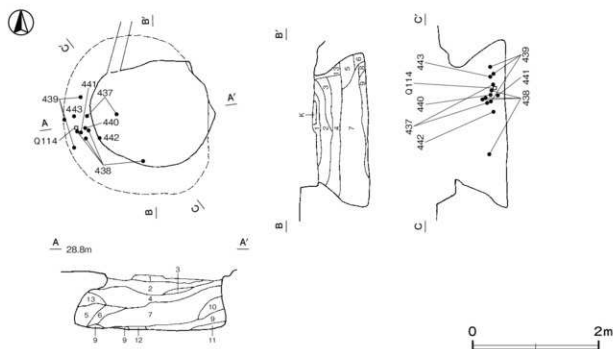
覆土 13層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

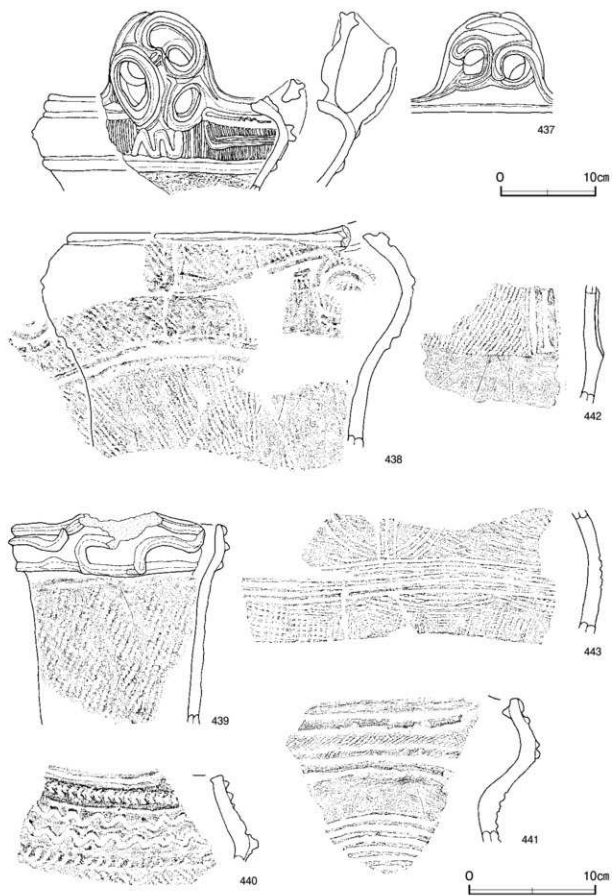
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子多量	9 黒褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子多量	11 暗褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子中量	13 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック多量		

遺物出土状況 縄文土器片299点(深鉢290、浅鉢9)、石器3点(打製石斧、磨石、凹石)、剥片1点(チャート)、礫3点が出土している。437～443、Q114は西部の覆土下層から、まとめて出土しており、埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

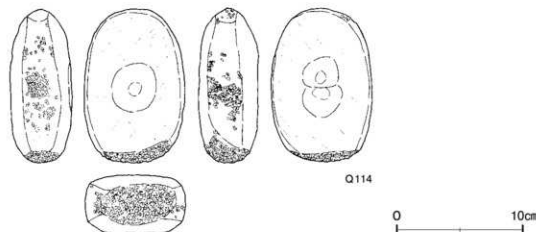
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第141図 第35号土坑実測図



第 142 图 第 35 号土坑出土遗物实测图 (1)



第143図 第35号土坑出土遺物実測図(2)

第35号土坑出土遺物観察表(第142・143図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
437	縄文土器	深鉢	-	(19.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色(内)	普通	口縁部隆帯による区画(区画内沈線文・隆帯によるクランク文・総行文・頸部半周線文)。	覆土下層	20% PL114
438	縄文土器	深鉢	[246]	[177]	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	口縁部隆帯による区画(区画内沈線文)。(斜)口縁部隆帯による高文・頸部並行する隆帯による区画。	覆土下層	20% PL114
439	縄文土器	深鉢	162	[168]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部隆帯(斜)・隆帯により区画し区画内にクランク文・高文(半周線文)。(縦)	覆土下層	40% PL114
440	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部隆帯と竹管による爪形文・総行文・頸部半周線文(LR(縦))	覆土下層	PL114
441	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内面に隆帯による段(横)の背割れ隆帯で区画(区画内無線文)。(縦)頸部無文帯横位の沈線文	覆土下層	PL114
442	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	高文に0段多葉網文。(縦)縦位の背割れ隆帯頸部下端部の字状に屈曲・無文	覆土下層	
443	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	高文に(赤赤文(縦))手載竹管文による並行線・高線文	覆土下層	PL114

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q114	凹石	122	8.0	4.8	669	安山岩	表裏中央部に凹み 表裏に研磨痕 側面全面に微細な縦行痕	覆土下層	PL181

第38号土坑(第144図 PL18)

位置 調査区北部西寄りのB20区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2・8・39・143号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているが、東西径224m、南北径196mの楕円形と推定できる。長径方向はN-65°-Wである。底面は平坦で、深さは26cmである。壁は緩やかに傾斜している。

ピット 3か所。P1～P3は、深さ12～27cmである。位置と形状から、柱穴と考えられる。

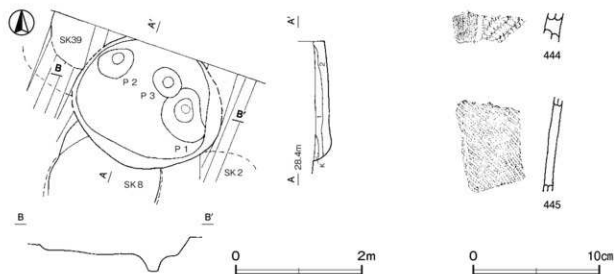
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 土 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 土 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片15点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 144 図 第 38 号土坑・出土遺物実測図

第 38 号土坑出土遺物観察表 (第 144 図)

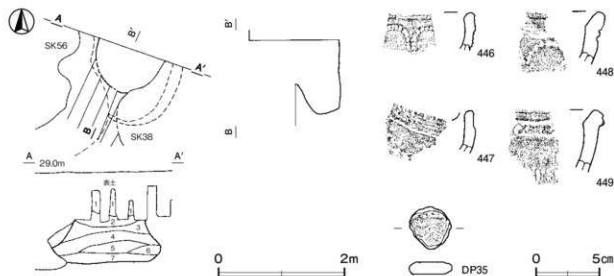
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
444	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にひ・黄褐色	普通	地文に単純縄文図、(縦)磨消による磨擦文	覆土中	
445	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にひ・黄褐色	普通	地文に単純縄文図 (横)	覆土中	

第 39 号土坑 (第 145 図)

位置 調査区北部西寄りの B 210 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 38・56 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、開口部は東西径が 1.13 m、南北径が 0.72 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は東西径が 1.38 m、南北径が 1.10 m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは 70 cm である。壁は内彎して、袋状を呈している。



第 145 図 第 39 号土坑・出土遺物実測図

覆土 7層に分層できる。ロームや焼土のブロック、炭化物が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 15 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片円盤）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第 39 号土坑出土遺物観察表（第 145 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
446	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	有筋沈離による楕円文	覆土中	
447	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口唇部上部にキザミ目 有筋沈離	覆土中	
448	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	有筋沈離による区画文	覆土中	
449	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆部上部にキザミ目 幅広い爪形文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP35	土器片円盤	3.3	3.4	1.0	11.9	長石・石英・雲母	黒褐	銅部片 短線部研磨	覆土中	

第 40 号土坑（第 146 図 PL19）

位置 調査区北西部の B 217 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 11・79 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.00 m、短径 0.76 m の楕円形で、長径方向は N - 40° - W である。底面は平坦で、深さは 72cm である。壁はほぼ直立している。

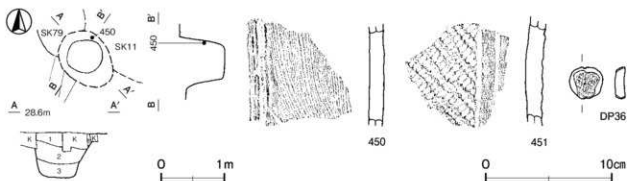
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 15 点（深鉢）、土製品（土器片錘・剥片（流紋岩））各 1 点が出土している。450 は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 146 図 第 40 号土坑・出土遺物実測図

第40号土坑出土遺物観察表 (第146図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
450	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	5本単位の柳葉状文 並行懸垂文	覆土中層	
451	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	地文に単輪縄文LR(縦) 沈線による懸垂文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP96	土器片	26	26	0.8	6.1	長石・石英・雲母	黒褐色	胴部片 長軸方向の両端にキザミ目	覆土中	

第41号土坑 (第147・148図 PL21)

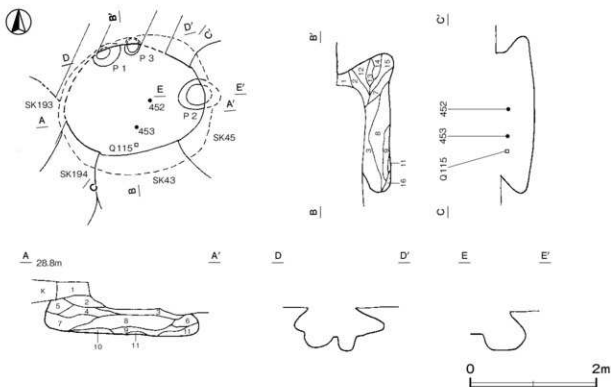
位置 調査区西部のC 2b0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第193号土坑を掘り込み、第43・45号土坑に掘り込まれている。第194号土坑との新旧関係は不明である。

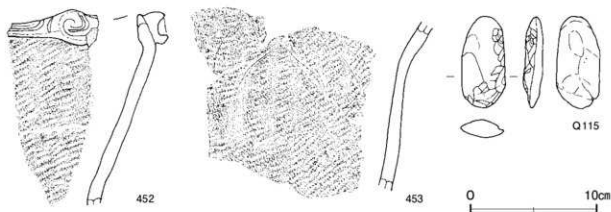
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径2.24m、短径1.74mの楕円形で、長径方向はN-89°-Wである。底面は径2.32~2.45mの円形で、平坦である。確認面からの深さは80cmで、壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 3か所。P1~P3は、長径25~65cmの円形または楕円形で、深さは17~26cmである。いずれも規模や配置から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 16層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不自然な堆積状況から、埋め戻されている。



第147図 第41号土坑実測図



第148図 第41号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | 裏沼パミスブロック多量、ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 におい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量(粘性やや強い) | 11 暗褐色 | 裏沼パミスブロック中量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量 | 13 褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量(締まりやや弱い) | 16 におい黄褐色 | 裏沼パミスブロック多量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 48点(深鉢)、石器(磨製石斧)・剥片(瑪瑙)各1点が出土している。452・453、Q 115は中央部の覆土層から出土している。まとまった範囲から出土していることから、ある程度埋め戻された段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第41号土坑出土遺物観察表(第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
452	縄文土器	深鉢	-	(15.5)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部隆帯による高帯文 口縁部部の平坦面に沈帯が写る 胴部0段多糸縄文RL(縦)を両方照して施文	覆土層	PL115
453	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	施文に0段多糸縄文RL(縦) 一部縦方向の隆帯	覆土層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 115	磨製石斧	7.2	3.5	1.5	54.4	緑色岩	小型	扁平な自然産の片側縁の片を敲打		覆土層	PL169

第43号土坑(第149図 PL22)

位置 調査区西部のC 2b0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

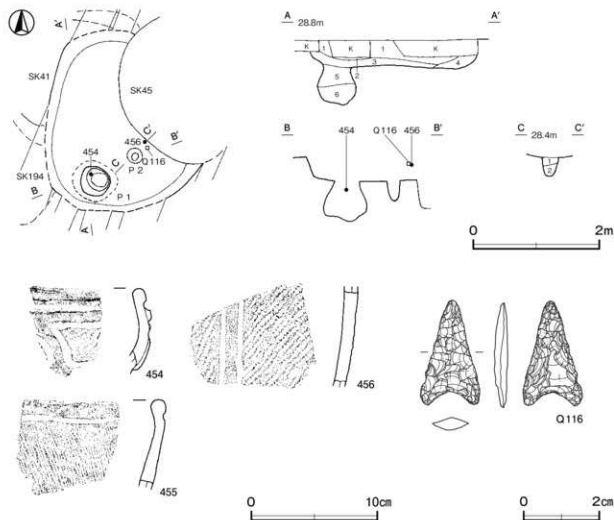
重複関係 第41・194号土坑を掘り込み、第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部を第45号土坑に掘り込まれているため、長径292mで、短径は252mしか確認できなかった。楕円形で、長径方向はN-13°-Eである。底面は平坦で、深さは41cmである。壁は外傾している。

ピット 2か所。P 1は径70cmほどの円形で、深さ63cmである。壁はやや内彎して、袋状を呈している。補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2は、深さ31cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 黒褐色 | ロームブロック微量 |
|-------|-----------|-------|-----------|



第149図 第43号土坑・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。第5・6層は、P1の覆土である。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子多量(縛まり弱い) |

遺物出土状況 縄文土器片181点(深鉢)、石器1点(鎌)、剥片3点(瑪瑙2, 安山岩1)が出土している。454はP1の覆土上層から出土しており、埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。456、Q116は中央部の覆土上層から出土しており、埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第43号土坑出土遺物観察表(第149図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
454	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	普通	口縁部太沈線による区画文 区画内半筋縄文(LR)(磨)	P1覆土上層	
455	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部1本の沈線 熱赤文(筋)	覆土中	
456	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい橙	普通	磨文に半筋縄文(LR)(磨) 2本の沈線による熱赤文 沈線間磨	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q116	甌	28	1.6	3.6	1.2	チャート	底部中央は増入	覆土上層	PL161

第45号土坑 (第150図 PL22)

位置 調査区西部のC3b1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第41・43・46号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径2.47m、短径2.08mの楕円形で、長径方向はN-10°-Wである。底面は平坦で、深さは49cmであり、壁は外傾している。

ピット 3カ所。P1は径35cmの円形で、深さ39cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。形状や配置から、補助的な貯蔵施設と考えられる。P2・P3は深さ59・21cmで、配置から柱穴と考えられる。

ピット土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ローム粒子微量

覆土 5層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。第6層は、P1の覆土である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

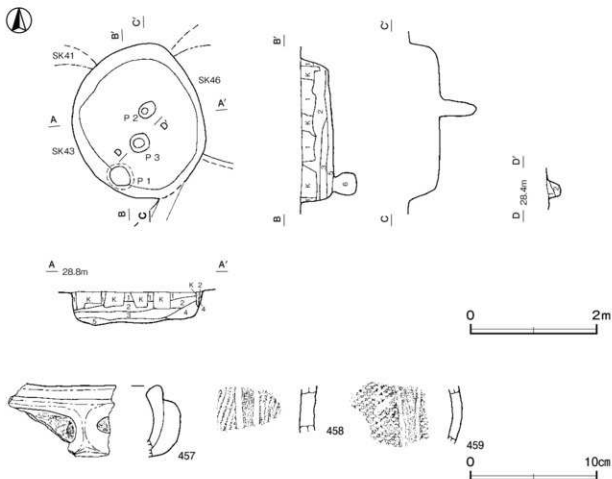
4 暗褐色 ローム粒子中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

5 暗褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック中量

6 暗褐色 ロームブロック中量 (締まりやや弱い)



第150図 第45号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 58 点（深鉢）が出土している。

所見 規模や形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 45 号土坑出土遺物観察表（第 150 図）

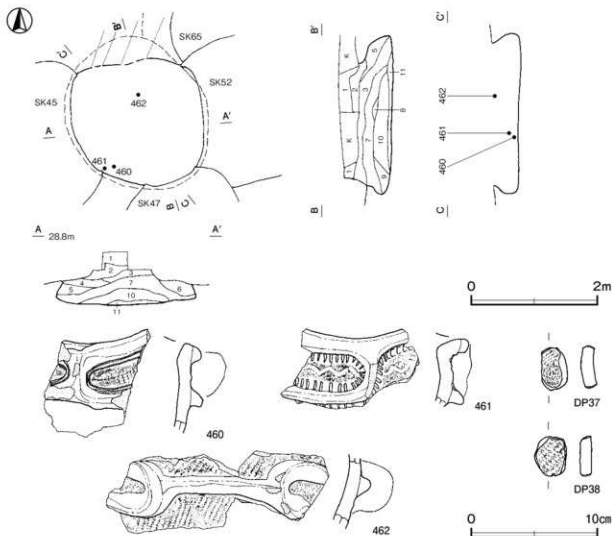
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
457	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面磨き 菅の高い隆帯による楕円形区画 区画内単筋縄文図。(編)	覆土中	
458	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	縄文に口縁多量の単筋縄文図。(編) 2本の沈線による帯文 沈線間磨消	覆土中	
459	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤土粒子	橙	普通	縄文に単筋縄文図。(編) 2本の沈線による帯文 沈線間磨消	覆土中	

第 46 号土坑（第 151 図 PL22）

位置 調査区西部の C 3b1 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 65 号土坑を掘り込み、第 45・47・52 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径 2.14 ~ 2.35 m の不整形円形である。底面は径 2.26 ~ 2.38 m のほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは 85 cm である。壁は内彎して、袋状を呈している。



第 151 図 第 46 号土坑・出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子中量
2 黒褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ロームブロック少量(粘性やや強い)
3 黒褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ローム粒子中量(粘性やや強い)
4 黒褐色	ロームブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック中量
5 黒褐色	ロームブロック微量(粘性やや強い)	11 暗褐色	ロームブロック微量(しりょう強い)
6 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片 105点(深鉢)、土製品(土器片鏃)・礫各2点が出土している。460は南西部の底面から出土しており、廃絶時に投棄されたものと考えられる。461は南西部の覆土下層、462は中央部の覆土中層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第46号土坑出土遺物観察表(第151図)

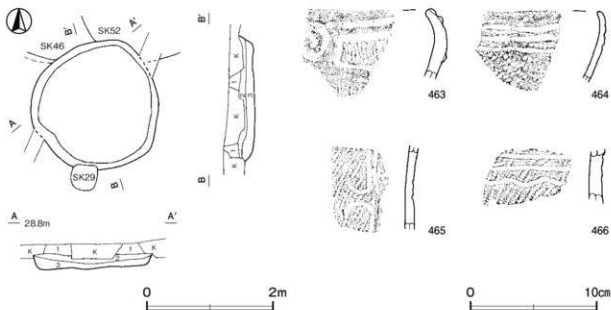
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
460	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	漆帯による櫛目区画 漆帯に沿って並行沈線区画内葉筋縄文 RL (横)	底面	
461	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	漆帯区画による櫛目区画 漆帯に沿って連続不彫文区画内彫り付縄による彫文を施文	覆土下層	
462	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	施文に準る縄文 RL (縦) 耳葉状の漆帯筋帯による文様施文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP37	土器片鏃	3.3	2.1	1.2	9.4	長石・石英・雲母	橙	胴部片 長軸方向1対のキザ目	覆土中	
DP38	土器片鏃	3.2	2.4	0.9	9.2	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 長軸方向1対のキザ目	覆土中	

第47号土坑(第152図 PL22)

位置 調査区西部のC3c1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46・52号土坑を掘り込み、第29号土坑に掘り込まれている。



第152図 第47号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径2.13m、短径2.02mの円形である。底面は平坦で、確認面からの深さは45cmである。壁は底面から外傾している。

覆土 3層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片30点(深鉢28, 浅鉢2), 石器1点(磨製石斧)が出土している。いずれも小破片で覆土中から出土していることから、埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第47号土坑出土遺物観察表(第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
463	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈泥による褐色文・方彫(西 区西内及び高文に条線文(縦)	覆土中	内面炭化物付着
464	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	縄文に早期縄文L状(縦) 口縁直下から3本の沈泥が走る	覆土中	
465	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	地文に早期縄文L状(縦) 沈泥による文様結核	覆土中	
466	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に早期縄文L状(縦) 沈泥による横位の平行線文・縦行高文	覆土中	

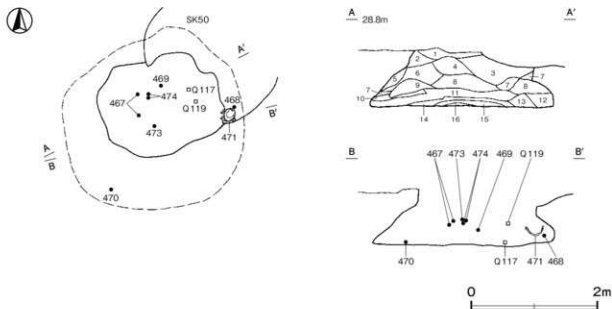
第49号土坑(第153～156図 PL23)

位置 調査区中央部西寄りのC3c2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

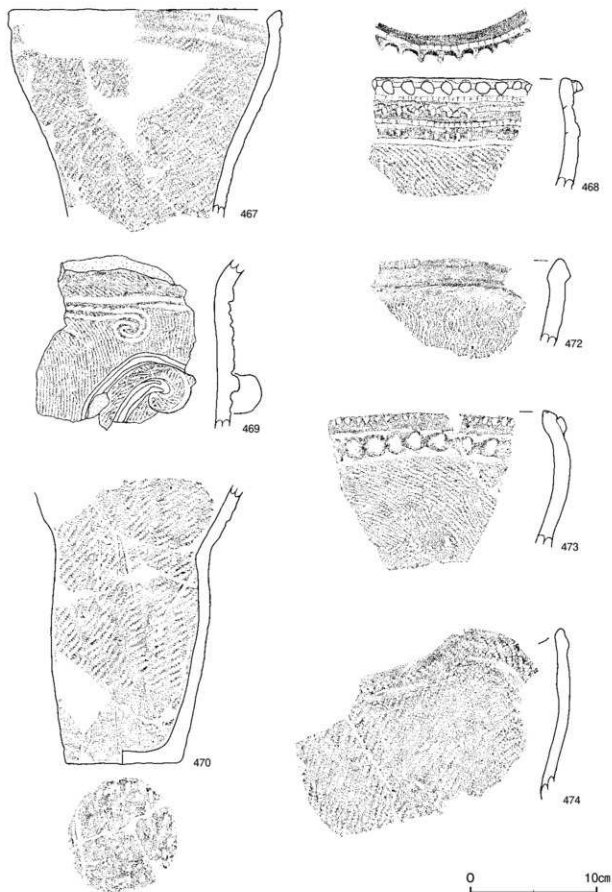
重複関係 第50号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径191m、短径150mの不整楕円形である。底面は径2.92～3.00mの不整円形で、平坦である。確認面からの深さは112cmである。壁は大きく内傾して、袋状を呈し、底面から42～64cmのところでぐびれ、上位は直立している。

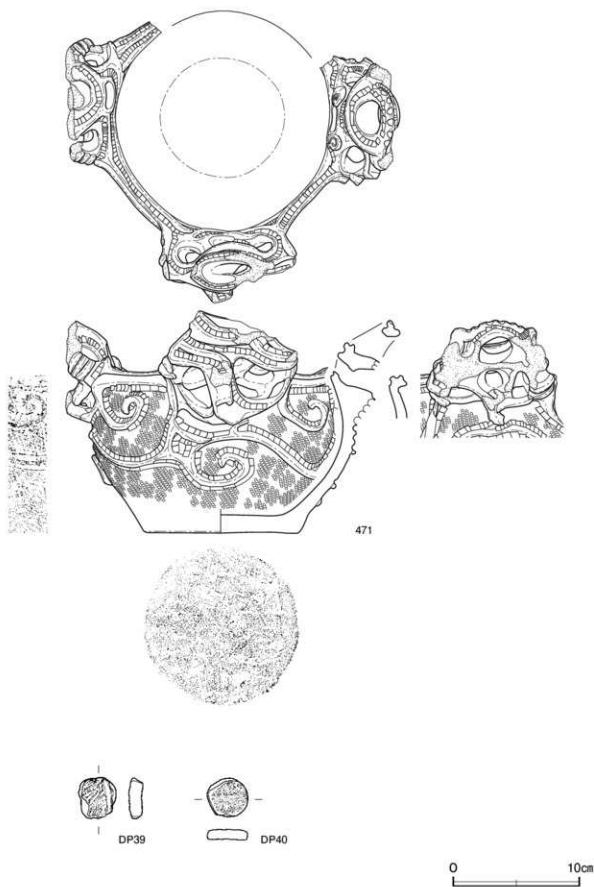
覆土 16層に分層できる。不規則な堆積状況を示しているから、埋め戻されている。



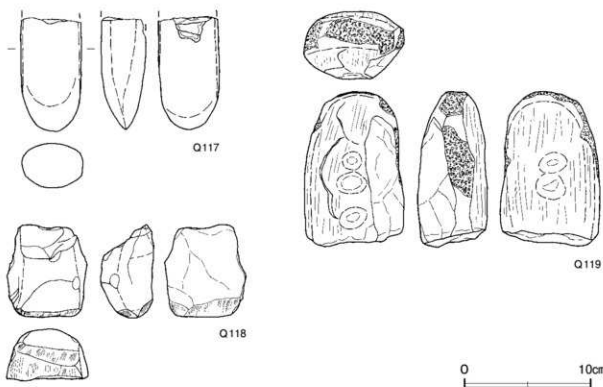
第153図 第49号土坑実測図



第154图 第49号土坑出土遺物実測图(1)



第 155 图 第 49 号土坑出土遗物实测图 (2)



第156図 第49号土坑出土遺物実測図(3)

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量(粘性強い) |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量(締まりやや強い) |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量 | 15 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 384点(深鉢378, 鉢1, 浅鉢5), 土製品2点(土器片鉢, 土器片円盤), 石器4点(磨製石斧, 敲石, 敲砥石, 凹石), 剥片(瑪瑙)・石核(チャート)各2点, 原石・自然石各1点, 粘土塊3点が出土している。470は南西部の底面から出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。468・471, Q 117は東部の覆土下層から出土しており, 471は壁際から正位に置かれた状態で出土している。467・469・473・474, Q 119は, 中央部の覆土中層からまとめて出土しており, いずれも埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第49号土坑出土遺物観察表(第154～156図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
467	縄文土器	深鉢	[21.3]	[16.6]	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部無文 胴部単節縄文丸(縦)	覆土中層	30% PL115
468	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部平直 肩節浅淵が一部 口縁上部を刺突文が施された発帯が一部 横位の有節浅淵による半行縄文・弦線文 地文に無節縄文丸(縦) 地文に無節縄文丸(横・斜) 並行浅淵による炭条文 発帯に沿ってベン形状の刺突による2本の炭条文 発帯上部一帯に	覆土下層	PL115
469	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地文に0段多索縄文丸(縦) 一部縦位の横突底節刺代	覆土中層	PL115
470	縄文土器	深鉢	-	(22.1)	8.8	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	4單位の甲型平直 横節部以上と蓋巻発帯 発帯に沿って有節浅淵 地文に無節縄文丸(縦) 底節刺代	底面	30% PL115
471	縄文土器	鉢	19.4	17.6	12.4	長石・石英	黒褐	普通		覆土下層	80% PL115

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
472	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	灰褐色	普通	口縁肥厚部無文。地文に6本単位の櫛歯状工具 による点状文(縦)	覆土中	
473	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁上部に刺突文が施す。口縁部縁帯貼付後、 凹線による凹凸文。地文に無縁縄文し(縦)	覆土中層	PL115
474	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	褐色	普通	口縁肥厚部に単筋縄文(横)。地文は同一草 体(縦)	覆土中層	PL115

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP29	土器片(鉢)	3.3	2.9	1.1	12.3	長石・石英	黒褐色	割部片 長軸方向1対のキザミ目	覆土上層	
DP90	土器片(磨石)	3.0	3.2	0.8	9.5	長石・石英・雲母	黒褐色	割部片 側面研磨	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 117	磨石(石)	9.0	4.8	3.5	246.6	閃緑斑岩	突角式。全面研磨。磨石部に凹い後、基部欠損。一部は表裏か の縁き出す。ハツマリ方	覆土下層	PL166
Q 118	凝灰石	7.3	6.4	4.1	248.6	緑色岩	円盤の片端部に微細な縦打痕及び二方向からの砥面をもつ	覆土中	
Q 119	凹石	12.4	8.0	5.5	244.1	砂岩	両面に研磨痕及び凹み。磨石部縦打痕	覆土中層	PL181

第50号土坑 (第157・158図 PL23)

位置 調査区中央部西寄りのC 3c2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第49・51号土坑を掘り込み、第37号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による擾乱を受けているが、径224～228mの円形である。底面はほぼ平坦で、深さは35cmである。壁は外傾している。

ピット 2か所。P1は深さ93cmで、形状から柱穴と考えられる。P2は深さ14cmで、性格は不明である。

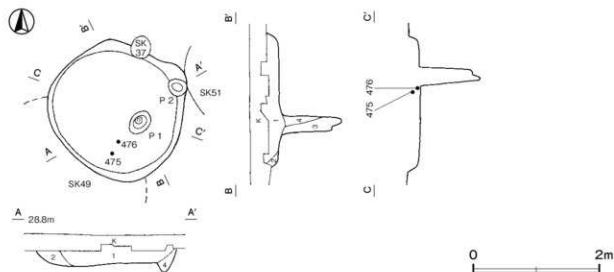
覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第3・4層は、ピットの覆土で、ロームブロックを多量に含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

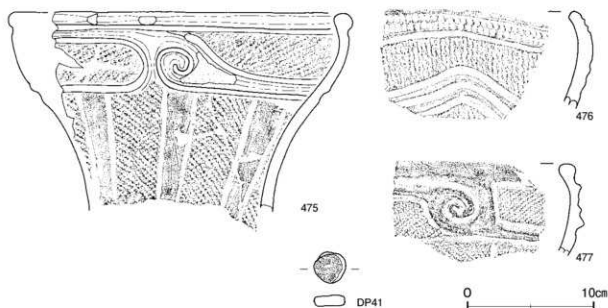
- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片120点(深鉢115、浅鉢5)、土製品(土器片円盤)・石器(磨石)・剥片(チャート)各1点が出土している。475・476は南部の覆土下層から底面にかけて出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第157図 第50号土坑実測図



第158図 第50号土坑出土遺物実測図

第50号土坑出土遺物観察表(第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
475	縄文土器	深鉢	[260]	(158)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部縮み縄文LRL(横) 隆部による渦巻文・唇内区画 隆部以下同一層体(縦) 幅状の帯状縮み文	覆土下層	10% PL115
476	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部縮み2本の縦長の刺突が走る 地文に粗い渦巻文・3本の太い波状文	底面	
477	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部縮み文に縮み縄文LRL(横) 隆部による渦巻文・方形区画 隆部地文に同一層体(縦) 多行波状縮み文	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP41	土師器	25	25	0.8	408	長石・石英	明褐色	銅部片 縄線部研磨	覆土上層		

第51号土坑(第159図 PL23)

位置 調査区中央部西寄りのC3c2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第64号土坑を掘り込み、第50・721号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径200m、短径184mの円形である。底面は平坦で、深さは67cmである。壁はほぼ直立している。

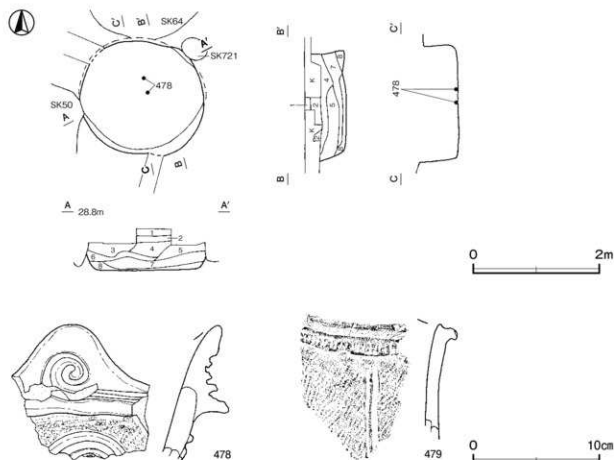
覆土 8層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子微量(締まりやや強い)	5 にぶい黄褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子中量	6 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子少量	7 黒褐色	ローム粒子少量(締まりやや弱い)
4 暗褐色	ロームブロック微量	8 黒褐色	ロームブロック少量(締まり強い)

遺物出土状況 縄文土器片60点(深鉢)、石核1点(蛋白石)が出土している。478は、中央部の底面から破片が散乱した状態で出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第159図 第51号土坑・出土遺物実測図

第51号土坑出土遺物観察表 (第159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
478	縄文土器	深鉢	-	(10.8)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐色	普通	波帯部に陰帯による渦巻文 底面に単筋縄文 (横)	底面	
479	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	灰褐色	普通	口唇頂部の平面面に沈線が写る 底帯上に本ゼ ス目地文に単筋縄文1本(横) 並行沈線が地下	覆土中	

第52号土坑 (第160図 PL24)

位置 調査区西部北寄りのC 3b2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46・53・65・67・68号土坑を掘り込み、第47・66号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径3.22m、短径2.38mの楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。底面は平坦で、深さは66cmである。壁は外傾している。

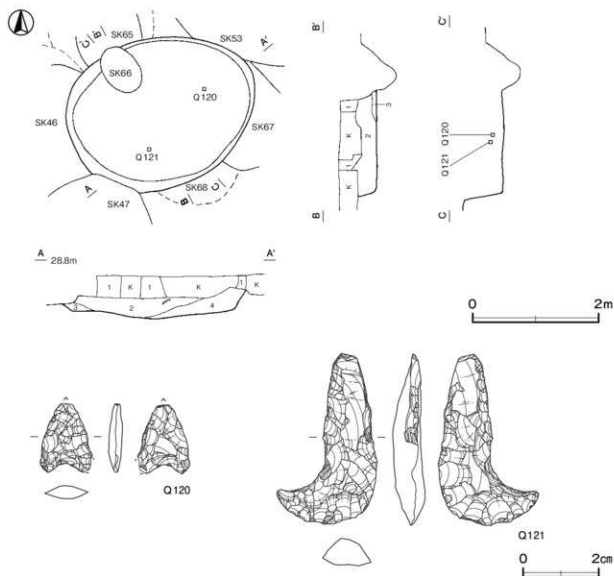
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片154点(深鉢153, 浅鉢1), 石器2点(鉄, 異形石器)が出土している。Q120は北東部, Q121は南部の覆土下層からそれぞれ出土しており、埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期と考えられるが、詳細は不明である。



第160図 第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表(第160図)

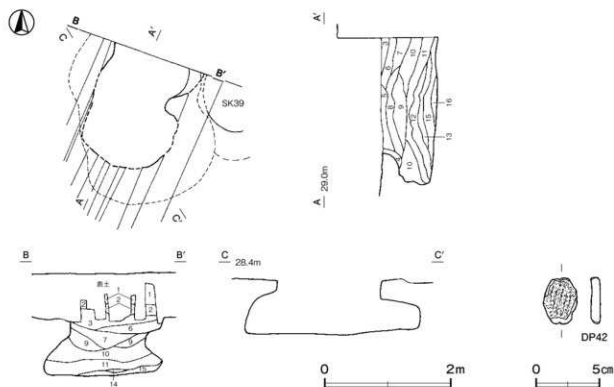
番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q120	鏃	(1.83)	(1.28)	0.37	(0.9)	チャート	基部中央は彎入、基部の一部及び先端部欠損	覆土下層	PL161
Q121	翼形石部	4.54	2.66	8.6	6.8	ホルンフェルス	両面調整 鈚針形	覆土下層	PL160

第56号土坑(第161図 PL25)

位置 調査区北部西寄りのB200区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第39号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、開口部は、長径が1.85mしか確認できなかった。短径1.47mの不整楕円形で、長径方向はN-13°-Eである。底面は、長径が2.80mしか確認できなかった。短径2.06mの不整楕円形で、平坦である。確認面からの深さは86cmである。壁は内彎し、西部は内傾して、袋状を呈し、底面から高さ50~70cmのところできつれ、上位は直立している。



第161図 第56号土坑・出土遺物実測図

覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|----------|------------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗 褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 10 暗 褐色 | ロームブロック少量（締まり弱い） |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量（締まり弱い） |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック微量（締まり強い） | 12 黒 褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量（締まり強い） | 13 暗 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック微量 |
| 7 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量（締まり強い） | 16 黒 褐色 | ロームブロック微量（締まり強い） |

遺物出土状況 縄土土器片 29点（深鉢）、土製品1点（土器片鏝）が出土している。土器片は、いずれも小破片で、覆土中から出土していることから、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。出土土器が少ないため、時期は不明である。

第56号土坑出土遺物観察表（第161図）

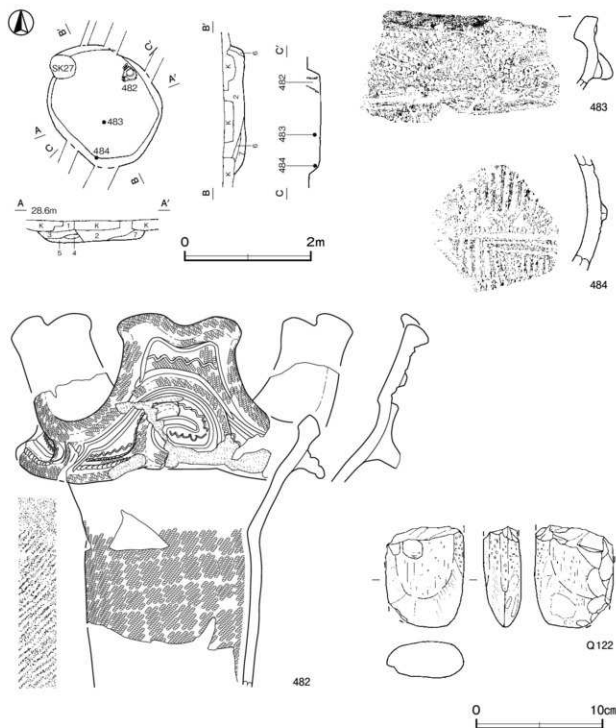
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP42	土器片鏝	3.7	2.6	0.8	8.1	長石・石英・雲母	褐色	割部片 両端にキザミ目 割縁部研磨	覆土中	

第63号土坑（第162図 PL25）

位置 調査区中央部西寄りのC3d2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第27号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.05m、短径1.64mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wである。底面は平坦で、深さは35cmである。壁は緩やかに傾斜している。



第162図 第63号土坑・出土遺物実測図

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量（締まり強い） | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 34 点（深鉢）、石器 1 点（磨製石斧未成品）が出土している。482 は、北東壁際の底面から逆位の状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。483 は中央部、484 は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 63 号土坑出土遺物観察表（第 162 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
482	縄文土器	深鉢	24.0	(29.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部隆帯貼付 隆帯上に単部縄文瓦(横) 口縁部上端部状の隆帯により区画 隆帯に沿ってペン先状文 製部単部縄文瓦(横)	底面	70% PL115
483	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	口縁部隆帯による三角区画 隆帯に沿って爪形文 口縁下部は縞み状突起の隆帯が一端	覆土下層	PL115
484	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	隆帯による方形区画文・波状文 区画内ペン先状突起による並行線を有する	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q122	磨製石斧未成品	(8.1)	6.2	3.0	(25.8)	砂岩	表裏面研磨 両側縁打調整 基部欠損 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土下層	

第 64 号土坑（第 163～166 図 PL25）

位置 調査区北部中央の C 3 b2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 51・104・135 号土坑に掘り込まれている。

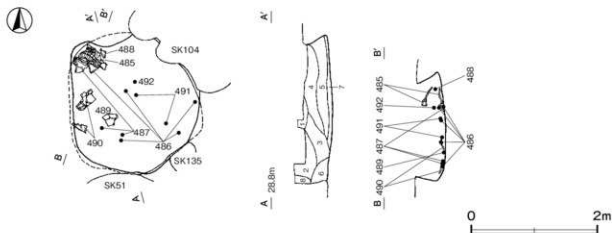
規模と形状 開口部は径 2.07～2.10 m の不整形円形である。底面は長径 2.10～2.26 m の不整形円形で、平坦である。確認面からの深さは 53 cm で、壁はわずかに内傾している。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

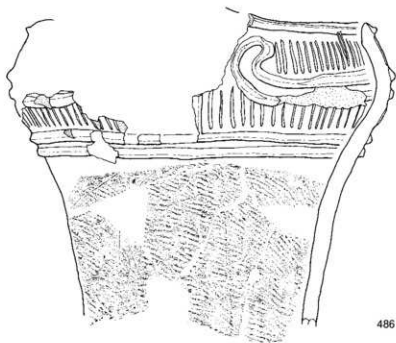
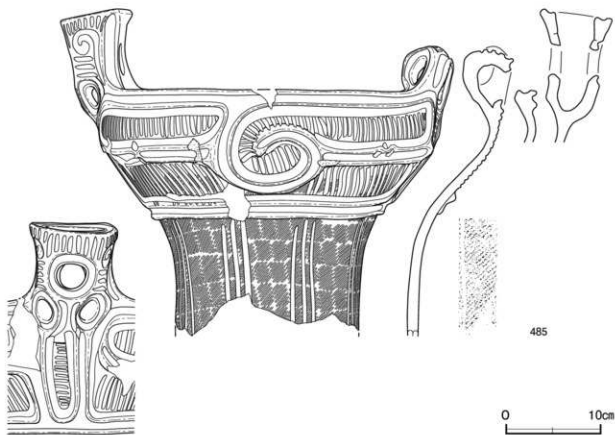
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量（粘性やや強い） | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

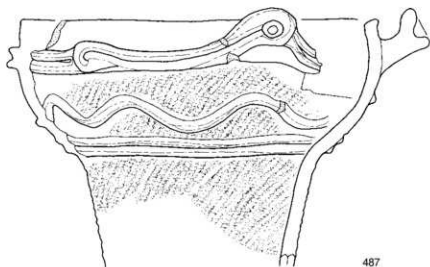
遺物出土状況 縄文土器片 228 点（深鉢 224、浅鉢 4）、石器 4 点（磨製石斧 1、磨石 2、凹石 1）、剥片 2 点（瑪瑙）が出土している。485 は北西壁際の底面から横位の状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。490 は西壁際、486 は東部から中央部、北西部にかけて、487 は北西部と南部、488 は北西部、489 は



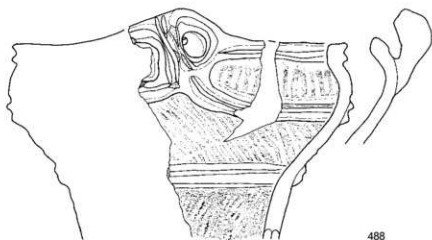
第 163 図 第 64 号土坑実測図



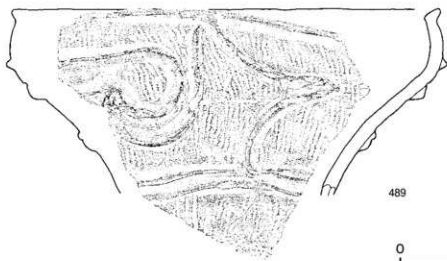
第164图 第64号土坑出土遺物实测图(1)



487



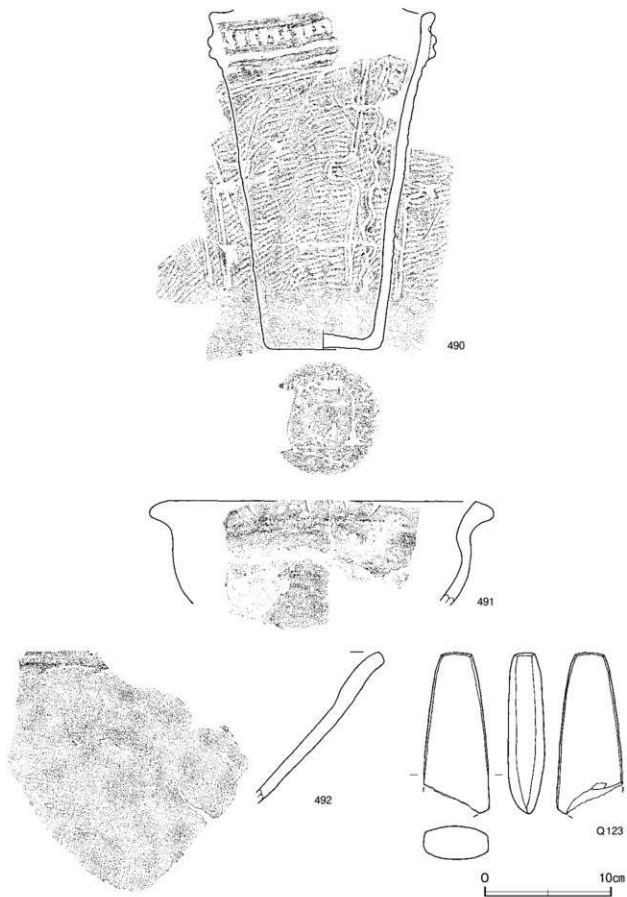
488



489



第 165 图 第 64 号土坑出土遗物实测图(2)



第166图 第64号土坑出土遺物实测图(3)

西部、491は中央部と南東部の底面から、いずれも大型の破片が散乱した状態で出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。492は中央部の覆土下層から出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第64号土坑出土遺物観察表(第164～166図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
485	縄文土器	深鉢	34.3	(34.6)	-	長石・雲母	黒灰	普通	大小工野の中央肥土(厚札)に於いて沈積(背面に厚札による高文(区内内周の底縁を本型 柳原年輪文図(編) 3本の1単位の沈積が若干)	底面	60% PL116
486	縄文土器	深鉢	[25.8]	(24.8)	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	口縁上部に隆帯が一部 2本の隆帯による変形クランク文 縦位の条線文 頸部を並行隆帯で区別 頸部以下無彫刻文(編)	底面	30%
487	縄文土器	深鉢	[28.4]	(20.4)	-	長石・石英	黒黒	普通	口縁部直上 隆帯を一部させ、部分的に細み状の突起 突起頂部に高文文 英文に垂飾横文(編) 縦位の条線文 背面に隆帯による	底面	30% PL116
488	縄文土器	深鉢	[26.0]	(18.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	把手周縁に沈積 把手周縁隆帯による楕円形区画 区画外斜位、内周位の沈積(背面に隆帯を一部させながら) 柳原年輪文図(編)	底面	30% PL116
489	縄文土器	深鉢	[34.0]	(14.8)	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黒	普通	英文に0段多条横文(上・編) 斜位に隆帯が一部 断面三角形の隆帯による区画文 頸部直上の平行沈積が一部	底面	30%
490	縄文土器	深鉢	[18.0]	26.2	9.0	長石・石英・雲母	黒黒	普通	口縁部直上の有部沈積と背面に隆帯が一部 英文に0段多条横文(編) 手載位置による縦位の沈積で文持縁面	底面	60% PL116
491	縄文土器	浅鉢	[24.4]	[8.2]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部部に宇田面 外・内面磨き 口唇部部及の内面に赤点	底面	
492	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外・内面磨き 口縁部内面に縦い段	覆土下層	PL116

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	磨製石斧	(12.8)	5.2	2.9	(38.1)	砂岩	定角式 全面研磨 側縁部に後 刃部欠損	覆土下層	PL167

第65号土坑(第167・168図 PL26)

位置 調査区北部西寄りのC3b1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

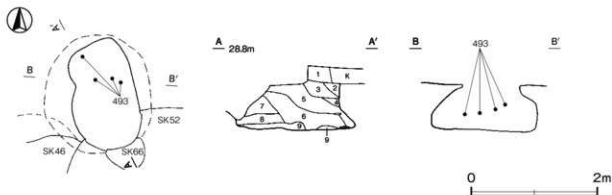
重複関係 第46・52・66号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.70m、短径1.03mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。底面は、長径1.88m、短径1.69mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは110cmである。壁は内壜して、袋状を呈している。

覆土 9層に分層できる。南側から埋め戻された堆積状況を示している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量(粘性やや強い) |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量(粘性やや強い) |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼ハミスブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量(締まりやや強い) | | |



第167図 第65号土坑実測図



第168図 第65号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片83点(深鉢)。剥片2点(チャート、石英)が出土している。493は、中央部の覆土中層から、大型破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第65号土坑出土遺物観察表(第168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
493	縄文土器	深鉢	[34.5]	36.8	[11.0]	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部凹乳・縁部・胴部縮径の強い隆帯による支様区画・隆帯に沿って沈線・施文に無縁縄文L(縦・横)・屈曲副代線	覆土中層	PL117

第68号土坑（第169・170図 PL26・97）

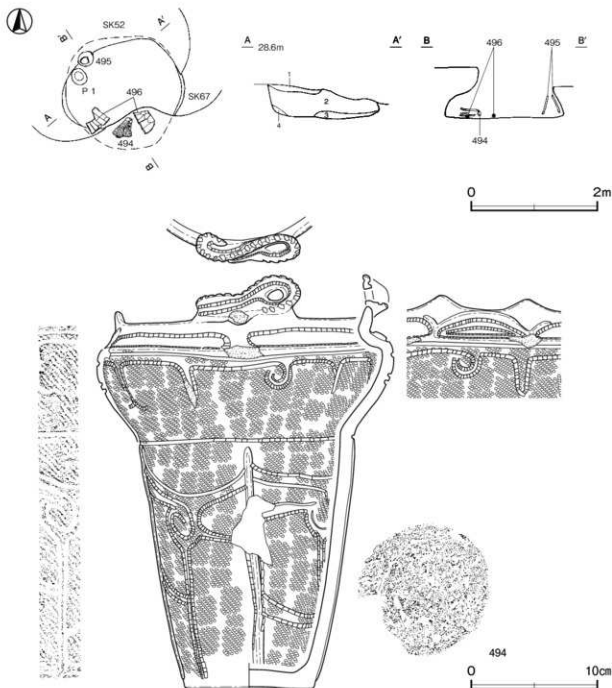
位置 調査区西部北寄りのC3b2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第52・67号土坑に掘り込まれている。

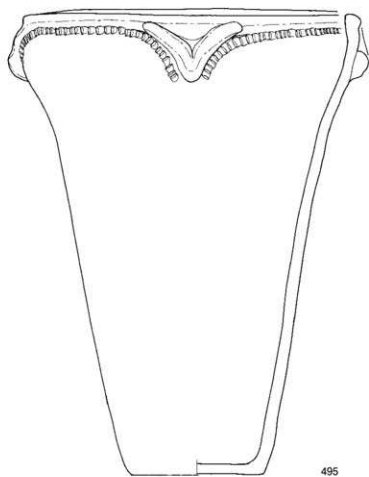
規模と形状 上部を第52号土坑に掘り込まれており、開口部は径1.80～1.94mしか確認できなかったが、不整形円形である。底面は、径1.81～1.93mの円形で、平坦である。確認面からの深さは106cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。

ピット 北西壁際に位置し、径25cmほどの円形で、深さ20cmである。性格は不明である。

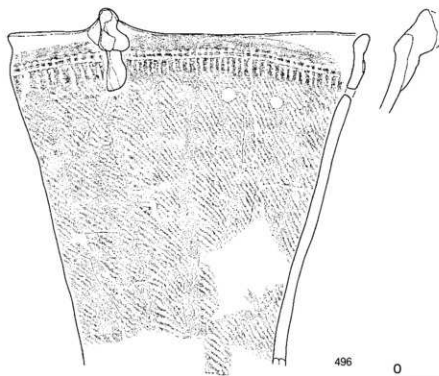
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。



第169図 第68号土坑・出土遺物実測図



495



496

0 10cm

第170图 第68号土坑出土遺物实测图

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	3 暗褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック中量	4 暗褐色	鹿沼バミスブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 78 点 (深鉢)、剥片 (ホルンフェルス)・石核 (瑪瑙) 各 1 点が出土している。494 は、南部の底面から、横位で押しつぶされた状態で出土している。本来、壁際に逆位で置かれていたものが、埋め戻される過程で倒れた可能性がある。495 は、北西壁際の底面から逆位で、496 は、南部の底面から半分に割れて、内面を上に向けた状態で出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 68 号土坑出土遺物観察表 (第 169・170 図)

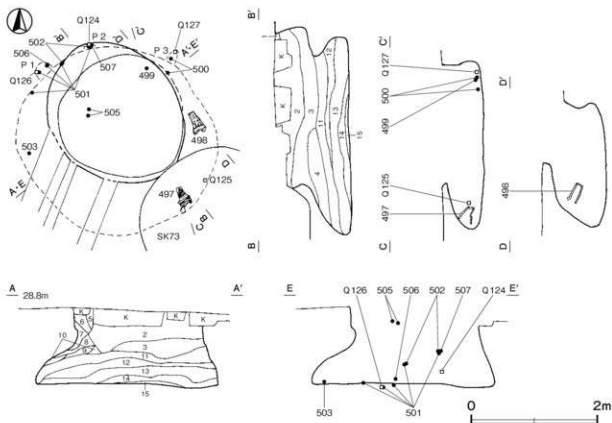
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
494	縄文土器	深鉢	202	328	102	長石・石英・雲母	にがい青黒	普通	底文に横線調文し (面) 有筋光線で裝飾された格子状の形から 4 単位の小底文。口縁部と上半部面、有筋光線による文様調。底面網化装。捺帯貼付による V 字状の縮み。縮みと口縁部に沿って縮みの有筋光線。十字調整。	底面	80% PL117
495	縄文土器	深鉢	260	371	105	長石・石英・雲母	黒	普通	底文に横線調文し (面) 口縁に無筋文帯。4 単位の縦長の縮み状把手。無文帯下部に有筋光線と点彩文が出る。捺帯あり。	底面	90% PL117
496	縄文土器	深鉢	280	283	-	長石・石英・雲母	にがい青黒	普通		底面	PL117

第 72 号土坑 (第 171 ~ 175 図 PL26・27)

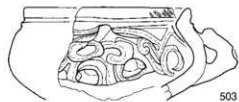
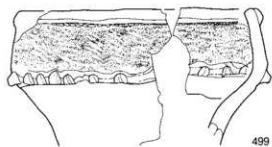
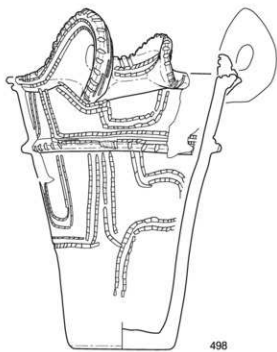
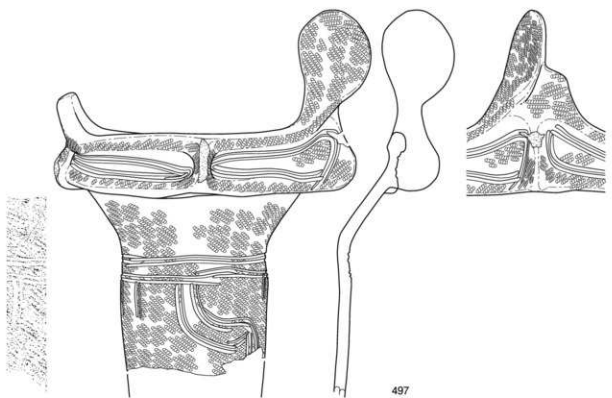
位置 調査区中央部西寄りの C 3 c3 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 73 号土坑に掘り込まれている。

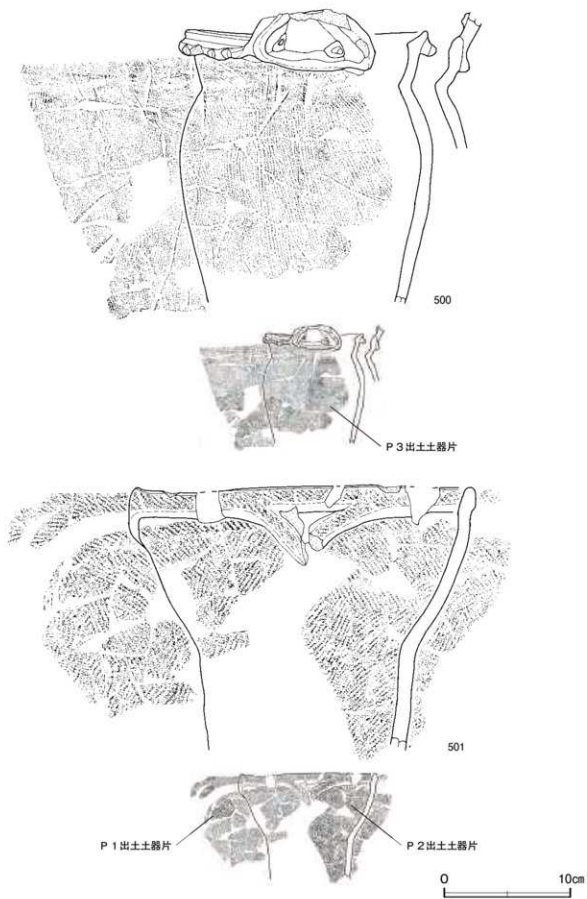
規模と形状 開口部は長径 2.48 m、短径 2.00 m の楕円形で、長径方向は N - 37° - W である。底面は径 2.90



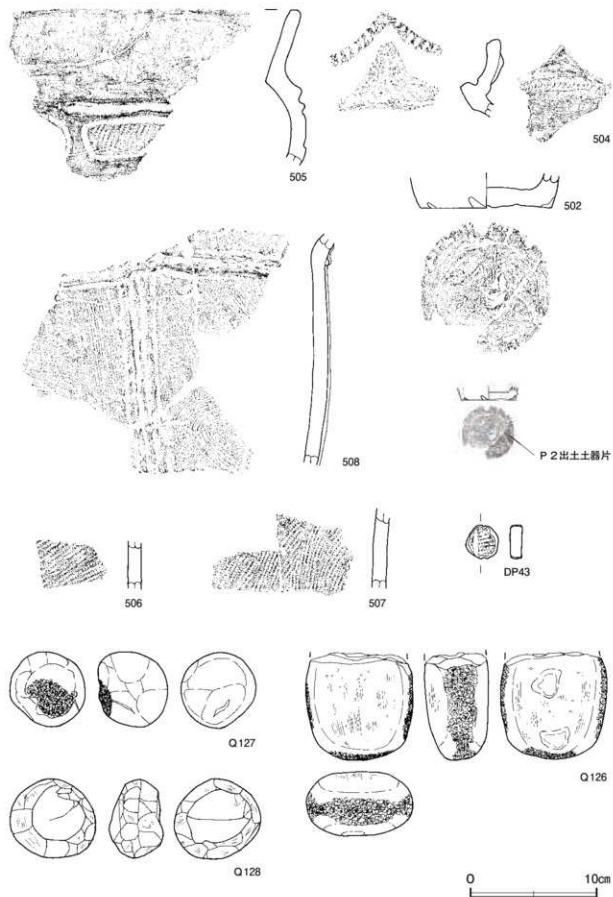
第 171 図 第 72 号土坑実測図



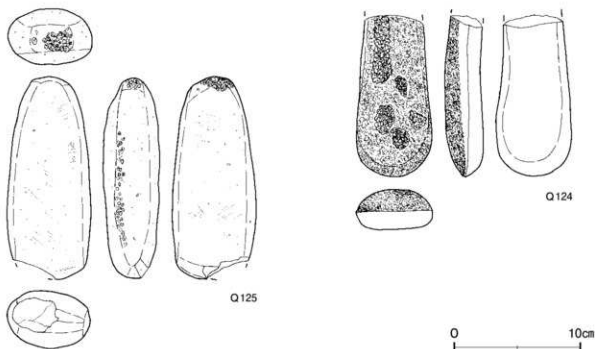
第172図 第72号土坑出土遺物実測図(1)



第173图 第72号土坑出土遗物实测图(2)



第174图 第72号土坑出土遺物実測图(3)



第175図 第72号土坑出土遺物実測図(4)

～3.10mの円形で、平坦である。確認面からの深さは116cmである。壁は、北部がやや内傾し、その他は大きく内傾して、袋状を呈し、底面から高さ80cmのところまでくびれ、上位はほぼ直立している。

ピット 3か所。P1～P3は、壁面に水平方向に掘り込まれており、径16～28cm、奥行き8～26cmである。各ピットの奥部から、石器(Q124・Q126・Q127)が埋納したように置かれた状態で出土しており、その手前には、石器を塞ぐように土器片数枚が重ねられている。

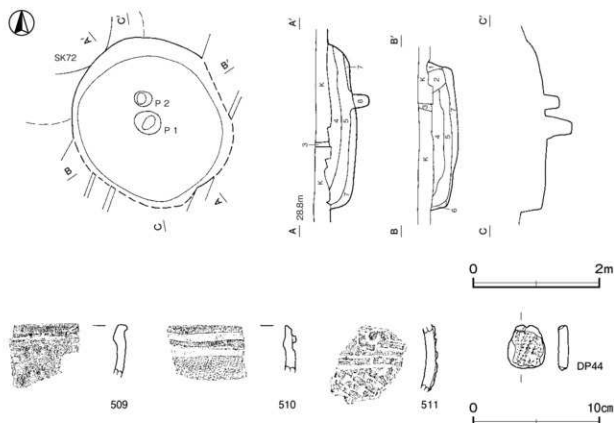
覆土 15層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積で、第7・8層は壁の崩落土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量(粘性弱い) | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量(粘性やや弱い) | 10 黒褐色 | ロームブロック少量(締まりやや弱い) |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量(粘性弱い) | 13 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック微量(粘性・締まりやや弱い) | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック多量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量(締まり強い) |
| 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片478点(深鉢464, 浅鉢13, 小型浅鉢1), 土製品1点(土器片鉢), 石器10点(打製石斧4, 磨製石斧未成品2, 磨石1, 敲石1, 敲砥石2), 石核1点(瑪瑙), 剥片8点(瑪瑙6, 黒曜石1, チャート1), 礫3点が出土している。北西壁のP1からQ126, 北壁のP2からQ124, 北東壁のP3からQ127が、それぞれピットの奥部に置かれた状態で出土している。また、501・506はP1とP2及びその周辺の底面、502・507はP2, 500はP3から出土しており、いずれも石器の手前に土器片を数枚重ねて、石器を塞ぐような状態で出土している。497は南東壁際の覆土下層、498は東壁際の覆土中層から、いずれも口縁部を南東に向けた横位で出土しており、埋没がある程度進んだ段階で、それぞれ遺棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。また、壁部に穿たれた小横穴状のピットからは、石器の未成品や製作に関連する敲砥石が土器片で塞がれたような状態で出土しており、埋納行為があったと考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第176図 第73号土坑・出土遺物実測図

第73号土坑出土遺物観察表(第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
509	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	口縁部下部強い横ナデ 内面磨き	覆土中層	
510	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	焼	普通	短支に草部縄文刻(縦) 口縁部上部に隆帯 隆帯に沿って太い流線文	覆土上層	
511	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙黒(外) 内	普通	粘土継ぎ目による渦巻文・格子目文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP44	土器片類	3.5	3.0	0.8	10.9	長石・石英・雲母	にぶい焼	割部片 両端にキザミ目 割縁部部分的に研磨	覆土上層	

第74号土坑(第177図 PL28)

位置 調査区北西部のB 25区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径2.10m, 短径1.44mの楕円形で, 長径方向はN-60°-Eである。底面は長径1.98m, 短径1.79mの楕円形である。底面は平坦で, 確認面からの深さは85cmである。壁は底面から内傾し, 底面より高さ50cmのところから外傾し, 袋状を呈している。

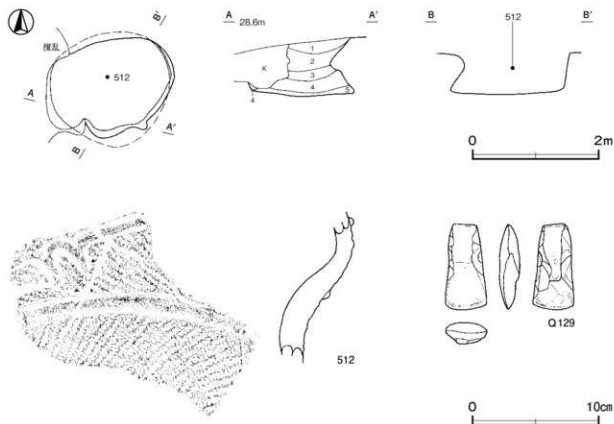
覆土 5層に分層できる。ロームブロック, 炭化物, 焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 134 点（深鉢 132、浅鉢 2）、石器 1 点（磨製石斧）、剥片 4 点（瑪瑙）が出土している。512 は、中央部の覆土中層から出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 177 図 第 74 号土坑・出土遺物実測図

第 74 号土坑出土遺物観察表（第 177 図）

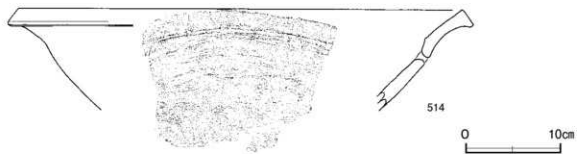
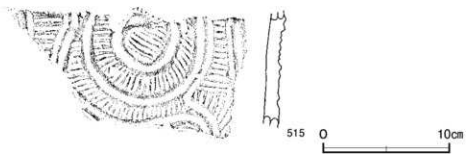
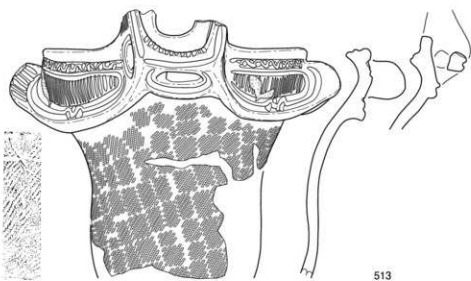
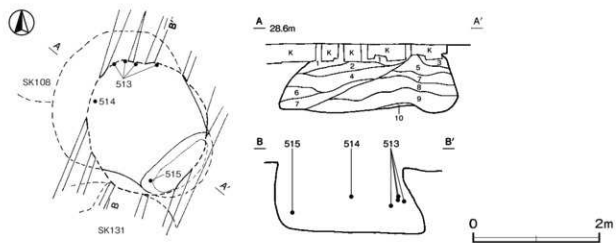
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
512	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にじみ赤黒	普通	口縁部施文に車筋縄文 R、(横) 隆帯により文様縁画 胴部以下同一形状 (編)	覆土中層	PL117	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q129	磨製石斧	6.8	3.3	1.7	52.2	緑色岩	小型 支出土	表面面研磨	側縁部最打調整面研磨	刃部は表面から研	覆土中	PL169

第 75 号土坑（第 178 図 PL28）

位置 調査区西部北寄りの B 2 9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 108・131 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 2.22 m、短径 1.90 m の楕円形で、長径方向は N - 39° - W である。底面は長径 2.85 m、短径 2.22 m の楕円形である。平坦で、南東部に長径 1.41 m、短径 0.59 m の楕円形で、深さ 10 cm ほどの浅い掘り込みがある。確認面からの深さは 106 cm である。壁は北部から西部にかけて大きく内傾して、袋状を呈しており、南東部は緩やかに内傾し、東部や南部は直立している。



第 178 图 第 75 号土坑·出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。最下層の第10層は、踏み固められたように硬化している。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	8 褐色	ロームブロック中量（締まり強い）
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量	9 褐色	ロームブロック多量（締まり強い）
5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量	10 褐色	ロームブロック中量（粘性・締まり強い）

遺物出土状況 縄文土器片73点（深鉢72、浅鉢1）、礫1点が出土している。515は南壁際の覆土下層、513は北壁際の覆土中層から破砕された状態で、514は北西壁際の覆土中層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

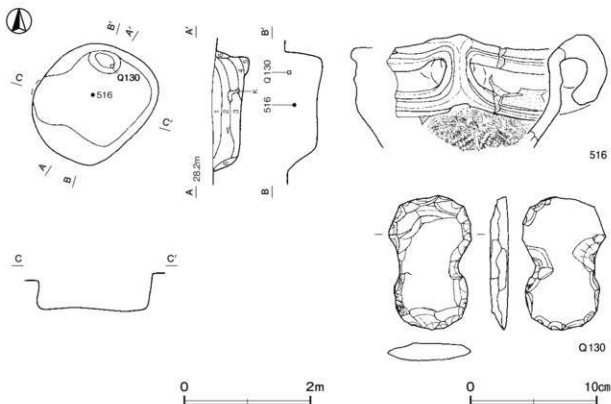
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第75号土坑出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
513	縄文土器	深鉢	207	(21.3)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に華帯縄文、口縁部に2単位ずつの横状把手と網みによる区画沈線・条線・交互斜交文による文様模様	覆土中層	70% PL118
514	縄文土器	浅鉢	[47.0]	(10.7)	-	長石・石英・雲母	いり・赤褐色	普通	口縁部平出面、外面横位のナゲ、横軸孔1か所、口縁部外面赤彩痕	覆土中層	10% PL118
515	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	背割れ隆帯による画文、隆帯間連続沈線文	覆土下層	

第76号土坑（第179図 PL29）

位置 調査区北西部のB 2h4区、標高28 mほどの台地平坦部に位置している。



第179図 第76号土坑実測図

規模と形状 長径 193 m、短径 168 m の楕円形で、長径方向は N - 36° - E である。底面はほぼ平坦で、北壁際寄りに、長径 51cm、短径 34cm の楕円形で、深さ 10cm の凹みがある。深さは 58cm で、壁は外傾している。

覆土 6 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解読

1	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	5	暗褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6	褐色	ロームブロック微量（絡まり弱い）

遺物出土状況 縄文土器片 159 点（深鉢）、石器 3 点（打製石斧 1、磨石 2）が出土している。516 は中央部、Q 130 は北部の覆土上層からそれぞれ出土しており、埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 76 号土坑出土遺物観察表（第 179 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
516	縄文土器	深鉢	[160]	(90)	—	長石・石英	灰黄褐色	普通	上縁部背割れ隆帯による区画（区画内無文）把下部下部に穿孔。口径下部半部縄文瓦（編）	覆土上層	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q130	打製石斧	106	66	1.4	132	ホルンフェルス	分銅形	表裏に自然面	執り部及び刃部は表裏を敲打	覆土上層	PL162

第 77 号土坑（第 180 図 PL29）

位置 調査区北西部の B 27 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 167・278 号土坑を掘り込み、第 78 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 2.20、短径 2.00 m の楕円形で、長径方向は N - 31° - W である。底面は径 2.15 ~ 2.33m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 115cm である。壁は内彎して、袋状を呈し、底面から高さ 75 cm のところでぐびれ、上位は外傾している。

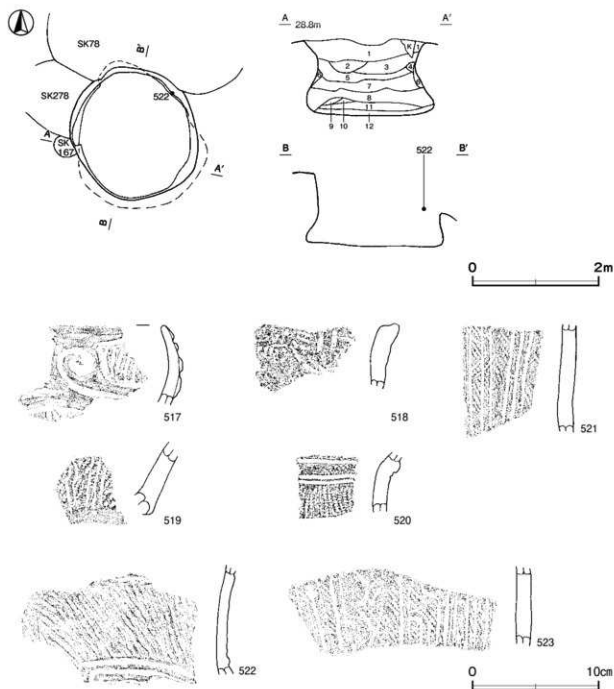
覆土 12 層に分層できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解読

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化材微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量	11	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック中量（絡まり強い）

遺物出土状況 縄文土器片 234 点（深鉢）、石器 8 点（磨石 7、不明 1）、剥片（水晶、チャート）・石核（チャート）各 2 点が出土している。518・520・521 は覆土下層、517・519・522・523 は覆土中層から、散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第180図 第77号土坑・出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表(第180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
517	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	黒	普通	隆帯及び沈線による渦巻文・区画文を描画 区画内沈線	覆土中層	
518	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	にぶい黒	普通	隆帯貼付 隆帯上に太い沈線 隆帯に沿って爪状文	覆土下層	
519	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美	にぶい黄褐色	普通	地文に単筋縄文 L.R.(縦) 半截竹筥により並行線・蛇行線を描画 下縁は横方向のナメ	覆土中層	
520	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	橙	普通	隆帯に沿って半截竹筥による並行沈線 隆帯上に半筋縄文 L.R.(横) 地文に同一部位(凸)	覆土下層	
521	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	地文に単筋縄文 L.R.(縦) 半截竹筥による並行線文・曲線文を描画	覆土下層	
522	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	灰黒	普通	地文に無筋縄文 L.R.(縦) 太い沈線による文様描画	覆土中層	
523	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石美・雲母	橙	普通	地文に単筋縄文 L.R.(縦) 半截竹筥による並行線文・曲線文を描画	覆土中層	

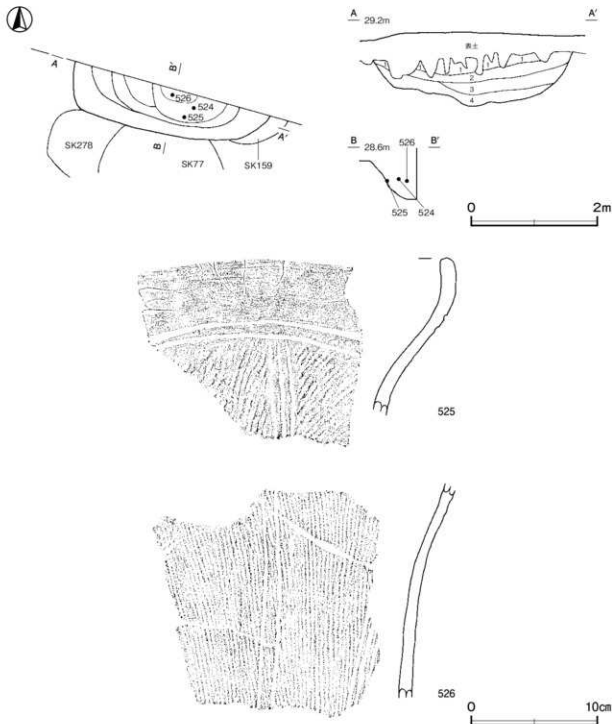
第78号土坑 (第181・182図 PL29)

位置 調査区北西部のB2h7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

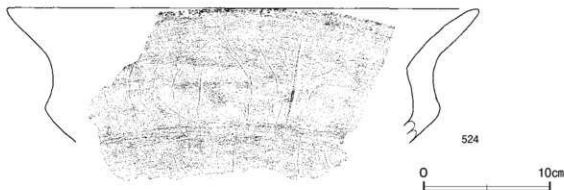
重複関係 第77・159・278号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、東西径は3.15m、南北径は0.64mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は皿状で、西部に一段高くなったテラス状の部分有している。深さは80cmで、壁は緩やかに傾斜している。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。



第181図 第78号土坑・出土遺物実測図



第182図 第78号土坑出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片 34点（深鉢33, 浅鉢1）, 石器1点（炉石）が出土している。524～526は中央部の覆土中層からまともに出て出土しており、埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第78号土坑出土遺物観察表（第181・182図）

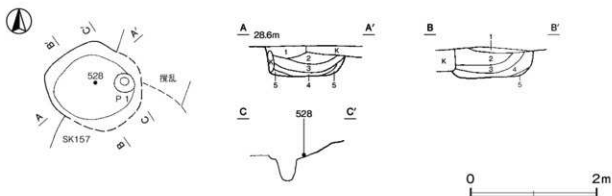
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
524	縄文土器	浅鉢	[37.2]	(9.6)	-	長石・石英・赤色 粘土	にぶい褐色	普通	外・内面磨き 赤彩痕	覆土中層	10%
525	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	地文に輪部縄文(縦) 口縁部上層縄文 無文部下部に2本の横走る沈線文及び3本の 垂下する沈線文	覆土中層	
526	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に横赤文(縦) 並行沈線による懸垂文	覆土中層	

第80号土坑（第183・184図）

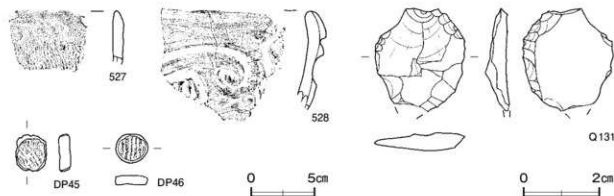
位置 調査区北西部のB 217区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第157号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径1.58m、短径1.34mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。底面は平坦で、深さは50cmである。壁は外傾している。



第183図 第80号土坑実測図



第184図 第80号土坑出土遺物実測図

ピット 深さ34cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分類できる。ロームブロック、炭化材、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化材・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片91点（深鉢90、浅鉢1）、土製品2点（土器片錘、土器片円盤）、加工痕のある剥片1点（黒色安山岩）が出土している。528は中央部の底面から出土しており、廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第80号土坑出土遺物観察表（第184図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
527	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁上縁無文帯 無文帯以下菱形状工具による波状文(縦)	覆土中	
528	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・白色粒子	明赤褐	普通	粘土胎付による渦巻文・区画文 区画内管帯による並行線文を欠損	底面	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP45	土器片錘	29	24	0.9	7.4	長石・石英・雲母	橙	胴部片 両端にキザミ目 胴縁部研磨	覆土中		
DP46	土器片円盤	23	25	0.8	50	長石・石英・雲母	黒褐	胴部片 胴縁部研磨	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q131	加工痕のある剥片	(28)	24	0.7	(3.3)	黒色安山岩	両端縁押圧痕による調整	覆土中			

第84号土坑（第185・186図 PL24・29）

位置 調査区北部西寄りのB 29区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

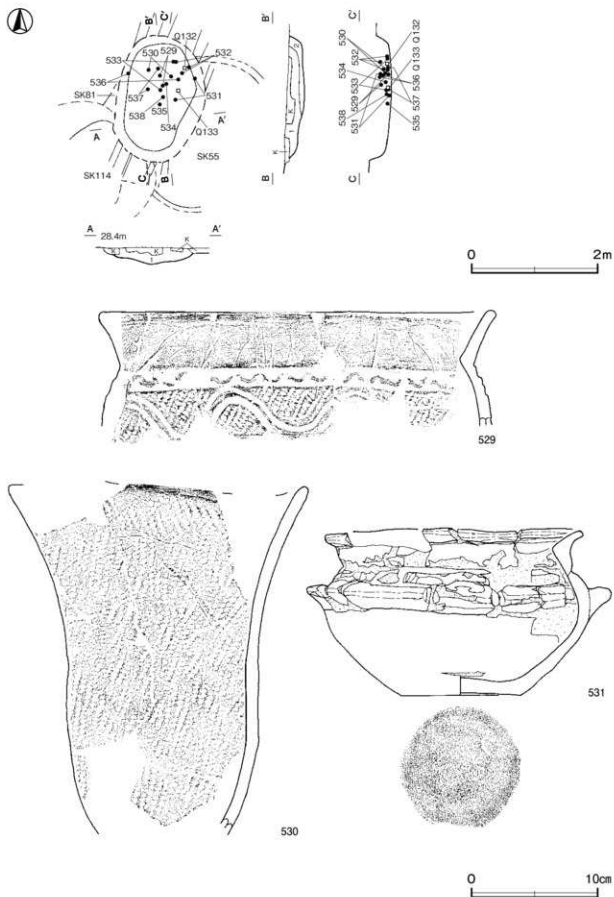
重複関係 第55・81・114号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による擾乱を受けているが、長径1.98m、短径1.39mの楕円形で、長径方向はN-12°-Eである。底面は平坦で、深さは30cmである。壁は外傾している。

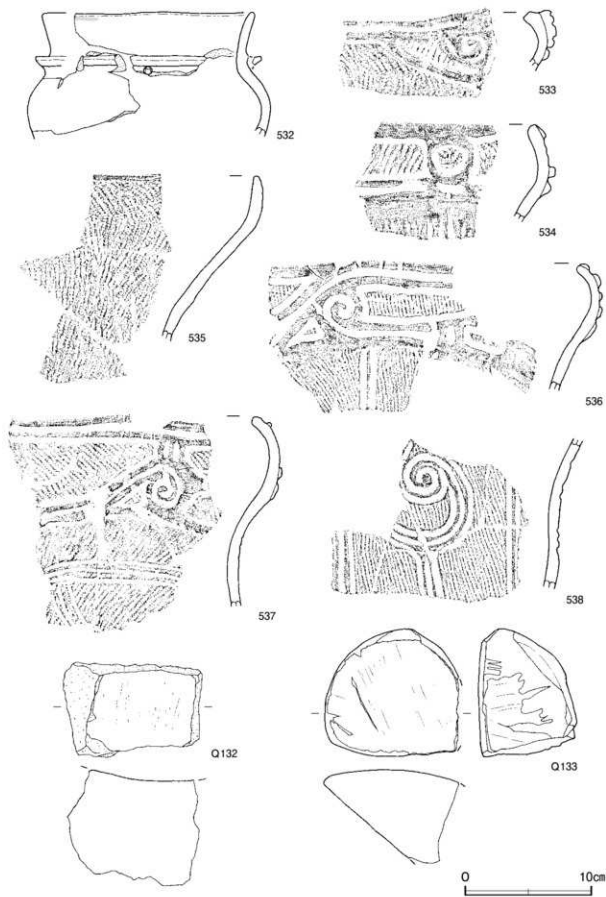
覆土 2層に分類できる。ロームや焼土のブロック、炭化材が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化材微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|



第185图 第84号土坑·出土遺物実測図



第 186 图 第 84 号土坑出土遗物实测图

遺物出土状況 縄文土器片 159 点（深鉢 156、小型浅鉢 1、有孔罎付土器 2）、石器 3 点（磨製石斧 1、砥石 2）、剥片（瑪瑙）・石核（瑪瑙）・礫各 1 点が出土している。531 は東部の底面から正位で置かれた状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。529～538、Q 132・Q 133 は、いずれも北半部の底面から覆土下層にかけて、破砕された状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 84 号土坑出土遺物観察表（第 185・186 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
529	縄文土器	深鉢	[306]	(9.1)	-	長石・石英	にがい黄橙	普通	口縁部無文 交互斜突による波状文 施文に單筋形並条縄文 R.L. (縦) 3本の並行沈線による波状文・内面磨き	覆土下層 ～底面	20%
530	縄文土器	深鉢	[234]	(28.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部無文 施文に粗い単筋縄文 R.L. (斜)	覆土下層 ～底面	60%
531	縄文土器	小型浅鉢	198	132	9.6	長石・石英・雲母	にがい赤褐	普通	頸状に隆帯突起 器面上に太い沈線で文様描画 口縁部外・内面赤彩施	底面	30% PL119
532	縄文土器	有孔罎付土器	[166]	(10.0)	-	長石・石英	にがい赤褐	普通	外・内面磨き 口縁下部に罎が回り垂直方向に穿孔	覆土下層 ～底面	10%
533	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口唇部部に沈線 隆帯による波状文 隆帯側条に単文・単文に単筋縄文 R.L. (縦・横) で口縁部で羽状焼成	覆土下層 ～底面	
534	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	隆帯による凹文・方眼区画 区画内単筋縄文 R.L. (縦) 3本の沈線が赤字	覆土下層	
535	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	褐	普通	口縁部上端単筋縄文 R.L. (横) 口縁部以下同一原体を斜位に施文	覆土下層	
536	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	施文に赤赤文 (縦) 隆帯による文様描画 口縁部下から2条の隆帯文	覆土下層	
537	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇部部沈線 隆帯により口縁部文様描画 施文に単筋縄文 R.L. (横) 頸部3本の沈線 口縁下部から頸部部同一原条 (縦)	覆土下層	
538	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	施文に赤赤文 (縦) 3本の沈線により渦巻文・並行線文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 132	砥石	(7.5)	(11.0)	(9.2)	(979.3)	花崗岩	表面に風状の砥面 周縁部欠損	覆土下層	
Q 133	砥石	(10.2)	107	7.8	(914.9)	花崗岩	表面全体に砥面 側面一部に砥面	覆土下層	一部保存着

第 85 号土坑（第 187 図 PL30）

位置 調査区北部西寄りの B 2 9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 86・87・169 号土坑を掘り込み、第 170 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 208 m、短径 172 m の楕円形で、長径方向は N - 86° - W である。底面は平坦で、深さは 50cm である。壁はほぼ直立している。

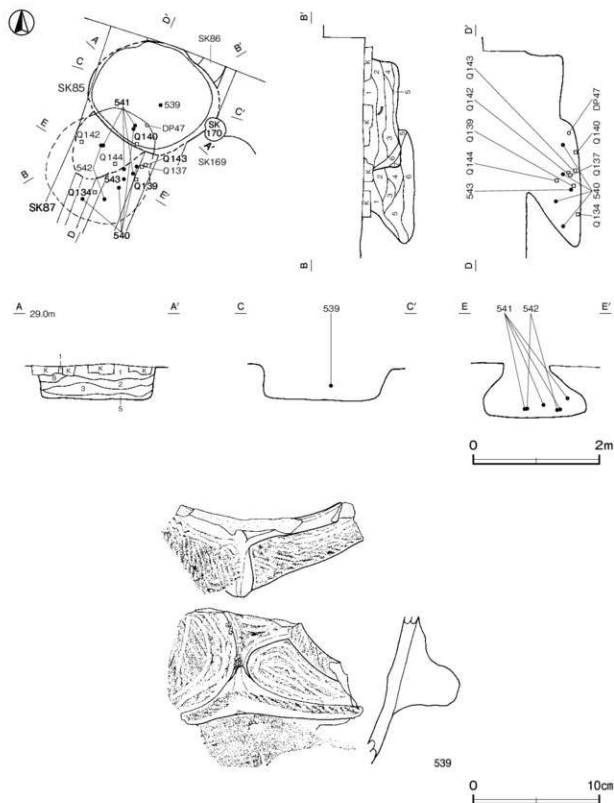
覆土 8 層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック微量（締まり強い）
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子多量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 44 点（深鉢）、土製品 1 点（不明土製品）が出土している。539 は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第187図 第85・87号土坑、第85号土坑出土遺物実測図

第85号土坑出土遺物観察表(第187図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
539	陶文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母	にがい肌	普通	底状の残部が認め、把手中央部擴大状(区画内2本の沈線)段帯土及び地文に0段多条縄文	覆土中層	10%

第 87 号土坑 (第 187 ~ 190 図 PL30・97)

位置 調査区北部西寄りの B 2 9 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 85 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 1.46 m、短径 0.98 m の不整楕円形で、長径方向は N - 50° - E である。底面は長径 1.85 m、短径 1.58 m の楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 84 cm である。壁は大きく内傾して、袋状を呈している。

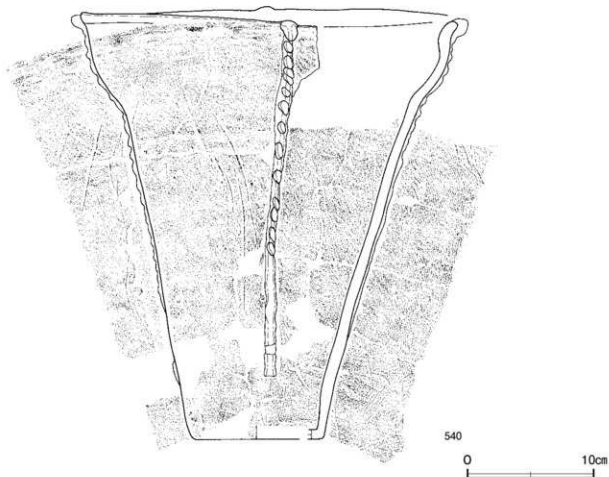
覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

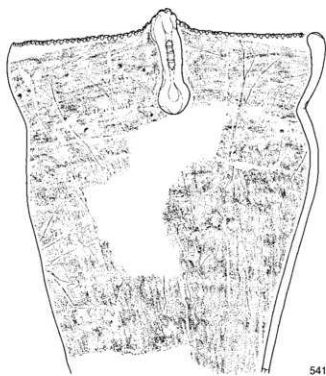
1 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3 黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量	6 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 127 点(深鉢 121, 甕 6)、土製品 1 点(耳栓)、石器 6 点(磨製石斧 4, 敲石 1, 砥石 1)、磨製石斧素材 5 点、石核 3 点(瑪瑙)が出土している。540 ~ 543 は、大型破片が東壁際にまとまっており、小破片がその周辺から散乱した状態で出土している。DP47 は北壁際、Q 134 ~ Q 142 は極小型・小型の磨製石斧とその素材で、坑内全体の覆土下層を中心に、散乱した状態で出土している。いずれも埋め戻しの早い段階で、一括投棄されたものと考えられる。

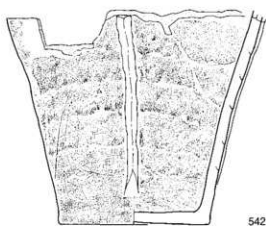
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。廃絶後には、残存率の高い土器とともに、極小型・小型の磨製石斧とその素材が一括投棄されている。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



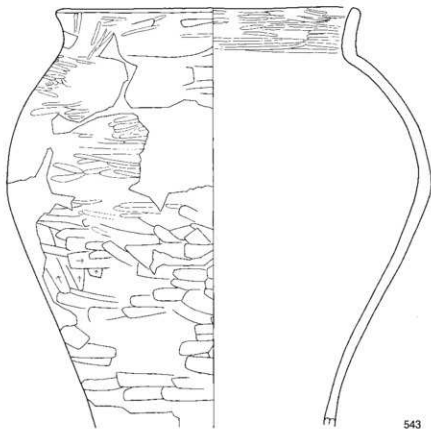
第 188 図 第 87 号土坑出土遺物実測図(1)



541



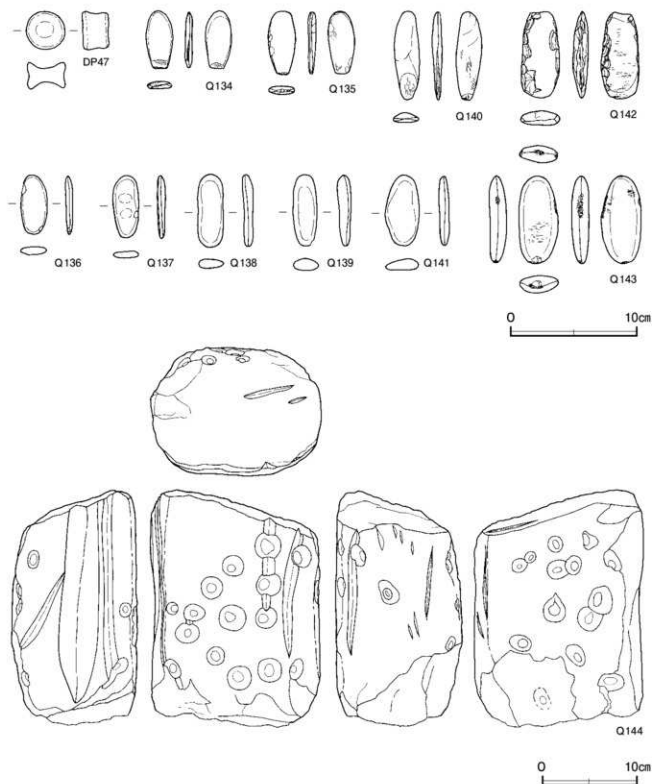
542



543



第 189 图 第 87 号土坑出土遗物实测图(2)



第190図 第87号土坑出土遺物実測図(3)

第87号土坑出土遺物観察表(第188~190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
540	縄文土器	深鉢	291	34.4	[100]	長石・石英	にぶい・黒	普通	口縁上部段帯貼付による無文帯 地文に細かい反格子織文[土尺(縦) 4単位の節間段帯直下	覆土下層	70% PL119
541	縄文土器	深鉢	237	(290)	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	口縁部ナデ(横) 口縁部刺突文 4単位の段帯貼付による縦長の突起 胴部縦方向の縞	覆土下層	60% PL119

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
542	縄文土器	深鉢	-	(170)	118	長石・石英・雲母	明褐色	普通	輪模面を残し前面三角形の隆帯垂下 胴下半及び底部は磨き 底面研代痕	覆土下層	30% PL119
543	縄文土器	甕	228	33.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面磨き(横) 胴部ナデ及び磨き	覆土下層	70% PL119

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP47	耳栓	20	20	1.4	5.7	長石・石英	明赤褐色	表裏面に凹み 側面ナデ	覆土下層	PL160

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q134	磨製石斧	4.6	2.0	0.6	8.5	角閃岩	柳小型 扁平な自然石 両側縁に接 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土下層	PL169
Q135	磨製石斧	(4.9)	2.1	0.6	(10.7)	角閃岩	柳小型 刃部一部欠損 扁平な自然石 両側縁に接	覆土中	PL169
Q136	磨製石斧	4.7	2.1	0.6	8.1	頁岩	柳小型 扁平な自然石	覆土中	PL169
Q137	磨製石斧	5.0	2.0	0.7	9.1	頁岩	柳小型 扁平な自然石	覆土下層	PL169
Q138	磨製石斧	5.7	2.1	0.8	14.0	ホルンフェルス	柳小型 扁平な自然石	覆土中	PL169
Q139	磨製石斧	5.7	2.0	1.1	19.6	変質閃緑輝岩	柳小型 扁平な自然石	覆土下層	PL169
Q140	磨製石斧	7.0	2.1	0.8	(14.6)	角閃岩	柳小型 扁平な自然石 両側縁に接 刃部は表裏から研ぎ出す	底面	PL169
Q141	磨製石斧	5.6	2.7	0.9	19.9	角閃岩	柳小型 扁平な自然石	覆土中	PL169
Q142	磨製石斧	6.9	3.1	1.1	41.2	角閃岩	小型 全面研磨	覆土下層	PL169
Q143	砥石	6.9	3.1	1.4	44.1	ホルンフェルス	砥石の一部に砥打痕 表裏の一部に磨痕	覆土下層	
Q144	砥石	25.1	18.1	13.3	8770.0	花崗岩	表裏・側面に溝状の砥面 側面3面に砥面	覆土中層	PL179

第88号土坑 (第191・192図 PL30)

位置 調査区中央部西寄りのC3c2区。標高29mほどの台地平坦部に位置している。

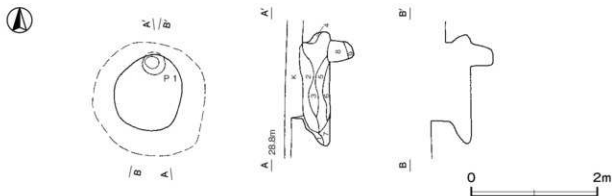
規模と形状 開口部は長径1.18m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-15°-Eである。底面は径1.78~1.92mのはほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは72cmである。壁は内傾して、袋状を呈している。

ピット 径38.0cmの円形で、深さ35cmである。補助的な貯蔵施設と考えられる。

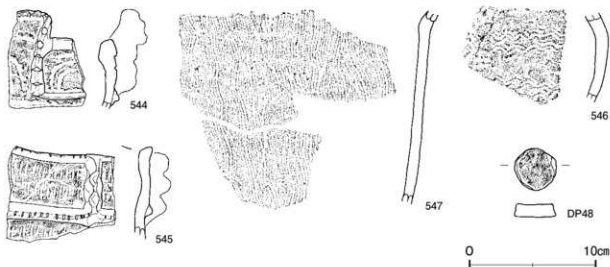
覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第8・9層はP1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック微量(粘性やや強い) |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量、焼土粒子少量 | | |



第191図 第88号土坑実測図



第 192 図 第 88 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 152 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片円盤), 石器 1 点 (磨製石斧), 剥片 4 点 (頁岩 1, 石英 3), 粘土塊 1 点が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第 88 号土坑出土遺物観察表 (第 192 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
544	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい・暗黒	普通	扇状把手 右端沈線による文様隔画 断面三角形の胎帯貼付 隆帯上に押形文	覆土中	
545	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	断面三角形の隆帯貼付 隆帯上にキザミ目 横位の点形文	覆土中	
546	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	網み状の胎付 半截竹管による横位の並行波状文	覆土中	
547	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	半截竹管による縦位の波状文を全体に施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP48	土器円盤	3.4	3.3	1.0	132	長石・石英	にぶい・褐	割部片 縦線粗く調整	覆土中	

第 89 号土坑 (第 193 図 PL31)

位置 調査区中央部北寄りの C 3c3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 129・271 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.75 ~ 1.87 m の円形で, 底面は平坦である。深さは 47 cm で, 壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 27 ~ 39 cm で, 性格は不明である。

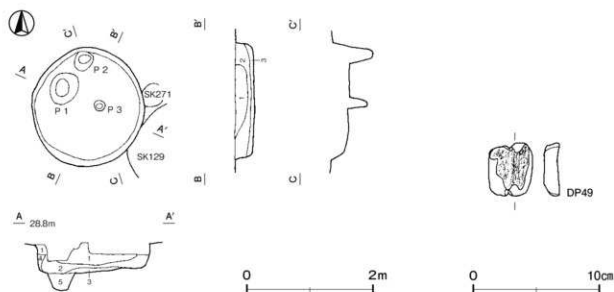
覆土 4 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積である。第 5 層は P 1 の覆土で, ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 43 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片錘) が出土している。

所見 時期は, 中期と考えられるが, 詳細は不明である。



第193図 第89号土坑・出土遺物実測図

第89号土坑出土遺物観察表（第193図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP49	土器片莚	4.2	3.4	1.2	19.1	長石・石英・雲母	黒褐色	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

第91号土坑（第194図 PL31）

位置 調査区北部西寄りのB3j3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第124・134号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、開口部は東西軸が1.75m、南北軸が0.76m、底面は東西軸が2.08m、南北軸が0.80mしか確認できなかったが、ともに円形または楕円形と推定できる。平坦で、確認面からの深さは122cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。

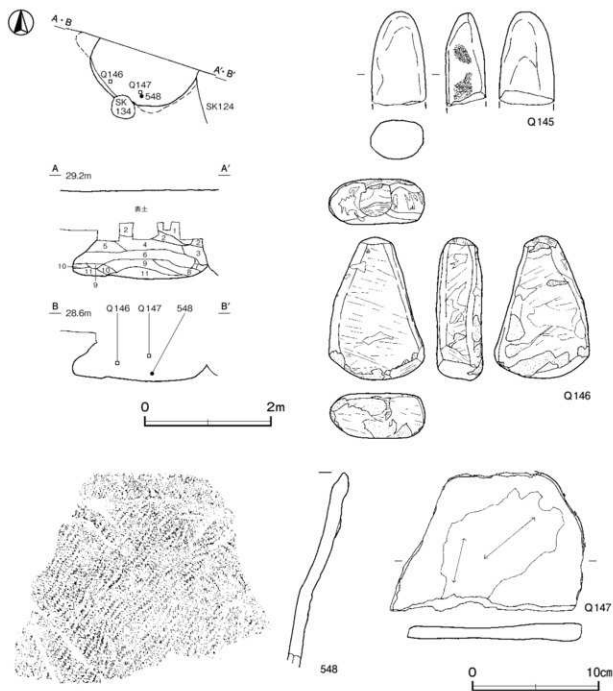
覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 にぶい黄褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック少量（粘性やや強い）	9 黒褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック中量	10 にぶい黄褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	11 暗褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片92点（深鉢）、石器3点（磨製石斧未成品、敲砥石、砥石）、剥片3点（瑪瑙1、石英2）、残核（瑪瑙）・雜各1点が出土している。548は南壁際の覆土下層、Q146は南西壁際、Q147は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第194図 第91号土坑・出土遺物実測図

第91号土坑出土遺物観察表(第194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
548	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐色	普通	口唇部肥厚 瓶いびきによるV字状の胎付 胴部単純縄文図。(横) 胴部同一器体(縦)	覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q145	磨製石斧 未成品	(7.4)	4.4	3.1	(16.0)	緑色岩	表裏面研磨	周縁部銀打調整	刃部欠損	覆土下層	
Q146	赭紙石	11.6	7.5	3.6	522.2	角閃岩	楕円縁の周縁部に多方向からの砥面により機をもつ			覆土中層	PL172
Q147	砥石	(109)	(15.4)	1.4	(252.6)	砂岩	片面に砥面			覆土中層	被熱

第93号土坑 (第195図 PL32)

位置 調査区北西部のB2h5区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第94・214号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径241m、短径198mの楕円形で、長径方向はN-56°-Eである。底面は平坦である。確認面からの深さは30cmで、壁は外傾している。

ピット 北東部に位置しており、長径40cm、短径33cmの楕円形で、深さ13cmである。性格は不明である。

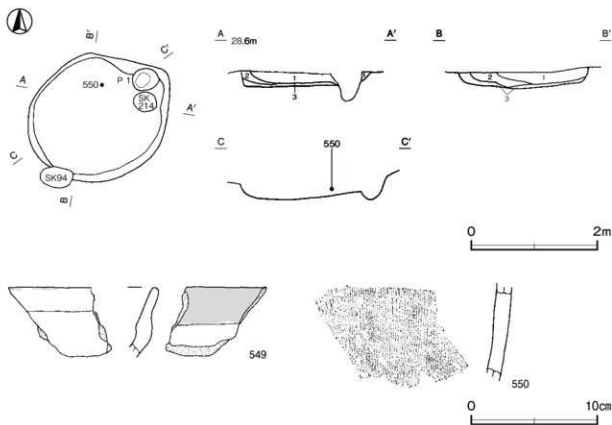
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片39点(深鉢28、浅鉢11)が出土している。550は、北部の覆土下層から出土している。埋め戻す過程で投棄あるいは混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第195図 第93号土坑・出土遺物実測図

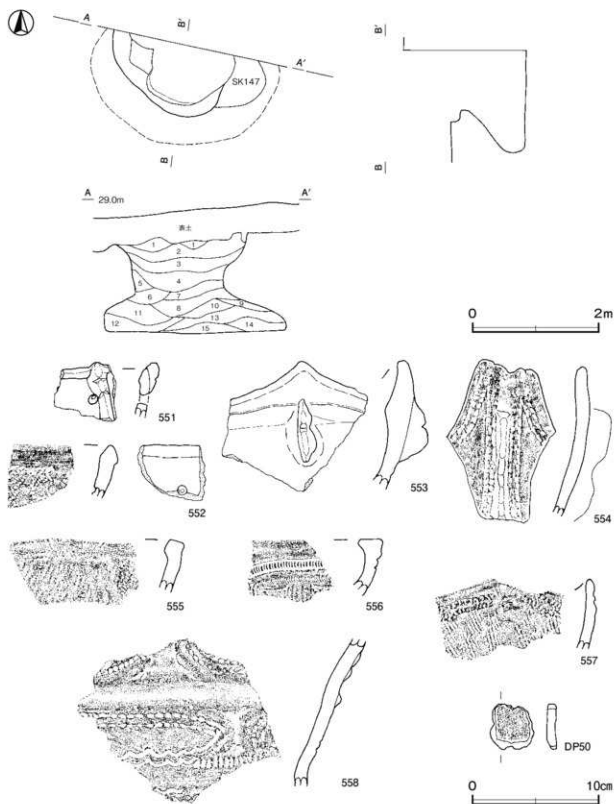
第93号土坑出土遺物観察表 (第195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
549	縄文土器	浅鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にひ・黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
550	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にひ・黄褐色	普通	縦位の糸織文	覆土下層	

第95号土坑 (第196図)

位置 調査区北西部B2h4区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第147号土坑を掘り込んでいる。



第196図 第95号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、開口部は東西径が1.94m、南北径が1.14mで、底面は東西径が2.76m、南北径が1.60mしか確認できなかった。平面形は円形もしくは楕円形と推定できる。底面は平坦で、確認面からの深さは152cmである。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から高さ63～82cmのところまでくびれて、上位は外傾している。

覆土 15層に分層できる。多くの層にロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	9	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	11	褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	12	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	13	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	14	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	15	褐色	ロームブロック中量（締まり強い）
8	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片90点（深鉢86、浅鉢4）、土製品1点（土器片鏝）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第95号土坑出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
551	縄文土器	深鉢	-	(47)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	断面三角形の隆帯貼付 施修孔あり	覆土中	
552	縄文土器	深鉢	-	(45)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部刺文 結節刺文(縦) 内面に穿孔並中の筋線	覆土中	
553	縄文土器	深鉢	-	(103)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	縦長の瘤状の突起貼付 外・内面横位のナズ	覆土中	
554	縄文土器	深鉢	-	(127)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	断面三角形の隆帯貼付 肥土部周縁・隆帯に沿って2本の有筋状痕	覆土中	
555	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇直部に平坦面 口唇直下から単筋刺文(縦)	覆土中	
556	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇直部に平坦面 施修孔刺文とべつ先状の刺文により文様区画 三角形の凸筋あり	覆土中	
557	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁上部に2本の有筋状痕 瘤状の突起貼付 刺文に刺刺文(縦)	覆土中	
558	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯による楕円区画文 隆帯に沿って2本の有筋状痕 波状刺文・キョウヒツ文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
D190	土器片鏝	3.7	3.5	0.8	11.2	長石・石英	灰黄褐	胴部片 両端にキズ目	覆土中	

第96号土坑（第197図）

位置 調査区北西部のB2h5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第246・249号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.16m、短径0.97mの楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。底面は平坦で、確認面からの深さは32cmである。壁は底面から外傾している。

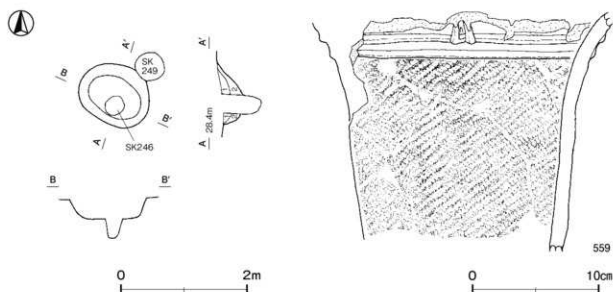
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
---	-----	----------------------	---	-----	------------------------

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第197図 第96号土坑・出土遺物実測図

第96号土坑出土遺物観察表(第197図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
559	縄文土器	深鉢	-	(190)	-	長石・石英・赤色 粒子	灰褐	普通	胴部2条の発帯が一巡 地文に早稲縄文RL(縦)	覆土中	60% PL119

第101号土坑(第198図 PL32)

位置 調査区西部のC2b6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第343・360号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.25m、短径1.90mの不整楕円形で、長径方向はN-23°-Wである。底面は長径2.92m、短径2.62mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは127cmである。壁は大きく内傾して、袋状を呈し、底面から高さ88~92cmのところできびれて、上位は外傾している。

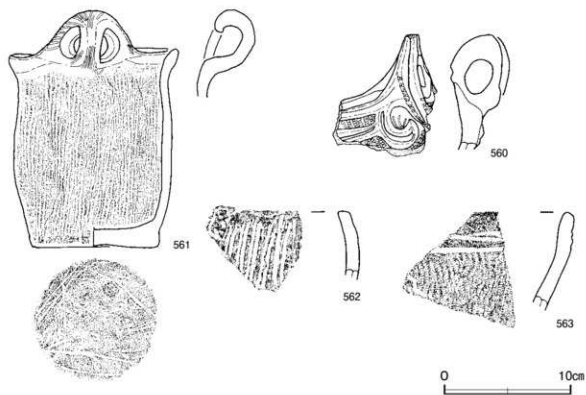
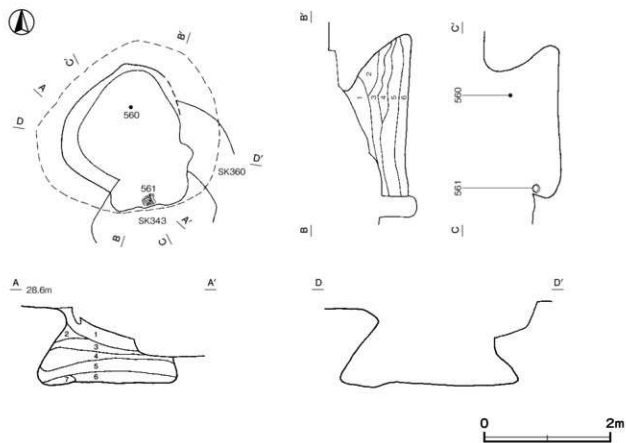
覆土 7層に分層できる。各層にロームや焼土のブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化材微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量(締まり強い) |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片99点(深鉢97, 浅鉢2)が出土している。561は南壁際の覆土下層から、口縁部を北東に向けた横位の状態でも出土している。560は中央部の覆土中層から出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 198 图 第 101 号土坑·出土遗物实测图

第101号土坑出土遺物観察表(第198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
560	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	管筋れ縁帯による文様描画 区画内・縁帯上に 母胎文を引く(図)	覆土中層	
561	縄文土器	深鉢	130	188	9.8	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	把手部及び口縁部下端に縦位の燃糸文 底面木 葉文	覆土下層	100% PL120
562	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部から縦位の縁帯貼付 縦位の並行沈線	覆土中層	
563	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	口唇部の段多糸縷文(横) 並行沈線 地文 に同一原体による斜位の地文	覆土中層	

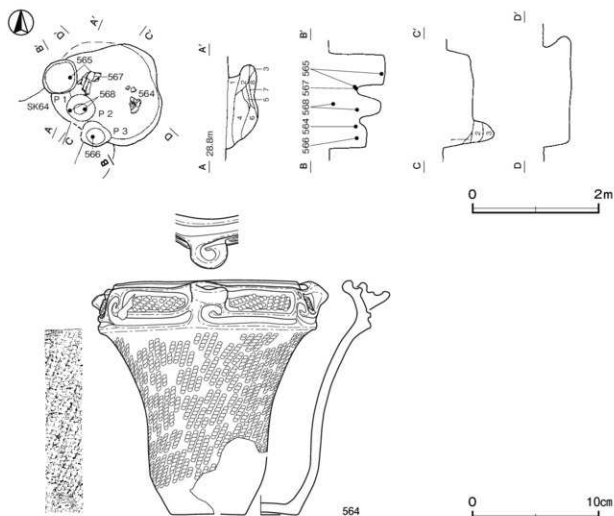
第104号土坑(第199～201図 PL33)

位置 調査区北部中央のC3b3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

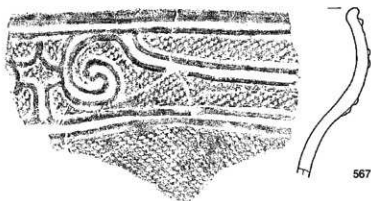
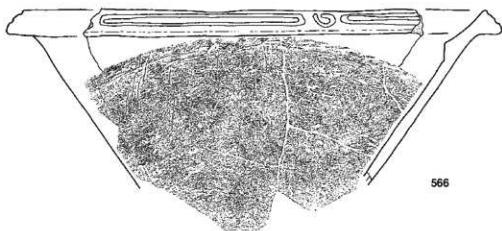
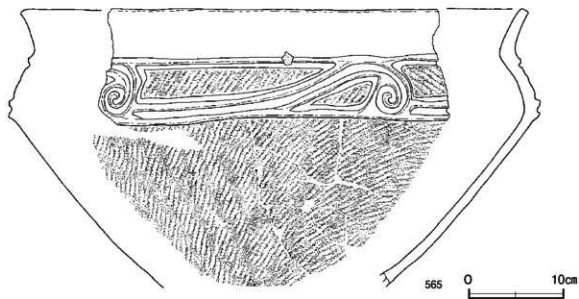
重複関係 第64号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は長径1.67m、短径1.49mの不整楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。底面は長径1.73m、短径1.33mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは50cmである。壁は、北部が内彎して、袋状を呈し、その他は外傾している。

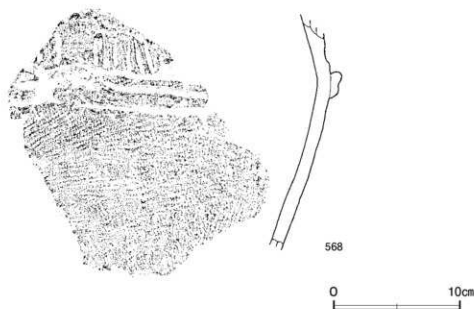
ピット 3か所。P1～P3は、径45～60cmの円形で、深さ12～44cmである。いずれも壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。



第199図 第104号土坑・出土遺物実測図



第 200 图 第 104 号土坑出土遗物实测图 (1)



第201図 第104号土坑出土遺物実測図(2)

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子少量

覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量
3 暗褐色 ローム粒子微量
4 黒褐色 ローム粒子中量(粘性やや強い)
5 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
6 暗褐色 ローム粒子少量
7 暗褐色 ロームブロック少量
8 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片75点(深鉢73, 浅鉢2), 石核2点(瑪瑙)が出土している。564は東部の底面から横位の状態而出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。565は北西部の覆土下層とP1の底面から出土した破片が接合している。565・567は折り重なった状態で、566は南部の覆土下層からそれぞれ出土しており、いずれも廃絶直後に投棄されたものと考えられる。568は南西部の覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第104号土坑出土遺物観察表(第199～201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
564	縄文土器	深鉢	145	186	60	長石・石英	にぶ黄褐色	普通	口縁部齊刷石縁帯による区画文・渦巻文・3単位の垂巻状の把手・地文に卑胎縄文LR(横) 頸部上縁部力屈のナゲ	底面	90% PL120
565	縄文土器	浅鉢	[518]	[291]	-	長石・石英	橙	普通	口縁部齊文・口縁下部縁帯による区画と渦巻文・地文に卑胎縄文LR(横)	覆土下層・P1底面	30% PL120
566	縄文土器	浅鉢	[367]	[140]	-	長石・石英・雲母	にぶ黄褐色	普通	口唇部沈線による長柄内彩区画及び内文外・内面磨き	覆土下層	10%
567	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口唇部沈線の進行段階による区画文・渦巻文・地文に卑胎縄文LR(横) 頸部以下同一単体による縦位の地文	覆土下層	
568	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	頸部の縁帯による区画 腹帯上に卑胎縄文LR(横)を施文・頸部卑胎縄文LR(斜)	覆土上・下層	

第105号土坑 (第202図 PL33)

位置 調査区中央部西寄りのC3d2区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第121号土坑を掘り込み、第107・185・186号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、径1.56～1.62mほどの円形である。底面は平坦で、深さは32cmである。壁は外傾している。

ピット 径20cmほどの円形で、深さ17cmである。中央部に位置していることから、補助柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

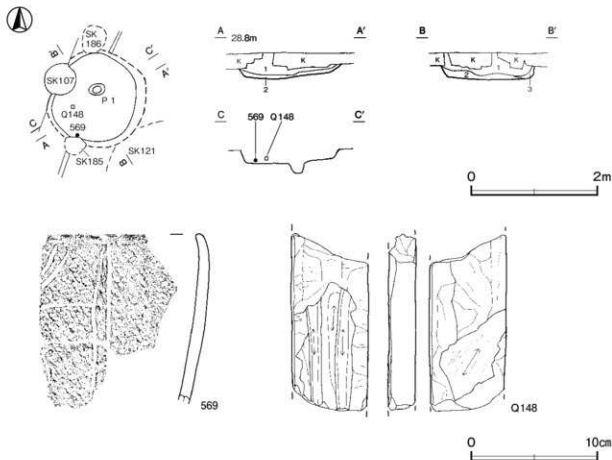
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片63点(深鉢62, 浅鉢1), 石器1点(砥石)が出土している。569は南部, Q148は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第202図 第105号土坑・出土遺物実測図

第105号土坑出土遺物観察表 (第202図)

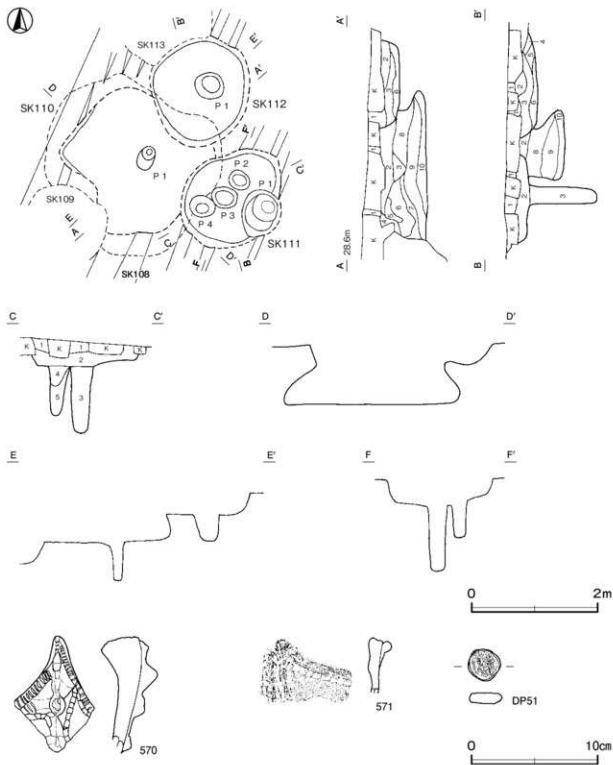
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	文様の特徴はか	出土位置	備考
569	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	素文に黒線縄文L8(縦) 2本の沈線による器底文・弦状文 内面磨き	覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q148	砥石	(14.0)	6.1	2.2	(3.7)	砂岩	表面浅い溝状の砥面	裏面平坦な砥面	覆土下層	PL179	

第110号土坑 (第203図 PL34)

位置 調査区北部西寄りのB28区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第108・109・111・112号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径2.53mの不整形円形である。底面は長径2.90m、短径2.62mの不整形楕円形で、平坦である。確認面からの深さは97cmである。壁は内傾して、袋状を呈し、底面



第203図 第110・111・112号土坑、第110号土坑出土遺物実測図

から高さ 60～63cmのところでぐびれ、上位はほぼ直立している。

ピット 長径 39cm、短径 23cmの楕円形で、中央部に径 18cmの円形の掘り込みを有している。深さは 63cmである。土坑の中央部に位置していることから、柱穴と考えられる。

覆土 10層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 180点（深鉢）、土製品（土器片円盤）・石器（スクレイパー）・石製品（不明）・石核（ホルンフェルス）各1点、剥片3点（砂岩、瑪瑙、流紋岩）が出土している。DP51は覆土下層、570は覆土上層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄、あるいは混入したものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。

第110号土坑出土遺物観察表（第203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
570	縄文土器	深鉢	-	(92)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	把手中央に断面三角形の突起を貼付 って有筋状。頸縁部にキザミ目	突縁に沿 って有筋状	覆土上層	
571	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	覆土部から2本の隆帯が垂下 出って有筋状	隆帯及び口縁に 出って有筋状	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP51	土器片	2.4	2.5	0.8	6.2	長石・石英	にぶい褐	割片 頸縁の一部を除いて研磨	覆土下層	

第111号土坑（第203・204図 PL34）

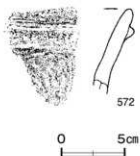
位置 調査区北部西寄りのB 29区、標高 29 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第108・110号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、長径 180 m、短径 150 mの楕円形で、長径方向は N - 40° - Eである。底面は平坦で、深さは 40cmである。壁は外傾している。

ピット 4か所。P 1は長径 73cm、短径 53cmの楕円形で、深さ 98cmである。壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2～P 4は、深さ 57～103cmである。形状から柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。第3～5層は、P 3・P 4の覆土で、ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子多量
5 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 32点（深鉢）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、中期と考えられるが、詳細は不明である。

第204図 第111号土坑出土遺物実測図

第111号土坑出土遺物観察表(第204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
572	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁上部に隆帯が一周 外・内面磨き	覆土中	

第112号土坑(第203・205図 PL34)

位置 調査区北部西寄りのB28区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第110号土坑を掘り込み、第113号土坑に掘り込まれている。

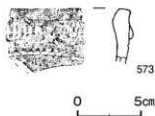
規模と形状 耕作により攪乱を受けているが、長径1.82m、短径1.57mの楕円形で、長径方向はN-7°-Eである。底面は平坦で、深さは50cmである。壁は外傾している。

ビット 径45cmの円形で、深さ41cmである。中央部に位置していることから柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量(締まり強い)



遺物出土状況 縄文土器片39点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第205図 第112号土坑出土遺物実測図

第112号土坑出土遺物観察表(第205図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
573	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇直下に平坦面作出 隆帯により楕円区画 区画内縦位の点彩文 隆帯に沿って並行着線状彫	覆土中	

第114号土坑(第206図 PL34)

位置 調査区北部西寄りのB29区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第55・81号土坑を掘り込み、第84号土坑に掘り込まれている。

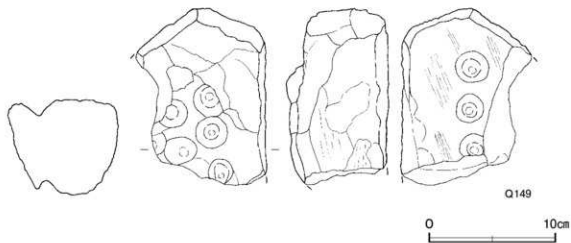
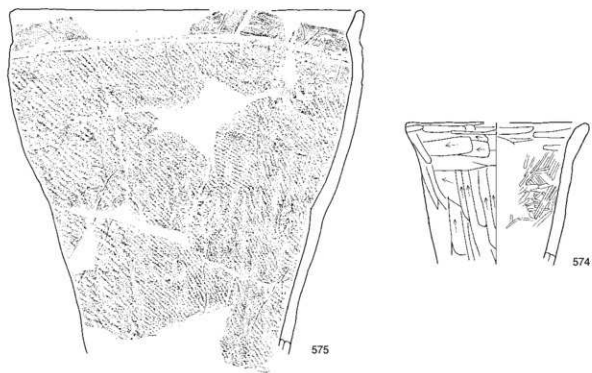
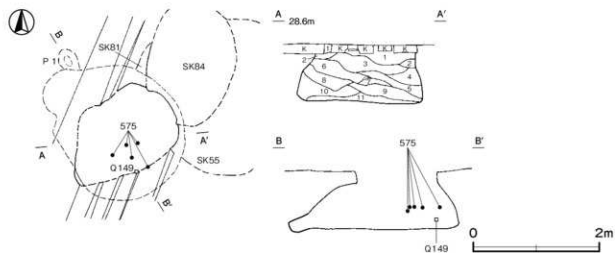
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径1.97m、短径1.29mの不整形で、長径方向はN-38°-Eである。底面は長径2.47cm、短径2.05cmの不整楕円形で、平坦である。確認面からの深さは95cmである。壁は内傾して、袋状を呈し、底面から65~78cmのところできびれ、上位はほぼ直立している。

ビット 北壁に掘り込まれており、幅38cm、奥行34cmで、底面は緩やかに下降している。形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 11層に分層できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 8 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ロームブロック中量(締まり強い)



第 206 图 第 114 号土坑·出土物实测图

遺物出土状況 縄文土器片 83 点(深鉢), 石器 5 点(磨石 2, 敲石 1, 凹石 1, 多孔石 1) が出土している。Q 149 は南東部の覆土下層から, 575 は中央部の覆土中層から, 破片が散乱した状態で, それぞれ出土しており, 埋戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 114 号土坑出土遺物観察表 (第 206 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
574	縄文土器	深鉢	[144]	[112]	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部積位のナズ 胴部外面積位のナズ 内面積位の積ま	覆土中	10%, PL120
575	縄文土器	深鉢	[276]	[274]	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部無文様 無文部下に有筋沈線 胴部無筋 縄文土 (縦)	覆土中層	PL120

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q149	多孔石	(140)	(104)	8.1	(188.2)	花崗岩	表裏面に凹み痕 側面及び裏面の一部に研磨痕	覆土下層	PL179

第 116 号土坑 (第 207・208 図 PL35)

位置 調査区北西部の B 2h4 区, 標高 28 m ほどの台地平坦部に位置している。

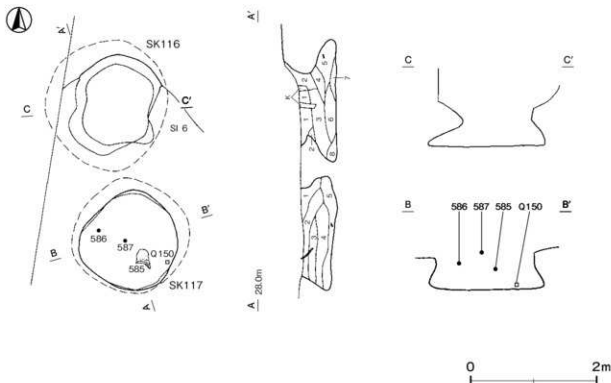
重複関係 第 6 号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.62 m, 短径 1.34 m の不定形で, 長径方向は N-9°-E である。底面は径 1.92 ~ 2.08 m の円形で, 平坦である。確認面からの深さは 82 cm である。壁は内傾して, 袋状を呈している。

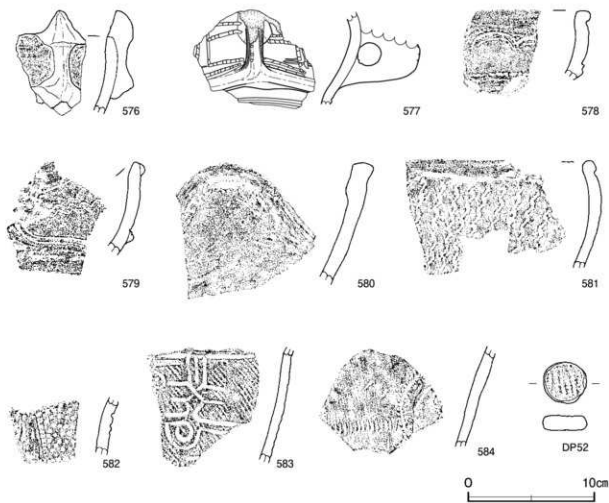
覆土 8 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 (締まりや弱い) |



第 207 図 第 116・117 号土坑実測図



第208図 第116号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片125点(深鉢123, 浅鉢2), 土製品1点(土器片円盤)が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。

第116号土坑出土遺物観察表(第208図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
576	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	突起中央部から断面三角形の隆帯垂下	覆土中	
577	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英	黒褐色	普通	把手先端にキザミ目 2本の有筋沈線 胴部横位の並行沈線	覆土中層	PL120
578	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	並行有筋沈線による弧文・並行線文	覆土中	
579	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	断面三角形の隆帯による区画文, 隆帯に沿って並行沈線 区画内並行沈線による点状文	覆土中	
580	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	周縁部肥厚 外・内面斜位の磨き	覆土中	
581	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部縁状の隆帯粘付により肥厚 隆帯下部から粘着縄文(縦)	覆土中	
582	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	断面三角形の隆帯が垂直 隆帯に沿って有筋沈線 区画内内筋刻文文	覆土中	
583	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	黒文に単筋縄文1段(縦) 並行沈線により文様描画	覆土中	
584	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	隆帯に沿って並行刻文文, 縦帯を認識した幅状点状文(横) 外・内面磨き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP52	土器片円盤	3.2	3.5	1.2	15.5	長石・石英・雲母	暗赤褐色	胴部片 周縁部研磨	覆土中	

第117号土坑 (第207・209・210図 PL35)

位置 調査区北西部のB 214区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

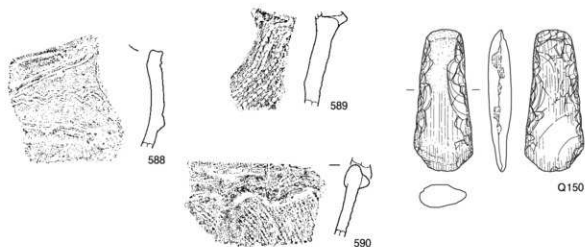
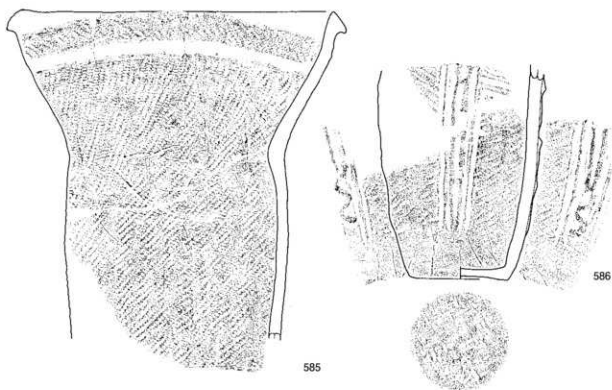
重複関係 第6号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径1.50～1.57mの円形で、底面は径1.82～1.90m、短径1.82mの円形である。底面は平坦で、確認面からの深さは59cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。

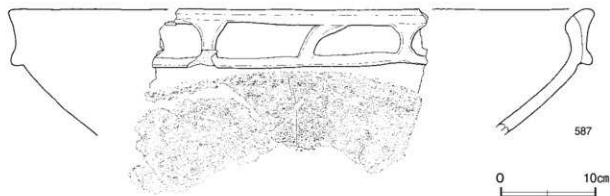
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第209図 第117号土坑出土遺物実測図(1)



第210図 第117号土坑出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 縄文土器片75点(深鉢73, 浅鉢2), 石器1点(打裂石斧)が出土している。Q150は南東壁際の覆土下層, 585は中央部の覆土中層, 586は西部, 587は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第117号土坑出土遺物観察表(第209・210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
585	縄文土器	深鉢	24.8	(26.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部卑縮縄文刻(横) 口縁部以下同一単体(縦)	覆土中層	30% PL120
586	縄文土器	深鉢	-	(17.0)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	縄文に卑縮縄文刻(縦) 縦位のじ字状隆帯と蛇行状隆帯を交互に描画 隆帯に沿って並行沈線 底面磨削代痕	覆土上層	
587	縄文土器	浅鉢	(60.0)	(13.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部卑縮 隆帯による横位の区画 外・内面横位の磨き	覆土上層	10%
588	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	断面三角形の隆帯による区画 隆帯に沿って並行沈線 区画内並行沈線による波状文	覆土中	
589	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	波状把手に沿って半截竹管による並行有筋沈線	覆土中	
590	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部上端隆帯彫付による波状文 口唇部及び隆帯上に卑縮縄文L.R(横) 胴部同一単体(縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q150	打裂石斧	11.3	4.7	1.9	117.0	ホルンフェルス	磨削 片面に自然面 両側縁線行調整 刃部は表裏を研磨 ハビダリ目	覆土下層	PL163

第120号土坑(第211図 PL35)

位置 調査区北部中央のC3a3区, 標高29mほどの台地平坦部に位置している。

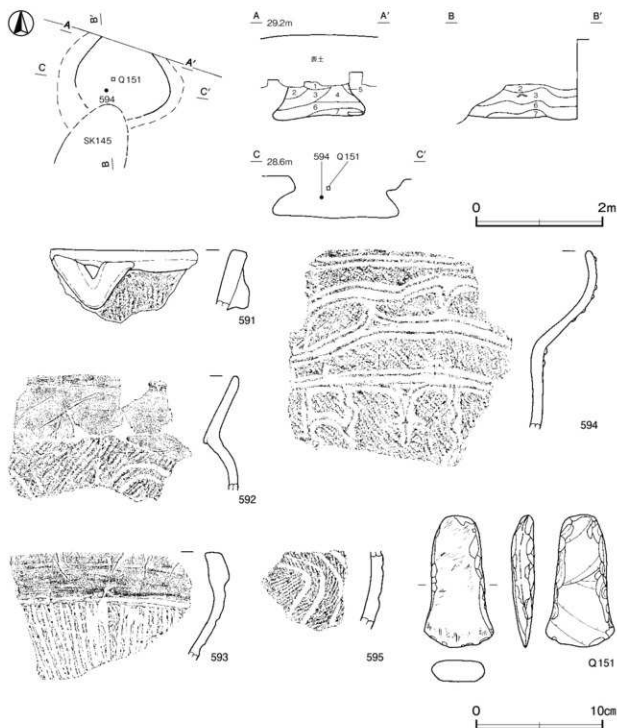
重複関係 第145号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており, 開口部は東西径1.52mで, 南北径が1.21mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は東西径1.95mで, 南北径が1.68mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき, 平坦である。確認面からの深さは54cmである。壁は内壁して, 袋状を呈している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子少量	6 黒褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック微量	7 暗褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		



第211図 第120号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片131点(深鉢), 石器2点(打製石斧, 石皿), 剥片1点(石英)が出土している。594は中央部の覆土中層, Q151は中央部の覆土上層からそれぞれ出土しており, 埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第120号土坑出土遺物観察表（第211図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
591	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部地厚 太い隆帯をV字状に陥存 地文に単線縄文LR（縦）	覆土中層	
592	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部地厚 隆帯単線縄文LR（縦） 沈凹により文様接離 口唇部外・内陥わずかに赤影痕	覆土中層	
593	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部地厚 太沈凹が一巡 手載竹管による縦方向の条線文	覆土中層	
594	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単線縄文LR（縦） 細い隆帯により文様接離	覆土中層	
595	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	地文にO波多条縄文LR（縦・横） 沈凹により文様接離	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q151	打製石斧	10.5	5.4	1.8	119.1	砂岩	新形 片面に自然面 肩縁部微細な敲打調整 刃部は未広がり	覆土上層	PL166

第121号土坑（第212・213図 PL36）

位置 調査区中央部西寄りのC 3 d3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第105・122号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径1.76～1.80mの円形である。底面は長径1.92m、短径1.73mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは52cmである。壁は南西部が内増して、袋状を呈し、その他はほぼ直立している。

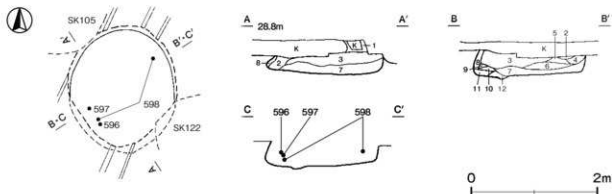
覆土 12層に分層できる。ロームブロック、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

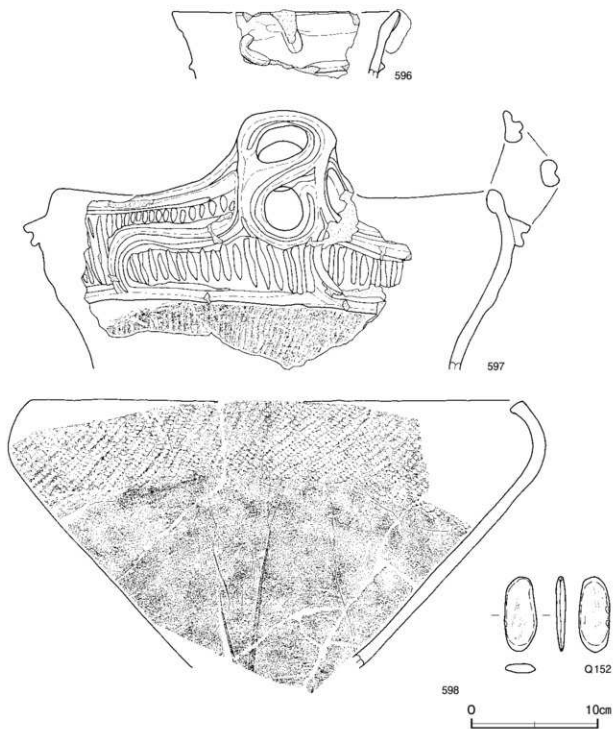
- | | | | |
|--------|----------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片130点（深鉢129、浅鉢1）、石器2点（磨製石斧、磨石）、礫3点（瑪瑙1、砂岩2）が出土している。598は北東部と南西部の覆土中層から出土した破片が接合している。596・597は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第212図 第121号土坑実測図



第213図 第121号土坑出土遺物実測図

第121号土坑出土遺物観察表(第213図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
596	縄文土器	深鉢	[180]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶら(内)	普通	口縁部副位の棒状突起貼付による区劃文	断面三角形の隆帯	縄土中層	
597	縄文土器	深鉢	[340]	(20.5)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	背腹孔隆帯による中央部手によるクランク文・条線文及(斜)	口縁部背腹孔隆帯 頸部以下無胎文	縄土中層	10% PL121
598	縄文土器	浅鉢	[390]	(21.2)	-	長石・石英・雲母	にぶら	普通	口縁部半筋縄文 RL (縦)	胴部副位のナデ	縄土中層	25% PL121

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q153	磨製石斧	5.9	2.5	0.8	17.4	角閃岩	細小型 表面研磨 刃部は片面を研ぎ出す	覆土中	PL169

第123号土坑 (第214～217図 PL35・36)

位置 調査区北部中央のC3a3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第142・145・223・241・725・727号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径2.74m、短径2.34mの不整楕円形で、長径方向はN-47°-Wである。底面は径2.78～2.94mのほぼ円形で、平坦である。確認面からの深さは86cmである。壁は内彎して、袋状を呈している。ピット 14層は44cm、短径33cmの楕円形で、深さ5cmである。性格は不明である。

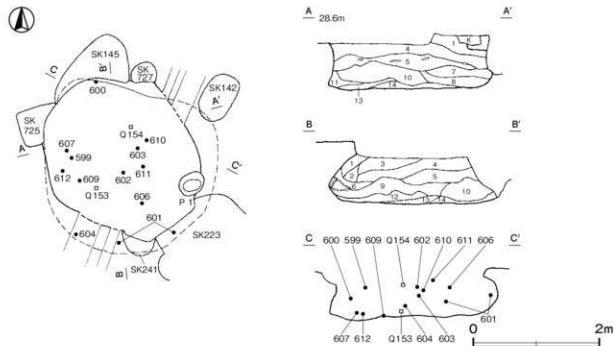
覆土 14層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

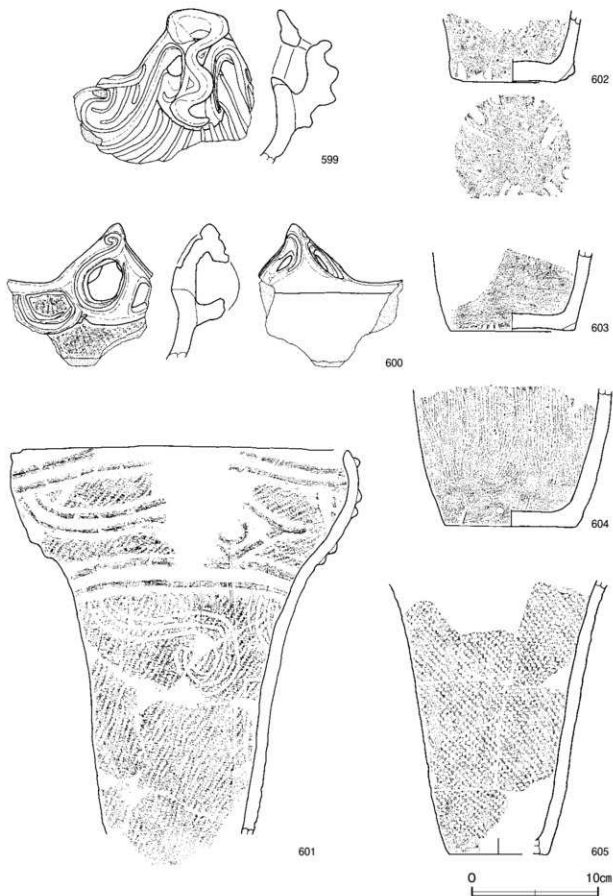
- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量、裏沼バミスブロック微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 10 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 11 にぶい褐色 ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量 | 12 暗褐色 ロームブロック多量、裏沼バミスブロック微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子中量 | 13 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 ローム粒子中量 | 14 暗褐色 ロームブロック微量 (締まり強い) |

遺物出土状況 縄文土器片 488点 (深鉢456、浅鉢32)、石器2点 (打製石斧)、剥片 (石英、黒曜石、粘板岩)・礫各3点が出土している。601は南壁際の覆土中層から、口縁部を南側に向けた横位の状態で出土している。その他は、土坑全体から散乱した状態で出土しており、609・612、Q153は底面、604・605・607は覆土下層、600・603・608は覆土中層、599・602・606・610・611、Q154は覆土上層からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

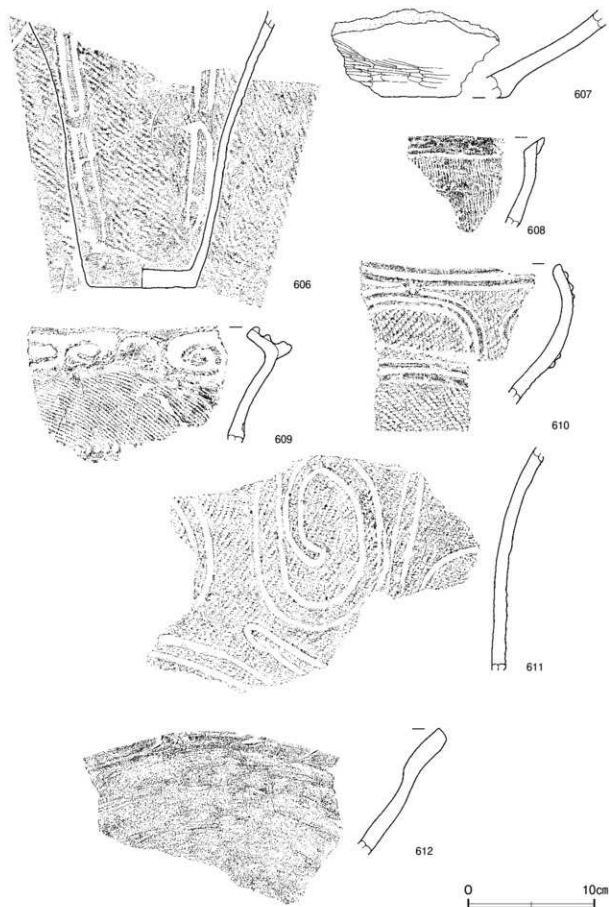
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



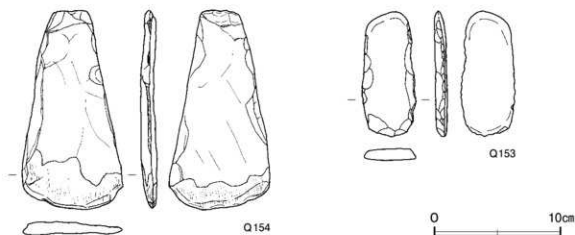
第214図 第123号土坑実測図



第 215 图 第 123 号土坑出土遺物実測图 (1)



第 216 图 第 123 号土坑出土遗物实测图 (2)



第217図 第123号土坑出土遺物実測図(3)

第123号土坑出土遺物観察表(第215～217図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考	
599	縄文土器	深鉢	-	(122)	-	長石・石英	灰黄緑	普通	中空の把手。中央に太い隆帯による縦行文・区画文。区画内太い沈線による弧状文。	覆土上層	PL121	
600	縄文土器	深鉢	-	(108)	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文LR(縦) 背割れ隆帯による区画文。中空把手部に沈線。	覆土中層	PL121	
601	縄文土器	深鉢	25.9	(309)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	地文に単節縄文LR(縦) 口縁部2本の太い隆帯による区画文・渦巻文。胴部3本の沈線による文様隆帯。	覆土中層	70% PL121	
602	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	9.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文に単節縄文LR(縦) 底面梯状片痕。	覆土上層	10%	
603	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	9.8	長石・石英・雲母	黒(外) 黄(内)	普通	胴部外面横方向の丁寧な磨き。底面四角4方向に互角の丁寧な磨き。	覆土中層		
604	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	10.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴部平紐竹管による縦帯の基線文。胴部下端及び底部丁寧な磨き。	覆土下層	30%	
605	縄文土器	深鉢	-	(21.7)	[7.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文LR(縦) 胴部下端磨き。	覆土下層	20% PL121	
606	縄文土器	深鉢	-	(22.0)	8.5	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	地文に単節縄文LR(縦) 卍字状の慧文文が3単位で垂下。底面梯状片痕。	覆土上層	40% PL121	
607	縄文土器	浅鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母	黒(外) にぶい黄(内)	普通	外・内面磨き。	覆土下層	外面灰化層付着	
608	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部上面部結土胎付により肥厚。肥厚部下部から燃赤文(縦)。	覆土中層		
609	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	口縁部上面部による慧文文。隆帯1段多量な縄文LR(横) 口縁下部同一層体(縦) 胴部平紐竹管による慧文文。	底面	PL121	
610	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁部地文に単節縄文LR(縦) 背割れ隆帯による区画文・平格内文。胴部以下口縁部と異なる単節縄文LR(横)。	覆土上層	PL121	
611	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単節縄文LR(縦) 並行沈線による横河渦巻文。	覆土上層	PL121	
612	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外・内面磨き。	底面		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q153	打製石斧	9.9	4.2	0.8	64.0	ホルンフェルス	楕形	両側縁及び端部片面を鋭打調整	未成品。	底面	PL163	
Q154	打製石斧	15.7	7.9	1.2	187.7	角閃岩	楕形	表裏面及び両縁研削	刃部は表裏を研削	薄型の平刃	覆土上層	PL164

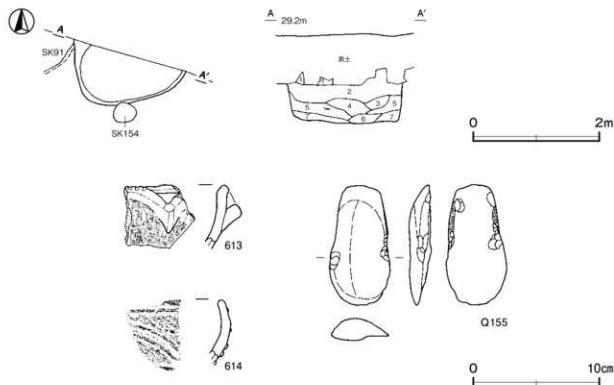
第124号土坑(第218図 PL37)

位置 調査区北部中央のB3j3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第91号土坑を掘り込み、第154号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、東西径は1.64m、南北径は0.97mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さ86cmである。壁はほぼ直立している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第218図 第124号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 (粘性やや弱い) | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片点42点(深鉢)、石器1点(打製石斧)が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第124号土坑出土遺物観察表(第218図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
613	縄文土器	深鉢	-	(51)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	隆帯によるY字状の胎付、口縁頂部に半字目 口縁部上縁部方向の乱形文	覆土中層	
614	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	胎文に半筋縄文列(横) 細い隆帯により文様 描画	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q155	打製石斧	9.6	4.9	1.7	94.5	ホルンフェルス	胎粒	片面に自然面 両縁部微細な敲打調整 片方 片方ハマ タリ劣	覆土上層	PL164	

第126号土坑(第219図 PL37)

位置 調査区北部西寄りのC3a1区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第127号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.50m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。底面は長径2.36m、短径1.82mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは81cmである。壁は内傾して、袋状を呈している。

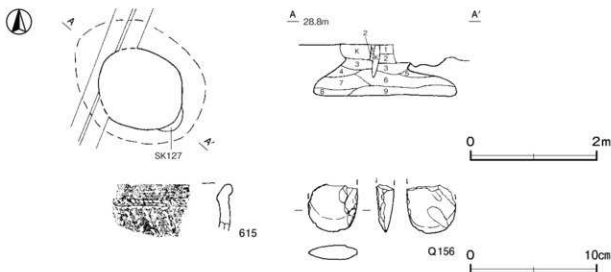
覆土 9層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 (締まり強い) |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 (締まり強い) |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 25 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨製石斧), 礫 1 点 (砂岩) が出土している。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期前葉と考えられる。



第 219 図 第 126 号土坑・出土遺物実測図

第 126 号土坑出土遺物観察表 (第 219 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
615	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口唇部厚く、口唇部下部に平截管筒による水溜り状の有筋化装が一周、下部に同じような尖頭状の有筋化装を部位に施文	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q156	磨製石斧 (39)	3.9	1.4	(296)		純砂岩	小型	全面研削	基部欠損	ハマグリ刃	覆土下層	

第 129 号土坑 (第 220 図 PL37)

位置 調査区中央部北寄りの C 3c3 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 130・182 号土坑を掘り込み, 第 89・125 号土坑に掘り込まれている。

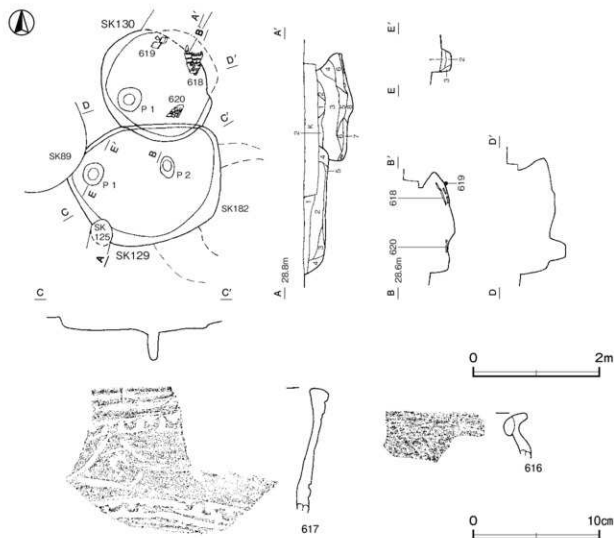
規模と形状 耕作による攪乱を受けているが, 開口部は長径 2.41m, 短径 1.95m の楕円形で, 長径方向は N-58°-E である。底面は平坦で, 確認面からの深さは 34cm である。壁は底面から緩やかに傾斜している。

ピット 2 か所。P 1 は径 39cm の円形で, 深さ 19cm である。P 2 は長径 34cm, 短径 23cm の楕円形で, 深さ 47cm である。P 1 は西部の壁寄りに, P 2 は中央部やや北東寄りに位置している。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

覆土 5 層に分層できる。ロームブロック, 炭化物が含まれていることから, 埋め戻されている。



第220図 第129・130号土坑，第129号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 26点（深鉢）が出土している。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第129号土坑出土遺物観察表（第220図）

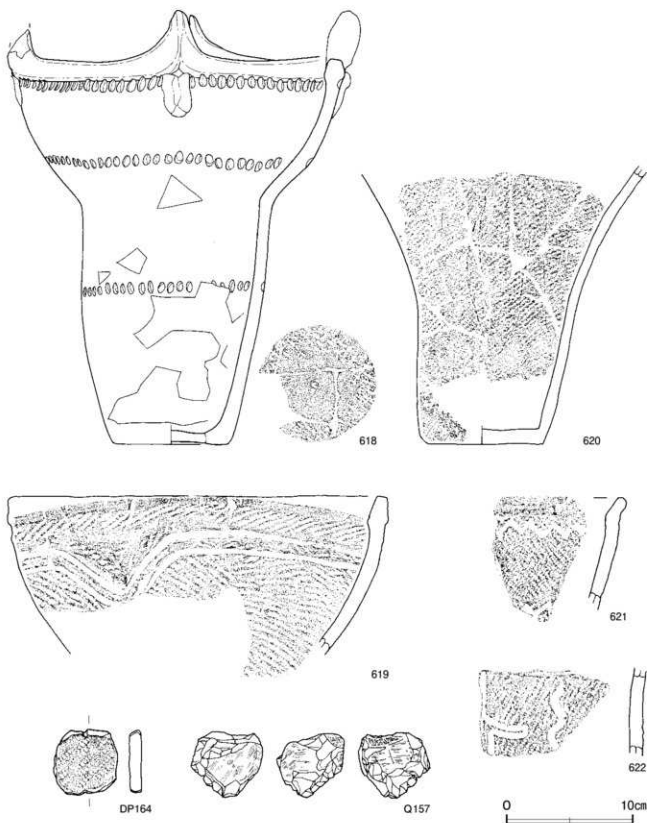
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
616	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部肥厚 地文に無節縄文し（縦）	覆土中	
617	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部肥厚 口縁部に交互斜交文 泥濘による曇影文	覆土中	PL121

第130号土坑（第220・221図 PL37・38）

位置 調査区中央部北寄りのC3b4区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第129号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.88m、短径1.58mの楕円形で、長径方向はN-51°-Wである。底面は長径1.71m、短径1.69mの不整形円形である。底面は凹凸があり、確認面からの深さは80cmである。壁は底面から内傾し、袋状を呈している。



第221図 第130号土坑出土遺物実測図

ピット 径40cmの円形で、深さ29cmである。南西壁際に位置しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。

覆土 8層に分層できる。各層にロームや鹿沼バミスのブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 黒褐色	鹿沼バミスマブロック・ローム粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック微量	8 黒褐色	鹿沼バミスマブロック中量、ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 122点（深鉢）、土製品1点（土器片鏟）、石器2点（打製石斧、砥石）が出土している。618は北東壁際の底面から、口縁部を北側に向けて押しつぶされた状態で、619は北壁際、620は南東部の底面から、それぞれ大型破片がまとまって出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第130号土坑出土遺物観察表（第221図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
618	縄文土器	深鉢	265	344	90	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁上部肥厚 4単位の楕円状の突起 突起下部に棒状の隆帯貼付 口縁下部・胴部・胴部中央に手彫文二道 底部溝状文	底面	90% PL122
619	縄文土器	深鉢	(290)	(125)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部肥厚し無筋縄文し(横) 施文 V字状の隆帯貼付、隆帯に沿って並行沈線 隆帯上及び胴部無筋縄文し(縦・斜)	底面	10% PL122
620	縄文土器	深鉢	-	(220)	94	長石・石英・雲母	橙(外)黒臭(内)	普通	地文に無筋縄文R(縦) 胴部下端無文	底面	20% PL122
621	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁上部に溝状隆帯貼付 地文に無筋縄文LR(縦) 器面欠文二道	覆土中層	
622	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	地文に無筋縄文LR(縦) 沈線により文様強調	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP964	土器片鏟	5.2	5.1	1.0	346	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q137	砥石	5.2	5.7	5.4	149.0	珪瑯	円縁の両縁部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL172

第131号土坑（第222～224図 PL38）

位置 調査区西部北寄りのC2 a8区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第75・198号土坑に掘り込まれている。

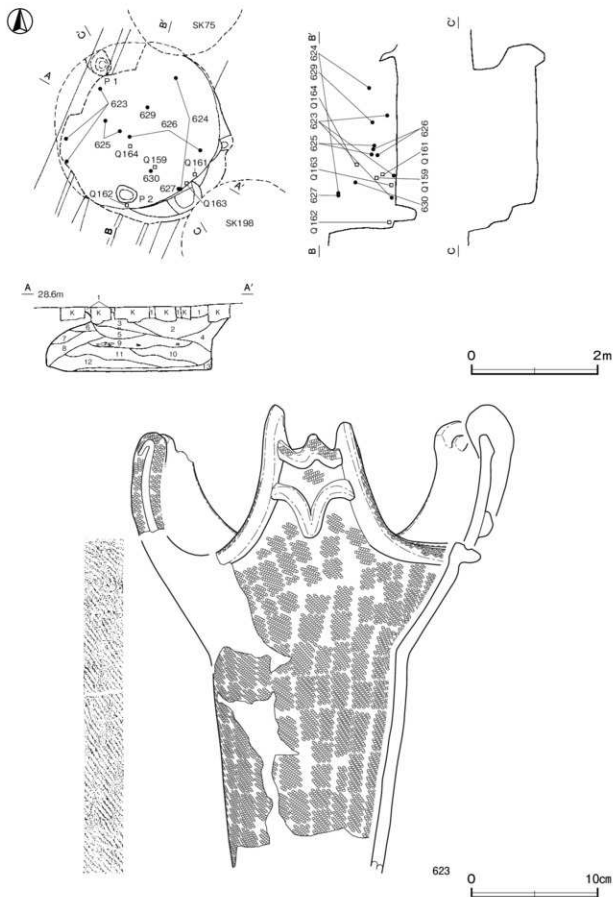
規模と形状 耕作による擾乱を受けているが、開口部は径272～286mの円形である。底面は径258～278mの円形で、平坦である。確認面からの深さは107cmである。壁は北半部が内彎して、袋状を呈し、南半部は直立している。南東壁の底面から高さ38cmのところに、幅1.73m、奥行き30cmで、平面三日月形の平坦部を有している。

ピット 2か所。P1は長径40cm、短径35cmの楕円形で、深さ16cmである。P2は長径33cm、短径27cmの楕円形で、深さ34cmである。いずれも壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。

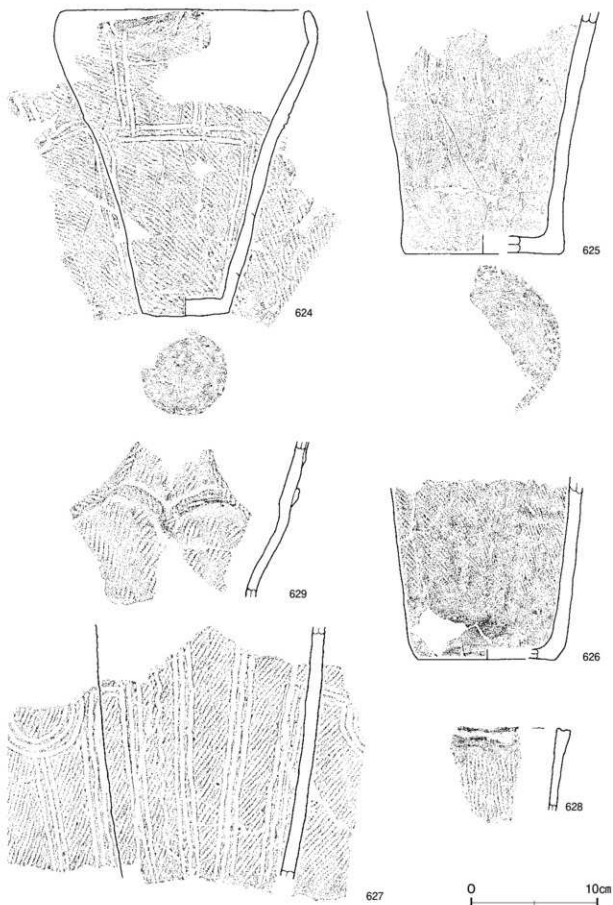
覆土 13層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

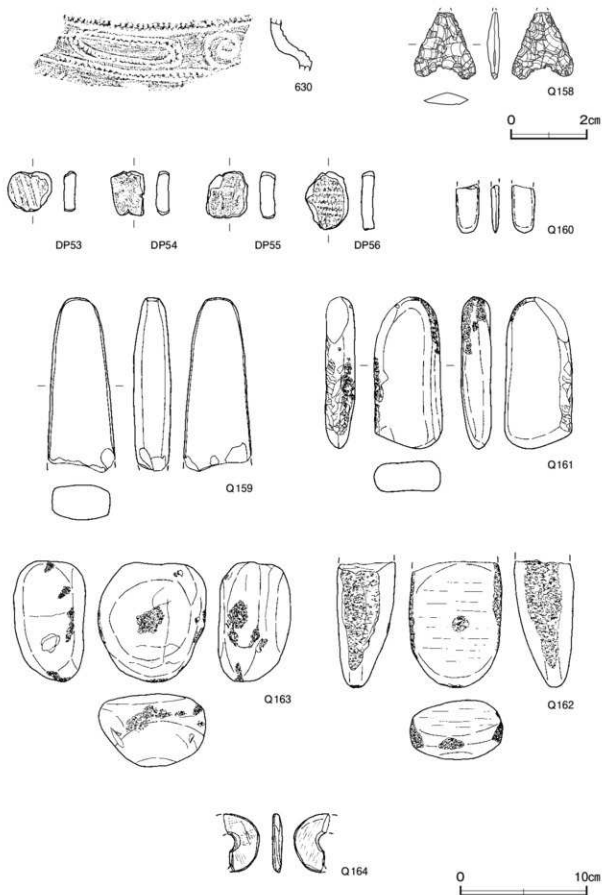
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量	13 暗褐色	ロームブロック中量(絡まり強い)
7 暗褐色	ロームブロック少量		



第 222 图 第 131 号土坑・出土遺物実測図



第 223 图 第 131 号土坑出土遗物实测图 (1)



第 224 図 第 131 号土坑出土遺物実測図 (2)

遺物出土状況 縄文土器片 490 点 (深鉢 481, 浅鉢 9), 土製品 4 点 (土器片鍾), 石器 6 点 (鎌 1, 磨製石斧 2, 敲石 1, 磨製石斧未成品 2), 石製品 (块状耳飾り)・剥片 (安山岩)・母岩 (瑪瑙) 各 1 点。礫 2 点が出土している。623 は北西壁際と西部壁際の覆土下層から半載された状態で, Q 161・Q 163 は南東壁際, Q 162 は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており, 廃絶後間もなく一括投棄されたものと考えられる。625・629・Q 164 は中央部, 630・Q 159 は南部の覆土中層, 626 は中央部と東壁際の覆土中層から散乱した状態でそれぞれ出土している。624 は北部の覆土中層と南壁際の覆土上層から出土した破片が接合している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から, 貯蔵穴と考えられる。時期は, 出土土器から中期中葉と考えられる。

第 131 号土坑出土遺物観察表 (第 222 ~ 224 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
623	縄文土器	深鉢	27.5	(37.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	上唇部の平坦部に太い沈線 隆帯上に単筋縄文LR (縦) 及び伏状縁部にV字状の隆帯 地文は滑一貫条 (縦)	覆土下層	90% PL122
624	縄文土器	深鉢	[19.4]	[24.3]	6.8	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁上縁無筋縄文L (横) 以下同一層体 (縦) 口縁直下から並行沈線垂下 逆し字状の並行沈線	覆土・中層	70% PL122
625	縄文土器	深鉢	-	[19.3]	[12.4]	長石・石英・雲母	黒	普通	日本1単位の原面状工具による縦位の蛇行縄文 底部下縁横方向の磨き 底面丁字な磨き	覆土中層	10%
626	縄文土器	深鉢	-	[14.5]	[11.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	地文に早稲縄文LR (縦) 胴部下縁及び底部丁字な磨き	覆土中層	10%
627	縄文土器	深鉢	-	[20.1]	-	長石・石英・赤色	赤褐色	普通	地文にO段多条縄文RL (縦) 3本の沈線により文様飾り	覆土上層	30% PL122
628	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口唇部部の平坦面に太い沈線 地文に熟糸文 (縦)	覆土中	
629	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	上唇部縁状隆帯貼付 隆帯上及び地文に早稲縄文LR (縦)	覆土中層	
630	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	上唇部にによる横筋・横面凹文 沈線による磨き	覆土中層	PL122

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP53	土器片鍾	3.2	3.4	0.9	11.4	長石・石英・雲母	灰褐色	胴部片 両端にキザミ目 胴縁部一部研磨	覆土中	
DP54	土器片鍾	3.5	2.7	1.0	10.3	長石・石英・赤色	紅	胴部片 両端と片側縁にキザミ目	覆土中	
DP55	土器片鍾	3.7	3.3	1.2	15.3	長石・石英・雲母	灰黄褐色	口縁部片 両端にキザミ目 キザミ目のある側面に粗磨	覆土中	
DP56	土器片鍾	4.6	3.5	1.0	17.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 138	鎌	(1.7)	1.6	0.3	(0.8)	チャート	基部中央は尊入 先端部欠損	覆土中	PL161
Q 139	磨製石斧	(13.8)	(5.3)	3.0	(352.9)	砂岩	定角式 全面研磨 側縁部に浅 刃部欠損	覆土中層	PL167
Q 140	磨製石斧	(3.8)	1.8	0.6	(7.9)	角閃岩	極小型 全面研磨 両側縁に鋭い稜 刃部は表裏から研ぎ出す	覆土中	
Q 146	磨製石斧未成品	12.0	5.4	2.4	(283.2)	砂岩	側縁部に敲打痕 表裏面研磨	覆土下層	PL170
Q 146	磨製石斧未成品	(10.0)	7.3	4.7	(515.4)	砂岩	側縁部微細な敲打痕	覆土下層	PL170
Q 143	敲石	9.5	8.5	5.7	677.0	石英	側縁部及び表面に敲打痕	覆土下層	PL172
Q 164	块状耳飾り	4.6	(2.9)	0.7	(13.0)	角閃岩	表裏面及び側縁部研磨痕	覆土中層	PL160

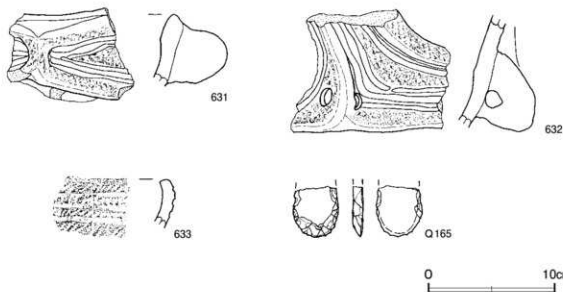
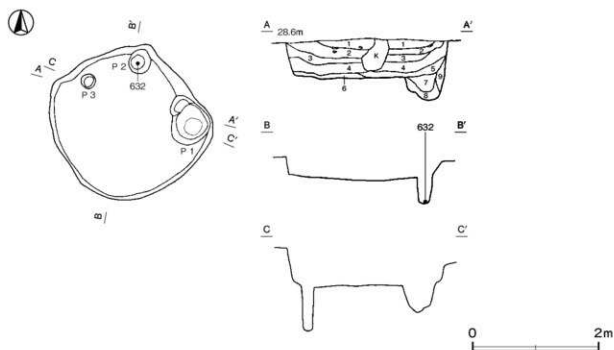
第 146 号土坑 (第 225 図 PL38)

位置 調査区北西部の B 2 16 区, 標高 29 m はどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 2.22 ~ 2.37 m の円形で, 底面は平坦である。深さ 63 cm で, 壁は外傾している。

ピット 3 か所。P 1 は径 65 cm の円形で, 深さ 43 cm である。補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2・P 3 は, 径 34・23 cm の円形で, 深さ 41・71 cm である。形状から柱穴と考えられる。

覆土 6 層に分層できる。各層に含有物が多く含まれていることから, 埋め戻されている。第 7 ~ 9 層は P 1 の覆土である。



第225図 第146号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片45点(深鉢), 石器(打製石斧)・剥片(石英)各1点が出土している。631・632はP2の底面及び覆土中からそれぞれ出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 146 号土坑出土遺物観察表 (第 225 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	ほか	出土位置	備考
631	縄文土器	深鉢	-	(75)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇部彫彫 底状の隆帯貼付 隆帯上と地文に 平軸縄文列(縦・横) 施文 隆帯に沿って2 本の並行沈線		P 2 覆土中	632と片・関係。
632	縄文土器	深鉢	-	(97)	-	長石・石英・雲母	にみ・青黒	普通	口唇部彫彫 底状の隆帯貼付 隆帯上と地文に 平軸縄文列(縦・横) 施文 隆帯に沿って2 本の並行沈線		P 2 底面	631と片・関係。
633	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	地文に平軸縄文列(縦) 横方向の沈線・爪形 文が一面		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 166	打撃石	(4.0)	37	0.9	(214)	石英巖岩	撥影 扁平な自然磨の両側縁敲打 刃部は片面を敲打 刃刃 基部欠損	ハマダ	覆土中

第 150 号土坑 (第 226・227 図)

位置 調査区北西部の B 2 16 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 280 号土坑を掘り込んでいる。

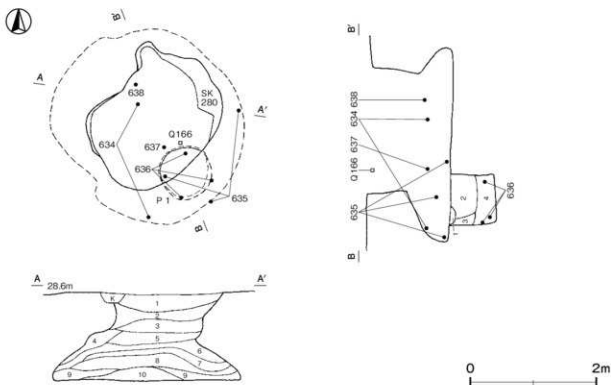
規模と形状 開口部は長径 2.30m、短径 1.58m の楕円形で、長径方向は N - 39° - E である。底面は長径 3.10m、短径 2.81m の不整楕円形で、平坦である。確認面からの深さは 137cm である。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から高さ 56 ~ 72cm のところでくびれ、上位は外傾している。

ピット 径 82cm の円形で、深さ 68cm である。形状から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

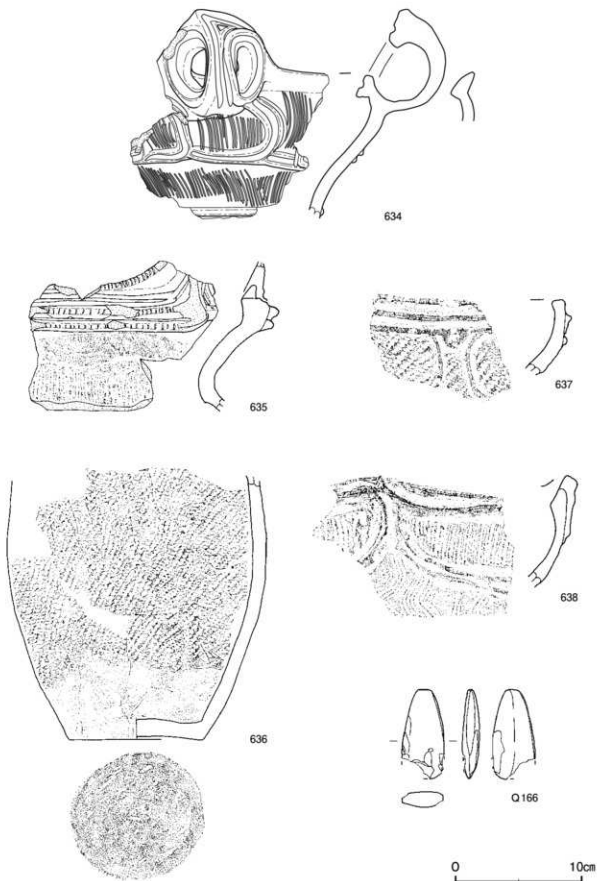
ピット土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

覆土 10 層に分類できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第 226 図 第 150 号土坑実測図



第227图 第150号土坑出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	7	黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 223 点（深鉢 222、浅鉢 1）、石器 3 点（磨製石斧 1、打製石斧 2）、剥片 4 点（瑪瑙 1、石英 2、チャート 1）、母岩 1 点（瑪瑙）が出土している。636 は P 1 の覆土下層から破砕された状態で、635 は南東部の覆土下層から破片が散乱した状態で、634・637・638 は覆土中層、Q 166 は覆土上層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第 150 号土坑出土遺物観察表（第 227 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
634	縄文土器	深鉢	-	(166)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	中空の把手及び口縁部に背割れ隆帯による区画文・区画内縦位の条線	覆土中層	10% PL123
635	縄文土器	深鉢	-	(119)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐色	普通	口縁部平らな面作出し意匠・沈線が二重、背割れ隆帯を帯びた胎土に本平目・胴部縦位の条線	覆土下層	10%
636	縄文土器	深鉢	-	(21.0)	10.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	器面全体に単節縄文 RL (縦) 胴部下縁及び底部磨き	P 1 覆土下層	40% PL123
637	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	ぶい褐色	普通	口縁部上部大い沈線が二重、英文に単節縄文 RL (縦) 胎土により文様消滅	覆土中層	
638	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部及び口縁部背割れ隆帯による区画文・区画内縦位の条線 胴部 5 本単位の距離状工具による彫行沈線	覆土中層	PL123

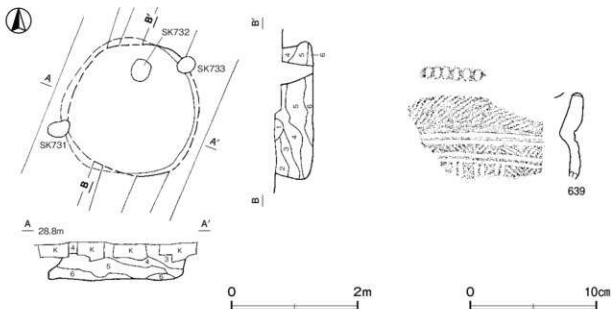
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 166	磨製石斧	(7.1)	3.3	1.3	(47.8)	緑色岩	小型文相 全面磨削 側縁部に横 刃部は表面から磨き出す 一部	覆土上層	PL169

第 151 号土坑（第 228 図 PL39）

位置 調査区中央部西寄りの C 3 e2 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 731～733 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径 2.14～2.20m の円形である。底面は径 2.10～2.15



第 228 図 第 151 号土坑・出土遺物実測図

mの円形で、平坦である。確認面からの深さは57cmである。壁は西半部が内傾して、袋状を呈し、東半部が外傾している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 80点(深鉢)が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第151号土坑出土遺物観察表(第228図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
639	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶ青黒	普通	口唇部にキキ目、器文に垂部縄文(反(横)部)同一体による縞状器文、器底に縦線を2本並らせた下部波線から縦位の非行波線を呈す	覆土下層	

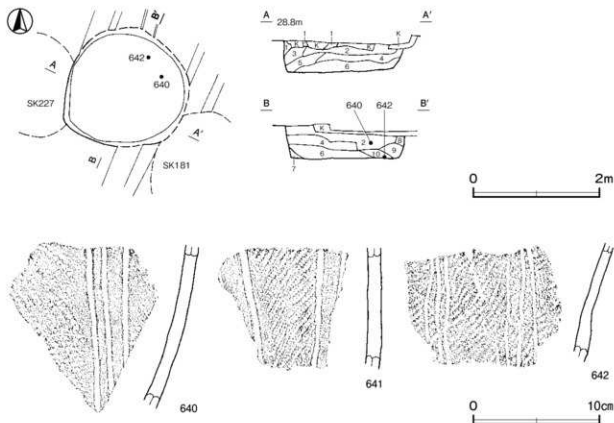
第152号土坑(第229図 PL39)

位置 調査区中央部のC3e3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第181・227号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.90～1.93mの円形で、底面は平坦である。深さは53cmで、壁は外傾している。

覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。



第229図 第152号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量(粘性やや強い) | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 98 点(深鉢 96, 浅鉢 2)。石器(鉄)・剥片(瑪瑙) 各 1 点が出土している。642 は、北東部の覆土下層, 640 は北東部の覆土上層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 152 号土坑出土遺物観察表(第 229 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
640	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母にふい粉	普通	普通	地文に縦筋縄文 L 形(縦) 縦位に横溝後 3 本の沈線が垂下	覆土上層	PL123
641	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に縦筋縄文 L 形(縦) 並行沈線が垂下 沈線間磨治	覆土中	
642	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文に縦筋縄文 L 形(縦) 並行沈線が垂下	覆土下層	

第 157 号土坑(第 230 図 PL39)

位置 調査区北西部の B 2 7 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 80・160・161・245 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の遺構と重複しているため、東西径は 2.33m で、南北径は 1.51m しか確認できなかった。楕円形で、長径方向は N-76°-E である。底面は平坦で、深さは 58cm である。壁は外傾している。

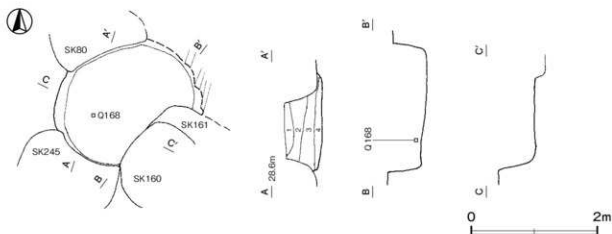
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックや炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

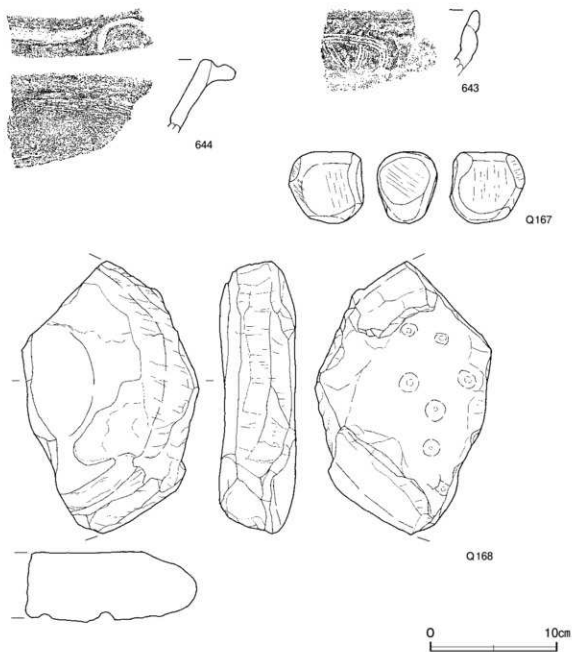
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 69 点(深鉢 68, 浅鉢 1)。石器 2 点(敲砥石, 砥石)が出土している。Q 168 は西部の覆土下層から出土しており、廃絶後間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 230 図 第 157 号土坑実測図



第231図 第157号土坑出土遺物実測図

第157号土坑出土遺物観察表(第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
643	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁上海無筋縄文し、(横) 隆帯による横凹区 西区奥内半截竹管による文様描画	覆土中	
644	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁頂部の平面面に太い沈線が走る 沈線内赤 彩痕	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 167	磁焼石	5.7	6.0	4.8	296.1	アブライト	円縁を用い、凹縁部に多方向からの砥面により稜をもつ		覆土中	PL172 磁焼	
Q 168	砥石	(21.6)	(14.0)	6.1	(2132.0)	砂岩	表面彫状の砥面 裏面に凹み痕		覆土下層	磁焼	

第 160 号土坑 (第 232 図 PL40)

位置 調査区北西部の B 2 丁目区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 157・161 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径 1.17～1.20m の円形である。底面は径 1.32m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 70cm である。壁はやや内傾し、袋状を呈している。

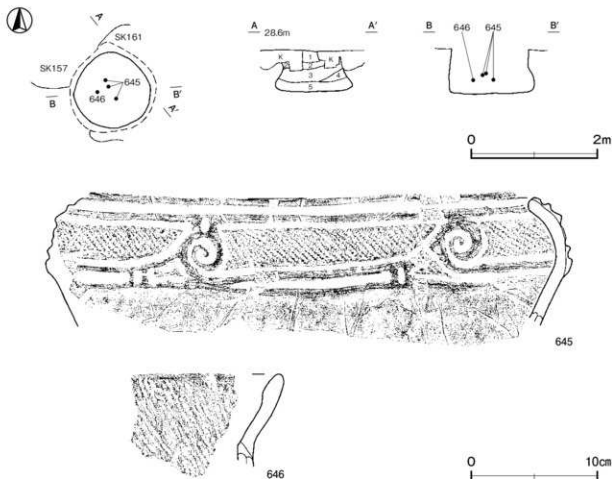
覆土 5 層に分類できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 縄文土器片 43 点 (深鉢)、石器 1 点 (スクレイパー) が出土している。645・646 は中央部の覆土中層から、それぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 232 図 第 160 号土坑・出土遺物実測図

第 160 号土坑出土遺物観察表 (第 232 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
645	縄文土器	深鉢	[360]	(101)	-	長石・石英・雲母	にひ・濃濁	普通	口縁部青銅れ地帯及び渦巻文による区画文 画内口最下部縄文足取。(横)	覆土中層	
646	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰濁	普通	無胎縄文 R (横)	覆土中層	

第 162 号土坑 (第 233 図 PL40)

位置 調査区北西部の B 2 7 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 161・176 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を第 161 号土坑に掘り込まれており、南北径は 2.65m、東西径は 2.36m しか確認できなかった。楕円形で、長径方向は N - 32° - W である。底面は平坦で、深さは 32cm である。壁は外傾している。

ピット 5 か所。P 1 は径 75cm の円形で、深さ 52cm である。南東壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。P 2 は、径 40cm ほどの円形で、深さ 69cm である。配置から柱穴と考えられる。P 3 ~ P 5 は、深さ 20 ~ 27cm で、配置から補助柱穴と考えられる。

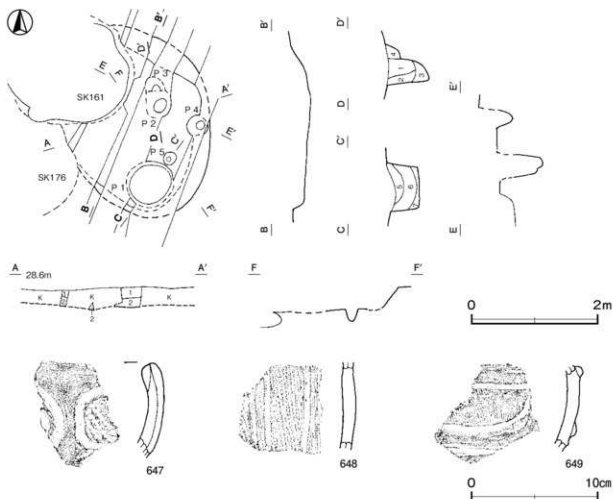
ピット土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 (締まり強い) | 7 褐色 ロームブロック多量 (締まり強い) |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量 | |

覆土 2 層に分層できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|---------------------------|------------------------|



第 233 図 第 162 号土坑・出土物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 89 点（深鉢 88、浅鉢 1）、剥片 3 点（泥岩 1、安山岩 2）が出土している。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第 162 号土坑出土遺物観察表（第 233 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
647	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	太い沈線により区画 区画内縦線縄文 R.L.R(横)	覆土中	
648	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	地文に熱赤文(縦) 並行沈線垂下 沈線間磨滑	覆土中	
649	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	隆帯により文様区画 区画内熱赤文(縦)	覆土中	

第 164 号土坑（第 234・235 図 PL41）

位置 調査区北西部の B 2 h6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

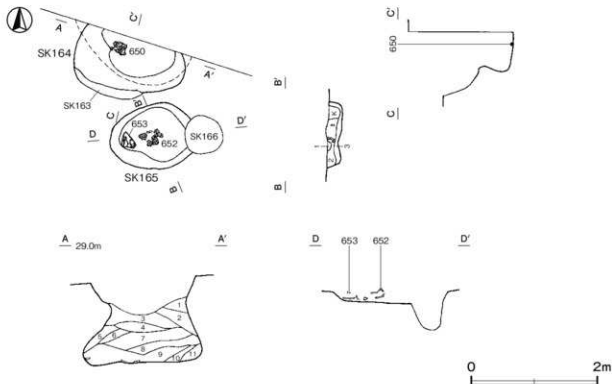
重複関係 第 163 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、開口部は東西径が 1.74m、南北径が 0.78m しか確認できなかった。楕円形と推定できる。底面は東西径が 1.88m、南北径が 0.68m しか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき、平坦である。確認面からの深さは 137cm である。壁は底面から内傾して、袋状を呈し、底面から高さ 82 ~ 97cm のところでぐびれ、上位は外傾している。

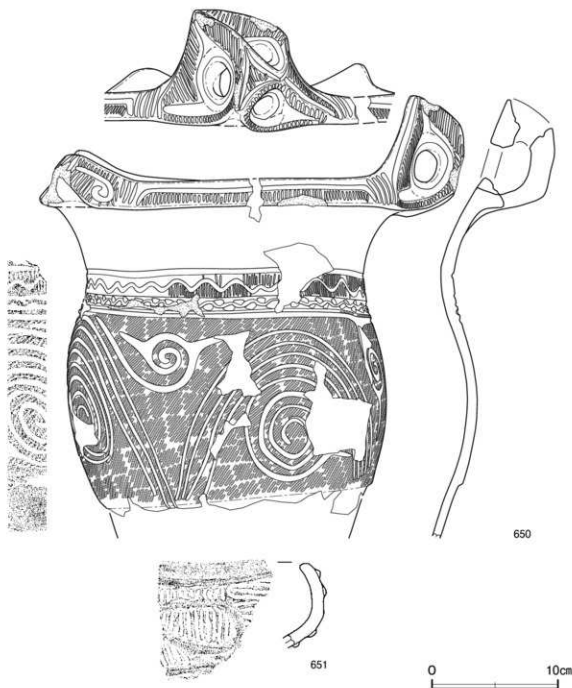
覆土 11 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |



第 234 図 第 164・165 号土坑実測図



第 235 図 第 164 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 54 点（深鉢 49，浅鉢 5）が出土している。650 は，中央部の底面から口縁部を南東側に向けた横位の状態で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から，貯蔵穴と考えられる。時期は，出土土器から中期中葉と考えられる。

第 164 号土坑出土遺物観察表（第 235 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
650	縄文土器	深鉢	262	(35.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部上部太い・沈線と条線で文様描画 胴部無文帯・胴部沈線・条線・交互刺突文・高帯文 隆文(位段多条線文出(上編) 胴部上葉有段)	底面	80% PL123
651	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	隆帯による区画 区画内条線文(縦・横)	腹土中	

第 165 号土坑 (第 234・236 図)

位置 調査区北西部の B 2h6 区、標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 166 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.20 m、短径 1.05 m の楕円形で、長径方向は N - 83° - E である。底面は平坦で、深さは 22 cm である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量 3 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 6 点 (深鉢) が出土している。652 は中央部、653 は西部の覆土下層から、いずれも口縁部を西側に向けた横位の状態で出土している。埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 236 図 第 165 号土坑出土遺物実測図

第 165 号土坑出土遺物観察表 (第 236 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
652	縄文土器	深鉢	-	(100)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部部に平坦面、細い横帯による高巻文中空の把手部にも文様織画、地文に単純縄文、(縦) 文様による文様織画	覆土下層	50%
653	縄文土器	深鉢	16.0	22.6	9.2	長石・石英	時期にぶい褐色	普通	口唇部部に文様が一帯、地文による粗目区画、(縦) を間隔をあけて横文、胴部下層横方向のオビ、底面本葉重	覆土下層	90% PL123

第169号土坑 (第237図 PL41)

位置 調査区北部西寄りのB 2 9区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第85・170号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径1.42m、短径0.84mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。底面は径1.80～1.84mの不整形円で、平坦である。確認面からの深さは67cmである。壁は大きく内傾し、袋状を呈している。

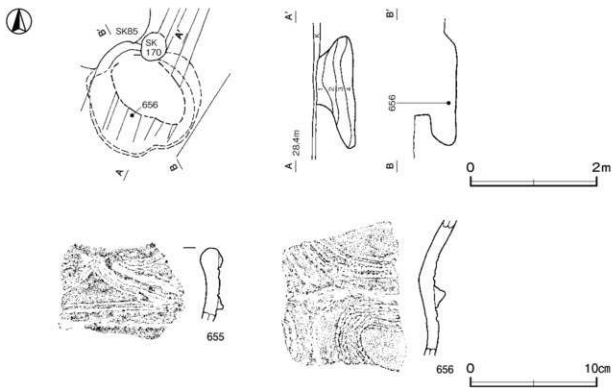
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片18点(深鉢)が出土している。656は中央部の覆土下層から出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。



第237図 第169号土坑・出土遺物実測図

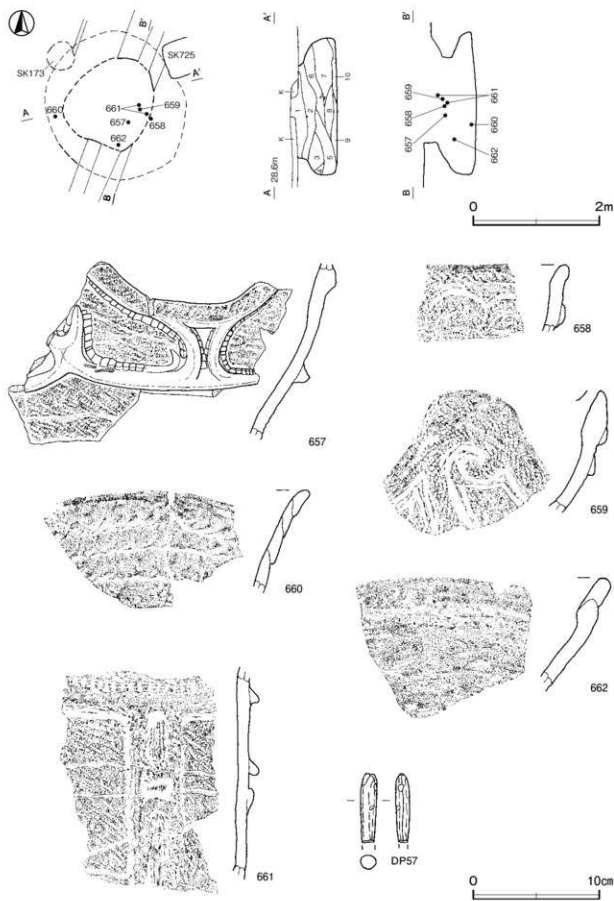
第169号土坑出土遺物観察表 (第237図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
655	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	隆帯による区画文 隆帯に沿い2本の有筋沈線	覆土中	
656	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	断面三角形の隆帯により文様描画 隆帯に沿い4本の有筋沈線	覆土下層	

第171号土坑 (第238図 PL41)

位置 調査区北部中央のC 3a3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第173・725号土坑に掘り込まれている。



第 238 图 第 171 号土坑·出土物实测图

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径1.50m、短径1.29mの楕円形で、長径方向はN-30°-Eである。底面は長径2.38m、短径2.13mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは87cmである。壁は大きく内彎して、袋状を呈し、底面から高さ48～62cmのところできびれ、上位は直立している。

覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子多量	6 黒褐色 ロームブロック微量
2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量(粘結性やや弱い)	7 黒褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ローム粒子微量(締まりやや弱い)	8 暗褐色 ロームブロック少量
4 暗褐色 ローム粒子微量	9 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
5 黒褐色 ロームブロック少量	10 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片236点(深鉢235、浅鉢1)、土製品(不明土製品)・石器(打製石斧)・剥片(瑪瑙)各1点が出土している。660は西壁際の覆土下層、662は南部の覆土中層、657～659・661は、東部の覆土上層からまとまって出土している。いずれも埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第171号土坑出土遺物観察表(第238図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
657	縄文土器	深鉢	-	(140)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	輪郭の隆帯による区画文 隆帯に古い幅広い有蓋沈痾 区画西と東部に沈痾描画 地文に0段多色線文(横・斜)	覆土上層	PL123
658	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	隆帯による弧状文 口縁上端及び隆帯上に単純縄文(横) 隆帯間同一形状(斜)	覆土上層	
659	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	隆帯による幾平文 隆帯に古い歪行沈痾 隆帯上に単純縄文(横・斜)	覆土上層	PL123
660	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	輪郭線を残し指頭による押圧	覆土下層	
661	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	前面三角形の隆帯により区画文 隆帯間の隆帯に有蓋沈痾 区画西と東部に沈痾描画 地文に0段多色線文(横) 区画西側の沈痾文	覆土上層	PL123
662	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部狭いナデによるのみが一回 外面ナデ内面磨き	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
D957	不明土製品	(5.6)	1.3	1.1	(8.4)	長石・石英・雲母	橙	全面丁寧なナデ 端部欠損	覆土上層	

第174号土坑(第239図 PL42)

位置 調査区西部北寄りのB238区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、径3.05～3.07mの不整形円形で、底面は平坦である。深さは55cmで、壁はほぼ直立している。

ピット 2か所。P1・P2は、長径37～40cm、短径30cmほどの楕円形で、深さ40cmほどである。規模と配置から、補助的な貯蔵施設と考えられる。

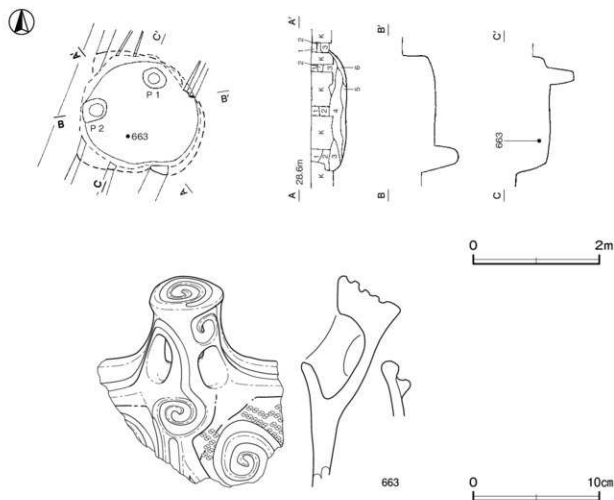
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	5 褐色 ロームブロック中量(締まり強い)
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片94点(深鉢)、石器(磨製石斧)・石核(石英)・剥片(緑泥片岩)各1点が出土している。663は南部の覆土中層から出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 耕作による攪乱を受けているため明確でないが、形状や補助的な貯蔵施設と考えられるピットが伴うことから、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第 239 図 第 174 号土坑・出土遺物実測図

第 174 号土坑出土遺物観察表 (第 239 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
663	縄文土器	深鉢	-	(167)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	把手・胴部に段帯による渦巻文 地文に横筋縞文 (纏)	覆土中層	PL123

第 175 号土坑 (第 240 図)

位置 調査区西部の C 2d9 区、標高 29m ほどの台地平坦部に位置している。

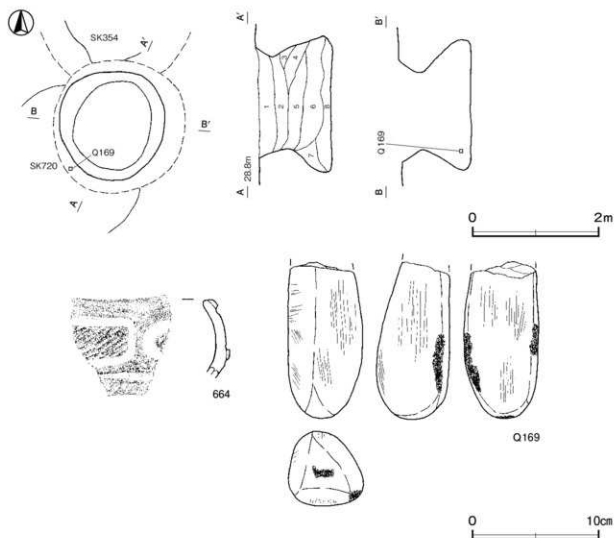
重複関係 第 354・720 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は径 1.69～1.78m の円形である。底面は長径 2.20m、短径 2.14m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 119cm である。壁は内彎し、袋状を呈し、底面から高さ 70～90cm のところでぐびれ、上位は外傾している。

覆土 8 層に分层できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	8	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量



第240図 第175号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片154点(深鉢), 石器(敲石)・剥片(チャート)各1点が出土している。Q169は南西部の覆土下層から出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

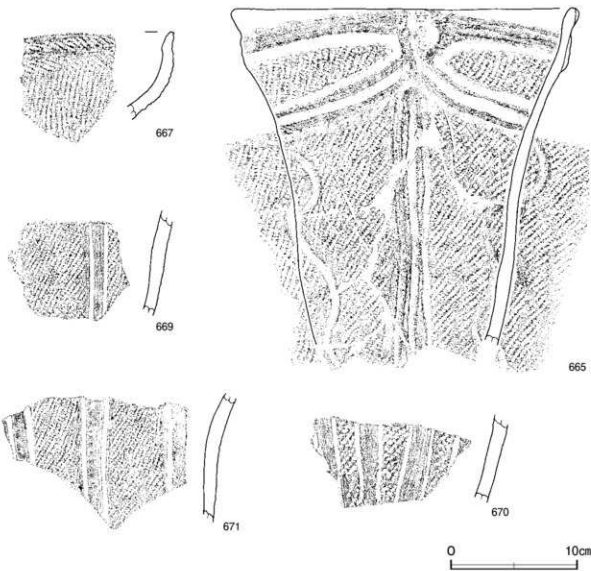
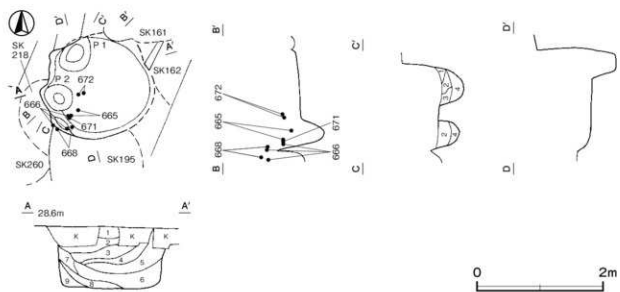
第175号土坑出土遺物観察表(第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
664	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文にO段多本縦文LR(横)陸帯による区画文 発掘に古い太い流線	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q169	敲石	(12.4)	6.0	5.8	(67.4)	石英風岩	胴縁の一部及び底部に彫刻な敲打痕 一部研磨痕		覆土下層		

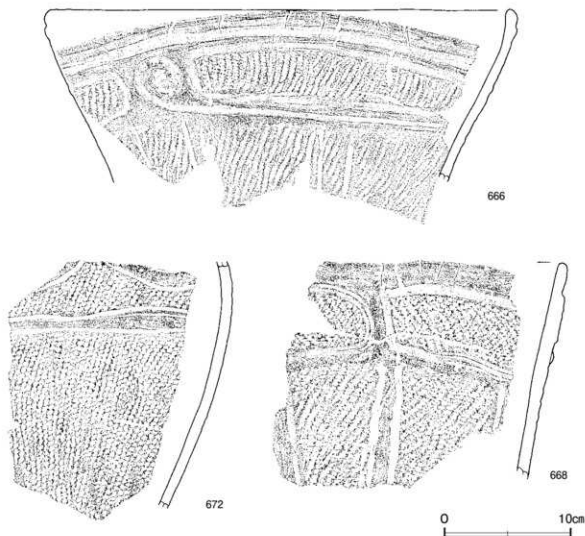
第176号土坑(第241・242図 PL40・42)

位置 調査区北西部のB2j7区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第162・195・218・260号土坑を掘り込み、第161号土坑に掘り込まれている。



第 241 图 第 176 号土坑·出土物实测图



第242図 第176号土坑出土遺物実測図

規模と形状 径1.60～1.62mの円形で、底面は平坦である。深さは97cmである。壁は直立している。

ピット 2か所。P1は長径62cm、短径43cmの楕円形で、深さ39cmである。P2は長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さ36cmである。いずれも壁際に位置していることから、補助的な貯蔵施設と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |

覆土 9層に分層できる。ロームブロック、炭化物、焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片314点(深鉢313,浅鉢1),石器(打製石斧・剥片(瑪瑯)・礫各1点が出土している。672は中央部,665・666・668・671は南西部の壁際の覆土中層から覆土下層にかけてまとも出土しており、埋め戻す過程で一括投棄されたものと考えられる。

所見 円筒状の土坑で、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第176号土坑出土遺物観察表(第241・242図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
665	縄文土器	深鉢	27φ	(36.7)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	地文に早期縄文L.R(横)・口縁部附近の青銅片散在による灰青色陶。胴部狭い。並行沈線と蛇行沈線が重なり、並行沈線間隙消滅。	覆土下層	30% PL124
666	縄文土器	深鉢	[36.6]	(13.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に早期縄文L.R(横)・口縁部狭い。胴部による構内区画・高台文を認め、口縁部から沈線が下へ部分的に消滅する。	覆土中～下層	20% PL124
667	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい褐色	普通	口縁部0段多角縄文L.R(横)・指図により磨消。胴部同一一体(斜)。	覆土中	
668	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	口縁部附近による構内区画(口縁部早期縄文L.R(横)・胴部同一一体(縦)・胴部2本の沈線重なり)。沈線間隙消滅。	覆土中層	PL124
669	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に早期縄文L.R(横)・並行沈線重なり。沈線間隙消滅。	覆土中	
670	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に早期縄文L.R(横)・並行沈線重なり。沈線間隙消滅。	覆土中	
671	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	地文に早期縄文L.R(横)・並行沈線重なり。沈線間隙消滅。	覆土下層	
672	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	地文に早期縄文L.R(縦)・2本の沈線を横段・縦段に描画し、沈線間隙消滅。	覆土下層	PL124

第178号土坑(第243図)

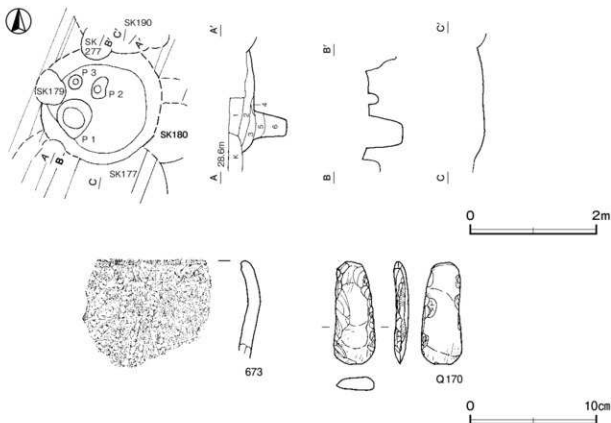
位置 調査区西部のC 2a0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第180号土坑を掘り込み、第177・179・190・277号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.95mほどの円形で、底面は平坦である。深さは38cmで、壁は緩やかに傾斜している。

ピット 3か所。P1は長径61cm、短径51cmの楕円形で、深さ57cmである。規模と形状から補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は深さ51cmで、規模から柱穴と考えられる。P3は深さ18cmで、性格は不明である。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第5・6層は、P1の覆土である。



第243図 第178号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量	6	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢), 石器 1 点 (打製石斧) が出土している。

所見 時期は、中期と考えられるが、詳細は不明である。

第 178 号土坑出土遺物観察表 (第 243 図)

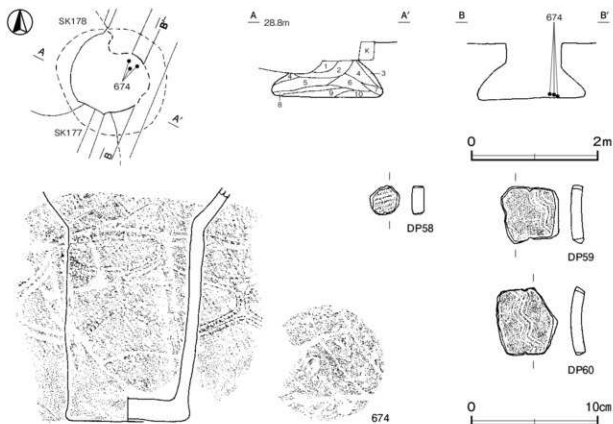
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
673	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	黒黒	普通	地文に半筋縄文 R.L (縦・斜)	覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q170	打製石斧	8.2	3.3	1.2	41.4	ホルンフェルス	小型	両側縁打調整	刃部は表裏を研磨	ハマダリ刃	覆土中	PL166

第 180 号土坑 (第 244 図 PL43)

位置 調査区西部の C 2 b0 区, 標高 29 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 177・178 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は長径 128m、短径 120m の不定形である。底面は長径 180m、短径 168m の円形で、平坦である。確認面からの深さは 88cm である。壁は内傾して、袋状を呈し、底面から高さ 58～62cm のところでぐびれ、上位は直立している。



第 244 図 第 180 号土坑・出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 106点（深鉢105、浅鉢1）、土製品（土器片鏝）・石器（打製石斧2、敲石1）各3点が出土している。674は、北東部の覆土下層から散乱した状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。DP58～DP60は、覆土中から出土している。

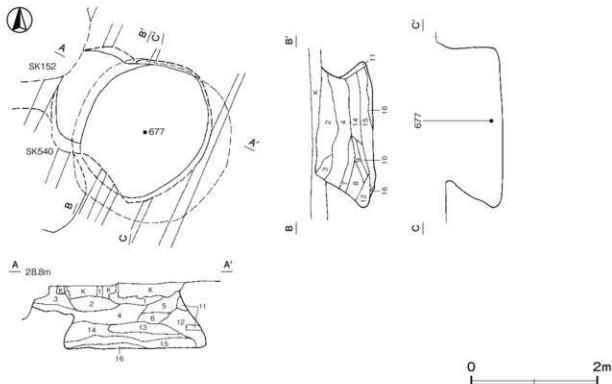
所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第180号土坑出土遺物観察表（第244図）

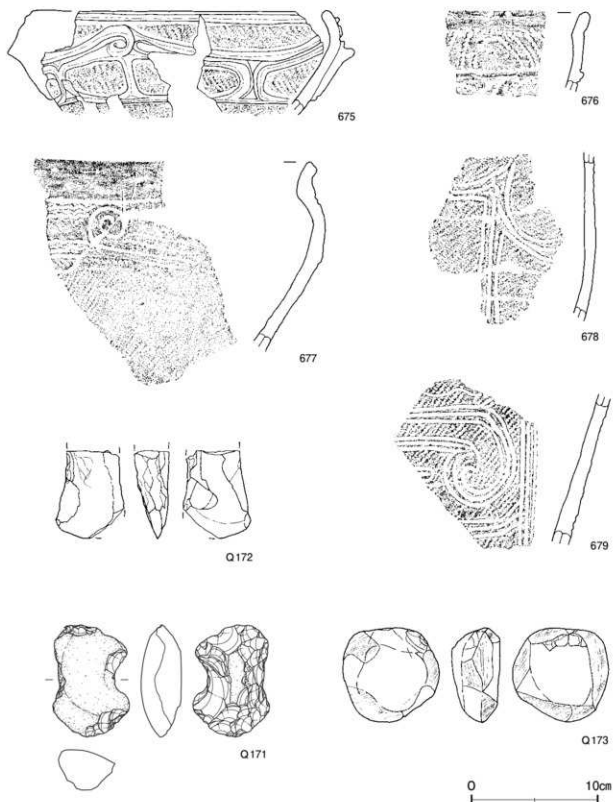
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
674	縄文土器	深鉢	-	(18.7)	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	地文に無節調文瓦（縦）肩部から隆起部を下し、区画（区画内2本の有節沈線によるX字状文）区画横紋は横＝本筋	覆土下層	80% PL124
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP58	土器片鏝	2.3	2.4	1.0	6.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	側部片 両端にキザミ目 両縁部研削	覆土中		
DP59	土器片鏝	4.6	4.5	1.0	25.5	長石・石英・雲母	黒褐色	側部片 両端にキザミ目 両縁部一部研削	覆土中		
DP60	土器片鏝	5.4	4.8	1.2	31.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	側部片 両端にキザミ目 両縁部研削	覆土中		

第181号土坑（第245・246図 PL43）

位置 調査区中央部のC3e3区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。



第245図 第181号土坑実測図



第246図 第181号土坑出土遺物実測図

重複関係 第152・540号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による擾乱を受けているが、開口部は長径2.52m、短径2.15mの楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。底面は長径2.93m、短径2.48mの楕円形で、平坦である。確認面からの深さは108cmである。

る。壁は底面から内傾して、袋状を呈し、底面から高さ48～82cmのところできびれ、上位は外傾している。

覆土 16層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子中量	9 にぶい褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 極暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子中量
5 黒褐色	ロームブロック中量	13 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ローム粒子中量	14 黒褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ロームブロック少量	15 にぶい黄褐色	ロームブロック多量
8 極暗褐色	ロームブロック中量	16 黒色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 246点（深鉢242、浅鉢4）、石器4点（打製石斧2、磨石1、敲砥石1）、石核（安山岩）・剥片（石英）各1点、礫2点（瑪瑙）が出土している。675・677・679、Q173は覆土下層から出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。Q172は覆土上層、676・678、Q171はいずれも覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第181号土坑出土遺物観察表（第246図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
675	縄文土器	深鉢	〔222〕	(80)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部に沈線が一周 地文に単線縄文(BL)(横) 隆帯による文様縁面 網み状の高巻文	覆土下層	10% PL124
676	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	口唇部中厚 前面三角形の隆帯により文様縁面 隆帯内平或は窪による有筋文	覆土中	
677	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁上部無文 口縁部隆帯に区画し沈線による高巻文・波状文 頸部に隆帯が一周 胴部単線縄文(BL)(縦)	覆土下層	PL124
678	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	縄文・単線縄文(BL)(縦)	覆土中	
679	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	地文に単線縄文(BL)(縦) 3本単位の沈線で文様縁面	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q171	打製石斧	8.9	6.1	3.2	183.8	ホルンフェルス	分銅形 表裏に自然面 挟り部は片面を敲打	覆土中	PL162
Q172	打製石斧	(7.0)	5.4	2.8	(114.9)	安山岩	線粒 片面に自然面 網線部表裏を敲打 旁部片面を敲打 底部欠損 刃部半分欠損	覆土上層	
Q173	敲砥石	7.5	7.6	3.8	300.9	チャート	円錐の網線部に多方向からの砥面により稜をもつ	覆土下層	PL172

第182号土坑（第247・248図 PL43）

位置 調査区中央部北寄りのC3c4区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第129号土坑に掘り込まれている。

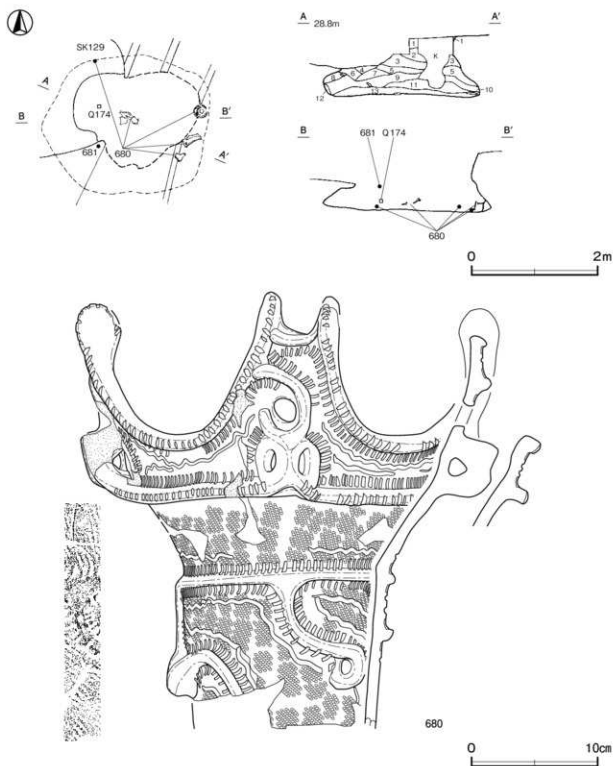
規模と形状 開口部は東西軸2.01m、南北軸1.51mの不定形で、長軸方向はN-76°-Wである。底面は長径2.63m、短径2.21mの不整楕円形で、平坦である。確認面からの深さは94cmである。壁は底面から大きく内傾して袋状を呈し、底面から高さ58～70cmのところできびれ、上位は外傾している。

覆土 13層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	8 極暗褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子多量	9 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子中量	10 黒褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子少量	11 にぶい黄褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック中量	12 暗褐色	ローム粒子中量
6 黒褐色	ローム粒子多量	13 黒褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量		

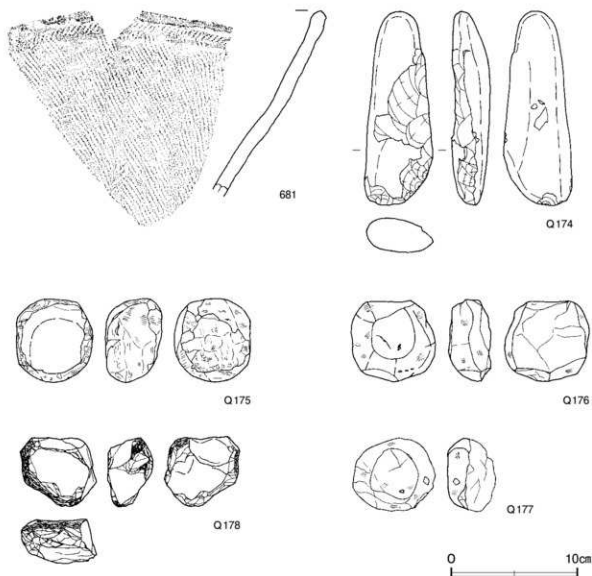
遺物出土状況 縄文土器片 212点（深鉢）、石器6点（磨製石斧未成品1、磨石1、敲砥石1、敲砥石3）、剥片



第247図 第182号土坑・出土遺物実測図

(ホルンフェルス)・石核(チャート)各1点が出土している。680は中央部から東部壁際にかけての覆土最下層から、大形の破片が散乱した状態で出土している。廃絶直後に投棄されたものと考えられる。Q174・Q177・Q178は覆土下層、681、Q176は覆土中層からそれぞれ出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。



第248図 第182号土坑出土遺物実測図

第182号土坑出土遺物観察表(第247・248図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
680	縄文土器	深鉢	27.0	[34.6]	-	長石・石英・雲母・紫色粘土	黒褐色	普通	把手周縁及び口縁下に底状隆帯 隆帯上にキマミ目 胴部無筋縄文段(横) 隆帯に沿ってキマミ目と文・底状隆帯	覆土層下層	70% PL124
681	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	黒褐色	普通	口唇部キマミ 隆帯部上に単筋縄文LR(横) 胴部同一原形(縦)	覆土中層	PL124
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q174	磨製石斧 玉虫品	15.4	5.4	3.1	323.6	閃緑岩	自然磨の磨縁部片面を敲打			覆土下層	PL170 既述
Q175	燧石	6.6	6.0	4.5	267.0	石英	円縁の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの底面により稜をもつ			覆土中層	PL172
Q176	燧石	6.5	6.7	3.4	195.5	チャート	円縁の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの底面により稜をもつ			覆土中層	PL172
Q177	燧石	(5.8)	(6.5)	(3.8)	(166.7)	石英	円縁の周縁部に微細な敲打痕及び多方向からの底面により稜をもつ 表面欠損			覆土下層	
Q178	燧石	5.5	3.6	6.1	147.0	チャート	円縁の周縁部に微細な敲打痕			覆土下層	PL172

第190号土坑(第249・250図 PL44)

位置 調査区北西部西寄りのC2a0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第178号土坑を掘り込み、第274号土坑に掘り込まれている。第192・210・277号土坑との新旧関係は不明である。

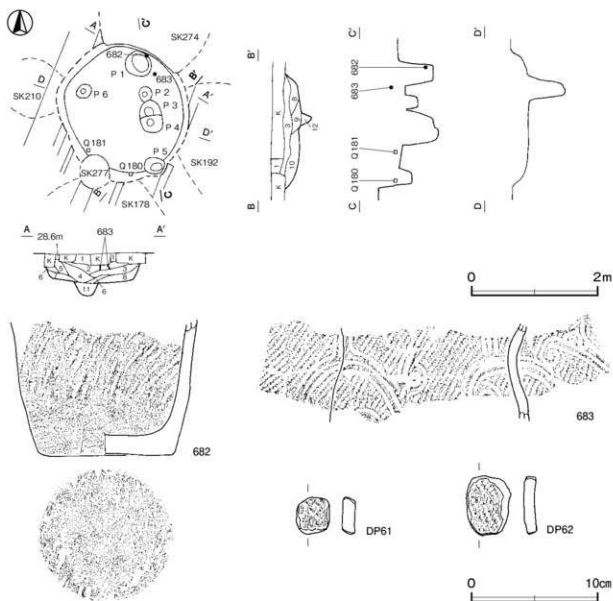
規模と形状 長径2.23m、短径2.00mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。底面は平坦である。深さは49cmである。壁は外傾している。

ピット 6か所。P1~P6は、深さ20~54cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。

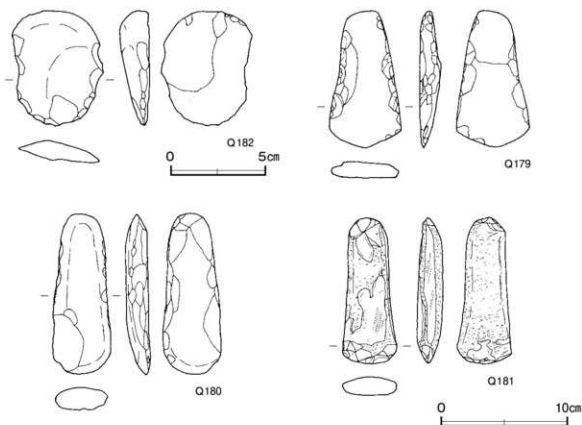
覆土 10層に分層できる。各層にローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。第11層はP1、第12層はP4の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第249図 第190号土坑・出土遺物実測図



第250図 第190号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片68点(深鉢),土製品2点(土器片錘),石器3点(打製石斧2,磨製石斧未成品1),加工痕のある剥片1点(黒色安山岩),剥片3点(石英1,瑪瑙2)が出土している。682はP1の覆土下層, Q180・Q181は覆土下層からそれぞれ出土している。683は,覆土中層の第2層から出土しており,ある程度埋め戻された段階で,焼土塊とともに投棄されたものと考えられる。

所見 上部が耕作による攪乱を受けているため明確でないが,規模から貯蔵穴と考えられる。時期は,出土土器から中期中葉と考えられる。

第190号土坑出土遺物観察表(第249・250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
682	縄文土器	深鉢	-	(107)	106	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文に単筋縄文区(縦) 胴部下端ナゲ(横) 底面網代文	P1覆土下層	15%
683	縄文土器	深鉢	-	(77)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文に単筋縄文区(縦) 3本の並行沈線による多文・明赤文	覆土中層	10% PL125

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP61	土器片錘	3.0	2.6	1.0	9.6	長石・石英・雲母	褐色	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	
DP62	土器片錘	5.4	3.1	1.3	19.3	長石・石英・雲母・赤色砂子	褐色	胴部片 両端にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	特徴	出土位置	備考
Q179	打製石斧	10.8	5.8	1.7	122.7	安山岩	新彩	両側縁部敲打調整後研磨 刃部未成がり	覆土中	PL166
Q180	打製石斧	7.8	6.4	4.0	(157.1)	ホルンフェルス	緑彩 片面に自然面	両側縁部微細な敲打痕 刃部は表裏を研磨(ハツクリ刃)	覆土下層	PL164
Q181	磨製石斧未成品	11.6	4.3	2.1	137.6	砂岩	全面に微細な敲打痕	基部未調整 刃部は片面を敲打	覆土下層	
Q182	加工痕のある剥片	6.2	4.9	1.7	46.3	黒色安山岩	自然面を残し	両側縁及び先端部を片面を敲打	覆土中	

第193号土坑（第251図）

位置 調査北西部のC2b6区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第194号土坑を掘り込み、第41・177・200号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 複数の土坑と重複しているため、北東・南西径は1.98m、北西・南東径は1.52mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、北東・南西径方向はN-18°-Eである。底面は中央部が皿状にくぼんでおり、深さは53cmである。壁は直立している。

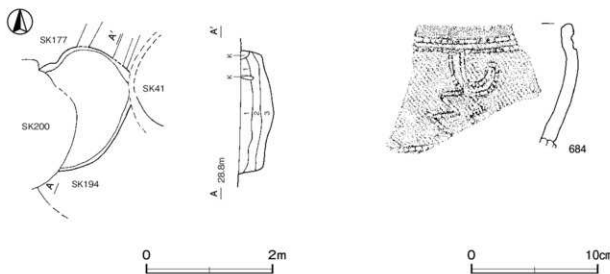
覆土 3層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片99点（深鉢）、剥片2点（チャート、黒曜石）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。性格は不明である。



第251図 第193号土坑・出土遺物実測図

第193号土坑出土遺物観察表（第251図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
684	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	は号北西下に本行有跡沈殿が一室、縄文に準助縄文器。(備) 右部沈殿による文様遺跡	覆土中	

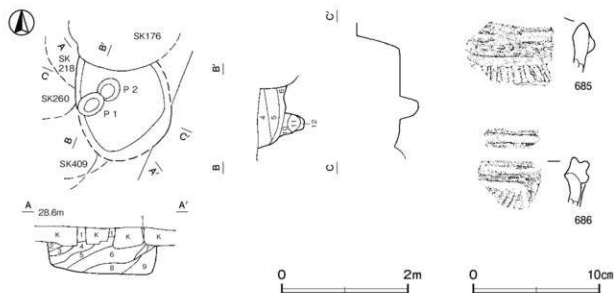
第195号土坑（第252図）

位置 調査区北西部のB2j7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第218・260・409号土坑を掘り込み、第176号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第176号土坑に掘り込まれており、南北径は1.78mしか確認できなかった。東西径は1.50mで、楕円形と推定できる。南北径方向はN-2°-Wである。底面は平坦で、深さは90cmである。壁は外傾している。

ピット 2か所。P1・P2は、深さ30・34cmで、性格は不明である。



第252図 第195号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックや炭化物が多く含まれていることから、埋め戻されている。第10～12層は、P1の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片19点（深鉢）が、各層から散乱して出土している。

所見 円筒状の土坑で、貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第195号土坑出土遺物観察表（第252図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
685	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にがい青澄	普通	口縁部上端に陰帯 太い沈線による縦位の条線	覆土中	
686	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に平面面を有する深い沈線が二重 隆帯による区画 区画内筋線文(縦)	覆土中	

第198号土坑（第253図 PL44）

位置 調査区西部北寄りのC2a9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

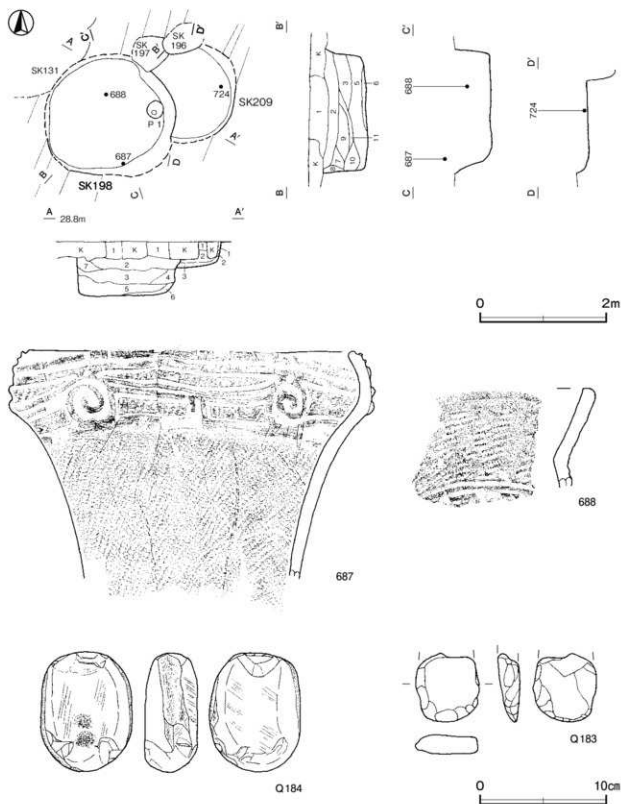
重複関係 第131・209号土坑を掘り込み、第197号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径2.01～2.10mの円形である。底面は平坦で、確認面からの深さは92cmである。壁は直立している。

覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |



第253図 第198・209号土坑、第198号土坑出土遺物実測図

ピット 深さ10cmほどで、性格は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片90点（深鉢51、浅鉢39）、石器2点（打製石斧、敲砥石）が出土している。688は覆土中層、687は覆土上層、Q183・Q184は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 円筒状の土坑で、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第198号土坑出土遺物観察表(第253図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
687	縄文土器	深鉢	(25.6)	(18.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	地文に草履編文短(縦) 口唇部に沈線が一周 背腹縁部による区画・渦巻文	覆土上層	PL125
688	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地文に口縁多葉編文短(斜) 頸部並行沈線が	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q183	打製石斧	(5.5)	5.0	1.7	(58.3)	安山岩	磨料 表面に自然面 刃縁部表面を磨打 刃部は片面を磨打 刃方部欠損	覆土中	
Q184	磨製石	9.5	7.3	4.2	447.6	砂岩	円縁の周縁部に微細な磨打痕及び多方向からの砥面をもつ	覆土中	PL172

第199号土坑(第254・255図 PL44)

位置 調査区西部のC2b9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第233号土坑を掘り込み、第177・200・208号土坑に掘り込まれている。

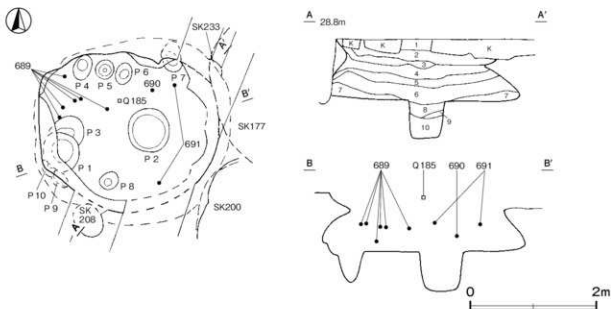
規模と形状 耕作による擾乱を受けているが、開口部は長径2.98m、短径2.55mの不整形円形で、長径方向はN-60°-Wである。底面は径3.10~3.24mの円形で、平坦である。確認面からの深さは98cmである。壁は大きく内傾して袋状を呈し、底面から高さ56~64cmのところできびれ、上位は外傾している。

ピット 10か所。P1は深さ49cmで西壁際に位置しており、補助的な貯蔵施設と考えられる。P2は深さ64cmで中央部に位置しており、柱穴と考えられる。P3~P10は深さ4~27cmである。いずれも壁際に位置しているが、性格は不明である。

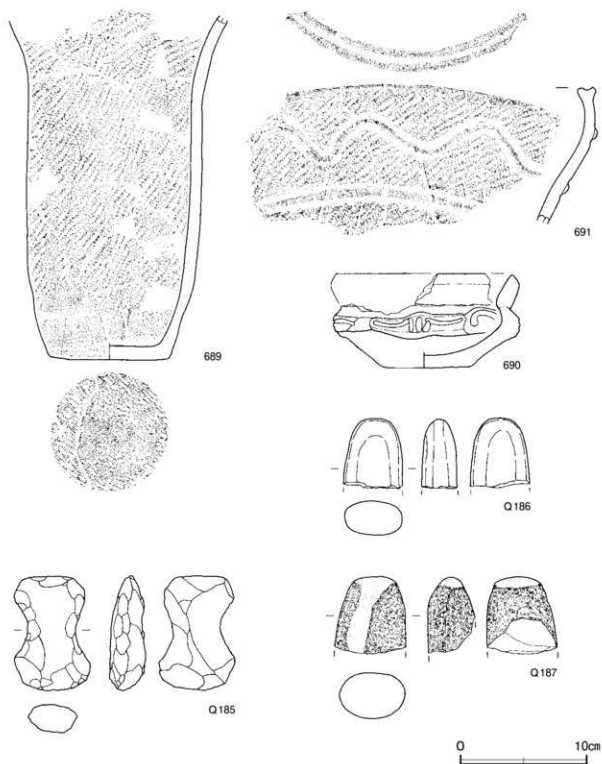
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第8~10層は、P2の覆土である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 10 褐色 ロームブロック多量 |



第254図 第199号土坑実測図



第 255 図 第 199 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 146 点（深鉢 145、浅鉢 1）、石器 4 点（打製石斧 1、磨製石斧未成品 2、磨石 1）、剥片 5 点（石英 1、チャート 1、頁岩 2、瑪瑙 1）が出土している。689～691 は覆土中層から下層にかけて、破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第199号土坑出土遺物観察表(第255図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
689	縄文土器	深鉢	-	(27.4)	9.3	長石・石英	にぶい黒	普通	地文に早稲縄文L区(横) 胴部下端ナズ(横) 底面刷代肌	覆土中～下層	60% PL125
690	縄文土器	浅鉢	[14.0]	7.5	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	胴部張出部に隆帯肋付 隆帯上に沈線で文様縁画	覆土中層	70% PL125 内面塗白着
691	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤黒	普通	口唇頂部に沈線が一筋 地文に早稲縄文L区(横) 口縁部隆帯による総行突 胴部隆帯が一筋	覆土中層	PL125

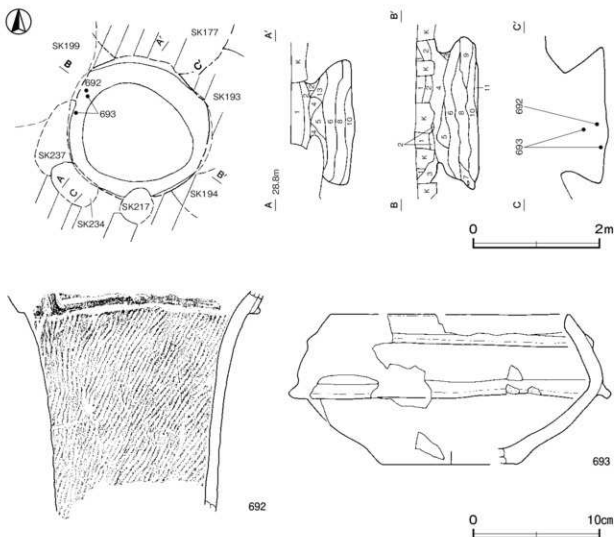
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q185	打製石斧	9.1	6.1	2.9	171.6	ホルンフェルス	分銅形 片面に自然面 挟り部・刃部は表裏を敲打	覆土上層	PL162
Q186	磨製石斧 未成品	(5.5)	4.7	2.9	(117.7)	石英燧岩	全面磨削 側縁部削い残 刃部欠損	覆土中	
Q187	磨製石斧 未成品	(6.1)	(5.6)	3.7	(173.0)	砂岩	一部自然面を残し全面に微細な敲打痕 刃部欠損	覆土下層	PL170

第200号土坑(第256図 PL45)

位置 調査区西部のC2b0区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第193・194・199号土坑を掘り込み、第177・217・234・237号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱を受けているが、開口部は径2.24～2.28mの円形である。底面は径1.15～2.35



第256図 第200号土坑・出土遺物実測図

mの円形で、平坦である。確認面からの深さは102cmである。壁は内彎して袋状を呈し、底面から高さ58～68cmのところできびれ、上位は外傾している。

覆土 13層に分層できる。各層にロームのブロックや粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子多量
3	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量	11	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック多量
7	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 縄文土器片66点（深鉢65、浅鉢1）、石器1点（磨石）、剥片2点（泥岩、瑪瑙）、石核1点（石英）が出土している。692・693は、北西壁際の覆土下層から破片が散乱した状態で出土しており、埋め戻しの早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 規模と形状から、貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。

第200号土坑出土遺物観察表（第256図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
692	縄文土器	深鉢	—	(17.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	地文に準脚縄文RL(縦) 頸部隆帯を一至	覆土下層	30%
693	縄文土器	浅鉢	[190]	10.9	[106]	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	口縁上部と頸部に隆帯が一至 外面丁寧な磨き	覆土下層	40% PL125

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CS 4
	図版作成	Adobe Illustrator CS 4
	写真調整	Adobe Photoshop CS 4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
	図画類	RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷	印刷所へは、	Adobe InDesign CS 4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第419集

吉 十 北 遺 跡 勘 十 郎 堀 跡 (第 1 分冊)

東関東自動車道水戸線 (鉾田～茨城空港北間)
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成29 (2017) 年 3月15日 印刷

平成29 (2017) 年 3月17日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505